新建築

SHINKENCHIKU:2021

3

1級建築士試験 全国 合格者占有率 No.1

総合資格学院は、「今」最も合格者を輩出しているスクールです！

2020年度 1級建築士 学科+設計製図試験

全国ストレート合格者の
6割以上は当学院の当年度受講生!

ストレート合格者占有率 60.8%

全国ストレート合格者1,809名中／当学院当年度受講生1,099名
〈2020年12月25日現在〉

2020年度 1級建築士 設計製図試験

全国合格者の
2人に1人以上は当学院の当年度受講生!

合格者占有率 53.8%

全国合格者3,796名中／当学院当年度受講生2,041名
〈2020年12月25日現在〉

総合資格学院なら1級建築士試験に
1年で合格できる!
優れた実績を挙げ続ける講習システムがさらに進化!
令和の大改革を進行中! 詳細はこちら

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に沿って掲載しております。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、2020年度1級建築士学科試験に合格し、2020年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

2020年度 2級建築士 学科試験

当学院基準達成当年度受講生合格率 93.1%（その差 54.3%）
当学院基準達成者以外の合格率 38.8%

8割出席・8割宿題提出・総合模擬試験正答率6割達成
当年度受講生895名中／合格者833名

当学院当年度受講生合格者数 1,974名

〈2020年8月25日現在〉

2020年度 2級建築士 設計製図試験

当学院基準達成当年度受講生合格率 82.6%（その差 31.9%）
当学院基準達成者以外の合格率 50.7%

8割出席・8割宿題提出・模試2ランクI達成
当年度受講生841名中／合格者695名

当学院当年度受講生合格者数 1,974名

〈2020年12月10日現在〉

おかげさまで総合資格学院は「合格実績日本一」を達成しました。
これからも有資格者の育成を通じて、業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院学院長
辛 隆司



2020年度 1級建築士 設計製図試験 卒業学校別実績

下記学校卒業生 当学院占有率 58.4%

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者のおよそ6割は当学院当年度受講生!

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者合計 2,263名中／当学院当年度受講生合計 1,322名 〈2020年12月25日現在〉

学校名	卒業合格者数	当学院受講者数	当学院占有率
日本大学	162	99	61.1%
東京理科大学	141	81	57.4%
芝浦工業大学	119	73	61.3%
早稲田大学	88	51	58.0%
近畿大学	70	45	64.3%
法政大学	69	45	65.2%
九州大学	67	37	55.2%
工学院大学	67	31	46.3%
名古屋工業大学	65	38	58.5%
千葉大学	62	41	66.1%
明治大学	62	41	66.1%
神戸大学	58	27	46.6%
京都大学	55	28	50.9%
大阪工業大学	55	34	61.8%
東京都市大学	52	33	63.5%
京都工芸繊維大学	49	23	46.9%
関西大学	46	32	69.6%
熊本大学	42	23	54.8%
大阪市立大学	42	22	52.4%
東京工業大学	42	17	40.5%
名城大学	42	27	64.3%
東京電機大学	41	25	61.0%
広島大学	38	29	76.3%
東北大学	38	26	68.4%
東洋大学	37	24	64.9%
大阪大学	36	13	36.1%
金沢工業大学	35	16	45.7%
名古屋大学	35	22	62.9%
東京大学	34	16	47.1%
神奈川大学	33	22	66.7%
立命館大学	33	25	75.8%
東京都立大学	32	21	65.6%
横浜国立大学	31	15	48.4%
千葉工業大学	31	19	61.3%
三重大学	30	16	53.3%
信州大学	30	16	53.3%
東海大学	30	16	53.3%
鹿児島大学	27	18	66.7%
福井大学	27	11	40.7%
北海道大学	27	13	48.1%
新潟大学	26	18	69.2%
愛知工業大学	25	17	68.0%
中央工学校	25	12	48.0%
京都建築大学校	23	19	82.6%
武庫川女子大学	23	13	56.5%
大分大学	21	12	57.1%
慶応義塾大学	20	9	45.0%
日本女子大学	20	11	55.0%

※卒業学校別合格者数は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。

2020年度 1級建築士 学科試験

当学院基準達成当年度受講生合格率 51.0%（全国合格率 20.7%に対して）
8割出席・8割宿題提出当年度受講生
3,973名中／合格者 2,028名
(2020年9月8日現在)

独学者、他スクール利用者合格率 17.2%（当学院調べ） **その差 3倍**

2020年度 建築設備士 第二次試験(設計製図)

当学院当年度受講生合格率 66.4%（全国合格率 41.4%に対して）
当年度受講生134名中／合格者89名
(2020年11月5日現在)

独学者、他スクール利用者合格率 37.1%
独学者、他スクール利用受験生782名中／合格者290名

その差 約30%

令和3年度 建築士試験の申込受付は、原則として インターネット受付のみです！

郵送・会場提出はありません

つまずきやすいインターネットでの 受験申込方法教えます！

申込みはコチラ

受付手順や入力に伴う手続き、写真ファイルの準備など徹底サポート！

1級・2級建築士 インターネット受験申込 超支援

申込特典
当サービスを
ご利用いただいた方に
受験生応援プレゼント



※画像はイメージです

1級・2級建築士 オリジナル問題集

総合資格学院
東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階 TEL.03-3340-2810
スクールサイト www.shikaku.co.jp コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp
Twitter ⇒「@shikaku_sogo」 LINE ⇒「総合資格学院」 Facebook ⇒「総合資格 fb」で検索!

講座一覧					
	1級・2級 建築士	1級・2級 建築施工管理技士	1級・2級 土木施工管理技士	1級・2級 管工事施工管理技士	1級 造園施工管理技士
	構造設計1級建築士 設備設計1級建築士	建築設備士	宅地建物取引士	賃貸不動産経営管理士	インテリアコーディネーター

法定講習			
	一級・二級・木造 建築士定期講習	第一種電気工事士定期講習	宅建登録講習
	管理建築士講習	監理技術者講習	宅建登録実務講習

KMEW

グランネクスト

Simple

シンプル



GOOD DESIGN AWARD 2019
BEST 100

妥協することなく、イメージをそのままカタチに。



撮影　Koji Fujii ／ TOREAL

自主性を促す新しい高齢者施設

管理が重要視される認知症高齢者グループホームだが、あえて個室は雁行配置とし、たまりや死角を作った。また個室群ごとに大きくはね出した屋根は、高さを変え重ねることで隙間が生まれ、取り込まれる光と風から自然が感じられる。外部のように開放的な空間から、落ち着いた安心感のある空間へとグラデーションの様に変化させ、意図的に変えたテクスチャーや点在する居場所で街並みの様な空間とした。いたる所で生活が垣間見え、気分により場を選ぶことの出来る多様な空間は、入居者の自主性を促す大きな要因となっている。

「認知症高齢者グループホーム　ここから」

建　築　主：有限会社アドバンス
設　　計：西村崇建築設計事務所
木構造体供給：シェルター
敷 地 面 積：1,330.19 ㎡
建 築 面 積：　727.70 ㎡
延 床 面 積：　698.20 ㎡
階　　数：地上 1 階

金属サンドイッチパネル外装ルーバー

Neulux® Louver
ノイラックス ルーバー®

外装用大型ルーバー「ノイラックス ルーバー®」は、フッ素塗装鋼板SGL®と
ロックウール芯材、アルミニウム枠材で構成された金属サンドイッチパネル。
大型にも関わらず非常に軽量で、高強度な外装ルーバーです。





富山県立大学 看護学部校舎

豊富な意匠バリエーション

ルーバー表面材は耐候性、耐久性に富むフッ素塗装鋼板SGLで、メタリック色を含め各種特注色に対応できます。
また、ルーバー長辺の化粧カバーはアルミ押出材で、フッ素樹脂塗装により特注色での対応も可能です。

地震に強い

ルーバー各部は金属製のため、局所衝撃荷重にも欠け等が生じにくく、地震時の建物変形等に対し、高い追随性をもっています。

高強度で軽量

金属サンドイッチパネル構造の採用で、高強度にも関わらず、質量は押出成形セメント板の約1/2と、大幅に軽量化されています。このため、支持躯体の設計自由度が確保できます。

優れた施工性

軽量で、部品点数が少ないため、施工時の取扱いが容易です。
また、ルーバー取付は溶接を使用しない乾式工法のため、大掛かりな養生等や後清掃が省力化できます。

NIPPON STEEL | 日鉄鋼板株式会社

お問い合わせ先
パネル建材営業部 http://panel.niscs.nipponsteel.com
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-5-6 第10中央ビル
TEL 03-6848-3800

NEWS

新建築データ

SHINKENCHIKU DATA

『新建築住宅特集』データベースの本稼働開始

15年におよぶデータベースを公開
建築学生へ無償期間を延長

covid-19によるパンデミックは、
収束の兆しが見えないなか早1年が経過しようとしています。
かつての日常は覆り、新しい働き方や学びの場、
そして人との関係性へと転換し続けています。

大学では卒業シーズンに差し掛かり、設計や論文の提出へ向けて山場を迎えつつあります。
図書館や製図室が使えず期待していた環境が得られないなか、
それでも学生は自宅で建築を構想し、
十分とはいえないスペースのなかでも模型をつくっています。

新建築データは、こうした建築を学びたいという気持ちを少しでも後押しするため、
『新建築 住宅特集』の本稼働後も、学生の無償利用を延長することにいたしました。
15年におよぶアーカイブを通し、
次へ繋がる暮らしの空間を構築する教材の一つとしてご活用いただけることを期待します。

よりよい教育環境の提供は、社会が解決すべき喫緊の課題です。
新建築社は、建築家のみなさまと蓄積してきた95年に及ぶ知財を
よりよいかたちで社会へ還元したいと考えております。
この試みにご協賛いただける企業、団体を募集いたします。

お問い合わせ先
株式会社新建築データ | contact@shinkenchiku-data.com
お電話によるお問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承くださいませ。

現場で すぐできる！

しかも、美しい





スピード施工のQ-railing 自立ガラスフェンスシステム

ガラス工事の悩みはスガツネで解決

なぜ、すぐできる？

乾かす時間をカット
充填材が不要！

制作金物では無いから
既製品を即納！

なぜ、美しい？

支柱いらずで
景観を主役に

なぜ、安全？

既製品だから
耐性基準データあり

BIMデータもご用意しています。

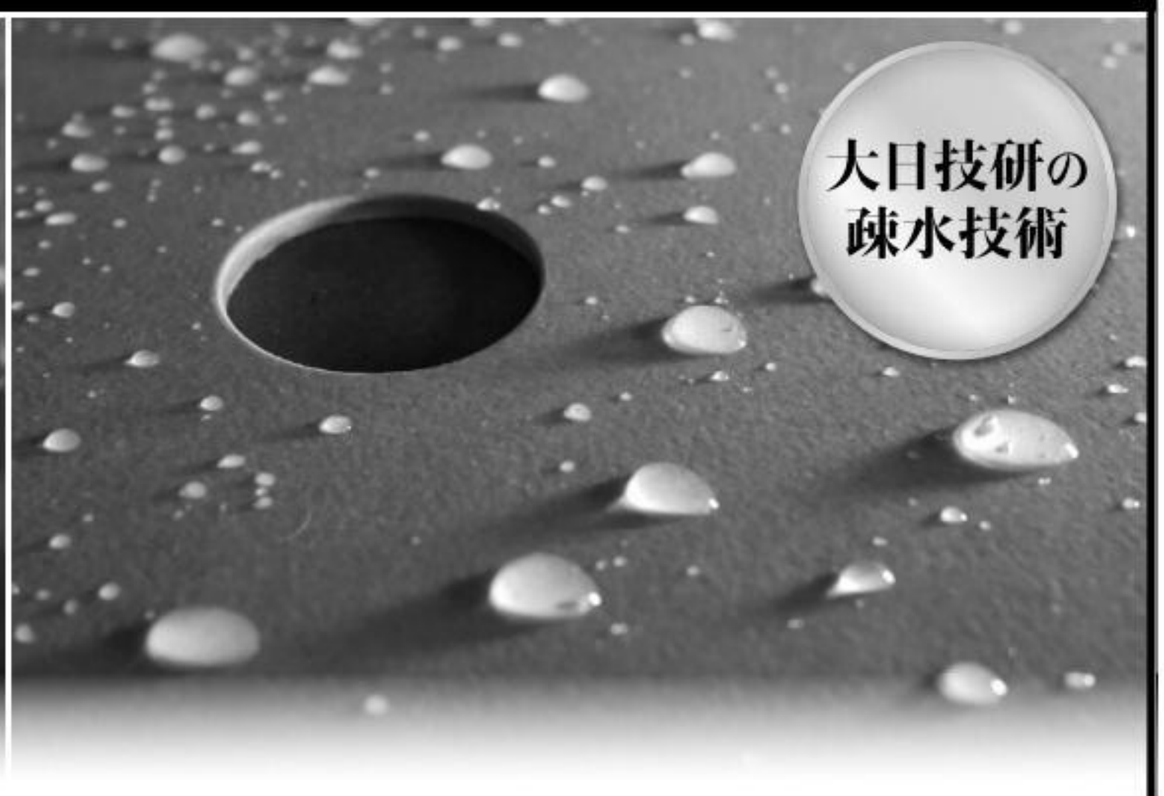

江戸川区陸上競技場


阪急電鉄株式会社 神戸三宮駅

SUGATSUNE スガツネ工業 アーキテリア事業部　〒101-8633　東京都千代田区岩本町 2-9-13　TEL:03-3864-1122(代)

自然な呼吸をする塗膜…卓越した耐候性能を誇る





耐久性
● 水性無機質塗料
● 遮熱・断熱塗料

ランデックスコート

大日技研工業株式会社
http://www.dainichi-g.co.jp

東京都中央区日本橋人形町2-14-14　☎03(3639)5131(代)

新建築 住宅特集 別冊・臨時増刊・書籍



新建築住宅特集2019年3月別冊

木造住宅をSE構法でひらく

定価：本体1,852円+税
144頁／221×291mm

耐震構法であるSE構法を提供しているエヌ・シー・エヌ（NCN）の特集号。SE構法は、1995年の阪神・淡路大震災での木造建築の被害を憂慮した構造家の播繁氏の提案に端を発し、集成材と接合金物を使用した地震に強い木造住宅をつくる方法としてNCNによって開発されました。
NCNではSE構法の普及を通して、木造住宅の耐震化だけでなく、さまざまな方向へのオープン化（＝木造住宅をひらく）ということを当初から目指しています。
本特集号ではそういったNCNのSE構法による取り組みを紹介し、新しい木造住宅のあり方を探ります。



新建築 2019年4月別冊

TO THE SOCIETY

社会を支える建築 大建設計創立70周年

定価：本体2,778円+税
240頁／297×221mm

1948年創業の大建設計は、技術や性能に裏打ちされたプロジェクトを国内外問わず展開してきました。中でも、プラント施設や水族館などの専門性には定評があります。
本誌では、大建設計がこれまでに取り組んできた社会を支える建築を、6つの章に分け体系化しました。各章では大建OBと社員による座談会を収録。また、社会を支える建築の実現に向けて、どのような技術を用いて、どう工夫したのかを伝えるため、写真に図面を重ねその特徴を表現しました。豊富な図版で大建設計の70年にわたる経験と実績を紹介します。



新建築 2019年5月別冊

未来を考える6つのキーワード

対話から生まれる建築　山下設計100年への挑戦

定価：本体3,056円+税
日本語／296頁／182×257mm／B5版／平綴じ

2018年に創立90周年を迎えた山下設計の特集号。これまで山下設計は、社会・クライアントが抱えるさまざまな課題に対し、クライアントや協働デザイナー、施工者などの多くの関係者との「対話」を通し、その解決に向けた最善のアイデアを生み出してきました。本号では、そうしたアイデアを生み出してきた山下設計の設計プロセスに着目し、未来を考える上で不可欠な6つのテーマに沿って紹介します。



駅まち一体開発

TOD46の魅力

定価：本体2,000円+税
208頁／257×182mm／B5版／平綴じ

100年以上にわたり鉄道建設を基軸に国土と都市を発展させてきた日本では、TODという車に頼らない、公共交通機関の利用を前提に組み立てられた開発が多く見られます。渋谷駅や東京駅、新宿駅などの事例からは、都市計画レベルからヒューマンスケールな場の設えのレベルまで、さまざまなスケールでの工夫が読み取れます。本書ではその工夫を、5つのスケールに分類し、魅力的なTODの46の「レシピ」として、写真や図版などのビジュアルで紹介します。



東京ミッドタウン日比谷

新たな街づくりの手法

定価：本体4,000円+税
日本語 + 英語／200頁／230×305mm／上製

2019年3月29日に開業1周年を迎えた「東京ミッドタウン日比谷」。1周年を記念して発行した本書では、日比谷に新たな賑わいをつくり出した「東京ミッドタウン日比谷」の街づくりのプロセスを紐解きます。
ここで実践された街づくりは、事業者である三井不動産だけではなく、地域の関係者や行政、有識者との意見交換や、さまざまなデザイナーが参加するチームの議論により、都市計画～ビジョンづくり～建築デザイン～施工に至るまでシームレスに検討がなされ、具現化したというプロセスがあります。完成した建築や街、そこで生まれている賑わいを撮り下ろしの写真で紹介。さらに、ここでのプロセスを、これからの都市再生における方策として詳細に紹介します。

詳細はWEBをご覧ください。 https://japan-architect.co.jp

株式会社 新建築社
〒100-6017 東京都千代田区霞が関3-2-5　霞が関ビルディング17F
tel.03-6205-4380（代表） fax.03-6205-4386

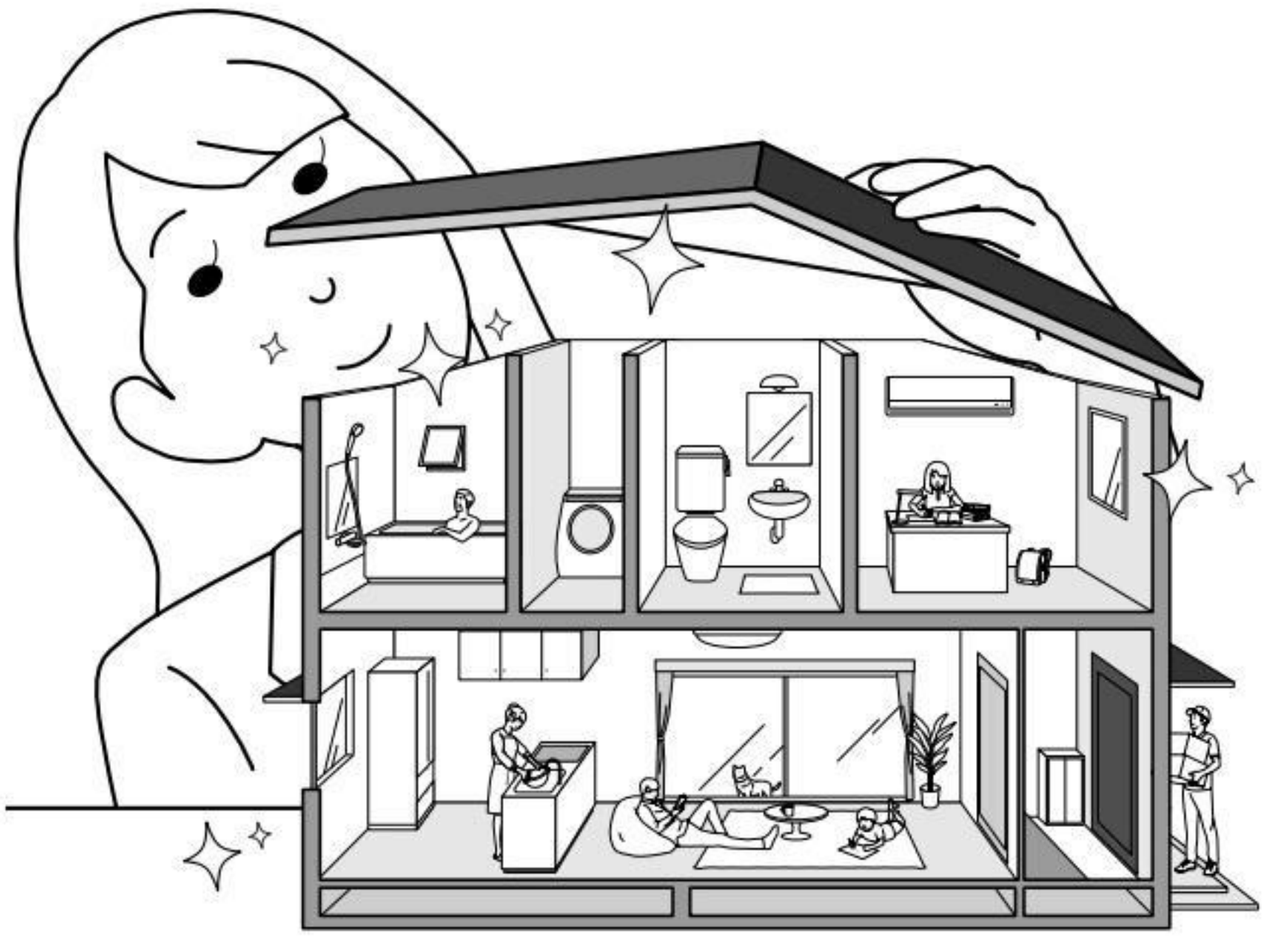
建築が大好きだ。

「家は生活の宝石箱でなくてはならない」
私が尊敬する建築家の言葉だ。

住む人の暮らしが毎日輝くような家。
尊い時間をその人らしく過ごせる家。

その家が、住む人の宝石箱となって街に溶け込む。
住宅設計とはなんて素晴らしい仕事なのだろう。

私は建築が大好きだ。



エーワーカー
A-workerは、建築設計者のための求人サイトです。

A-worker が選ばれる理由

- ☑ 建築設計関連の求人100%
- ☑ アトリエ系設計事務所の求人多数
- ☑ 大手の求人サイトにはない専門性
- ☑ 希望条件にマッチした求人をお知らせ
- ☑ 労働基準法をクリアした求人のみ掲載

オススメ機能

相性チェック機能

希望条件と一致した数で
相性がわかります

話がしたい機能

応募前でも採用担当者に
チャットで質問できます

建築設計者のための求人サイト
A-worker

エーワーカー

@aworker55　@a_worker
@aworker_kenchiku

運営会社：ユニオンシステム株式会社　Tel. 050-3733-3020

天井漏水ストップ機能　特許取得済

導水システム天井



専用の導水天井を用いて漏水を上手く導き排水する画期的なシステムです。

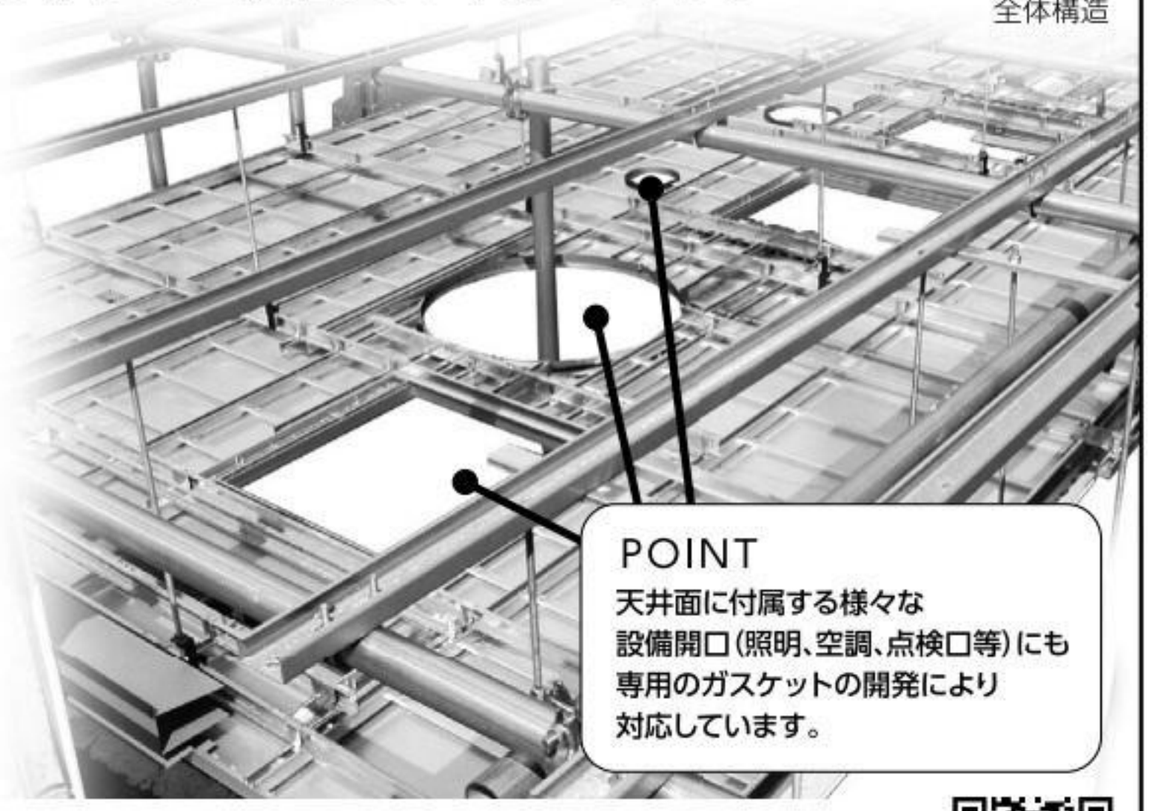


天井からの漏水！スペースの問題もあり二重天井を施す事もできない



仕上材=受桶にすることで、省スペース化し漏水問題を解決！

全体構造



POINT
天井面に付属する様々な
設備開口（照明、空調、点検口等）にも
専用のガスケットの開発により
対応しています。

森村金属株式会社　【本社】〒578-0912 大阪府東大阪市角田1-8-1

製品のお問合わせ先▶大阪072-962-7321／東京03-3552-0191／名古屋052-453-2247／九州092-432-8619

製品の詳しい内容は
導水システム天井　で検索

ZAN KYŌ

『残響時間』[※1]という言葉をご存じですか？

部屋の音の響き具合を表したものです。

※1 「残響時間が1秒」とは、ある部屋の中で大きな音を出し続け、部屋の中がその音で充満してから音を止め、音が60dB減衰するまでの時間が1秒ということです。

教室で先生や生徒の声が明瞭に聴こえるためには

“残響時間0.7秒”[※2]



※2 「学校施設の音環境保全規準・設計指針」（2008年3月、日本建築学会）にて推奨された教室の理想的な響き具合を示す数値。（残響時間0.7秒は、教室の容積が300m^{3}程度の場合）

それを実現するには

化粧せっこうボード【孔あき吸音タイプ】

タイガー スクエアトーン・Dプラス を採用してください

- ◎人の話し声の周波数帯域（250~500Hz）で優れた吸音性能を発揮
- ◎幅455mm、長さ910mm、厚さ9.5mmで不燃認定取得
- ◎ホルムアルデヒド吸収分解性能を付加。シックスクール・シックハウス対策にも万全
- ◎化粧ボードなので、現場塗装が不要。下地にビス留めするだけで仕上がります
- ◎10×10mmの四角い孔が規則的に並んだ独特の意匠性

主な用途：声の明瞭度を要求される場所の天井

学校施設…教室、講堂、音楽室など
公共施設…空港ロビー、駅のコンコースなど
民間施設…会議室、エントランス、ホワイエなど



YOSHINO
安全で快適な住空間を創る 吉野石膏

［本社］東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 〒100-0005
http://www.yoshino-gypsum.com

●お問い合わせは…吉野石膏DDセンター/03-3284-1181

作品15題

030 **旧富岡製糸場西置繭所保存整備事業**
富岡市（企画）　富岡製糸場保存修理委員会・遺構調査検討部会・整備活用計画実行委員会（専門委員会）
文化財建造物保存技術協会
記事：**文化財の保存継承のための活用**　江尻憲泰（江尻建築構造設計事務所）

044 **東京大学総合図書館 改修工事**
東京大学キャンパス計画室（野城智也・川添善行）・同施設部（設計監修）
香山壽夫建築研究所（実施設計）

056 **杉並区立中央図書館全面改修**　日総建

066 **黄金湯**
長坂常／スキーマ建築計画
高橋理子（クリエイティブディレクション・グラフィックデザイン）

074 **なっつらぼ**　teco＋小坂森中建築

082 **IYO夢みらい館** **伊予市文化交流センター**　山下設計

090 **垂井町役場**　梓設計

098 **栃木県総合運動公園東エリア**　梓設計・大成建設・安藤設計設計共同企業体

106 **大手町ビル・リノベーション**
三菱地所設計／飯沼安裕＋荒井拓州
メック・デザイン・インターナショナル／三田高章＋小田代美月（共用部内装デザイン）

114 **AGC横浜テクニカルセンター SE1**　類設計室（計画・基本設計）　フジタ（実施設計）

124 **TODA Innovate Lab**　戸田建設一級建築士事務所

132 **リバーホールディングス本社**　竹中工務店

140 **気仙沼内湾 ムカエル・ウマレル（PIER7）**
LLC SMDW　アール・アイ・エー　オンサイト計画設計事務所　ぼんぼり光環境計画

150 **南相馬市小高区における自然的（じねんてき）実践**　**小高復興デザインセンターの取り組み**
窪田亜矢（東京大学地域デザイン研究室 特任教授）
南相馬市小高区川房公会堂
内藤廣建築設計事務所

154 **南三陸町震災復興祈念公園・南三陸さんさん商店街・中橋・南三陸ハマーレ歌津**
設計組織 プレイスメディア　隈研吾建築都市設計事務所
パシフィックコンサルタンツ・隈研吾建築都市設計事務所設計共同体

記事：東日本大震災10年

164 **復興まちづくり その効果と課題**
姥浦道生（東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 教授，同大学災害科学国際研究所 教授）

166 **現場から見た土木の光と影**　平野勝也（東北大学災害科学国際研究所 准教授）

168 **生活再建のための住まいの復興**　佃悠（東北大学 准教授）

170 **東日本大震災からの学校復興が未来に伝えるもの**
長澤悟（教育環境研究所 所長，東洋大学 名誉教授）

CONTENTS

新建築2021年3月号　目次

NEWS

011　中国「山東省威海栄成市文化複合エリア設計コンペ」で日本設計が第1位／東京工業大学「田町キャンパス土地活用事業」事業予定者にNTT都市開発らのグループ／新建築データ，公開10カ月で学生約2万人が登録／「川崎市総合自治会館跡地等活用事業」事業予定者に東レ建設を代表とするグループ／日本建設業連合会次期会長に宮本洋一氏／ JIA新人賞2020発表――中村竜治氏，髙橋一平氏，魚谷繁礼氏が受賞／八戸市美術館館長に日本大学教授の佐藤慎也氏が就任予定／竹中工務店らが「Flexインフラを考える会」で調査研究――2050年の社会像を考える／「中野駅新北口駅前エリアにおける拠点施設整備にかかる民間事業者募集」で野村不動産を代表とするグループに決定／国土交通省がバスタプロジェクトの技術基準案をまとめる／国土交通省，2021年度から無電柱化事業を加速／「丸の内 City DX パートナーズ」設立

EXHIBITION

015　**菊竹清訓 山陰と建築**　高増佳子（米子工業高等専門学校 教授）

まちへ出よう展 それは水の波紋から始まった
Arts and the City ―a lecture by Johnston Marklee
センン・クアン（東京大学 特任准教授）

20世紀のポスター［図像と文字の風景］ ビジュアルコミュニケーションは可能か？

021　BOOKS

172　DATA SHEET ／ PROFILE
187　DESIGN PRODUCTS
188　TOPICS

196　月評　平田晃久＋馬場正尊　髙橋一平　松川昌平
吉川圭司（青柳創＋小野江綾＋佐藤達保）

200　編集後記

026　**新建築住宅設計競技2021 告知**
028　**新建築論考コンペティション2021 募集要項**

表紙の作品：旧富岡製糸場西置繭所保存整備事業
1階ホールより見る.
撮影：新建築社写真部

新建築
SHINKENCHIKU:2021

3

新建築　第96巻3号
2021年3月1日発行　毎月1回1日発行
定価　2,420円　本体2,200円
振替　00150-6-30658
編集発行人　吉田信之
編集長　四方裕
副編集長　内藤麻美
発行所　株式会社新建築社
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
霞が関ビルディング17階　〒100-6017
tel:　(03)6205-4380　代表／総務部・出版部
(03)6205-4381　編集部・デジタル編集部
(03)6205-4382　広告部
(03)6205-4392　写真部
fax:　(03)6205-4386　総務部・出版部
(03)6205-4387　編集部・広告部・写真部
青山ハウス
東京都港区南青山二丁目19番14号　〒107-0062
tel:　(03)6455-5596
fax:　(03)6455-5583
e-mail: shinkenchiku@japan-architect.co.jp
URL: https://japan-architect.co.jp
印刷所　大日本印刷株式会社
取次店　トーハン／日販／楽天ブックスネットワーク／
鍬谷／西村
©SHINKENCHIKU-SHA 2021　ISSN1342-5447
禁無断転載複写

新建築データ　株式会社新建築データ
e-mail: contact@shinkenchiku-data.com

元旦 屋根に夢と技術をのせて

屋根も壁も、横も縦もクロスデザイン



トヨタカローラ中京 GRガレージ 豊田元町店(愛知県)


入隅・出隅



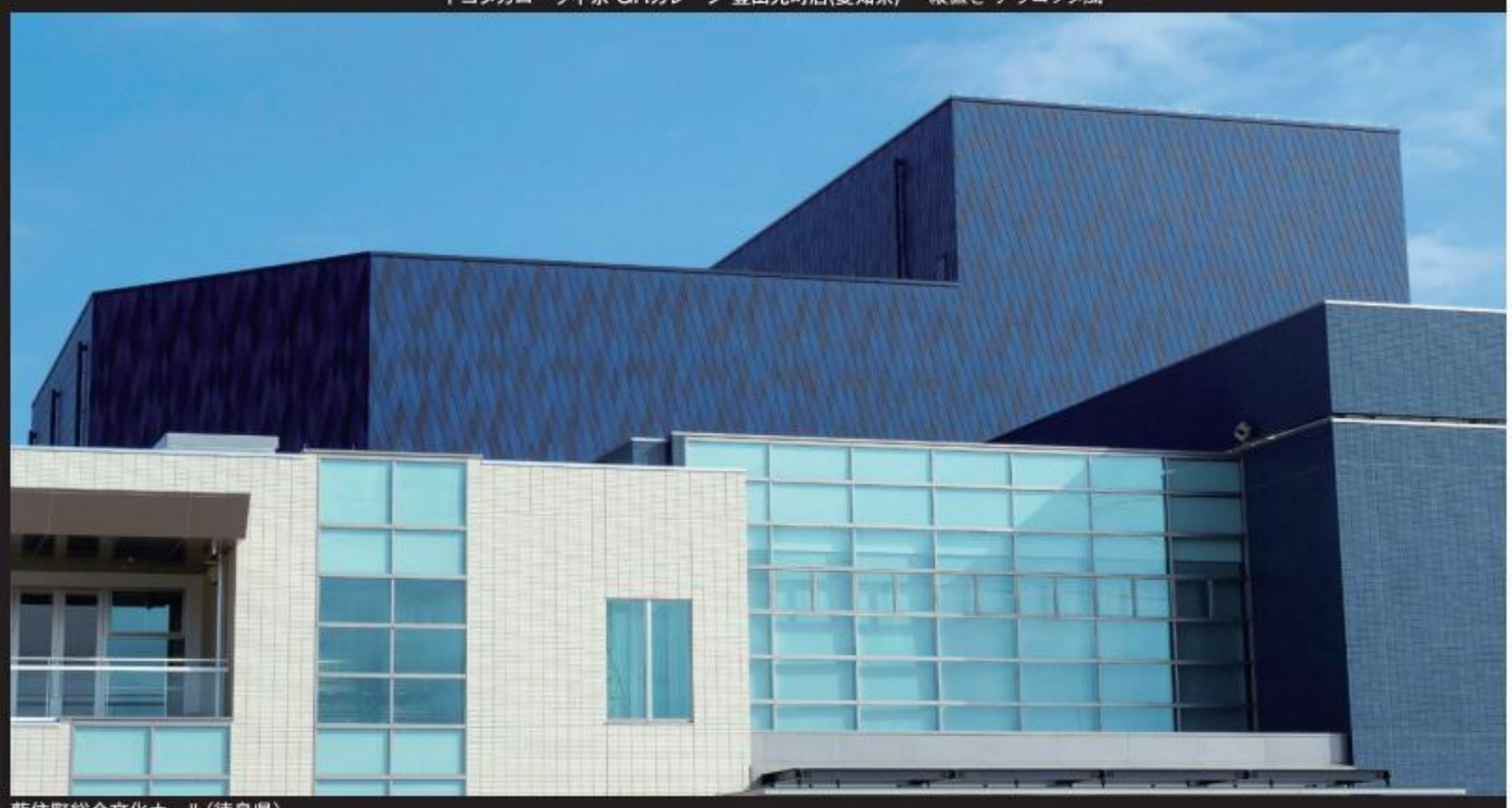
福井めがね工業　研究開発センター(福井県)


縦置き テラコッタ風


特別養護老人ホーム 早尾園・介護老人保健施設八祥苑(熊本県)



玉木デンタルクリニック(秋田県)


藍住町総合文化ホール(徳島県)

もっと自由なデザインを

元旦くろす®50 PAT

屋根・壁兼用材 特許・意匠多数出願済み

材　質	板　厚(mm)	対応勾配
カラーアルミ	0.5	35/100以上
カラーステンレス	0.4・0.5	
カラーガルバリウム鋼板	0.35・0.4・0.5	

※その他の材質・板厚についてはお問い合わせください

- ◆屋根・壁・パラペット・内装など、様々な内外装に対応
- ◆プレス加工による製造、製品精度が高く美しい仕上がり
- ◆元旦システム工法との組合わせで大型建築にも対応
- ◆高級感を演出するエンボス加工(オプション)

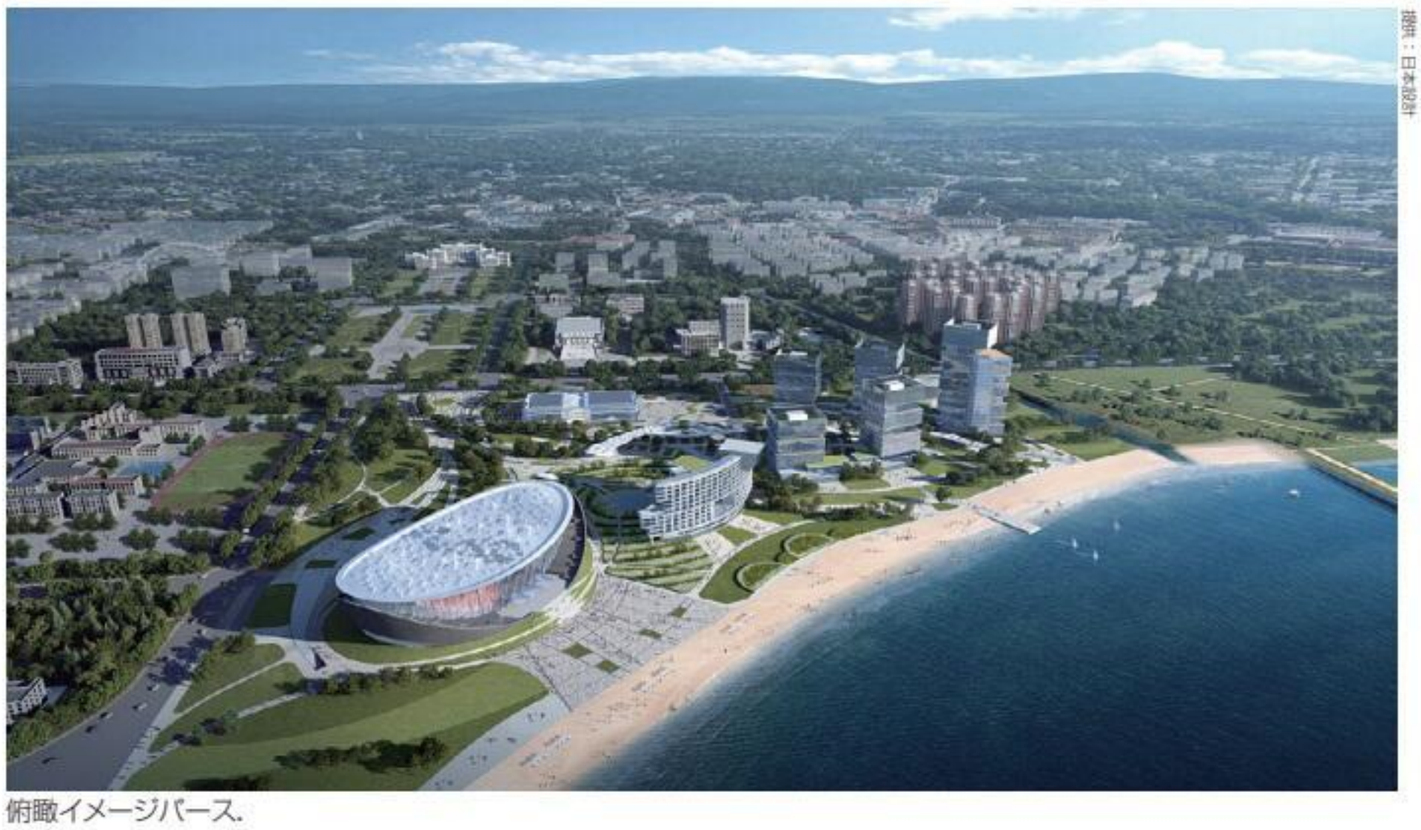
詳しい情報とカタログ請求はWEBから 元旦くろす50

製造・発売元 元旦ビューティ工業株式会社
本社／〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台1-1-21 TEL.0466-45-8771 FAX.0466-45-3031
フリーダイヤル 0120-09-49-39（マルク ヨク サンキュー）
https://www.gantan.co.jp

全国約8,000人のネットワーク 施工元旦会
全国元旦会
信頼・安心・確かな技術で責任施工
全国約8000人の施工ネットワーク

中国「山東省威海栄成市文化複合エリア設計コンペ」で日本設計が第1位

去る2020年12月18日，中国・栄成市自然資源局は「山東省威海栄成市文化複合エリア設計コンペ」で日本設計を第1位に選定した．同計画は，中国・栄成市の海に面する敷地に延床面積約230,000m^{2}の劇場，ホテル，オフィス，商業などからなる文化施設を中心とした複合開発を行うもの．第1位案は，威海の新しい芸術や文化発信の中心となり，豊かな自然環境を再発見する「威海の文化の目」というコンセプトの下，北西側の建築から続く広場の軸線に緑を引き込んだ，シンボリックな大劇場を中心とした計画．そのほかに「地域特性を生かした未来の都市リビング」，「威海独特の自然環境と有機的に融合された，特色のある環境型オフィスと商業」，「海浜の魅力を取り入れた象徴的なホテル」などが提案されている．



提供：日本設計

俯瞰イメージパース．

東京工業大学「田町キャンパス土地活用事業」事業予定者にNTT都市開発らのグループ

去る1月28日，東京工業大学は「東京工業大学田町キャンパス土地活用事業」の事業予定者をNTT都市開発・鹿島・JR東日本・東急不動産グループに決定したと発表した（審査委員長：藤野公之，審査員：安田幸一ら10名）．同計画は同大学附属科学技術高等学校を大岡山キャンパスへ移転するにあたり，民間事業者が土地を借り受け，一体的な開発により大学を含む複合施設を整備し，管理を行う事業．敷地の高度利用を図り，教育研究スペースの拡充と大学間・産官学・国際連携のためのスペースを確保するもの．事業予定者案は「世界を牽引するイノベーション・ウォーターフロントの拠点」をコンセプトに田町駅からの軸線上に設けられた「エコトーンストリート」など周辺との一体的なまちづくり，事業フェーズに応じたビジネスサポートといった国際的な産業・研究拠点形成に向けた取り組みなどさまざまな観点から提案．敷地の特性や工業デザイン発祥の地であるという歴史など地域の文脈を深く読み込んでいる点，シングルタワーとしシンボリックな外観の創出と共に周囲に開かれた空間などが評価された．2026年4月頃に定期借地権設定契約の締結，2030年供用開始，2032年のグランドオープンを目指す．定期借地権の終了は2101年3月頃．

「川崎市総合自治会館跡地等活用事業」事業予定者に東レ建設を代表とするグループ

去る2月2日，川崎市は「総合自治会館跡地等活用事業」事業者募集の結果を発表．東レ建設を代表とするグループを事業予定者として決定し，基本協定を締結した（構成員：ナチュラ，一般社団法人クレイドル，東洋コミュニティサービス）．同計画は，2020年6月に竣工した「Kosugi 3rd Avenue」に機能を移転した1983年竣工の川崎市総合自治会館の跡地活用のための事業者を募集するもの．決定案は，「誰もが健康に“いのち”を育む～武蔵小杉のふるさと～」をコンセプトに「農」シェアリングファーム，「食」アウトドアダイニング，「健康」ウエルネスリビングが入るプログラムを提案．土地利用方針への十分な理解，地域課題解決や賑わい創出・魅力向上を図る提案がされている点などが評価された．2022年度中に運用を開始する．



提供：川崎市

イメージパース．

新建築データ，公開10カ月で学生約2万人が登録

2020年4月公開の新建築データは，サービス開始から約10カ月で学生の登録ユーザが19,825人を越えた（2月19日現在）．2月に実施したアンケートによると，授業における設計課題や卒業研究における「効率的な事例調査」と「図面の閲覧」が，学生ユーザの登録と高い利用率に繋がっていることが明らかになった．

新建築データが公開しているデータベースは，『新建築』4,655件（2000年1月号～）および，3月1日より本稼働をはじめた『新建築住宅特集』3,072件（2005年1月号～）．本稼働開始に先立ち，covid-19による社会状況を鑑み，学生の教育機会の継続を支援するため，学生ユーザの『新建築住宅特集』無償期間の延長を発表した．7,500件を越えるアーカイブを通し，次の時代へ繋がる建築や建築家が生まれるきっかけを提供する．今後も新建築社は，建築家と共に蓄積してきた95年に及ぶ知財をよりよいかたちで社会へ還元する取り組みを続ける．あわせて新建築データでは，この試みに協賛いただける企業，団体を募集している．



新建築データウェブサイトからキャプチャ

新建築データ利用画面
（https://shinkenchiku-data.com/）．

NISSHIN KOGYO ONLINE SEMINAR

日新工業オンラインセミナー

CPD認定セミナープログラム｜取得単位3単位｜プログラムIDは申込みフォームをご確認ください。

主催：日新工業株式会社・日本アスファルト防水工業協同組合｜後援：株式会社新建築社｜問い合わせ先：日新工業セミナー事務局｜E-mail: toiawase@nisshinkogyo.co.jp

環境と建築

妹島和世



© Kohei Omachi

1956年茨城県生まれ。1981年日本女子大学大学院家政学研究科を修了。1987年妹島和世建築設計事務所設立。
1995年西沢立衛とともにSANAAを設立。2010年第12回ベネチアビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。
日本建築学会賞*、ベネチアビエンナーレ国際建築展金獅子賞*、プリツカー賞*、芸術文化勲章オフィシエ、紫綬褒章などを受賞。
現在、ミラノ工科大学教授、横浜国立大学大学院Y-GSA教授、日本女子大学客員教授、大阪芸術大学客員教授。
主な建築作品として、金沢21世紀美術館*（金沢市）、Rolexラーニングセンター*（ローザンヌ・スイス）、
ルーヴル・ランス*（ランス・フランス）などがある。［*はSANAAとして］

2021年

15:00–16:30｜第一部｜基調講演｜環境と建築｜妹島和世建築設計事務所 妹島和世氏

16:30–17:30｜第二部｜メーカー講演｜アスファルト防水の基礎知識｜日新工業株式会社

4月13日㊋

聴講には事前の申し込みが必要です｜参加費無料

申込方法——上記QRコードより専用申込フォームへアクセスしてください。｜https://www2.nisshinkogyo.co.jp/seminar/

［日新工業HPからもアクセス可能です｜https://www.nisshinkogyo.co.jp/］

新建築社青山ハウスより ライブ配信

注意事項——回線には限りがございます。ご登録頂いた方1名、1回線での視聴をお願い致します。

本講演会は、開催日時のライブ配信のみであり、開催後の録画配信はありません。視聴方法については、申込み時に入力いただいたメールアドレスへご案内いたします。

ライブ配信

NISSHIN KOGYO ONLINE SEMINAR KAZUYO SEJIMA

日新工業株式会社

日本アスファルト防水工業協同組合

日本建設業連合会次期会長に宮本洋一氏

去る3月15日の理事会で日本建設業連合会(日建連)の次期会長を宮本洋一氏とすることを決定．4月28日開催予定の定時総会・理事会で正式に決定する．山内隆司会長は退任，土木本部長には押味至一(鹿島建設社長)副会長，建築本部長は蓮輪賢治(大林組社長)副会長が就任する．

宮本洋一氏は1971年東京大学工学部建築学科卒業後，清水建設入社．2007年同社社長，2016年同社代表取締役会長．2011年4月から日本建設業連合会副会長を務めていた．

JIA新人賞2020発表

――中村竜治氏，髙橋一平氏，魚谷繁礼氏が受賞

去る2月4日，日本建築家協会(JIA，六鹿正治会長)は2020年度JIA新人賞を発表．「JINS京都寺町通」中村竜治氏，「河谷家の住宅(『新建築住宅特集』1912)」髙橋一平氏，「コンテナ町家(本誌2007)」魚谷繁礼氏に決定した(審査員：塚本由晴，福島加津也，五十嵐淳)．オンラインで行われた1次審査通過9作品の中から5作品を選定し，現地審査を経て，選ばれた．

同賞は，時代を反映した優れた建築を顕彰するもの．社会に建築のあるべき姿を知らしめることが建築家職能団体の使命であると考えの下，才能に恵まれ真摯な努力を重ねている新進の建築家による作品を通して，日本の建築文化の向上に寄与することを目的として授与される．



「河谷家の住宅(『新建築住宅特集』1912)」髙橋一平

八戸市美術館館長に日本大学教授の佐藤慎也氏が就任予定

去る2月17日，八戸市新美術館は日本大学理工学部建築学科教授の佐藤慎也氏を館長とすることを発表した．

同美術館は西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体により設計されている．専門性の高い個室群とさまざまな活動を支える「ジャイアントルーム」から構成される．同氏は八戸市新美術館運営検討委員会委員，八戸市新美術館建設工事設計者選定プロポーザル審査委員会副委員長を務めていた．館長就任は2021年4月1日，グランドオープンは同年11月頃を予定している．

竹中工務店らが「Flexインフラを考える会」で調査研究

――2050年の社会像を考える

竹中工務店，電気通信大学，Avanti R&D，TIS，KDDI総合研究所，エム・ティ・プランニングで構成される検討チーム「Flexインフラを考える会」は将来の社会の課題やあるべき姿を提示する調査研究に着手．同研究は科学技術振興機構(JST)「ムーンショット型研究開発事業の新たな目標検討のためのビジョン公募(ミレニア・プログラム)」で採択されたもの．技術革新や社会変化に柔軟に対応できる都市・まちを実現するために建物などのハードと制御のためのソフトやセンサーが連携する自律進化型基盤「Flexインフラ」を提案する．

「中野駅新北口駅前エリアにおける拠点施設整備にかかる民間事業者募集」で野村不動産を代表とするグループに決定

去る2月4日，中野区は「中野駅新北口駅前エリアにおける拠点施設整備にかかる民間事業者募集」の結果を発表．野村不動産を代表とするグループを施行予定者候補として選定．同計画は中野区役所や中野サンプラザ等が建つ中野駅新北口駅前約5haのエリアを周辺地区との調和や連携を図りながら整備するもの．候補案は，「Culture Driven City NAKANO100-文化を原動力とした中野100年のまちづくり-」をコンセプトに多目的ホールや広場空間を整備．2022年度末の都市計画決定，2028年度末の竣工を目指す．

国土交通省がバスタプロジェクトの技術基準案をまとめる

国土交通省は，2020年に成立した改正道路法と改正バリアフリー法を踏まえた，集約公共交通ターミナル・バスタなど「旅客特定車両停留施設」の技術基準案をまとめた．

2020年の施設に求める交通結節機能や災害対応機能に続き，今回はバリアフリー基準についてまとめられた．職員などによる安全確認や昇降操作の義務付け対象の規定，運行情報提供設備による情報提供や照明設備の照度確保，音声による情報提供などによるバリアフリー対応義務の適用除外などサービス提供の基準などが設定された．

国土交通省，2021年度から無電柱化事業を加速

国土交通省は2021年度からの5年間，道路上の電線類を地下埋設する無電柱化事業のスピードアップを支援することを発表．事業調整の日数を短縮するための発注方式の変更や同時施工の採用により電力線・通信ケーブルをまとめて収容する「電線共同溝」とすることで平均事業期間を7年から4年に短縮する．また，普及が進んでいない浅層埋設方式の採用を支援することで，事業の低コスト化にも取り組む．2021～25年度の次期計画「防災・減災，国土強靭化のための5カ年加速化対策」に事業加速のアイデアを盛り込み，2021年春の閣議決定を目指す．

「丸の内City DX パートナーズ」設立

去る1月28日，TMP(Tokyo Marunouchi Innovation Platform)と三菱地所は「丸の内 City DX パートナーズ」の設立を発表．同コンソーシアムは，大丸有エリア(大手町・丸の内・有楽町)において，デジタルを活用した都市機能・空間・仕組みのトランスフォーメーションを通じてまちの価値向上を実現し，まちに関わる人びとにメリットや価値を感じるサービス開発を目指す．解決したい課題や実現したいアイデアを持つ企業に対し，事業化から検証までの支援，実証実験の場の提供，アドバイスなどを行う．取り組みの一環として来街者の行動データ解析や「バーチャル丸の内」の構築が進められている．

写真は使用イメージです

準不燃
木材

国土交通大臣認定品
QM-0981-1

Super D panel

スーパー Dパネル[内装用防火木材]

国産杉
使用

本物の木で、
自然にも人にもいい環境を。

木材は持続可能な資源であり、木材を使い、また植えるというサイクルを活性化することは、森林の多面的な機能を維持し、日本の自然環境を守るために必要不可欠です。

無垢の国産スギを使用したスーパーDパネルは、新たに開発した吸湿性が低い防火薬剤と独自の塗装で、これまで防火木材の課題であった「潮解・白華現象」を大幅に抑制。内装制限のかかる場所でも、本物の木を使った空間を実現できます。



国産材の活用は、SDGsの取組みにも貢献します。

越井木材工業株式会社

[本 社]SD部　大阪市住之江区平林北 1-2-158　TEL : 06-6685-2064
[東京出張所]　千葉県市川市行徳駅前 1-27-17　TEL : 047-395-6321
Email : info@koshiiwoods.com　https://www.koshii.co.jp

菊竹清訓 山陰と建築

開催中

@島根県立美術館／島根
2021.1.22 ～ 3.22

山陰における菊竹建築の熱量を感じる

エキスポタワー（本誌7005）のある万博公園近くで育った私は，1996年に米子高専の教員採用で縁もゆかりもない山陰へ移住した．菊竹氏の建築のイメージといえば，エキスポタワー，そしてメタボリズム．米子に来た時は不勉強で，山陰の菊竹建築のほとんどを知らなかった．私にとっての山陰の菊竹建築との初めての出会いは，構造の教員から案内いただいた東光園（同6504）だった．その教員は，建物上部から5，6階を吊るという通常では考えられない構造を持つこの建築の素晴らしさを教えてくださった．エキスポタワーとは異質なこの建築が，当時からいかに脅威的な建築であったかを理解することができた．

ここ山陰には1959年に竣工した旧島根県立博物館（現・島根県庁第三分庁舎，同6002）をはじめ，出雲大社庁の舎（2016年解体，同6308），東光園，島根県立図書館（同6907）など，菊竹氏の代表的な名建築が9作品もあった（現在は8作品）．出身地でもないこの山陰で，当時若手の建築家であった菊竹氏の公共的な作品がこれだけが生み出されたことは不思議でならないが，今回の展示では，山陰の地で設計活動を行う契機となった元島根県知事の田部長右衛門氏との出会いにも触れられている．

菊竹氏没後10年の機会に，菊竹自身の設計による島根県立美術館（同9906）で開催されているこの展覧会．展示は「スカイハウスと初期の作品」「メタボリズムと未来都市の構想」「山陰の建築」「方法と作品」の4部構成．山陰の建築はもちろんこと，自邸スカイハウス（同1205）をはじめとした初期の建築作品たち，メタボリズムの考えや当時の世界デザイン会議について，建築理論「か・かた・かたち」のことなど，菊竹建築の魅力や特徴，全体像がスケッチや模型，映像作品を通してよくわかる展示となっている．特にスカイハウスは，展示室内に吊るされたテントで1/1の実物大でリビングの空間体験ができる展示になっており，壁柱によるワンルームの室内空間スケールを体験できる．そのほか，特に私が見てほしいのは，手描きの図面たちである．CAD図面が当たり前の今となっては，この（何度も描いては消すを繰り返して）黒光りした図面は，驚異である．菊竹氏たちは，当時どんな考えで，この建築を，この空間を生み出そうとしていたのか．その熱量がこの図面から伝わってくる．この展覧会の大きな特徴として美術館そのものも展示物として体験鑑賞できることも挙げられる．歩いていける松江市内に菊竹建築が4つもあることも魅力的だ．展示の中ではさりげなく松江の菊竹建築マップが無料配布されている．こんな建築の展覧会は過去にあっただろうか？　この松江の菊竹建築たちがあったからこそできたのである．

建築を教える身として，菊竹建築は多いなる学びを得られる大変貴重な建築であると感じる．また，昨今モダニズム建築が維持できなくなり解体される現状で，1960年代の菊竹建築が今も大切にこの山陰で使用されていることは，この建築の価値でもあるし，地元山陰にとっても幸運なことである．山陰でこのような大規模な建築展が開催されるのは初めてのことだ．菊竹氏の建築から得る学びを，私たちは建築や社会にどう生かして行くべきか．私は学生たちにそのことを伝えたいと思う．

（高増佳子／米子工業高等専門学校 教授）









左上：展示室全景．左は島根県と太陽工業により計画されたスカイハウスの模型．リビングを1/1スケールで体感できる．
右上：スカイハウスの模型内部．天井から吊るされた膜で，屋根の形状や高さを忠実に再現した．
左下：「海上都市」模型．スケッチや映像と共に解説される．　右下：「島根県立図書館」の1/100模型（制作：島根大学）．

まちへ出よう展　それは水の波紋から始まった

開催中

@ワタリウム美術館／東京
2021.2.6 ～ 6.6

1995年，キュレーターのヤン・フート（1936～2014年）とワタリウム美術館の協力で行われた展覧会「水の波紋95」．日本各地にアーティストが滞在して製作された作品が，東京・青山地区周辺の40カ所に展示された．街全体を会場とし，初めて展覧会にインターネットを活用するなど，世界でも他に類を見ない挑戦だった．本展は「水の波紋95」のアーティスト作品を再び展示すると共に，新たに現代アーティスト作品も紹介する．コロナ渦に翻弄される現代で，街の一部を構成するように展示された作品を紹介することで，アートを通して人びとの心を開放することを願う展覧会である．4月28日から5月30日まで開催の国際展「水の波紋2021」も，東京・青山地区の屋外にて作品が展示される予定．



「竹帚（たけぼうき）」（ホワン・ヨンピン，1995年）．「水の波紋95」と同様に，美術館エントランス外部に展示される．

2021年度
一般財団法人吉岡文庫育英会奨学生
募集要項

一般財団法人吉岡文庫育英会では，下記の通り2021年度の奨学生を募集します。

1. 応募資格　　2021年度における日本国内の大学院修士課程第1学年在学者
（日本国籍を有する者に限る）
2. 募集人員　　若干名
3. 奨学金　　大学院修士課程修了までの2年間、100,000円×2回／年
（年2回開催の奨学生セミナーに出席することが条件）
4. 審査　　第1次・第2次とも、吉岡文庫育英会奨学生選考委員会により審査を行います。
5. 第1次審査用提出書類
(1) 在学証明書（大学院）
(2) 成績証明書（学部卒業時）
(3) 学部時代の作品をまとめたポートフォリオ（A4判で5枚以内にまとめること）
(4) 建築教官の推薦状
(5) 大学院における研究テーマ概要（800字以内にまとめること）
(6) 合否の連絡先（自宅住所、郵便番号、電話及びFAX番号、メールアドレス）を記入した書類。
6. 締切日　　2021年5月7日（金）必着
7. 提出先　　一般財団法人吉岡文庫育英会　奨学生係
〒100-6017　東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
霞が関ビルディング17階（新建築社内）
8. 第2次審査　第1次審査通過者に対し、面接審査の必要が生じた場合、面接試験を行います。
9. その他　　細目は本育英会の奨学生規定によります。
10. 問合せ先　吉岡文庫育英会　事務局　日景
e-mail: yoshiokabunko@japan-architect.co.jp

2021年3月

一般財団法人 吉岡文庫育英会

Arts and the City ── a lecture by Johnston Marklee

@オンライン
2021.1.16

建築の合理性とあらゆる芸術との対話

1月16日，東京大学国際建築教育拠点総括寄付講座SEKISUI HOUSE – KUMA LAB（東京大学と積水ハウスにより同大学総長室総括プロジェクト機構内に設置．国際的な教育・研究拠点の確立を目指す）にて，ロサンゼルスを拠点とする設計事務所ジョンストン・マークリーの代表であるマーク・リーとシャロン・ジョンストンのオンライン講演が行われた．同大学特別教授の隈研吾氏による冒頭挨拶の後，「Arts and the City（芸術と都市）」と題された講演では，20年にわたるジョンストン・マークリーの活動が紹介された．同事務所は，2012年にテキサス州ヒューストンの「メニル・ドローイング研究所」のコンペティションで優勝して以来，多くのギャラリーや美術館に関連する公共施設規模の設計を手掛け，成功を収めている．

ジョンストンとリーは，その活動のふたつの段階に分け，初期を住宅の時代，その次を公共建築の時代として説明するが，今回の講演では，その哲学やアプローチに通底する一貫性を明確に示した．最初期のプロジェクトは，ドナルド・ジャッドと密接な関連性を持つ現代美術の拠点，テキサス州マーファに見ることができる．古い住宅をアーティストや著作家向けにささやかに改修した一連のプロジェクトを通して，ジョンストンとリーは，彼らが言うところの「アート，アーティスト，コミュニティのエコシステム」に働きかけ，育む手法を発展させていった．シンプルな形状表現と構造要素を使ったこのアプローチは，カリフォルニア大学ロサンゼルス校の「マーゴ・リーヴィン大学院アート・スタジオ」（2019年）や「フィラデルフィア・コンテンポラリー」（2018年コンペ実施，進行中）などの公共建物へと拡張していく．アート・スタジオは，ロサンゼルス郡カルバーシティの水平的でざらついた倉庫街に大きく開かれながらも，学生のためのスタジオやソーシャルな空間の中では親密さや心地よさを保っている．都市の密集した敷地に建つ「フィラデルフィア・コンテンポラリー」では，ひとつの建物の中に複数の小規模なプラットフォームや小屋を同居させることで，館内のそれぞれの場所で地域の多様なコミュニティと連動した企画を展開できる．ジョンストンとリーのすべてのプロジェクトにおいて，建築の本質的な要素の中に明確な調和が存在し，それにより敷地，プログラム，構造，素材が融合されている．

今回の講演では，建築理論および教育におけるジョンストンとリーの活動について直接的には語られなかった．ふたりともハーバード大学デザイン大学院（GSD）の教授であり，リーは建築学科の学科長を務める．また，ふたりは「Make New History（新たな歴史をつくる）」をテーマにした2017年のシカゴ建築ビエンナーレのディレクターを務めた（『a+u18:03）．このテーマは，エド・ルシェによる同名のページが空白のままの分厚い書籍を参照したものである．展示のひとつ「Vertical City（垂直都市）」は，1922年に行われたシカゴ・トリビューン・タワーのコンペティションを現代に向けて更新，再考することを試みたものである．自身らの作品を説明する際に，リーはしばしば先行する事例や歴史的な原型を参照するが，これはリーが1990年代初頭にハーバード大学で，そして後にスイス連邦工科大学チューリッヒ校で受けた教育によるものであることを認めている．彼らの建築にははっきりとした合理性があるが，その奥には，建築のみならず，写真，ファッション，デザイン，そして芸術の歴史における人物や出来事との対話を見い出すことができる．



上：マーク・リー氏（左）とシャロン・ジョンストン氏（右）．Johnston Markleeは1998年に設立．SEKISUI HOUSE–KUMA LABでは国際教育のハブを目指しアメリカの建築教育とも繋がることを視野に，ハーバード大学で教授を務めるふたりのレクチャーを開催．右上：ヴォールト・ハウス（2008年）．右下：メニル・ドローイング研究所（2012～18年）．

上段写真／東京大学総括プロジェクト機構 SEKISUI HOUSE - KUMA LAB　中写真撮影／Eric Staudenmaier　下写真撮影／Richard Barnes

（セン・クアン／東京大学総括プロジェクト機構特任准教授，翻訳：澤口えりか）

20世紀のポスター［図像と文字の風景］ ―ビジュアルコミュニケーションは可能か？

開催中

@東京都庭園美術館／東京
2021.1.30 ～ 4.11

1920年代から90年代に制作された130点のポスターが並ぶ本展．竹尾ポスターコレクションの中から，図像と文字を幾何学的・抽象的な融和とした構成主義の潮流にあるとされる「構成的ポスター」が選ばれている．第二次世界大戦前後の幾何学図形に沿った表現から，1970年代以降の文字や画像を切り抜いたり重ね合わせたりして自由なレイアウトを模索したニューウェイブ，ポストモダンの表現へと変化するプロセスが浮かび上がってくる．それと同時に「構成的ポスター」の特徴である，装飾のないサンセリフ書体を用いたタイポグラフィが時代を超えて継承されてきたことが伺える．



左から年代順に，ヤン・チヒョルト《構成主義者展／クンストハレ・バーゼル》1937年©Tschichold family.　メアリー・ヴィエイラ《パンエア・ド・ブラジル航空DC7C機／パンエア・ド・ブラジル》1957年©Isisuf.Istituto internazionale di studi sul futurismo Archivio Mary Vieira, Milano. All rights reserved.　スコロス＝ウェデル《SBKエンターテイメントワールド》1987年頃©Skolos Wedell.　ジャン＝ブノワ・レヴィ《マルクトブラット／無料広告新聞》1989年©Jean Benoit Levy (AGI / AIGA), Studio AND (www.and.ch), Photo：Alexandre Genoud.

a+u

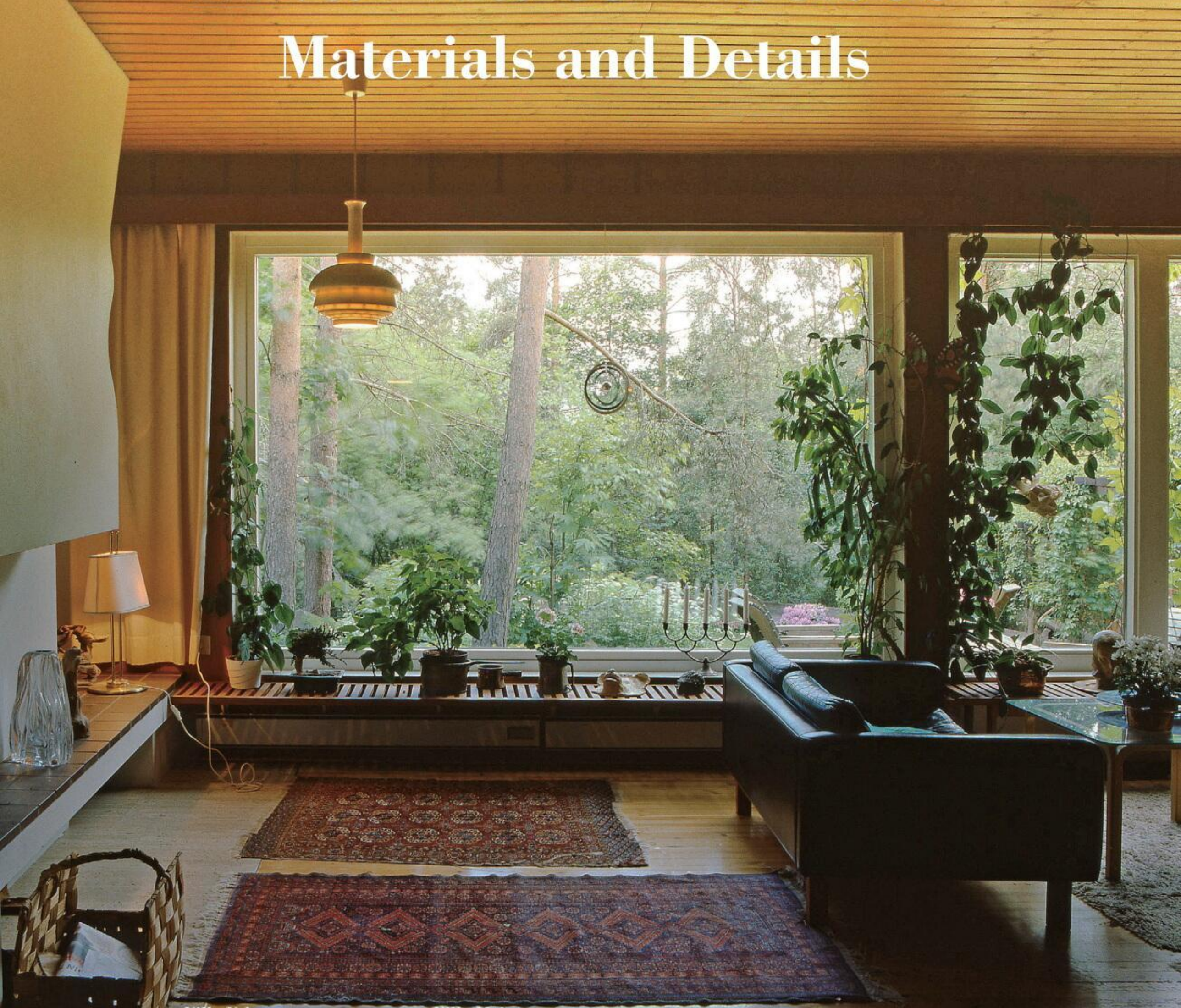
ARCHITECTURE AND URBANISM
March, 2021
No. 606
建築と都市　2021年3月号

エー・アンド・ユー
2021年3月号
発売：2021年2月27日
特別定価：3,000円（税込）
発行：（株）エー・アンド・ユー

〒100-6017　東京都千代田区霞が関三丁目
2番5号　霞が関ビルディング17階
TEL：03-6205-4384
FAX：03-6205-4387
振替：00130-5-98119

Alvar Aalto Houses

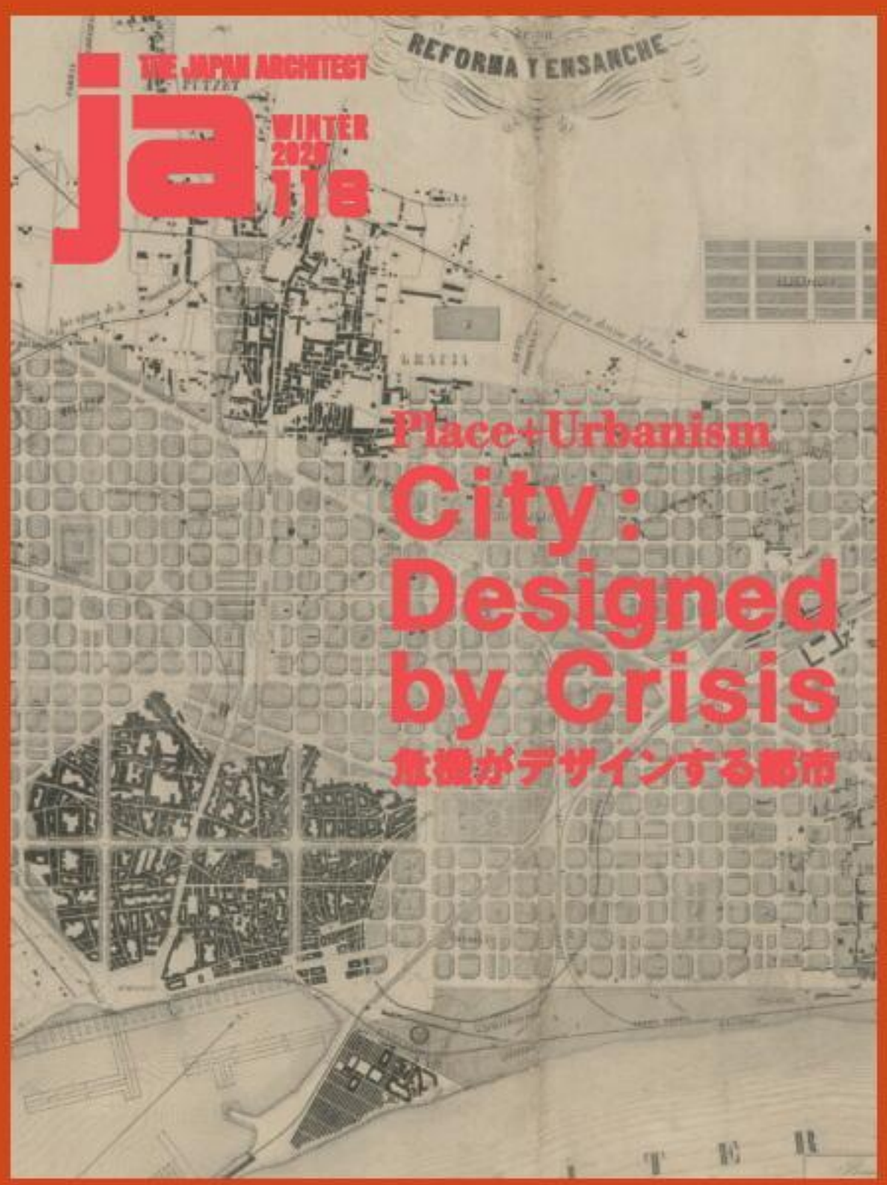
Materials and Details



Villa Vekara
Terho Manner House
Villa Flora
Villa Tammekann
The Aalto House
Kantola Manager Residence
Villa Mairea
Muuratsalo Experimental House
Maison Carré
Maison Aho
Villa Kokkonen
Villa Skeppet (Villa Schildt)

Villa Kokkonen, Photo by Jari Jetsonen

City : Designed by Crisis
危機がデザインする都市



Place+Urbanism シリーズ第2弾となる ja118 号は、
「City : Designed by Crisis 危機がデザインする都市」を発行いたします。
今、COVID-19 のパンデミックによって、まさに危機に直面している世界の都市は、これからどのように変わるのでしょうか?
世界の都市はこれまでもさまざまな危機に直面してきました。しかし、危機をきっかけに変化を遂げ、現在も魅力的であり続けています。
都市計画のきっかけと言われているコレラや近年の自然災害などのさまざまな危機を紹介する本誌は、これからの都市について考える手がかりが詰まっています。

好評発売中!

定価 : 2,619 円 (税込)

本誌は新建築オンライン、amazon、全国の書店でお求めいただけます。
新建築オンラインでのご購入は右の QR コードから!

【お知らせ】
2021 年から『ja』は「新建築データ」による情報発信と『a+u』の増刊からの刊行に移行します。
詳細は https://japan-architect.co.jp/information/ をご覧ください。









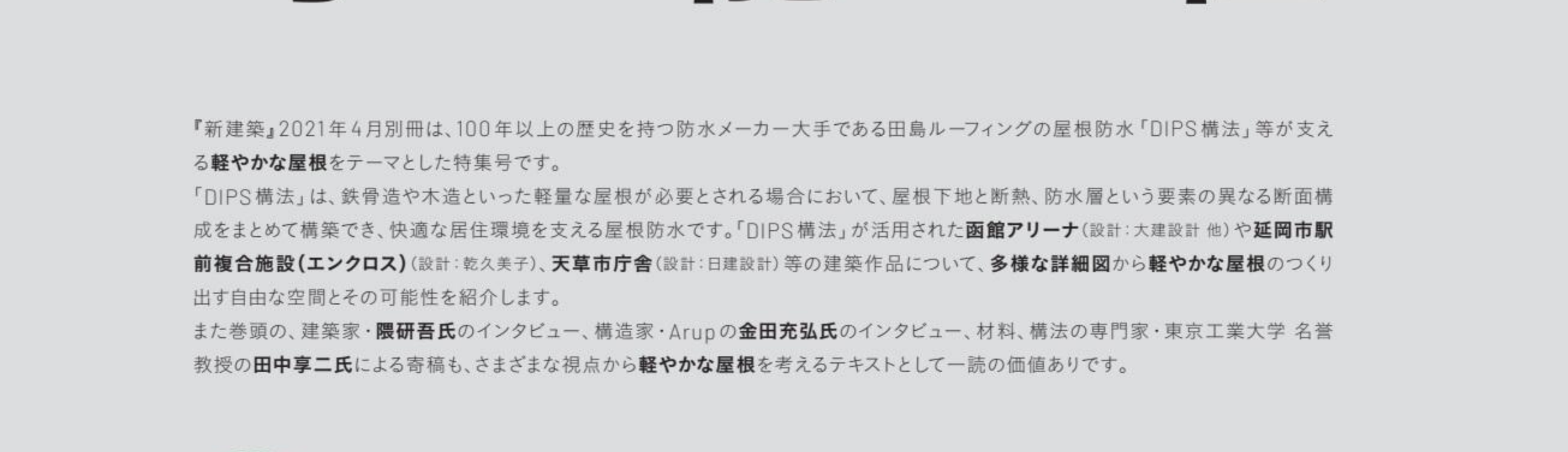
発行　株式会社 新建築社　〒100-6017
東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 5 号 霞が関ビルディング 17 階
tel.03-6205-4380　fax.03-6205-4386
URL: https://shinkenchiku.online/

新建築 2021年4月別冊

軽やかな屋根の可能性

確かな防水技術から広がる軽くて薄いフラットな屋根の表現

『新建築』2021年4月別冊は、100年以上の歴史を持つ防水メーカー大手である田島ルーフィングの屋根防水「DIPS構法」等が支える**軽やかな屋根**をテーマとした特集号です。
「DIPS構法」は、鉄骨造や木造といった軽量な屋根が必要とされる場合において、屋根下地と断熱、防水層という要素の異なる断面構成をまとめて構築でき、快適な居住環境を支える屋根防水です。「DIPS構法」が活用された**函館アリーナ**（設計：大建設計 他）や**延岡市駅前複合施設（エンクロス）**（設計：乾久美子）、**天草市庁舎**（設計：日建設計）等の建築作品について、**多様な詳細図**から**軽やかな屋根**のつくり出す自由な空間とその可能性を紹介します。
また巻頭の、建築家・**隈研吾氏**のインタビュー、構造家・Arupの**金田充弘氏**のインタビュー、材料、構法の専門家・東京工業大学 名誉教授の**田中享二氏**による寄稿も、さまざまな視点から**軽やかな屋根**を考えるテキストとして一読の価値ありです。



多様な詳細図で、
「軽やかな屋根」が支える豊かな空間と、
その仕組みを紹介します！！

4月27日発売予定

定価 2,750円
［本体価格　2,500円］

A4変型判／144頁

発行　株式会社新建築社
東京都千代田区霞が関3丁目2番5号
霞が関ビルディング17階　〒100-6017
TEL：03-6205-4380
FAX：03-6205-4386

平成都市計画史 転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの

饗庭伸 著

平成のはじまりから都市計画を学び始め，生業としてきた著者が平成の30年間で起こった都市計画の変化について綴る．たとえば，空前の好景気となったバブル経済の崩壊後には，不動産市場は硬直化した．その活性化のために実施されたのが共同住宅における共用部の容積緩和など各種の規制緩和である．その結果，都心には数々の集合住宅が建設されるなど都市の風景を刷新していった．このように本書は，センセーショナルな事例ではなく，都市計画の基礎となる法律や制度の変遷の歴史を10章に分けて描いていく．（fkd）



四六判／368頁
2,500円＋税
花伝社

遊環構造デザイン 円い空間が未来をひらく

仙田満 著

著者が長年取り組んでいる，こどもの研究から導いた遊環構造という環境デザインの手法について，作品事例も交えてまとめた1冊．環境デザインの領域とは何か，遊環構造の考え方がどのように生まれたのかを整理すると共に，こどもの「あそび」を類型化．そこで求められる環境や空間の本質を探りつつ，都市に対しても遊環構造の有効性が語られる．こどもは未来そのものであり，こどもを主体に考えデザインすることがよい環境づくりに繋がるとする，半世紀以上にわたる氏の環境建築家としての信念と提案が，本書には込められている．（fuu）



B6判／360頁
2,500円＋税
左右社

図解　パブリックスペースのつくり方

設計プロセス・ディテール・使いこなし

忽那裕樹・平賀達也・熊谷玄・長濱伸貴・篠沢健太 編著

市民が能動的に使いこなせるよう計画されたパブリックスペースを，「公園」「駅前」「商業」「宅地」「街路」「水辺」の6章構成で14事例を掲載．設計プロセスに加え，編著を務めた5人のランドスケープアーキテクトの視点から，ディテールに注目している．巻頭の「南池袋公園」（本誌1607）では，リボンスライダーとサクラテラスが写真と断面図を重ねたビジュアルで紹介され，人びとの賑わいに対応させながら設計者が施した仕掛けを解説しているように，各事例が断面図や工作物の詳細図，素材や機能を書き込んだ写真によって紹介されている．（hsn）



B5判横／144頁
3,500円＋税
学芸出版社

野生のエディフィス

能作文徳 著

都市の工事現場から出た建材の再利用，調理や冷暖房などへの太陽光エネルギーの利用，庭の土壌改善による植物や微生物との共生など，自邸「西大井のあな」（『新建築住宅特集特集』1810）を実験場とする著者．それは，人間の活動が地球のキャパシティを超えてしまう人新世において，産業や政策に寄った既存の建設システムを明らかにし，自然や都市の生態系の中に，建築や人びとの生活を結び付け直そうとする意識からだ．これまでのプロジェクトをもとにした16の論考を通し，自然資源と繋がり生きる場所を構築するための新たな建築論を提示する．（n）

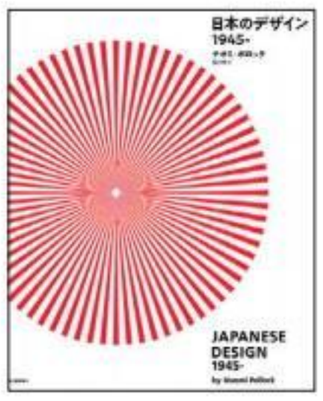


A5判／160頁
1,800円＋税
LIXIL出版

日本のデザイン 1945-

ナオミ・ポロック 編著　北川玲 訳

100名以上の日本のデザイナーや企業を「家具」「電化製品」「布」など6つのカテゴリーに分類し，解説と代表作品の豊富な写真でまとめた．各カテゴリーの最後には，デザイナーや研究者などのエッセイを収録し，日本のデザインを概評する．著者によるエッセイでは，SANAAの椅子デザインについて解説．古河総合公園 飲食施設（本誌9807）のために考えられた，鋼板と鉄筋用棒鋼のみで構成され，建設会社によりつくられた椅子を紹介．建築資材を採用することで椅子を周辺環境に調和させ，日本建築のように建物と家具の境を曖昧にしていると評する．（ls）



B4変型判／448頁
7,200円＋税
河出書房新社

木造建築の構造 阪神・淡路大震災から現在まで

大橋好光 著

1995年の阪神・淡路大震災で木造住宅は甚大な被害を受け，それを機に木造住宅の耐震性向上を目指した研究が進められている．その研究の中心で活躍する著者が，2000年の改正建築基準法の規基準の根拠や，中大規模木造建築の構造設計の手法など，25年にわたる研究の成果をまとめた本書．木造建築の設計にあたり解決すべき細かいポイントとなる，木材強度のばらつき，たわみ，耐火性，材料調達などについても解説される．初学者から実務者まで，木造の理論と設計を理解する手助けとなる1冊．（ls）



A5判／350頁
3,000円＋税
建築技術

新建築

住宅特集

419

2021
SHINKENCHIKU
JUTAKUTOKUSHU

3

好評
発売中

定価 2,420円
（本体 2,200円）

閾（しきい）

環境と暮らしを繋げる土間

作品十六題

曇沢立衛
西田賢＋岩岡昭憲
吉田昌平＋田中裕一＋中本剛志
水野芳康
魚谷繁礼＋魚谷みわ子
川本敦史＋川本まゆみ
岡田佳子
五十嵐敏恭
吉永規夫
湯川晃平
可児公一＋植美雪
神家昭雄
藤本寿徳
魚谷繁紀
須俣孝之＋土野彩由一＋増山武
西和人

新建築
2021年3月別冊

think
未来への布石
建築を通して語る社会のかたち

佐藤総合計画の挑戦














佐藤総合計画は、2020年10月に創立75周年を迎え、これを機に創立75周年特集号『未来への布石(think)　建築を通して語る社会のかたち　佐藤総合計画の挑戦(仮)』を刊行いたします。佐藤総合計画はこれまでに建築、都市、環境などで、さまざまな問題に挑戦し、国内外であらゆる分野の建築設計を担う設計事務所へと成長してきました。本誌掲載は近作のプロジェクトですが、その75年にわたる経験・実績・将来のビジョン、同社が建築の設計を通じて変化する社会のニーズにどの様に応え、貢献しているのかを豊富なビジュアル、図版にて紹介します。

3月29日
発売予定!!
定価：3,300円（税込）

発行　株式会社新建築社
〒100-6017　東京都千代田区霞が関3丁目2番5号
霞が関ビルディング17階
tel. 03-6205-4380　fax. 03-6205-4386

■ 本誌タイトル、発売時期、価格は変更になることがあります。
■ 詳しくは、今後の新刊情報をご覧ください。

sanwacompany

DESIGN AWARD 2020

サンワカンパニー デザインアワード2020 施工事例部門　結果発表

サンワカンパニーデザインアワードは，今年も施工事例部門とプロダクトデザイン部門の2部門に分けて作品を募集した.
施工事例部門には238点の応募があり，その中から35点が1次選考を通過，最終選考へ進んだ．最終選考は2019年12月7日に，新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮してリモートで開催され，審査委員長を務める建築家の藤本壮介氏を筆頭に，サンワカンパニーの山根太郎氏，津崎宏一氏，古澤幸彦氏，濱田広一氏らによる審査委員会が，「サンワカンパニー商品が活かされた空間」，「建築や施工の質」，「新規性と独自性」の3つを審査基準に審査を行い，最優秀賞1点（賞金50万円），サンワカンパニー賞1点（賞金20万円），入賞3点（賞金各5万円），新人賞1点（賞金5万円，35歳以下）を選出した.
また，表彰式も感染拡大に配慮してリモートで2021年1月21日に開催された.

最優秀賞

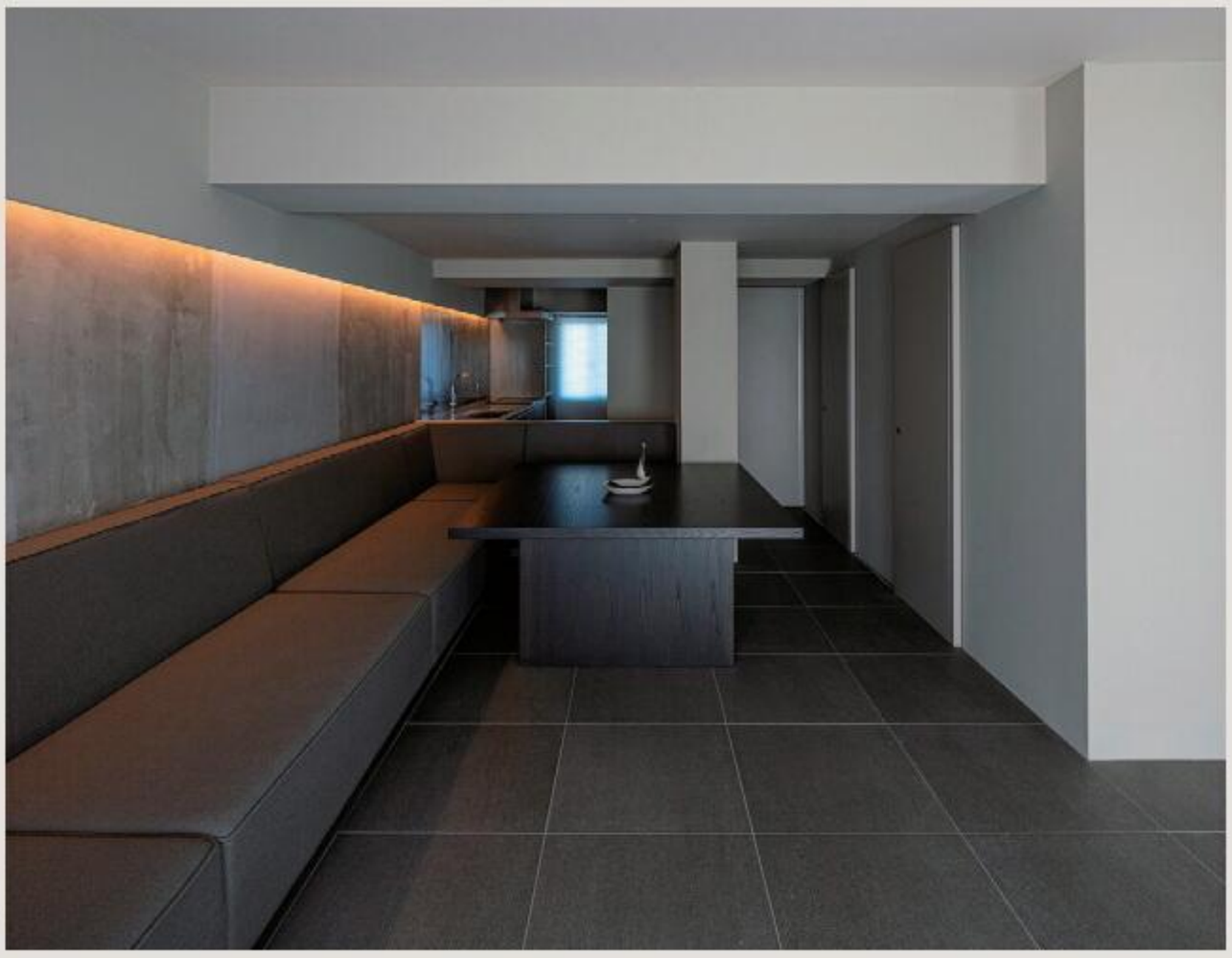
STUDIO ALUC：亀田潤　佐々木洸奈

K-HOUSE

キッチンとベッドソファの高さを合わせ，キッチン・リビング・ダイニングの空間を一直線に繋ぐことで，奥まで視線が通り，空間の広さを感じられるようになっている．また，床・壁・天井の色彩をグレートーンに統一しており，家具や調度品の色を際立たせると共に，1日を通した光の変化を感じられる場所となっている.
［使用商品］　タイル：バサルト　キッチン：グラッド45







サンワカンパニー賞

pilot architects.：谷田恭大

西脇の家

リビングと庭の中間領域として大庇を持ったテラスを設けている．テラスの軒天をジグザグ形状にし，連続性を持たせることで，緩やかにリビングと庭を繋げている．エントランス周りはミニマムな納まりとし，生活感を排除している.
［使用商品］　玄関扉：スペイリー　庇：ラミナ　機能門柱：オスポール　洗面台：ラート　ミラー：ステムズミラーボックス





入賞

STUDIO NINE | スタジオ・ニーネ：田中伸明　梶浦暁建築設計事務所：梶浦暁

IL FUGO_ITALIAN RESTAURANT



必要とされる機能の納まり寸法をできるだけ小さく抑え，それらを直線で結ぶことで，斜めのかたちが縦横無尽に行き交う空間を設計している．深みのあるテクスチャーで囲むことで，洞窟のような世界観をつくり出している．

［使用商品］　タイル：オキシダート

En.Architecture+Design：久成文人

Project136-38『'Aka'aka』



シンプルな構成であるが，部屋のような外部空間を設けることで，暮らしの中に室内外の回遊性を生んでいる．

［使用商品］　キッチン：グラッド45　洗面台：カーラ　洗面ボウル：エレガンスサークル　ミラーボックス：プレーンVミラーボックス　ポスト：タスカバン

日吉坂事務所株式会社：寶神尚史　太田温子

house S



単身者マンションのフルリノベーションで，部屋を厳密に仕切らず，暮らしが緩やかに繋がる構成にしている．全体としてひとつに繋がりながらも，それぞれの役割に最適な居場所を設えたつくりになっている．

［使用商品］　ガラスパーテーション：クアドロスリム

新人賞

アルキービ総合計画事務所：北村泰之

箕面森町の家



トップライトを設けた大きな切妻屋根が，庇空間をつくり出し，外部の自然環境を取り込んでいる．内部は入れ子状の空間になっており，全体を緩やかに分割している．

［使用商品］　キッチン：プレーンKミディアム

審査講評



審査委員長　藤本壮介
（藤本壮介建築設計事務所）

昨年からさらに応募作品が増え，それに伴い作品の質も上がったと思います．特に今回は，パーテーションやエクステリア，タイルといった建物全般に関わる製品がさまざまなかたちでクリエティブに使われていた印象を受けました．
最優秀賞の「K-HOUSE」は，60m^{2}という限られた空間ですが，ソファと壁に合わせるように金属素材のキッチン「グラッド45」を据え，床に火山岩のような表情を持つタイル「バサルト」を使用することで，全体をモノトーンの色調で統一しながらも，さまざまなテクスチャーが調和する場所をつくり上げています．シンプルかつ繊細な場所がつくられており，まさに小宇宙と呼べるような完成度高い空間に仕上がっていると思いました．
サンワカンパニー賞の「西脇の家」は，緩い勾配屋根を連続させることによって，内部空間と外部空間を繋げた住宅ですが，その魅力をプランニングと素材選びによって引き出している点が魅力的でした．特に，開放的な庭側のつくりと，「スペイリー」「ラミナ」「オスポール」というサンワカンパニーの製品を組み合わせたプライベートな入口とのコントラストがよかったと思います．
入賞の「IL FUGO_ITALIAN RESTAURANT」は，傾いた壁によって，洞窟のように奥へ誘い込む魅力的なレストランをつくり出しています．魅力的な空間をつくる上で，金属が酸化したような印象を持つタイル「オキシダート」をはじめ，素材の選び方や使い方を吟味したのが伝わってきました．
入賞の「Project136-38『'Aka'aka』」は，キッチンの「グラッド45」や洗面台の「カーラ」をはじめ，非常に多くのサンワカンパニー製品を採用し，さまざまな素材や色調を散りばめていますが，それらを軽やかにまとめており，バランス感覚が素晴らしい作品だと思いました．
入賞の「house S」は，空間全体を繋げながらも緩やかに仕切っていますが，この連続感と分節感が同居するような曖昧さを「クアドロスリム」というガラスのパーテーションによって見事につくり上げていると思いました．空間の魅力づくりに対する製品の活かし方が巧みだと感じました．
新人賞の「箕面森町の家」は，切妻屋根のシンプルで素朴な建物ですが，内部に大きな天窓を設けることで，中庭のような大胆な内部空間をつくっています．それを生活の中心とするようにキッチンの「グラッド45」を置くことで，シンプルな空間の中に豊かな半外部空間を取り込もうとしているチャレンジングな姿勢を感じ，新人賞に選びました．



山根太郎
（サンワカンパニー代表取締役社長）

年々レベルが上がっている中で，今回は過去最高の応募数となり，想像もしないような製品の使い方が多く見られました．また，実際の現場を見る回数は限られているので，たくさんの応募事例を見させていただくことで，製品を採用してくださっている方へ改めて感謝する機会にもなりました．「house S」は，高層マンションの1室に開放感を出すために「クアドロスリム」というサンワカンパニーの目玉商品をアレンジし，統一的な空間をつくっている点が印象的でした．



津崎宏一
（サンワカンパニー取締役副社長）

「西脇の家」は，玄関扉「スペイリー」，庇「ラミナ」，機能門柱「オスポール」という今いちばん売上の伸び率が高いエクステリアの製品を，ミニマムなつくりの住宅にマッチさせている点がよかったと思います．



古澤幸彦
（サンワカンパニーマーケティング部長）

「箕面森町の家」は，いかに空間を広く使い，光を入れるのかが工夫された住宅だと思いました．その広く，光の溢れる空間にキッチン「プレーンKミディアム」を溶け込ませている点がユニークだと思いました．



濱田広一
（サンワカンパニー商品部長）

「Project136-38『'Aka' aka』」は，サンワカンパニーの過去の製品から最近の製品まで幅広く採用し，調和をつくり出した秀逸な作品だと思いました．プロダクトのつくり手としても，新しい発見が得られる作品でした．

●●● sanwacompany　問い合わせ先／株式会社サンワカンパニー　URL　https://info.sanwacompany.co.jp/　tel.0120-468-838

Issue_01

新建築住宅設計競技2021

リサーチアンドビルドコンペティション
「遠方の家／近くのランドマーク House in REMOTE / Landmark BESIDE」
『新建築』2021年6月号にて募集要項公開予定

Shinkenchiku Housing Design Competition 2021
Research and Build Competition
"House in REMOTE / Landmark BESIDE"
The application guideline will be published
in the June issue of Shinkenchiku.

コンペティションに「ハイブリッド」はデザインできるか？

Keywords Hybrid Chimera Mixture

2021年度の新建築住宅設計競技では新しい実験を試みます.

従来, コンペティションは個人や個別の組織が生み出すユニークな発想を競い合い, より署名性や独自性の高い案を育む場と捉えられてきました. しかしコンペティションというフォーマットの可能性はそこにとどまるものでしょうか?

新建築社では, 社会が高度に情報化した現在, コンペティションの営みにはより拡張的な可能性が広がっているという仮説を立てました. 言わばコンペティションは審査員と応募者, あるいは応募者同士が協調してプロジェクトの可能な領域を探索する対等なスペキュレーション(思索)の場であり, その場を通してしか生まれ得ない「ハイブリッド」な成果を生み出す手段である, という仮説です.

アクターネットワーク理論の提唱者であるブルーノ・ラトゥールは, 自然と社会, 物と人間, 主体と客体の混成物をさして「ハイブリッド」と呼び, 私たちや私たちが生み出すものはそもそもキメラ的な混成物としてしか存在しえないことを指摘しました. そしてそのキメラ性を把握し, 積極的に運用していくことの社会的な価値について言及しています.

本コンペティションへの提出案からは, いくつかの案を選抜し, プロトタイプとしての実装や建設を発展的に検討予定であるほか, 全案をデジタルアーカイブ化し, ウェブサイト上で公表します. 審査員の呼びかけに応答し, 協調して参集する案という知の蓄積, 交わされる議論・記録・発信, 構築されるプロトタイプ, その成果, 一連の総体が「ハイブリッド」を形成するひとつのプロジェクトになります.

場に多極的な広がりをもたらす提案, プラグインのような組み込み型の提案, 多数案が並存することに価値を見出す提案など, コンペティションを協調の場として捉える提案を募集します.

In the Shinkenchiku Housing Design Competition 2021, we are attempting a new experiment.

Traditionally, competitions have been seen as a place for individuals and organizations to compete with each other for unique ideas, and to nurture proposals with a distinct signature and originality. But can't we envision alternative potential in the competition from a contemporary perspective?

At Shinkenchiku-sha, we hypothesize that in today's advanced information society, the possibilities for competition are even more expansive. In other words, we hypothesize that the competition is a place of egalitarian speculation, where the jury and the participants, or the participants among themselves, explore the possible extent of the project, and that the competition becomes a means of generating "hybrids" which can only be produced through it.

Bruno Latour, a proponent of the Actor-Network Theory, called a mixture of nature and society, non-humans and human-beings, and subjects and objects as a "hybrid" and pointed out that we and whatever artifacts we produce can only exist as chimeric mixtures in the first place. Furthermore, he mentioned the social value of grasping this "hybrid" nature of human-beings / artifacts and proactively operating it.

Several proposals will be selected from the competition for further development to be implemented and constructed as prototypes. And all the proposals will be digitally archived and published on the competition website. The accumulation of knowledge in the form of proposals, that cooperatively respond to the jury's call, the discussions over the proposals, recordings and broadcasting of them, the prototypes to be constructed, and the feedback to the prototypical implementation; all of them will form a "hybrid".

We are calling for proposals that drive the competition as a place for collaboration, such as proposals that bring multipolarity to the extent of the competition, proposals that can be connected to the other ones like plug-ins, and proposals that find value in the coexistence of diverse proposals.

Can a competition be an agent to design "hybrids"?

Can a competition be an agent to design “hybrids”?



Jacopo Ligozzi《A chimera》/
Wikimedia Commons / Public Domain
https://commons.wikimedia.org/wiki/
File:Ligozzi_(Una_quimera).jpg

「新建築住宅設計競技」は，新建築社が1966年から毎年開催している国際的な建築設計競技です．国内外の建築・都市関係者が審査員・応募者として参加し，新しいアイデアを生み出してきた設計競技を，次なるデジタル・メディア時代に向けた新建築のオンライン事業と合わせてアップデートします．
これまでの電子投稿審査方式（2010-）や，応募案のWEBアーカイブ（2020）を踏まえ，募集から選考、発表までの全プロセスをオンライン上で運営し，さらに選抜案のプロトタイプ実装を予定しています．

企画:新建築住宅設計競技2021　コンペティション企画チーム

The “Shinkenchiku Housing Design Competition” is an international architectural design competition held annually by Shinkenchiku since 1966. The competition, in which domestic and international architects and urban professionals have participated as judges and participants to generate new ideas, will be updated in conjunction with Shinkenchiku’s online project for the next digital media era.
Based on the electronic submission system (2010-) and the web archive system(2020-), the entire process from the call for entries to the selection will be managed online. A partial and prototypical implementation of hybridized selected proposals is planned.

Organized by: Shinkenchiku Design Competition 2021 Competition Planning Team

新建築論考コンペティション2021

主催　一般財団法人吉岡文庫育英会　株式会社新建築社

課題 | コロナの時代の私たちと建築

審査員 | 青木 淳

新建築社は新しい試みとして，いまを書き記す論考コンペティションをはじめます．
今回の審査員は青木淳氏です．みなさまのご応募をお待ちしております．

登録・応募開始	2021年 4月1日	文字数	8,000字前後
締切	2021年 8月1日	賞金	500,000円（総額）
結果発表	2021年10月1日		最優秀賞は『新建築』建築論壇に掲載（予定）

詳細はウェブサイト参照
https://shinkenchiku.net/compe/sk-article-2021

応募登録
応募にあたって事前登録（氏名，メールアドレス，電話番号，生年月日，所属，活動拠点）が必要です．当ウェブサイトよりご登録ください．

提出物　＊電子投稿審査です
文字数：　8,000字前後
（論考を補足する画像に対するキャプションは文字数にカウントしない）
画像：　論考に添付する画像は外部リンク不可
論考は『新建築』へ掲載されることを前提に，他者の著作物については応募者が自らの責任のもとに原著作者へ許諾の上，論考へ用いること
形式：　以下のふたつの形式で提出すること
1. 文字と画像が学術論文の形式でまとまったPDFファイル
2. 論考応募フォームにしたがったテキスト，画像およびキャプション
サイズ：　PDF形式は30Mb以下
画像は1点5Mb以下
提出先：　https://japan-architect.co.jp/competition/skarticlecmp2021

入選発表
月刊『新建築』2021年10月号，同誌電子書籍およびデジタル・データベース，当ウェブページを予定しています．

入選賞金
入選点数および賞金（総額50万円）の配分は審査員の決定に従います．

青木淳（あおき・じゅん）



1956年神奈川県生まれ／1982年東京大学大学院修士課程修了／1991年青木淳建築計画事務所設立（2020年ASに改組）／主な著書に『Jun Aoki COMPLETE WORKS 1：1991-2004』（2004年，INAX出版）『原っぱと遊園地』（2004年，王国社）『青木淳ノートブック』（2013年，平凡社）『Jun Aoki COMPLETE WORKS 3：2005-2014』（2016年，LIXIL出版）『フラジャイル・コンセプト』（2018年，NTT出版）

応募論考のデータベース化
・受賞作以外も含め，すべての論考をデータベース化します
・ただし著者の希望によってデータを削除します
・データの保存を保証するものではありません
・著者の許諾なしには公開いたしません
上記について事前にご了承の上，論考を投稿してください

その他
・応募論考の著作権は応募者に帰属しますが，出版権は新建築社が保有します．
・応募論考は入選・選外に関わらず，当ウェブページに掲載されることがあります．
・応募要項についての質問は一切受け付けません．要項に書かれている範囲内で応募者が各自判断してください．
・応募論考は未発表のものに限ります．応募論考の一部あるいは全部が，他者の著作権を侵害するものであってはいけません．また，雑誌や書籍，WEBページなど，著作物から複写した画像を使用しないこと．著作権侵害の恐れがある場合は，主催者の判断により入選を取り消す場合があります．
・受賞論考につきましては，掲載時に新たに応募データを送っていただく場合があります．
・応募に関する費用はすべて応募者が負担してください．
・応募論考は各自で内容を確認の上，お送りください．応募後の論考差し替えは不可とします．
・文字化け，リンク切れにご注意ください．リンクファイルは埋め込みとしてください．
・規約に反するものは受理できない場合があります．

コロナの時代の私たちと建築

2020年が始まってすぐ，私たちは新型コロナ禍に呑み込まれた．それからほぼ1年かかって，ワクチンが開発され，接種がはじまった．当初の想像を超えて長期に及ぶこの災厄も，いずれ私たちの前から通り過ぎ，過去のものになってくれる，と願うばかり．

しかし，それは私たちが，以前の暮らしにそのまま戻ることを意味するのだろうか？

悪夢は忘れたいもの．私たちはきっと，この間に体験した困難を忘れて，もとのままの生活に戻ろうとする．もしかしたら，抑制の反動で，以前にも増して，これまでの道の先を急ぐのかもしれない．

しかし，コロナ禍にあって，あまりに「あたりまえ」すぎて，それまで意識に上ってさえいなかった生や社会の前提や基盤を，私たちが肌身に感じたことも事実．

三密を避けなければならない．それは，私たちの暮らしが「密閉，密集，密接」という根底の上に築かれていること，そして，それなしには私たちが培ってきた文化も生活も維持することが難しいことを改めて気づかせた．

また，こうした新興感染症が出現し，かつ一瞬にして世界中に広がってしまう大きな要因に，地球環境を破壊してしまうまでの私たちの経済活動があり，それがもはや「待ったなし」の課題であることも突きつけられた．

格差が広がる一方の世界で，危機は格差の解消に寄与するどころか，より激しい分断を招く，ということも知った．

その一方で，私たちは，離れた人とかなりスムーズなコミュニケーションができるだけの技術をすでに持っていたことに驚いた．また，それでは代用できない，生身の身体的・物理的接触が大切なことを，身に染みて感じた．

ペスト，コレラ，天然痘，スペイン風邪と，文明が生まれてこのかた感染症を経験し続けてきたにもかかわらず，人類はその歴史から学ぶことなく，同じ間違いを繰り返すばかり，ということにも打ちのめされた．

コロナ禍は，私たちが見てきたいつもの世界に亀裂をつくり，その裂け目から，その真実の姿を垣間見せてくれた．

この禍いがはじまってごく早い時期に出版された『コロナの時代の僕ら』で，イタリアの作家パオロ・ジョルダーノは書いている．「数々の真実が浮かび上がりつつあるが，そのいずれも流行の終焉とともに消えてなくなることだろう．もしも，僕たちが今すぐそれを記憶に留めぬ限りは．」

そのとおりだと思う．今は，私たちが思いがけずに得た「天啓」が「たちまち煙と化してしまう」前にそれを書き留め，建築，都市について，今一度，考え直してみる時期なのだと思っている．コロナを経験して，私たちは建築，都市について，新たな考え，実践にいたることができるのだろうか．

みなさんの論考を期待しています．

青木淳

旧富岡製糸場西置繭所保存整備事業

設計　**富岡市**（企画）　**富岡製糸場保存修理委員会・遺構調査検討部会・整備活用計画実行委員会**（専門委員会）
文化財建造物保存技術協会
施工　竹中・タルヤ共同企業体
所在地　群馬県富岡市

CONSERVATION WORK OF THE WEST COCOON WAREHOUSE OF TOMIOKA SILK MILL
architects: TOMIOKA CITY, TOMIOKA SILK MILL PRESERVATION AND RESTORATION COMMITTEE, TOMIOKA SILK MILL CONSERVATION AND UTILIZATION COMMITTEE
TOMIOKA SILK MILL SECTIONAL MEETING FOR EXAMINATION OF FOUNDATIONS
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR CONSERVATION OF ARCHITECTURAL MONUMENTS

東側外観．西置繭所は，1872（明治5）年開業時に建設．2014年に繰糸所，東置繭所と共に国宝に指定．今回，保存修理，整備活用，耐震補強を一体にして事業が行われた．1階北寄りのガラス建具部分は，創業時は開放された石炭置場だったが，1897年頃にガラス建具と板壁により作業場として室内化し，1965年頃に気密性を高めるための改修が行われていた．1981年に外観を整えるため，煉瓦壁で塞がれたが，今回，煉瓦壁を撤去し，製糸工場のシステムを現す姿（1974年頃）に復原した．瓦屋根は野地板の傷んだ部分を繕った上で葺き直し，大棟と降棟には屋根漆喰を施した．

富岡製糸場西置繭所保存整備工事の概要

西置繭所は，建設時の姿をよくとどめ，かつ115年間の操業の中で加えられたさまざまな改造の痕跡から，工場全体のシステムの変化も読み取ることができる．この状態こそ，近代化遺産としての建造物の価値を表しているものと捉え，今回の保存整備工事では，「できる限りこれまで維持されてきたままの姿を残していく」という方針のもと，通常は個別の計画・工事になりがちな保存修理と整備活用と耐震対策の3つを，緊密に連携して進めた点に大きな特色がある．この方針を明確に，それぞれの側面から検討を重ねることで，1階は既存部分に手を加える範囲を限定しつつ，耐震補強を兼ねた入れ子状のガラスボックスを備えて新たな活動を可能にし，2階の耐震補強は，ケーブルブレースの追加を主に，ほぼ既存の繭倉庫の状態を維持した保存を実現した．

こうして，明治5（1872）年富岡製糸場の創設時に建設された生糸の原料となる繭の貯蔵施設で，場内の国宝建造物3棟のうちのひとつである国宝西置繭所の保存整備工事が完了した．

建物の状態と守るべき価値を見極める保存修理

保存修理では，修理の上で必要な範囲の部材をひとつひとつ取り外しながら，修理技術者（保存修理担当）が建物の状態を見きわめ，その来歴をつぶさに調べ上げていく．調査を通して，近代化の黎明期であった明治初期に建設された西置繭所に，いかに多くの建設当時の状況を物語る情報が残されているか，また生糸の生産システムの変化に応じて，どう柔軟に工夫をこらしながら建物が使われ，存続してきたのかが明らかとなった．

綿密な調査の結果を受けて，富岡市，有識者，文化庁との協議を経て，保存修理の方針（できる限り現在残る状態を維持していくこと）が決定した．たとえば天井は，漆喰塗りの剥落が認められたが，ネットを張って落下を防止することで状態を維持できると判断した．しかしながら，長年の使用を経て，建物の各所に破損が生じていたため，雨漏りや木部の腐朽など，破損を進行させうる要因については慎重に取り除きながら，建物が持つ情報をできるだけ取り去ってしまわないように注意を払った．

（齋賀英二郎／文化財建造物保存技術協会）



東側夕景．壁全体が面的に照らされるように照明計画を行った．

北側外観．煉瓦壁が白く見える部分は，煉瓦目地を切削し，アラミドロッド繊維を挿入して内部に手を加えずに外部より補強．目地材は建設当初の仕様と形状にならい復旧した．創建時の鬼瓦や，その他役瓦（軒瓦，雁振瓦），傷みはあるが再用可能と判断した桟瓦は薬剤含浸処理を施した．

展示まで一貫した発想で取り組んだ活用設計

整備活用では，保存修理の方針に沿って，操業時の雰囲気をとどめたままの西置繭所を最大限に体感できるように工夫した．1階内部に鉄骨と特殊なガラスで構築した耐震補強を兼ねるボックスは，内側を新たな用途に用いながら，既存建物の内部空間をガラス越しに鑑賞することを可能にした．鉄骨梁上部や側面には既存の天井や壁に向けて照明を取り付け，ガラスの存在感を減じている．また空調空間を限定することで，温湿度の変化が既存部分に及ぼす影響の軽減を図るなど，その役割を複合化した．

展示は1階から2階へと建物全体に展開している．1階ギャラリーでは製糸場内に保管されていた資料を中心に，かつて場内で使われていた什器も再利用した展示を構成し，ホワイエでは全長16mの年表をまとめた．補強材が少なく既存の空間をほぼそのまま残した2階には西置繭所を解説する展示を行った．保存修理の方針を踏まえて，展示まで発想を一貫して整備活用（＝新設部分）の設計をすることで，展示資料と建物を同時に鑑賞し体験できる新たな西置繭所を目指した．

（齋賀英二郎／文化財建造物保存技術協会）

北側ホール．鉄骨フレームと1階天井面の水平剛性を補う強化ガラスからなるボックスにより補強．「ハウス・イン・ハウス」の方法を参照し発展させた．新設床を濃色とし既存側を照明で照らすことで反射を抑えており，ガラス越しにオリジナルの風合いが感じ取れる．既存の通柱は303mm角，補強用の鉄骨柱は100mm角×2本を組んだもの．ガラスは厚み12mmの強化ガラス2枚の間にSG膜を挟んだもの．天井高（ガラス天井）は，2,643mm．

ギャラリーのガラス壁と既存壁の間を見通す．床下は史跡保護のため，新たに置基礎としてコンクリートを打ち，鉄骨梁を配置．生産システムの変化に伴う用途変更を受けて，1896年と1936年に2度床高を上げる大きな改造が行われており，さまざまな樹種・厚みの床板が使われている．今回の工事では各部材を取り外して調査し，取り替えや部分的な補修をして再利用．内壁はそのまま保存．

2階展示スペース．2階小屋組の水平構面は炭素繊維ストラットにより，可逆性を考慮し補強．端部はチタンシート巻付けによる金具固定．

1階ギャラリー．建設当初の仕様と使用されてきた経過を残した保存．
写真中央上天井の一部は漆喰が落ち，下地の木摺が見えている．

ベランダを見通す．腐朽が著しい床板は，部分的に新材で補修するか取り替えて，元の位置に戻した．創建時は平らなかごに殺蛹した繭をのせて蒸繭棚に並べ，風乾させながら保管したため，外壁には大きな開口部がずらりと並ぶ．技術が発達し繭が保管前に機械乾燥されるようになり，貯蔵が主な機能となるに従い，窓は締め切られ，外側に亜鉛鉄板，内側に合板などが貼られ気密性が重視されるようになった．

南側俯瞰．敷地南側には鏑川が流れる．揚水として鏑川の水利用を行うことになったのは大正時代に入ってからだが，豊富な水が確保できることが，製糸場建設の重要な条件のひとつであった．

富岡製糸場の文化的価値と今後の活用

富岡製糸場は，明治5（1872）年，当時輸出品として需要の高かった生糸に着目した明治政府が設立した官営模範工場で，西洋から先進の器械製糸技術を導入して創業した器械製糸工場である．近代的な製糸技術を国内に広める役割を担った．明治26（1893）年に民営化されるが，昭和62（1987）年に操業を停止するまで一貫して生糸を生産し続けた．現在は，富岡市が所有・管理し，一般公開を行いながら貴重な文化遺産として保存活用を行っている．

かつて日本の近代化を支えた基幹産業である製糸業の始まりから最終形に至るまでの歴史，技術革新を物語る史跡で，日本の近代化を象徴する代表的な産業遺産のひとつであることから，国の文化財に指定（史跡：2005年，重要文化財建造物：2006年，国宝：2014年）され，また，「富岡製糸場と絹産業遺産群」としてユネスコ「世界遺産一覧表」に記載され，世界遺産となった（2014年）．

富岡製糸場には木骨煉瓦造が特徴的な官営当初期の主要建造物がよく残りながらも，技術革新や経営の変遷，時代の変化に伴い増改築されたさまざまな建造物群が保存されており，操業115年の歴史を今に伝える．世界遺産登録に際しては，構成資産全体で，生糸の生産に係る海外との技術交流と高品質生糸を大量生産するための技術革新，その結果もたらされた世界の絹文化への貢献が評価された．

30年計画で策定された富岡製糸場の整備活用計画はまだ端緒についたばかりだが，国宝「西置繭所」の保存・整備事業が完成し，「ハウス・イン・ハウス」の手法によりガラスの多目的ホールが整備されたことで活用の幅が大きく広がった．文化財としての価値を確実に保存しつつも魅力的な活用を積極的に行うことで，富岡製糸場への理解を深めてもらい，維持継承することへの共感を得ていきたいと考えている．

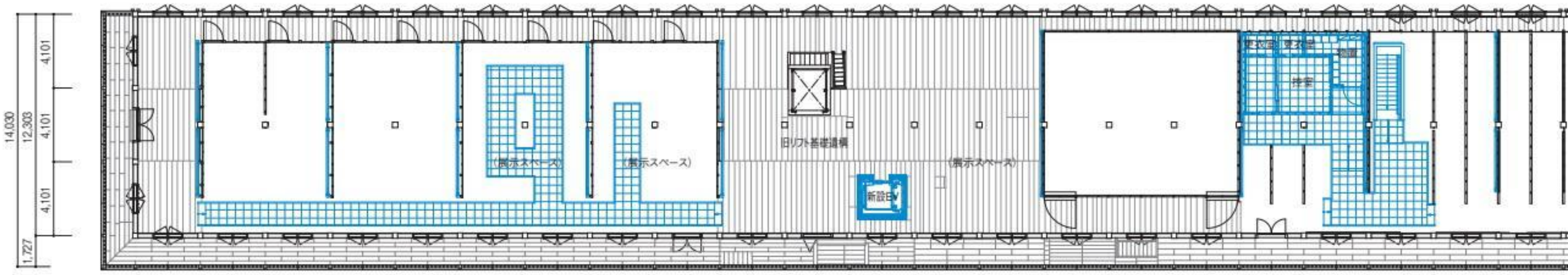
（富岡市世界遺産観光部富岡製糸場課）

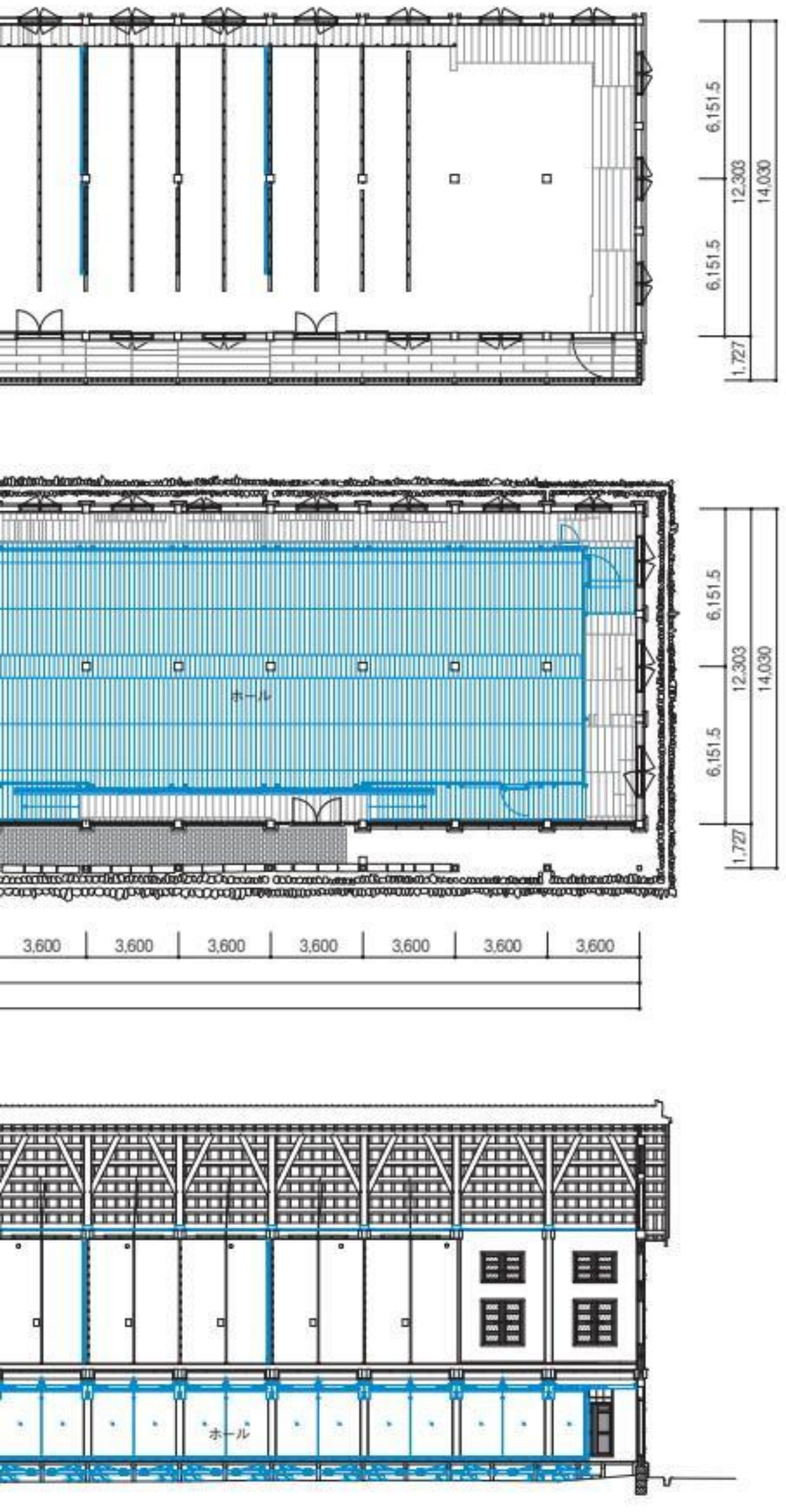


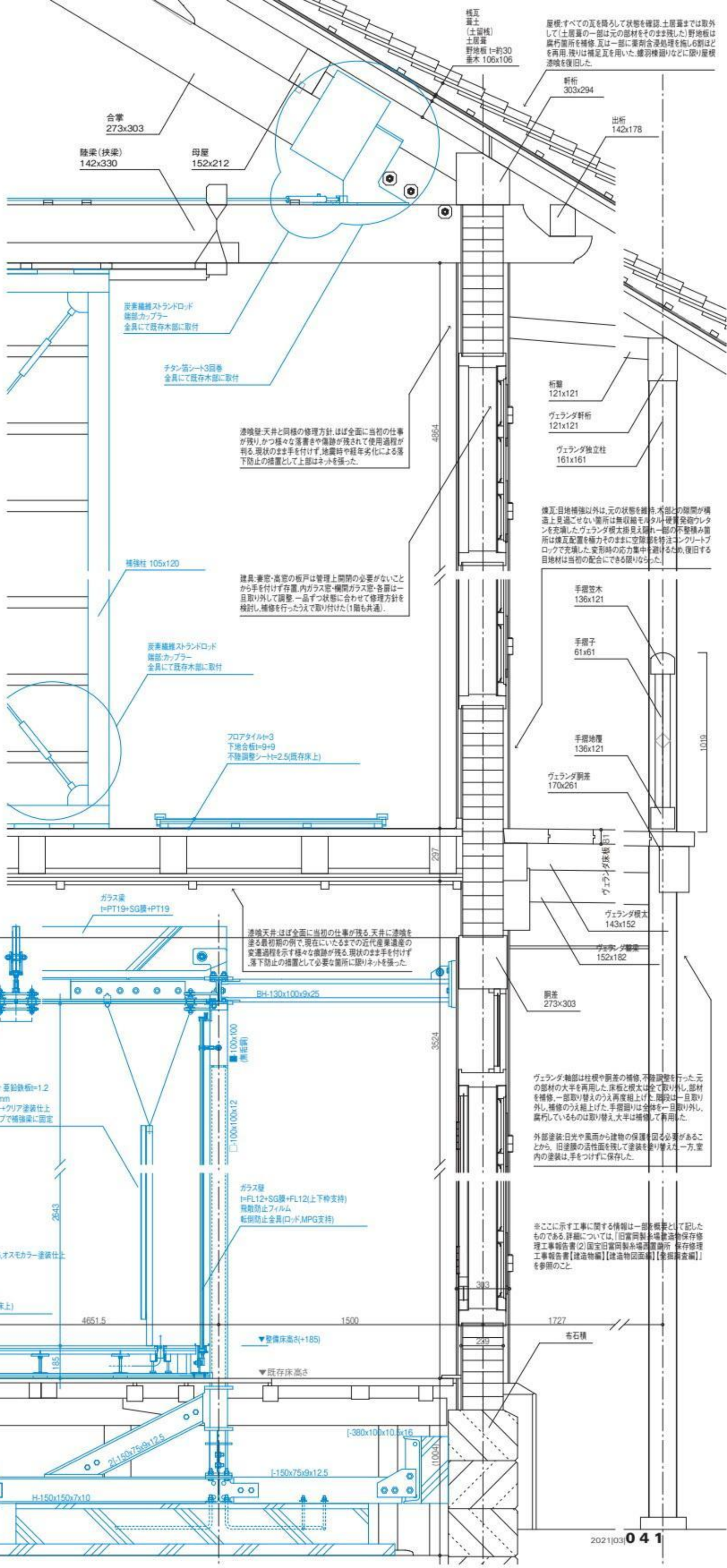
配置　縮尺1/25,000

配置　縮尺1/3,000

平成24（2012）年策定「旧富岡製糸場整備活用計画」より引用


14,030
12,303
4,101
4,101
4,101
1,727
（展示スペース）
（展示スペース）
旧リフト基礎遺構
新設EV
（展示スペース）
授乳室
授乳室
授乳室


6,151.5
12,303
14,030
6,151.5
1,727
ホール
6,151.5
12,303
14,030
6,151.5
1,727
3,600
3,600
3,600
3,600
3,600
3,600
3,600
ホール


桟瓦
葺土
(土留桟)
土居葺
野地板 t=約30
垂木 106x106
屋根:すべての瓦を降ろして状態を確認.土居葺までは取外して(土居葺の一部は元の部材をそのまま残した)野地板は腐朽箇所を補修.瓦は一部に薬剤含浸処理を施し6割ほどを再用.残りは補足瓦を用いた.螻羽棟廻りなどに限り屋根漆喰を復旧した.
軒桁
303x294
出桁
142x178
合掌
273x303
陸梁(挟梁)
142x330
母屋
152x212
炭素繊維ストランドロッド
端部:カップラー
全具にて既存木部に取付
チタン箔シート3回巻
全具にて既存木部に取付
漆喰壁:天井と同様の修理方針.ほぼ全面に当初の仕事が残り,かつ様々な落書きや傷跡が残されて使用過程が判る.現状のまま手を付けず,地震時や経年劣化による落下防止の措置として上部はネットを張った.
4864
桁鼻
121x121
ヴェランダ軒桁
121x121
ヴェランダ独立柱
161x161
煉瓦:目地補強以外は,元の状態を維持.木部との隙間が構造上見過ごせない箇所は無収縮モルタル・硬質発泡ウレタンを充填した.ヴェランダ根太掛見え隠れ一部の不整積み箇所は煉瓦配置を極力そのままに空隙部を特注コンクリートブロックで充填した.変形時の応力集中を避けるため,復旧する目地材は当初の配合にできる限りならった.
補強柱 105x120
建具:妻窓・高窓の板戸は管理上開閉の必要がないことから手を付けず存置.内ガラス窓・欄間ガラス窓・各扉は一旦取り外して調整.一品ずつ状態に合わせて修理方針を検討し,補修を行ったうえで取り付けた(1階も共通).
手摺笠木
136x121
手摺子
61x61
炭素繊維ストランドロッド
端部:カップラー
全具にて既存木部に取付
フロアタイルt=3
下地合板t=9+9
不陸調整シートt=2.5(既存床上)
手摺地覆
136x121
ヴェランダ胴差
170x261
1019
ヴェランダ床板 31
297
ヴェランダ根太
143x152
ヴェランダ敷梁
152x182
胴差
273x303
3524
ヴェランダ:軸部は柱根や胴差の補修,不陸調整を行った.元の部材の大半を再用した.床板と根太は全て取り外し,部材を補修,一部取り替えのうえ再度組上げた.階段は一旦取り外し,補修のうえ組上げた.手摺廻りは全体を一旦取り外し,腐朽しているものは取り替え,大半は補修して再用した.
外部塗装:日光や風雨から建物の保護を図る必要があることから,旧塗膜の活性面を残して塗装を塗り替えた.一方,室内の塗装は,手をつけずに保存した.
※ここに示す工事に関する情報は一部を概要として記したものである.詳細については,「旧富岡製糸場建造物保存修理工事報告書(2)国宝旧富岡製糸場西置繭所　保存修理工事報告書【建造物編】【建造物図面編】【発掘調査編】」を参照のこと.
393
1727
249
布石積
ガラス梁
t=PT19+SG膜+PT19
漆喰天井:ほぼ全面に当初の仕事が残る.天井に漆喰を塗る最初期の例で,現在にいたるまでの近代産業遺産の変遷過程を示す様々な痕跡が残る.現状のまま手を付けず,落下防止の措置として必要な箇所に限りネットを張った.
BH-148x100x6x9
BH-130x100x9x25
ガラス天井
t=PT12+SG膜+PT12
飛散防止フィルム
PL-22
DPG構法
上下鋳鋼(SCW480)
展示パネル
リノリウムt=2 or 亜鉛鉄板t=1.2
積層合板t=24mm
桟 □-35,グレー+クリア塗装仕上
ワイヤー+クランプで補強梁に固定
■100x100
(無垢鋼)
□-100x100x12
展示ケース
透明アクリルt=5
底板ガラスt=8
(既存什器天板に緩衝材を挟み設置)
L字金具固定
205
950
745
既存什器を補修し再利用
2643
オーク複合フローリングt=15,オスモカラー塗装仕上
捨張合板t=12
パーティクルボードt=20
調整束
構造用合板t=12+12
不陸調整シートt=2.5(既存床上)
ガラス壁
t=FL12+SG膜+FL12(上下枠支持)
飛散防止フィルム
転倒防止金具(ロッド,MPG支持)
4651.5
1500
185
▼整備床高さ(+185)
▼既存床高さ
1階床板・床組:全体的に蟻害・腐朽による傷みが顕著で,耐震補強で内部に追加する鉄骨の基礎を床下に設置する必要もあり,一旦全ての部材を取り外して補強材を組み込み,腐朽部材の補修・取替を行い再び組上げた.
2[-150x75x9x12.5
[-380x100x10.5x16
[-150x75x9x12.5
H-150x150x7x10
[-100]
断面詳細　縮尺1/30

42頁図版・写真提供，各写真撮影：文化財建造物保存技術協会



修理前東外観．1981年の外観整備で1階北半は建具と煉瓦壁で塞がれていた．



ベランダの床板を取り外すと，根太の腐朽など破損状況が明らかとなった．



1階内部は床板・床組をすべて取り外した．



野地板破損状況から修理歴などを読み解く．野地板破損部分のみを切断し，取り外す．



煉瓦目地をはつりアラミドロッドを入れる．
補強した目地は周囲に合わせて石灰モルタルで仕上げる．



1階中央の通柱に取り付く補強鉄骨．コの字型に成形したプレートで柱を挟む．



1階内部の鉄骨補強設置完了．



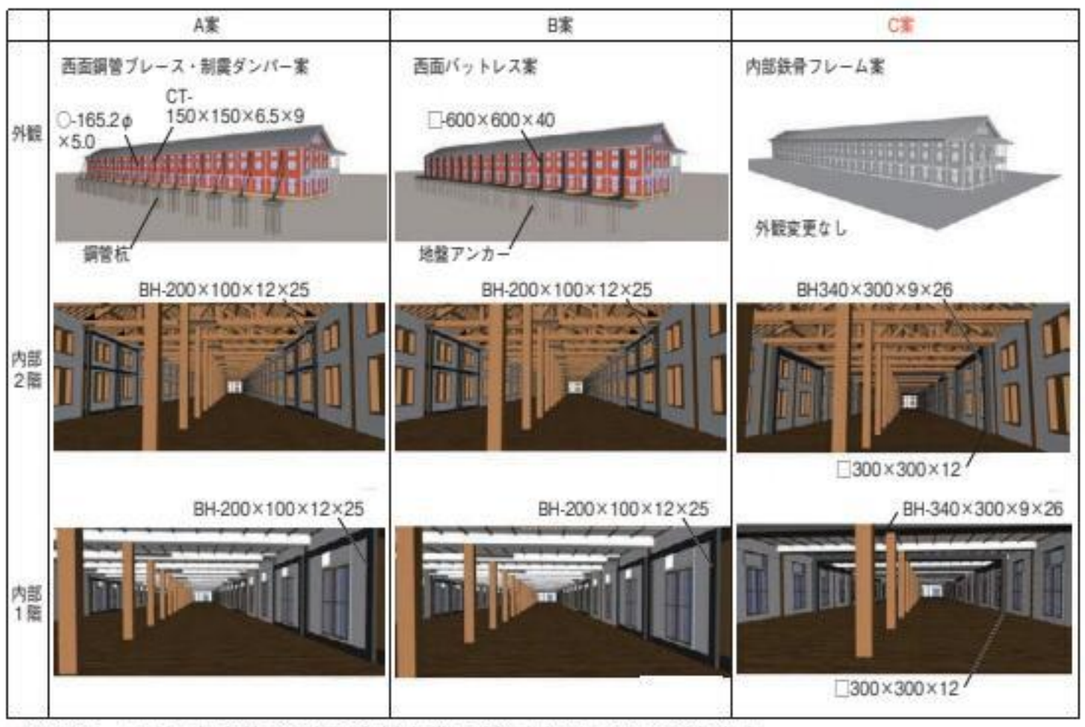
1階床組の組み立て．隠蔽部分もできる限り元の部材を元の位置に戻す．



失われていた屋根の漆喰を復旧した．



ベランダ手摺の組み立て．捻れた部材も工夫して再び組み上げた．床板の傷んだ部分は矧木（はぎき）で補修．



■2009～10年度実施の耐震診断事業で検討された3つの補強案

耐震診断後の補強案の検討

耐震診断を経て，補強案の検討までを行った．内部に見学者が入ることができ，大地震時に建物が倒壊せず面外破壊に至らないことを条件に補強工法について，検討した．A案は外部バットレス補強（ダンパー補強）．建物背面にあたる西面外部に補強を集中させることで，東面及び内部への影響を小さくおさえている．B案よりも外部に露出する部材サイズが小さい．B案は外部バットレス補強（鉄骨柱補強）．A案と考え方は同じだが部材構成が異なる．検討当時外部バットレス補強も一般的ではなく，A案の比較対象としても検討した．C案は内部鉄骨フレーム補強．外部には補強部材が露出せず，外観への影響が少ない．外気にさらされないため，他2案に比べて補強部材が劣化しにくい．検討はあくまで可能性としての提示にとどめ，保存修理工事着手時に再検討を行うこととした．

実施ではA案およびC案を有力候補に再検討を始めたが、A案であっても内部の補強をゼロにはできないこと，C案の内部補強を1階と2階で分割可能であることなど各条件を精査し，市・委員会・文化庁との協議を経て，内部補強案を進めることとした．

（齋賀英二郎／文化財建造物保存技術協会）

■2015年内部補強案の改良過程



内部鉄骨フレーム補強案（左）
上表のC案．内部に既存軸部に沿って2スパンごとに鉄骨フレームを設置．桁行方向にも適宜繋ぎを設ける．補強柱は内部1階天井（2階床）を貫通．内部の利用方法が未定な状態で，スパンを飛ばして干渉範囲を減らし，壁際に補強部材を寄せている．



1階鉄骨フレーム＋2階ブレース補強案①（左）
1，2階では特に梁間方向で地震時の変形量が異なる点を考慮して，補強を分けた．2階のブレース補強案はこの時点で決まった．1階は各スパンにフレームを設けることで部材サイズを落とした．



1階鉄骨フレーム＋2階ブレース補強案②（右，最終案）
1階鉄骨フレームを各スパンで既存軸部を挟み込むように分割．部材サイズをさらに小さく落とし，既存部材との対比を明確にした．既存中央の通柱への取り付きが生じ，既存床板を抜く箇所数が増えるなど，補強（や活用）による負荷をゼロにはできないが、よりその取り合いを意識して改良を重ねた．



文化財の保存継承のための活用

江尻憲泰（江尻建築構造設計事務所）


東側全景．西置繭所は全長約100m.

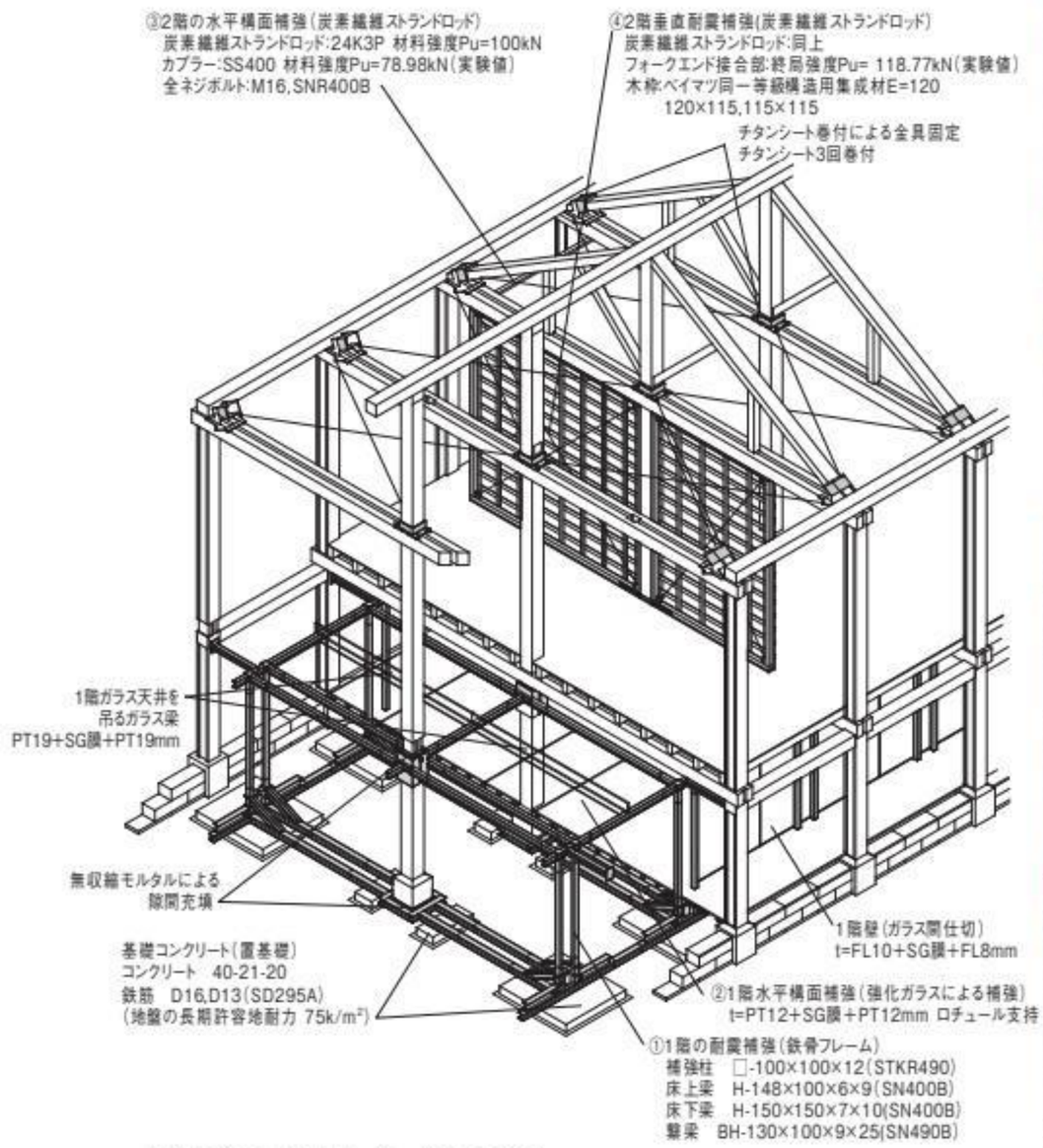
富岡製糸場西置繭所に関わったのは，12年以上前からで建築人生の1/3以上を共に歩んできた．このプロジェクトは，一般建築と異なり，富岡市の中に建築営繕や保存・活用の専門職を充てた部署を設けると共に，上部建築においては修理委員会と活用委員会という羅針盤的なふたつの委員会が設けられプロジェクトが進行している．実働上は文化財建造物保存協会を中心にわれわれ構造設計者をはじめ多くの技術者が参集し，富岡市と委員会を通じて横断的に検討が行われた．完成までに2011年東北地方太平洋沖地震の発生，2014年世界遺産への認定等，製糸場を巡る環境が大きく変わると同時に，文化財補強の考え方も変化してきている．既存部材には手を加えない時代から，安全確保に鉄骨補強を許容する時代を経て，「保存継承」と「活用」を考える時代へと変化してきている．

本構造は，不動産登記事務取扱準則の条文にはあるが，聞き慣れない「木骨煉瓦造」である．構造的には分からないことが多く，耐震性を把握するために，実験や調査を数多く行った．当初，煉瓦は堅いイメージだったが，煉瓦そのものの強度，剛性が木と変わらないと分かったことに始まり，実大振動実験では，煉瓦壁の挙動を目の当たりにし，煉瓦壁が大きく膨らんで元に戻る様子は，私の組積造イメージを大きく変えることになった．

西置繭所は日本の産業が急速に発達した時代の建物で，漆喰等当時の職人たちの思考の遺伝子を持つだけではなく，明治から現在まで，各時代の貴重な記憶を残している．その遺伝子や記憶を現代の技術に置き換えるのではなく，徹底して残し，かつ，「活用」するという一見相反するふたつの命題に回答を与えるために「ハウス・イン・ハウス」という手法が採用された．1階は建物内にガラス箱をつくり内部にいる人を保護すると同時に，既設部材を空調や人の活動による内部環境の変化から守る．ガラス天井は水平力の伝達に寄与し，そのガラス天井は鉄骨梁とガラス梁により支えられる．補強部材を小さくする補強ダブルフレームは，ガラスの採用理由と同じで，視覚をできるだけ遮らない意図がある．また，補強量を少なくするため，既存木柱，既設ダムウェータや新設したエレベータも構造要素として利用した．中央の既存木柱は可逆性を確保し取り外し可能な箱形鋼板で囲み，ダブルの鉄骨梁で挟み込むことでラーメン架構として地震に抵抗する．なお，2階は，目立たない補強とするために軽く高強度の炭素繊維より線で水平面，鉛直面の耐震性能を確保した．水平ブレースは，錆びず，結露を起こしにくいチタンシートにより既存の梁を巻き立て固定とし，鉛直ブレースは新設材のフレームに固定している．1階と同様に視覚をできるだけ阻害しないこと，および，可逆性を考慮した補強となっている．

一般建築と文化財建築の世界が近付いてきている．一般建築に携わる人びとが文化財建築の「活用」を手掛け，文化財技術者が「活用」を意識し，修復や保存を手掛け始めた．「活用」なく存続できる文化財もあるが，文化財を「保存継承」するために「活用」が重要な要件となることは多くの人が同意するであろう．ただし，「活用」のための何でもありの改変は，本来の目的である「保存継承」にはならない．何を次代へ「保存継承」し，何を新しく付け加えるのかは，ひとつひとつの文化財により異なる．「活用」も同様で，関係者の考え方，活用方法，地域の環境等さまざまな要因を考え，1件1件丁寧に「設計」することが重要であると，このプロジェクトを通して実感した．

この西置繭所は，長い年月の市の方々の強い思いや多くの人びとの努力の上で完成している．文化財の「活用」を本格的に考えた最初の事例であり，また，当時の姿に戻すため，化粧して残すのではなく，当時の姿を変化を含めてそのものを残すことを試みているので，多くの人に実際に現地に行って見て感じてもらいたいと願っている．



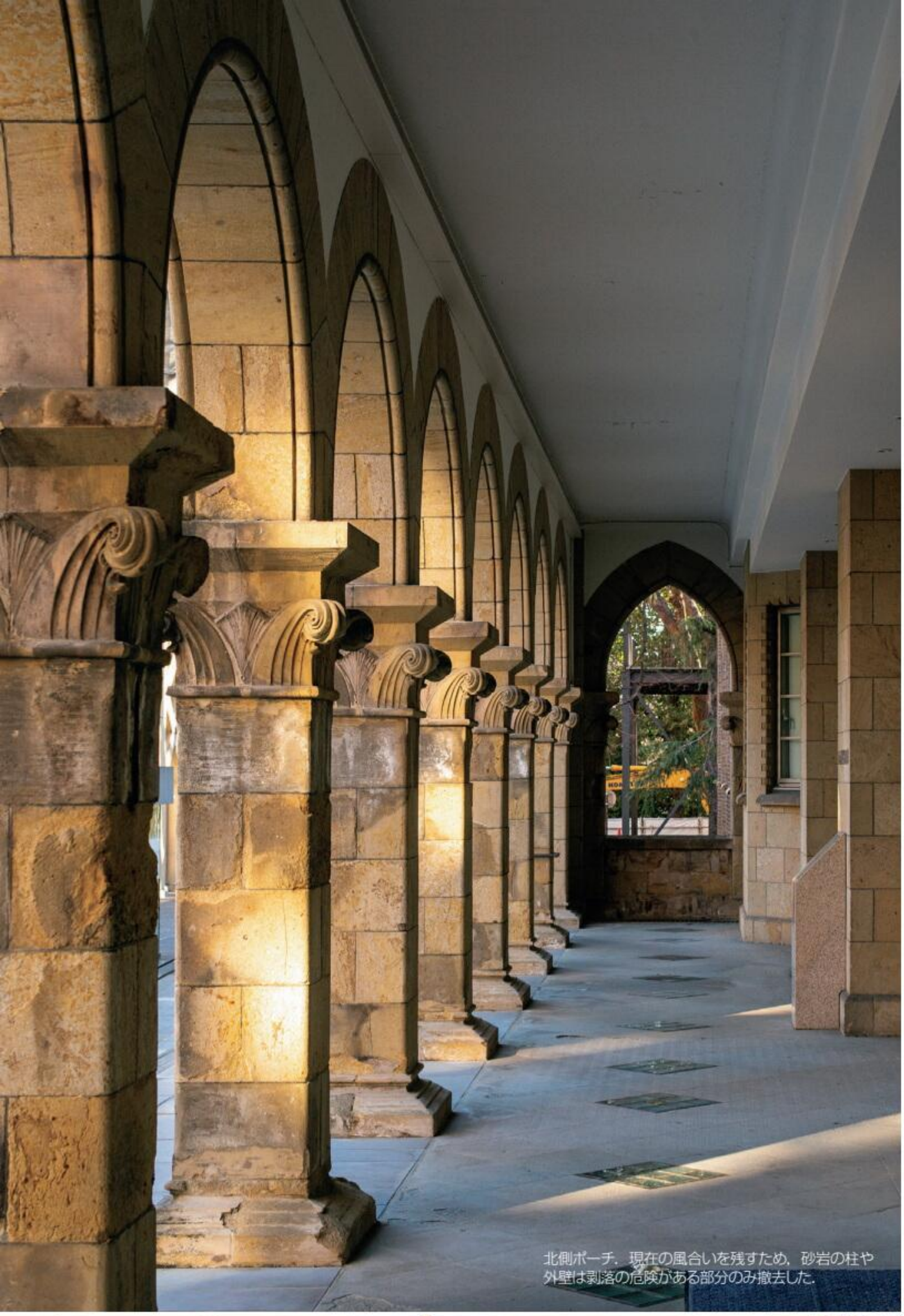
構造アクソメトリック　縮尺1/300


左上：1階既存側柱と鉄骨フレームの取り合い．中上：ガラス天井．DPG構法のロチュールを支える金物は製作．右上：合掌（登り梁）の根元にチタンシートを巻き，炭素繊維ストランロッドを固定している．左下：1階．既存の漆喰天井見上げ．網により落下防止を図り，空間を手を加えずにそのまま保存．右下：既存軸部に添って木製フレームを付加し，ブレースを入れた．

東京大学総合図書館 改修工事

設計　東京大学キャンパス計画室（野城智也・川添善行）・同施設部（設計監修）
　　香山壽夫建築研究所（実施設計）
施工　清水建設
所在地　東京都文京区
GENERAL LIBRARY, THE UNIVERSITY OF TOKYO
architects: THE UNIVERSITY OF TOKYO（design direction）, KOHYAMA ATELIER（detailed design）

北側外観．1928年に竣工した東京大学総合図書館（設計：内田祥三）の改修（修繕）．2017年に図書館前広場（写真中央）の地下書籍に約300万冊を保管する総合図書館別館（本誌1812）を建設．今回の改修で，地下で本館と別館を接続させた．外壁部分の洗い出し左官壁は洗浄，スクラッチタイルは調査し部分的に張り替え．改変されていた外部建具は，創建時の図面や写真から中桟の割りや見附を参照し，アルミサッシカバー工法で更新．



北側ポーチ．現在の風合いを残すため，砂岩の柱や外壁は剥落の危険がある部分のみ撤去した．



北側玄関．塞がれていた架構を露出，空気制御のため，自動ドアを設置．その他意匠は創建時のまま保存．

時間の器

本郷キャンパスは，内田祥三氏が関東大震災からの復興の過程で設計した一連の建築物による特徴的な景観を有している．ネオゴシックとスクラッチタイル，樹木の軸線という，形態・素材・外部空間を組み合わせた設計手法は，群を生み出す方法論として現在でも色あせない．本学のキャンパス計画において，本建物は景観を構成する重要建築物と指定されている．言うまでもなく，キャンパスという全体は，個々の建築のデザインの集積でしか生み出すことができない．それは少なくともこれから100年は続いていくものと信じている．今回，外壁タイルの全数調査などに基づく徹底的な保存・復原・復元によって，今後も建物の更新が繰り返されるキャンパスデザインの水準を決めるような役割に徹した．

一方，1928年の創建以来の学生数増加や学習環境の質的変化，ライブラリアンという職能の更新等，総合図書館を取り巻く環境は大きく変わり，耐震改修だけでなく機能的更新が必要になっていた．しかし総合図書館は，内田氏の意図した内部の空間構成が現存する建築物でもある．東京都公文書館に保存されていた手描き図面の収集やガラス乾板に保存されていた竣工当時の写真の確認など，当時の様子が分かる資料を収集し，各部屋やエレメントごとに，何を残し，何を復元し，何を変更するのかを判断した．内田氏の設計を原点と定め，原点からの距離を意識化することが，原点へのリスペクトだと考えた．そのため原点に近付くこともあれば，原点からの距離を意識化して現代性へ肉薄したものもある．

今回の工事が完了したことで，3年前に完成した総合図書館別館とも空間的に接続した．図書館内部の空間を体験した後，地下の書庫から噴水の下を通って，広場に出てくると，内部にいたはずがいつの間にか，外に出てくるという不思議な空間体験がある．建築に残された各年代の痕跡を現在という立ち位置から空間へと統合したことで，1928年から2019年までの時の繋がりがひとりの設計者だけでは生み出せないエレメントや空間の接続を生み出し，内部と外部の関係が入れ替わるような空間のシークエンスとなって現れた．このような保存と更新の判断は，空間として残るだけでなく，改修記録報告書という情報としても後世に引き継がれることになっている．

キャンパス計画室や施設部，川添研に加え，設計事務所やゼネコン出身者からなるエンジニアリングオフィスや，図書館職員などからなるプロジェクトチームをつくり，毎週打ち合わせを行い，基本設計をまとめていった．実施設計からは，香山壽夫建築研究所も参加し，利用方法や学内の諸手続きとのすり合わせを同時に行い，手戻りの少ない設計プロセスを実現した．施工段階では，清水建設の尾形所長などによる現場からの提案も，上記の体制が維持されていたため，スムーズに採用できた．内藤廣氏のもとで構想を練り始めてから，およそ10年が経ったが，各ステークホルダーの出入りを可能としたプロジェクトチームの存在が大きかった．（川添善行）

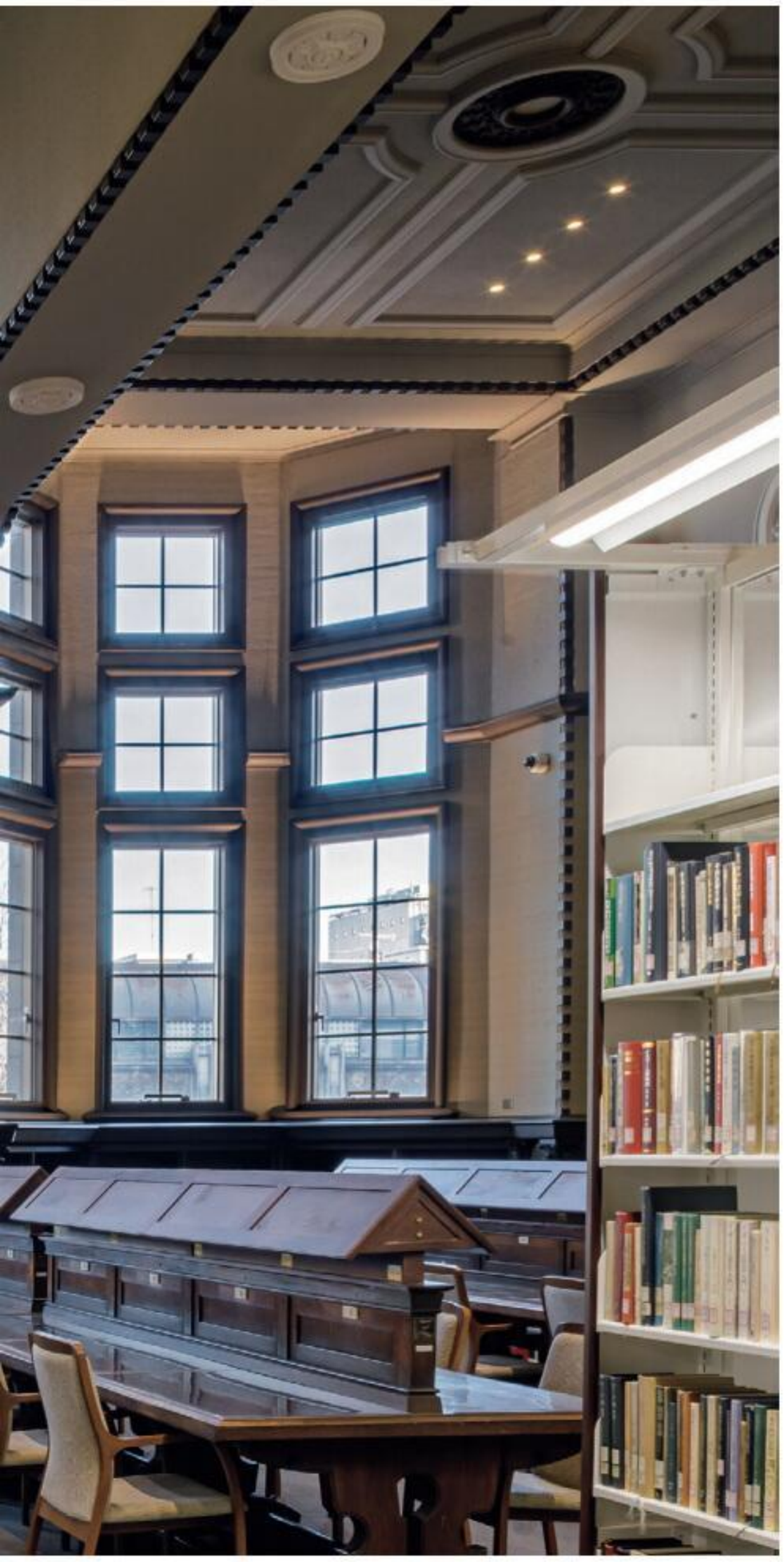
創建時に関東大震災からの復興を記念し設けられた記念室を，当時の大机が並ぶ閲覧室とした．保存エリアとして，吊り照明を復元，チーク材の床や壁は研磨，塗装，既存利用し張り替え．天井の梁型の木化粧材も，鉄骨下地組みにより耐震化した．関東大震災で旧図書館（東京帝国大学附属図書館）が消失し，ロックフェラー財団の寄付金を受けて再建したことを記念する．

大階段見上げ．創建時は階段上部に司書カウンターがあったが，これまでの改修で1階に移されていた．今回，写真右下の位置に新たに設えた．柱の真鍮製照明器具を復元，床石は研磨し修復．赤絨毯は創建当時のものではないが，教員や学生の思い出に強く残っているため採用した．

創建時の意匠を継承した3階ホール．大階段上の4，5階スラブを一部撤去し，創建時の吹き抜けを復元（写真中央）．5階に設けたハイサイドライトから，大階段に光が落ちる．左右の外壁面は鉄筋コンクリート壁を内側に増し打ちして補強．柱スパンは5,454 × 4,545mm.

石膏レリーフや飾り金物をはじめ創建時の意匠を保存，復元した大閲覧室．天井は耐震化，床レベルを85mm上げ，床放射冷暖房システムを設置.

北側夕景.

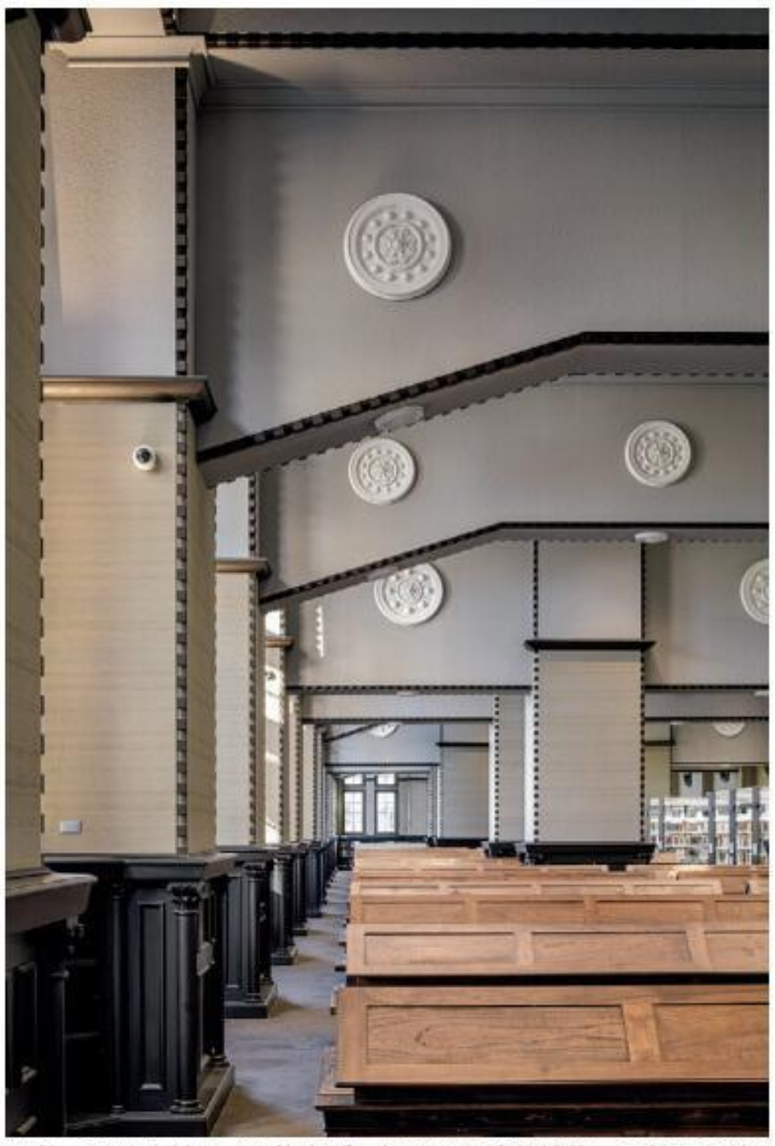




4階アジア研究図書館．ガラスと飾り格子の天井部分に塔屋を新設し，室内に自然光を導く．



大階段からの吹き抜け見上げ．



天井，梁は吹付タイル仕上げ，柱は既存塗装補修，下地更新箇所は吹付タイル仕上げとした．壁装飾見切りや書棚巾木等は木製ペンキ塗り直し．



1階新着雑誌・新聞閲覧スペースから保存書庫を見る．東西の壁は新規耐震壁を打設して補強．

歴史的評価　凡例
A　:保存
B　:継承
C　:更新

集積した歴史をもとに，場所ごとに「保存」，「継承」，「更新」の3つの歴史的評価を行い，改修方法を決定．

場の記憶の例

戦前にエレベータがあった．

1985.1：「図書館の窓」(図書館報)より
ロゼッタ石(実物大模型)が入口右側の壁に取り付けられた．
(現在は館内で保管)

1963.1：「図書館の窓」(図書館報)より
学生ロッカー室（ロッカー756個）を設けた．

「記念室」

1924.7：姉崎正治館長(1923-1934)
図書館復興50年寄付の記念として，記念室を設ける必要がある．
復興のための全世界からの器具を記念するものが
永久に留められる場所．

岸本英夫館長(1960-1964)
記念室の扉は開かずの扉だった．東大中でいちばん豪華だったが，
ほとんど利用されていなかった．

1940.10：「図書館の窓」(図書館報)より
東京大学への行幸時に市川三喜館長(1940-1946)が乗上．

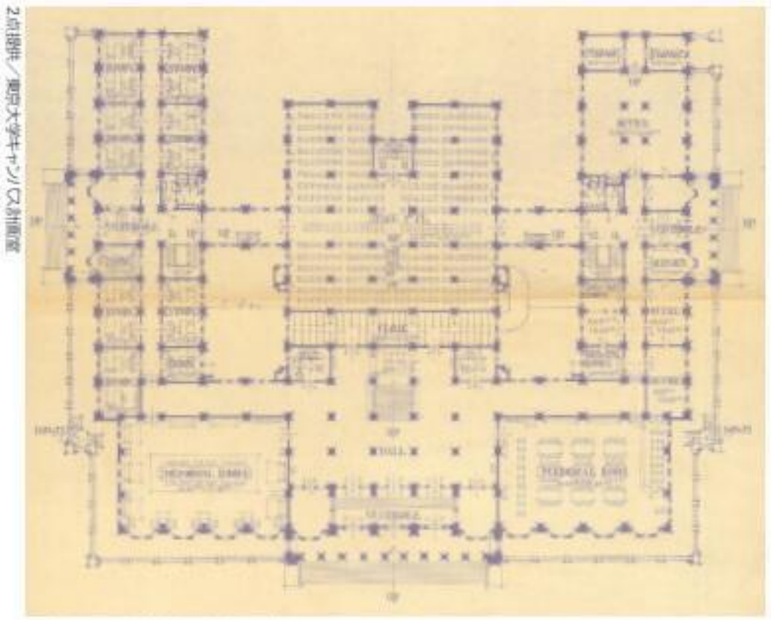
1943.7：「図書館の窓」(図書館報)より
徳田秋声が子息一穂とともに来館．
応接室にて打合せ．4カ月後に亡くなり，秋声最後の外出となった．

1963.11：矛誠司総長(1957-1963)「図書館の窓」(図書館報)より
荘重であった貴賓室は，多くの人びとのための閲覧室と変わった．
自慢の室を失ったが，反面，時世変転に応じて断行したことは
自慢すべきと考えている．

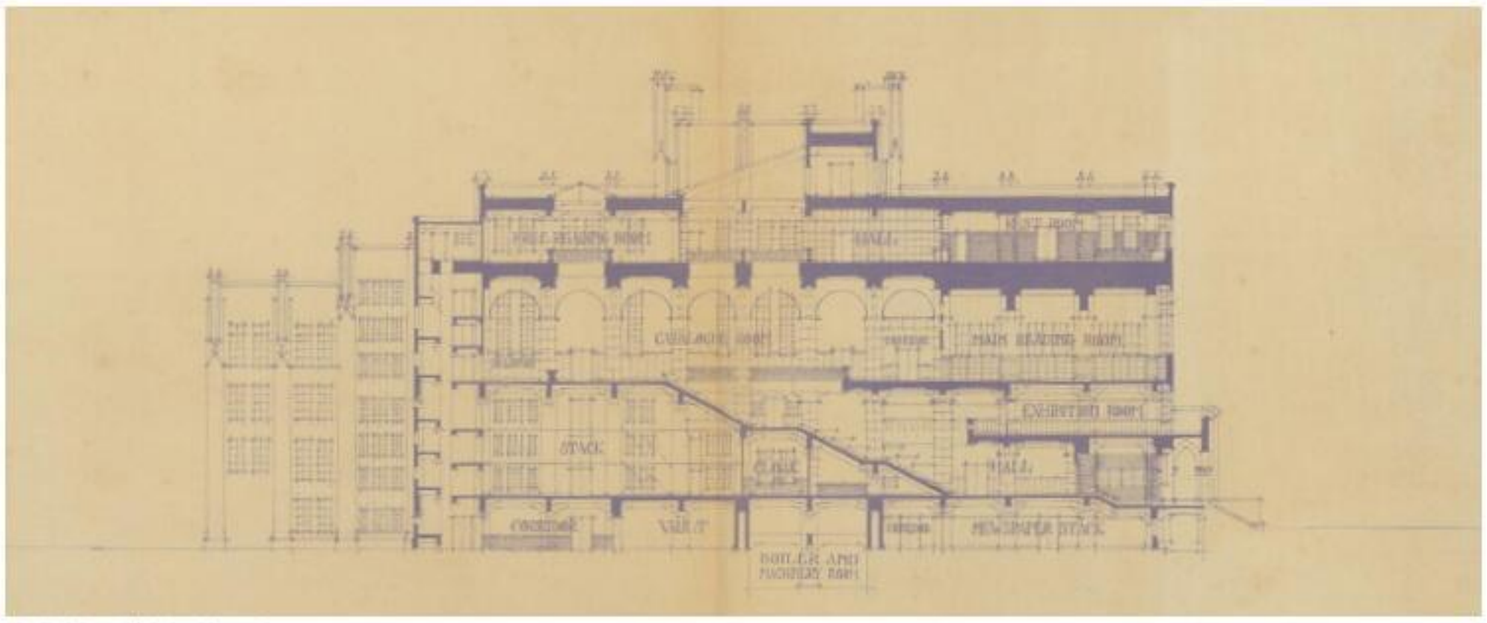
1978.5：「図書館の窓」(図書館報)より
ネパール国王・王妃両陛下が東京大学訪問．歓迎式典が行われた．
椅子の全面入替え，カーペットも新調．

1978.12：「図書館の窓」(図書館報)より
再建50年を迎え，記念式典を自由閲覧室(記念室)にて行った．
「図書館再建50年」という記念パンフレットを列席者に贈呈．

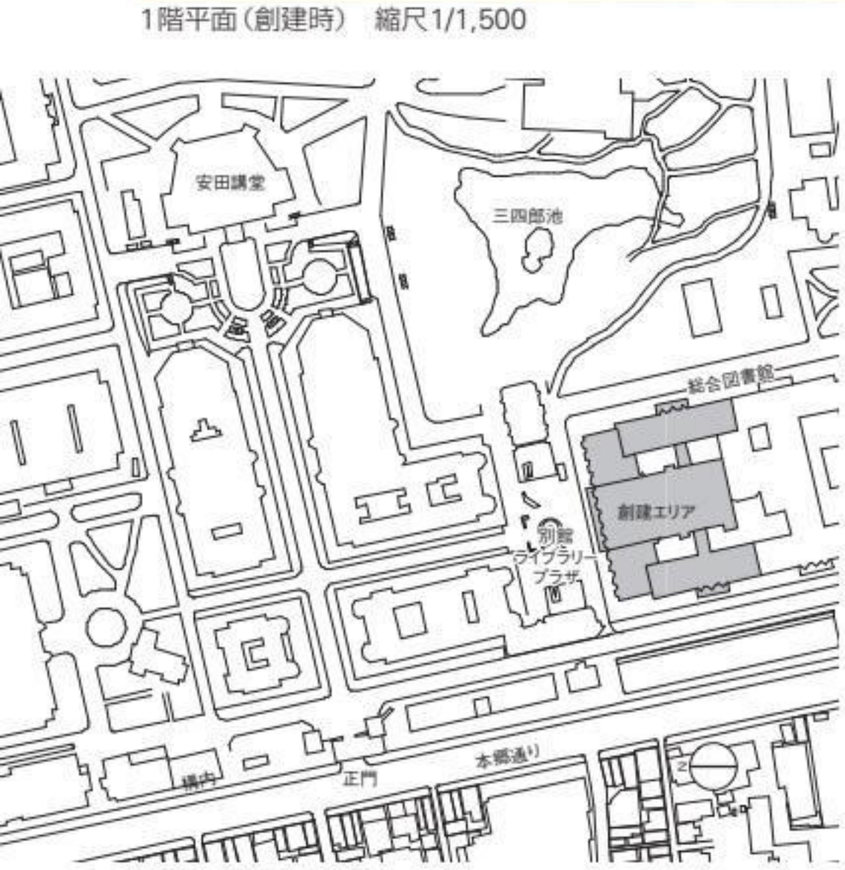
1階平面　縮尺1/600



1階平面（創建時）　縮尺1/1,500



南北断面（創建時）　縮尺1/1,500

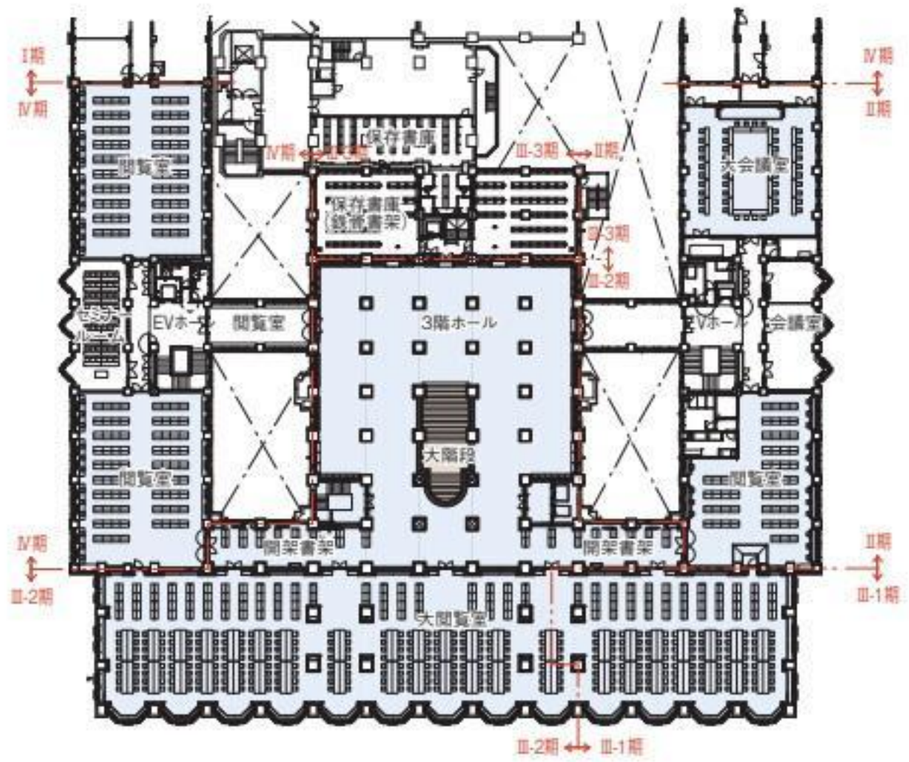


配置　縮尺1/4,000

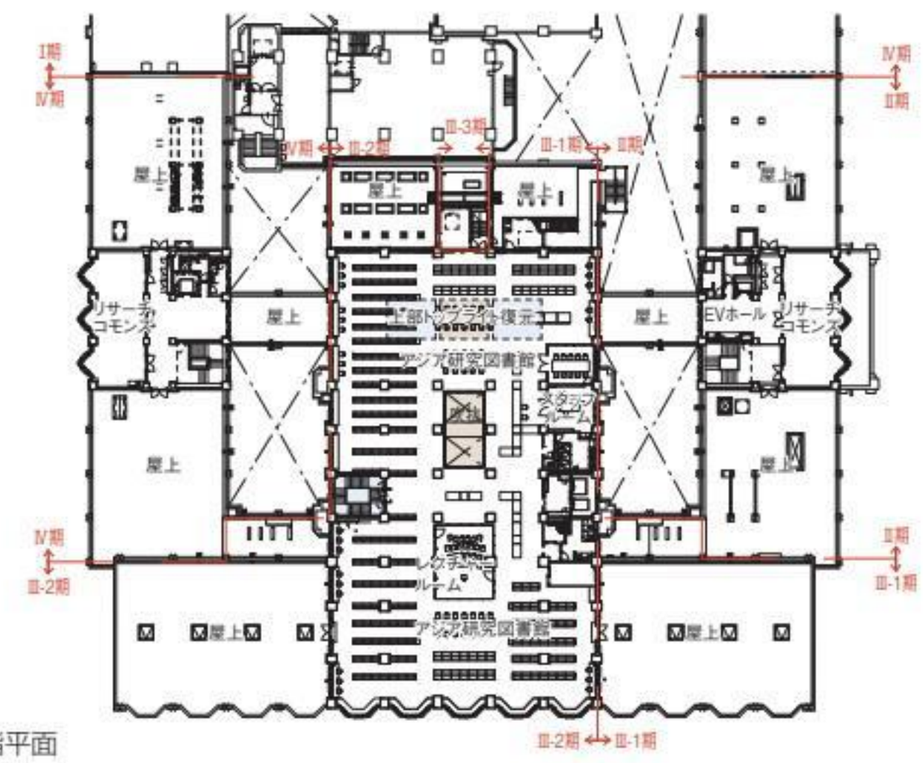
2点提供／東京大学キャンパス計画室

内田祥三ならばどうしたかを考えながら

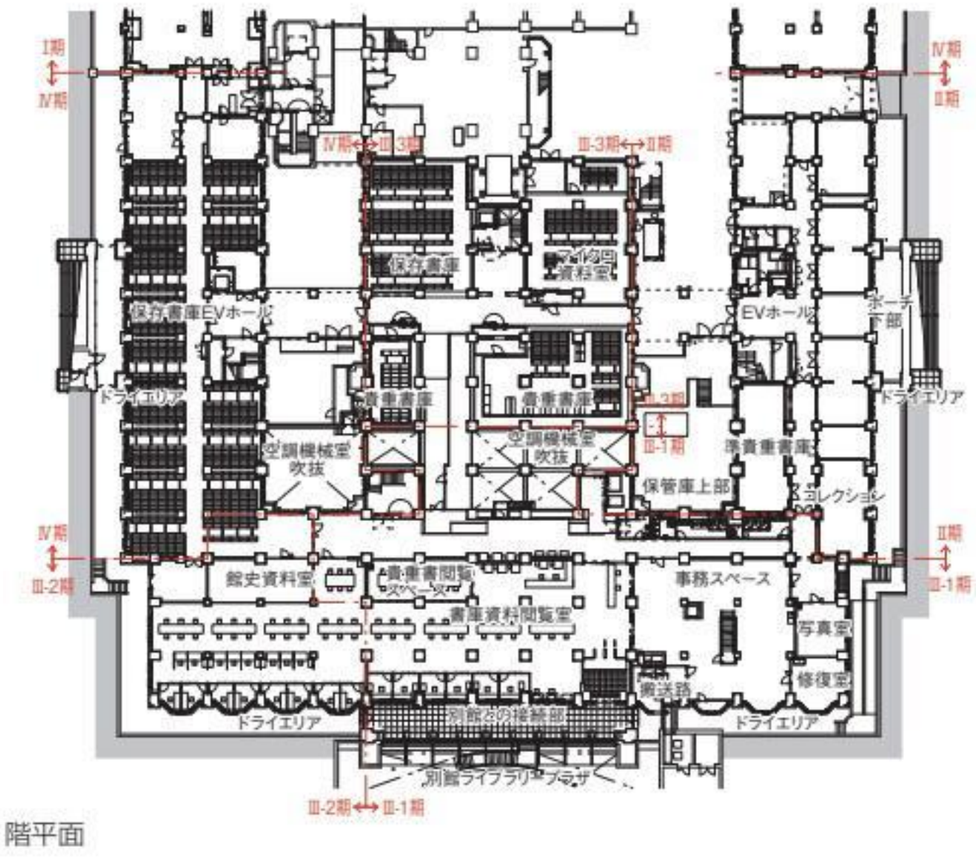
東京大学新図書館計画「アカデミックコモンズ」は，電子図書館と伝統的図書館の融合や，アジア研究図書館などによる新たな学術拠点の構築を目指し，図書館前広場の地下に新館（東京大学総合図書館 別館，本誌1912）を建設すると共に，内田祥三設計による総合図書館本館を改修するというものであった．震災復興により1928年に竣工した本館は，東大本郷キャンパスの中でもとりわけ内田の建築家としての思いが凝縮し表出している建築である．しかしながら，たとえば，蔵書増加を理由に大階段上部に増床され，創建当初は来館者に荘厳な天空光を大階段に降り注がせていたトップライトが塞がれてしまうなど，痛々しい増改築が繰り返されてきた．今日の新機能を盛り込みつつも，この空間に集積した歴史の記憶を蘇らせたい．そう念じた私たちは，後藤治先生の助言も踏まえ，①創建当初の状態を保存または復元する部分，②歴史の記憶を継承する部分，③21世紀の新たなプログラムを展開する更新部分に分けた上で，設計を進めてきた．図書館東側ケヤキ並木上空に設置した仮設建築に事務管理機能を移して余白をつくった上で，諸機能を都度内部移動させる「使いながら改修」であったため，7年という時日を要した．だが，私たち設計・計画チームにとっては，「もし内田祥三が存命であれば，今日の要求条件にどのように対処するだろうか?」を考えながらつくり込んでいく機会を与えてくれた時日でもあったように思う．　（野城智也）



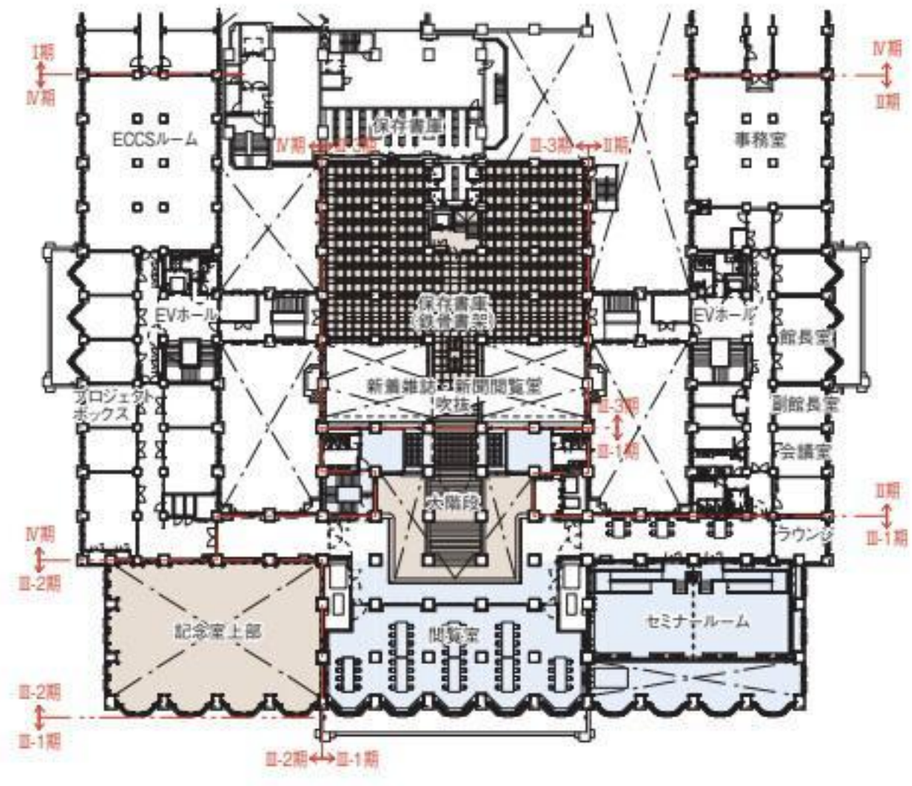
3階平面



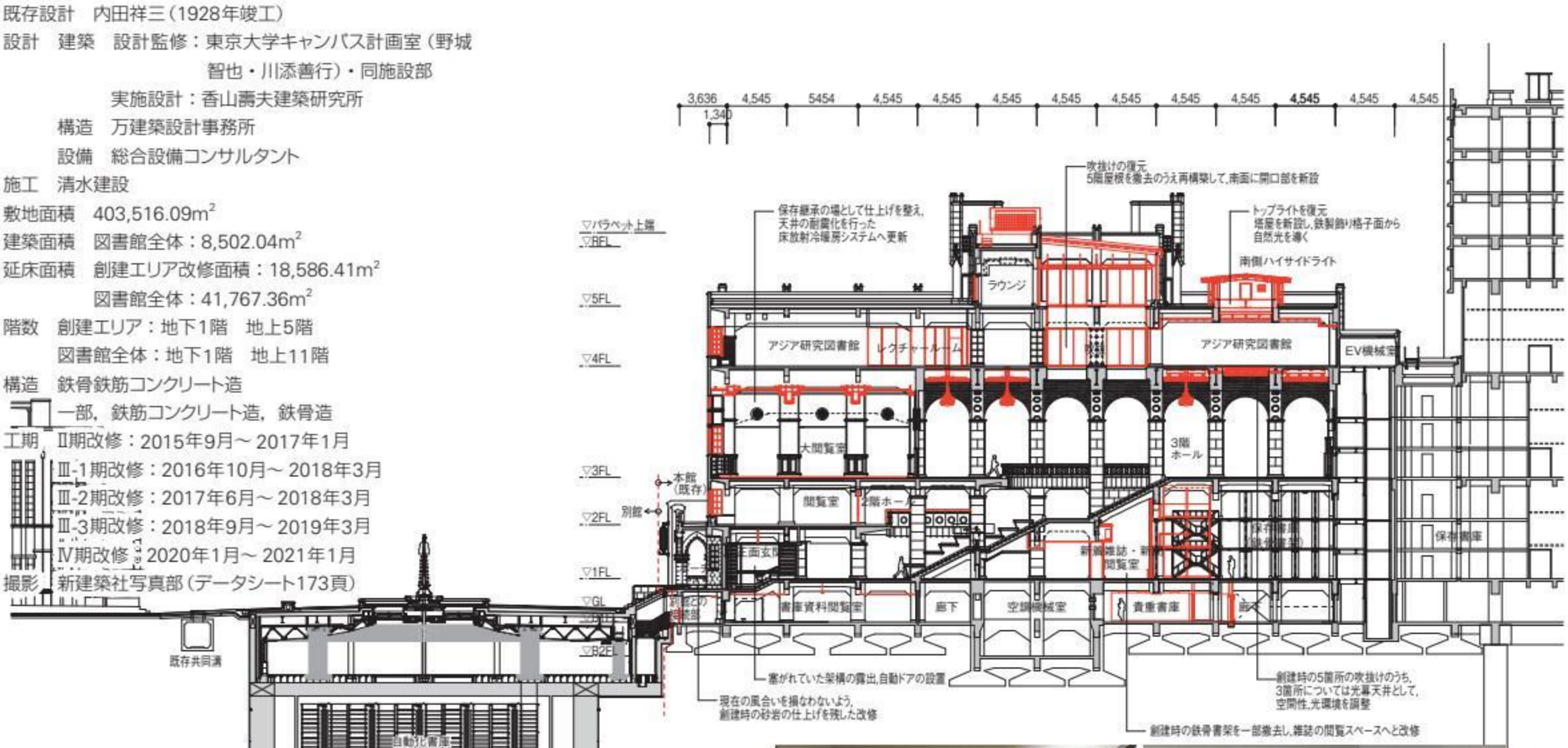
4階平面



地下1階平面



2階平面　縮尺1/1,200



南北断面　縮尺1/600



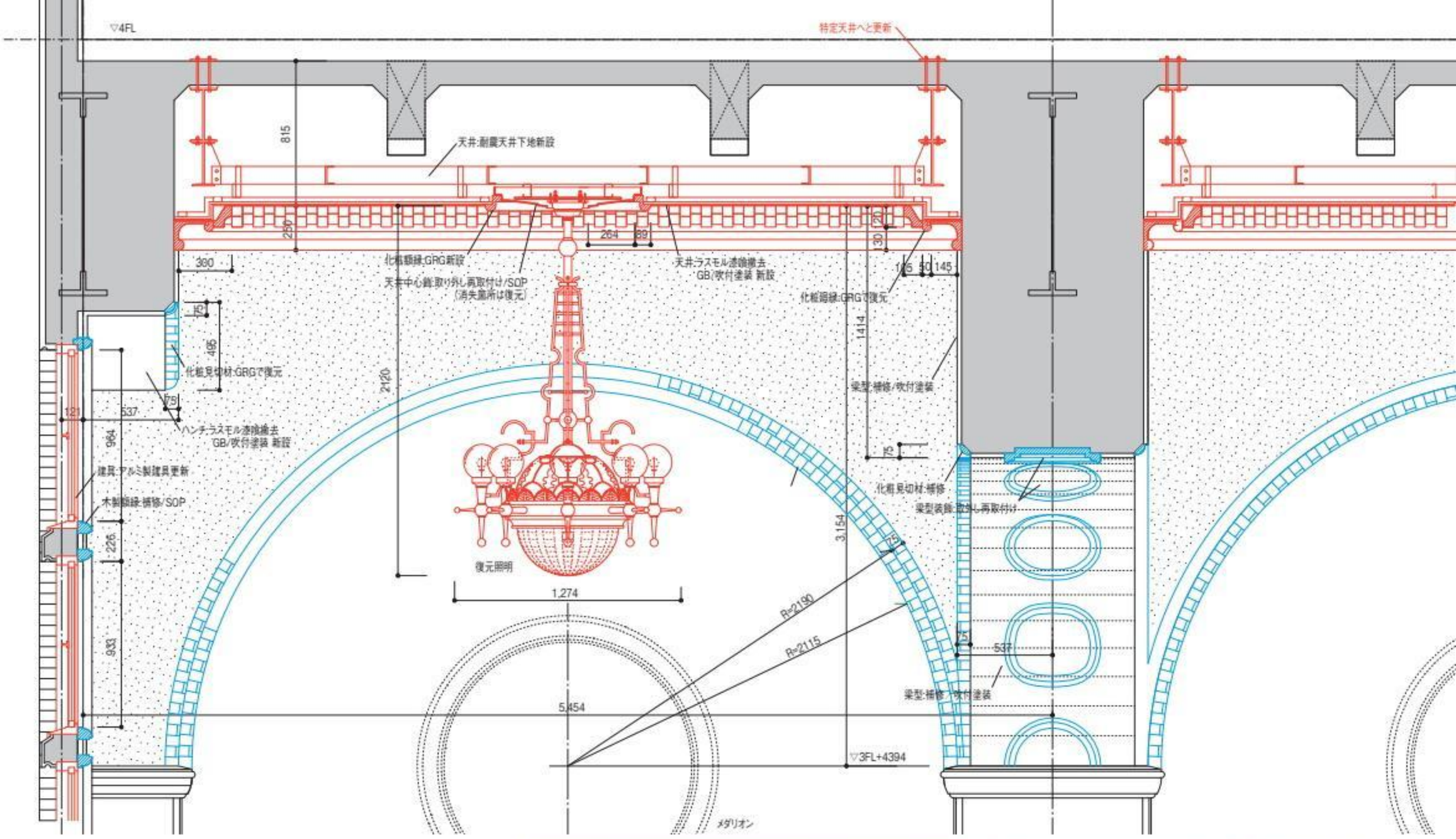
左：左に別館地下入口に降りる階段．右のスクラッチタイル壁部分は地下1階書庫資料閲覧室．
右：5階ラウンジ．

既存設計　内田祥三（1928年竣工）
設計　建築　設計監修：東京大学キャンパス計画室（野城智也・川添善行）・同施設部
実施設計：香山壽夫建築研究所
構造　万建築設計事務所
設備　総合設備コンサルタント
施工　清水建設
敷地面積　403,516.09m²
建築面積　図書館全体：8,502.04m²
延床面積　創建エリア改修面積：18,586.41m²
図書館全体：41,767.36m²
階数　創建エリア：地下1階　地上5階
図書館全体：地下1階　地上11階
構造　鉄骨鉄筋コンクリート造
一部，鉄筋コンクリート造，鉄骨造
工期　II期改修：2015年9月～2017年1月
III-1期改修：2016年10月～2018年3月
III-2期改修：2017年6月～2018年3月
III-3期改修：2018年9月～2019年3月
IV期改修：2020年1月～2021年1月
撮影　新建築社写真部（データシート173頁）

断面詳細　縮尺1/75
（赤線は更新部，青線補修部）

5階吹き抜け
1時間耐火ガラス間仕切り壁
スラブ撤去
▽5FL
吹抜け復元
PB EP塗装
4F吹抜け
1時間耐火ガラス間仕切り壁
スラブ撤去
吹抜け復元
吹付塗装
既存漆喰補強(エポキシ樹脂注入工法)
吹付塗装
耐震壁
4,545
創建時 石製手摺
赤絨毯敷き
更新
新規空調ダクト型
PB EP塗装
空調吹出口
新設鋼製建具 SOP
耐震壁
下地 St-□100×100×4.5mm
新設鎖閉式防火戸
新着雑誌・新聞閲覧スペース
創建時鉄骨書架を撤去
CH=2,800
2,032
240
2,097

フッ素ガルバリウム鋼板0.4mm
アスファルトルーフィング
硬質ウレタンボード25mm
木毛セメント板25mm
鉄骨下地耐火被覆
新設ハイサイドライト
スチールサッシ
パラペット躯体ウレタン塗膜防水
押さえコンクリート70mm
断熱材30mm
絶縁クロス
改質アスファルト防水常温複合工法
下地調整
鎖樋
室内側
ウレタン吹付
塔屋新設
新設ハイサイドライト
アルミサッシ
誘発目地
新設
メンテ用グレーチング SOP
受け材 C-200×80 SOP
981
981
981
981
創建時天井格縁化粧部材 OP
下地LGSに更新　面材 岩綿吸音板
創建時天井木枠
下地調整OP
新設
ガラス天井枠受材 SOP
創建時吹付塗装補修
創建時ガラス天井部
ガラス:撤去/新設 合わせガラス
枠:飾り鉄枠 既存/下地調整　SOP再塗装
トップライト復元
3,560
ガラス天井CH=3,560
アジア研究図書館
タイルカーペット
創建時吹抜け
閉鎖された床スラブを更新
▽4FL
新規充填天井
既存漆喰補強(エポキシ樹脂注入工法)
吹付塗装
PB
吹付塗装
天井廻り縁 新規材
ガラス繊維強化石膏
既存を実測調査し同形状に成形
耐震天井 躯体スラブから吊り込み支持
2,129
既存石膏レリーフ
固定状況調査, 補強
復元照明
化粧見切材 補修
柱頂部創建時 大理石
ステンレスアンカーにより固定補強
8,484
4,545
4,545
4,545
4,545
4,545
耐震壁
3階ホール
柱創建時 人研石
耐震壁
フローリング パーケット貼り
創建時意匠復元
下地　塗布防水のうえセルフレベリング
床石との取り合いはモルタル補修によりレベル調整
柱間既存床石
クリーニング
▽3FL
補修 EP
補修ネット左官補修+EP塗装
新設手摺 フラットエキスパンドメタルXS42 両面貼り
鉄骨下地
創建時ガラス床
型ガラス19mm
照明BOX
創建時鉄骨階段
書庫内階段
保存書庫
鉄骨書架
▽書庫3層
鉄骨書架構成部材
アングル76.2×76.2×6.35mm
耐震壁
創建時ガラス床
型ガラス19mm
書架フレームと柱取り合い
モルタル充填補強
▽書庫2層
121
1,158
240
240
2,097
3,182
2,212
2,212



3階ホール継承部詳細　縮尺1/20
(赤線は更新部，青線補修部)

空間の継承と再現

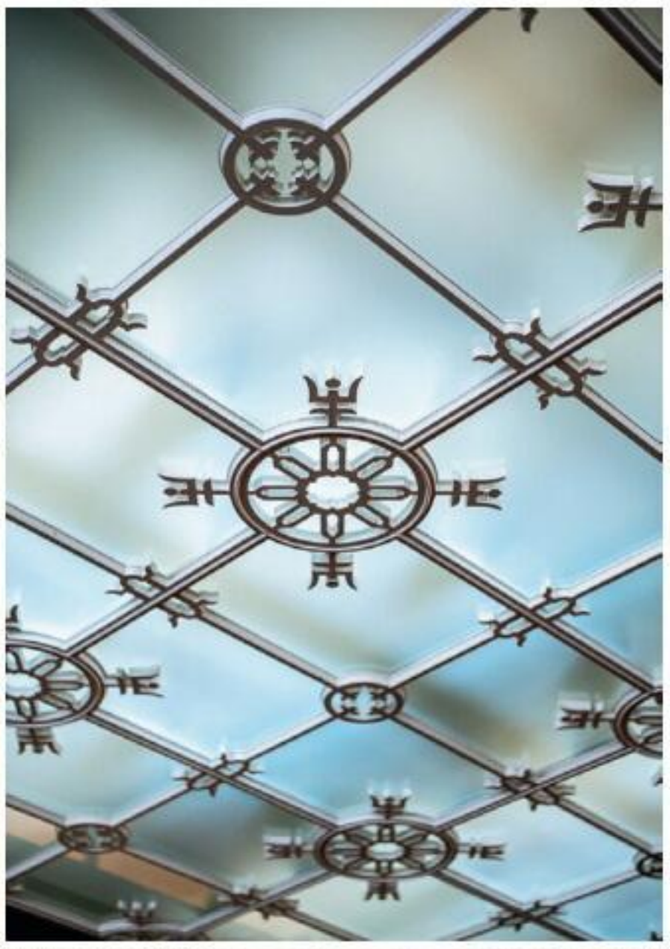
図書館全体を6期に分けた30,000m²におよぶ大規模な改修である．大きく分けて，前半は内田ゴシックの外壁改修方法の確立に，後半は意匠性に優れた内部空間の改修方法の選定に時間を費やした．内部は更新エリアを中心にした耐震補強と，複雑に錯綜した配管配線ルートの整理，全設備機器の更新を行なった．

1階正面右手の記念室，3階ホールおよび閲覧室は，竣工当時の意匠を色濃く残す貴重な空間であり保存状態もよかったが，特定天井に該当し安全性への対応が急務であった．いずれも木製下地にラスモルタル漆喰塗り，もしくは木摺に麻布張りで構成されており，これらを撤去し準構造化の下地を構築し，クランプ金具を介してボード貼りへと改修した．この際，既存の装飾類は現場調査で安全性を確認した上で，できる限り再利用を行い，取り替えざるを得ない部位は，採寸，型取りの上，GRGもしくは不燃木で置き換えた．記念室と中央ホールのペンダント照明は，当時の図面と写真をもとに復元した．

過去の大規模な改修で，塞がれてしまった3階ホールから5階へ繋がる吹き抜けは，竣工当時の写真を見るとトップライトから柔らかい自然光が降り注ぐ様子がうかがえる．この空間を復活させるべきというのが担当者の共通な思いであった．幸いにも図書館内の諸室再編がなされ実現することができた．この吹き抜けにより，総合図書館が持っていた内部空間の連続性が蘇った．

増築や大きな空間の改変がない改修ではあるが，歴史的建築物を扱う数々の制約の中，この建物のあるべき姿を各担当者が実直に追求し続けた7年間であった．　　(洪斗起／香山壽夫建築研究所)









左上：鉄筋コンクリート造のアーチ部分は，吹き付けを補修．奥のメダリオンは彫刻家の新海竹蔵によって制作されたもの．右上：4階ガラス天井．格子とガラスの間に隙間を開けて，塔屋を換気チャンバーとしている．左下：記念室照明．竣工図，写真を元に復元．右下：鉄骨書架．新規耐震壁へ固定し，柱回りの隙間を無収縮モルタルにより充填補強．

杉並区立中央図書館全面改修

設計　**日総建**

施工　興建社・矢島建設共同企業体

所在地　東京都杉並区

RENOVATION OF SUGINAMI CITY CENTRAL LIBRARY

architects: NISSOKEN ARCHITECTS / ENGINEERS

西側夕景．1982年に竣工した黒川紀章建築都市設計事務所設計による図書館の全面改修．ガラスカーテンウォールは既存を維持しながら，設備更新や機能拡張のほか，建物西側の外部空間を広場として整備した．改修によって整備された内部の暖色LEDの光がカーテンウォール越しに外部ににじみ出ている．

本の広場．建物の西面は，これまで大木が鬱蒼と生えていたところを間伐し，モミジや低木を新たに植えている．
さらに高さの異なる床デッキを設けて椅子やテーブルを配置して憩いの場をつくり出した．

西側から見る．ランドスケープ（本の広場）の設計はオンサイト計画設計事務所．

東側夕景．正面入口を見る．カーテンウォールとアルミパネルの外装は既存．1階は床輻射冷暖房空調の設置に伴いフロアレベルが30cm上がり，エントランスにはスロープが新設された．

1階カフェ．書架配置の変更と共に，それまで地下にあった喫茶を1階入口近くに移動．エントランスやテラスなど外部空間を身近に感じられる場として再編している．

1階閲覧スペース．建物の特徴である雁行するカーテンウォールに沿って，L型カウンターや閲覧席を設置．
建物西側が本の広場として整備されたことで，閲覧席に日の光が届くようになった．

1階閲覧席.

総合案内前から見る．快適性向上のため，1階は床輻射冷暖房を採用．それに伴い天井裏の設備機器を廃してヴォールト天井とし，ライトシェードの役割を担う．



1階地域資料・参考図書前から見通す．



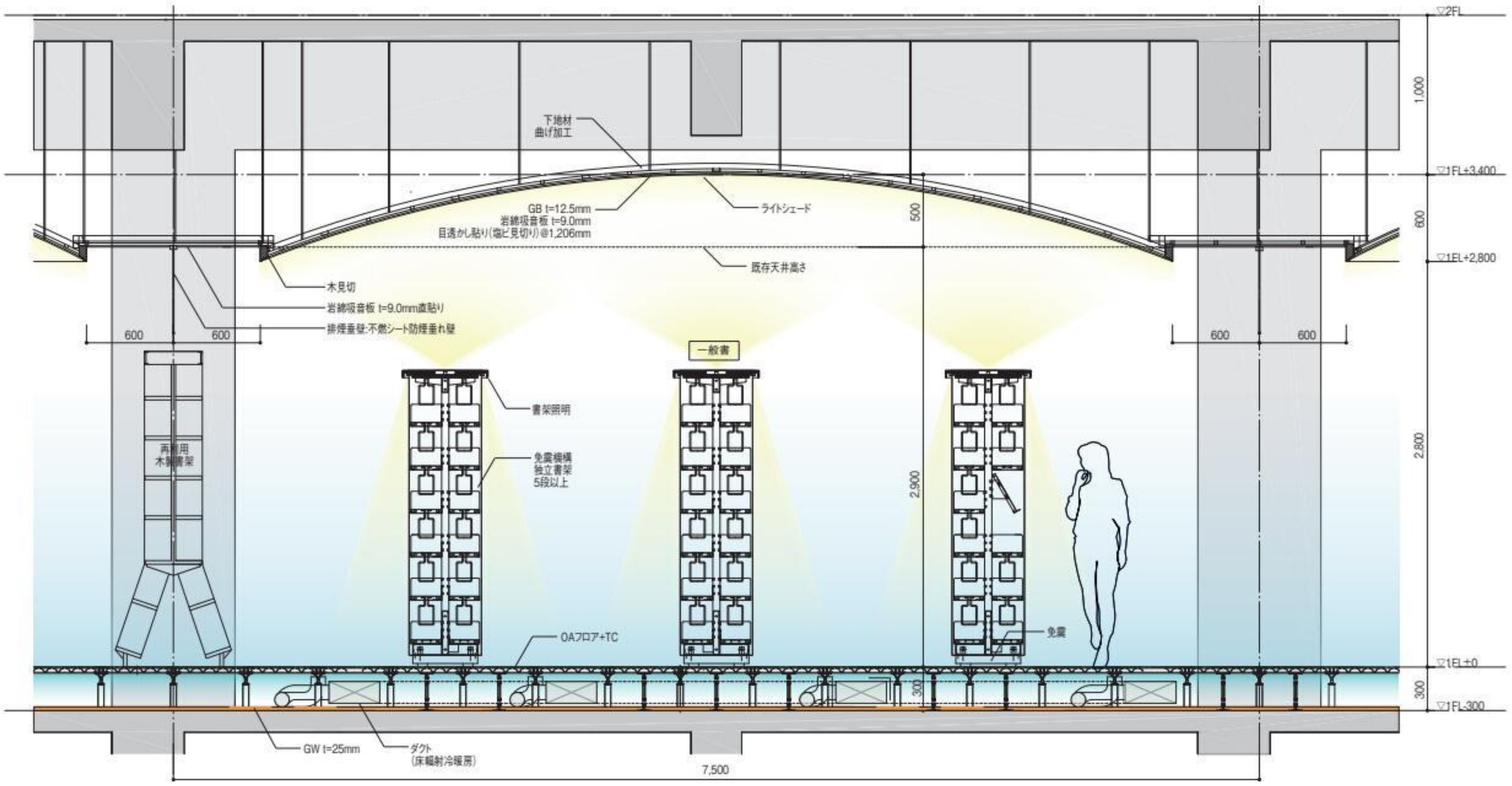
1階カフェ．窓下の書架は展示架として再利用．



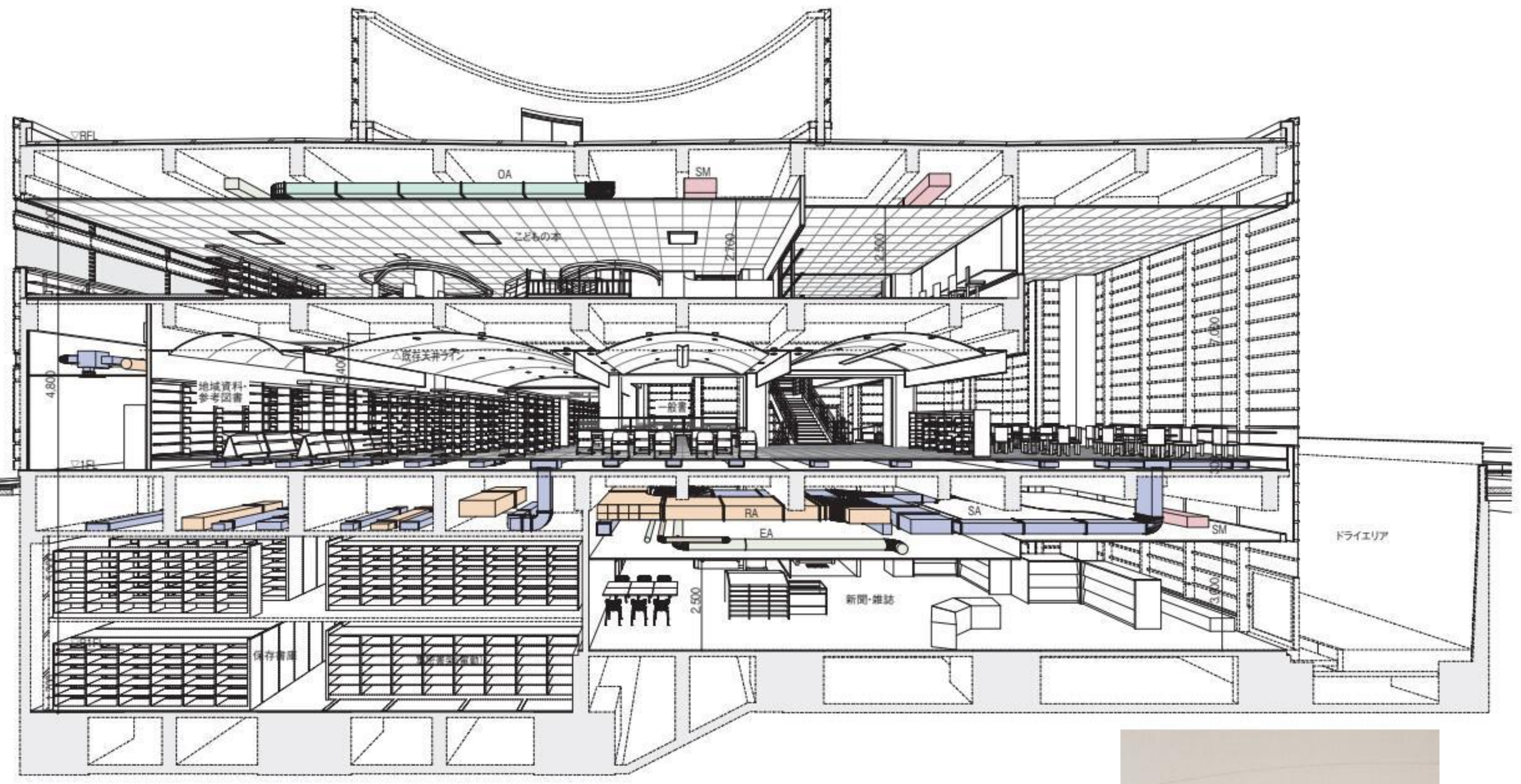
2階こどもの本エリア．書架を斜めに配置している．



地下階新聞・雑誌エリア．左にドライエリア．



1階一般書エリア断面詳細　縮尺1/50



断面パース　縮尺1/200



竣工当時の1階内観．天井の照明は蛍光灯．空調は照明の四方のスリットから供給される仕組み．

設計　日総建
既存設計　黒川紀章建築都市設計事務所（1982年竣工）
施工　興建社・矢島建設共同企業体
敷地面積　5,105.39m²
建築面積　1,886.69m²
延床面積　4,605.78m²
階数　地下2階　地上1階
構造　鉄筋コンクリート造
工期　2019年6月～2020年6月
撮影　新建築社写真部
（データシート174頁）

1階開架．照明付き免震書架設置は日本初．

時と空間の陰，あるいは，地域と繋がる街のコミュニティスペース

1982年に竣工した杉並区立中央図書館（設計：黒川紀章建築都市設計事務所，本誌8211）の改修プロジェクトである．設計開始時には築36年が経過し，老朽化した設備機器類の全面的な更新時期に合わせ，区民サービス向上を目的として，プラン変更や図書館機能の拡張を行った．図書資料を収集する元々の役割に加え，個人や地域の課題解決と交流スペースを提供する現代的な価値への刷新を試みた．電子媒体時代の拡張された図書館は，WiFiの電波の届く範囲そのものである．その領域に内も外もない．タブレットと腰掛けるちょっとしたスペース，ふんわりとした光と陰，そして「涼／温」な熱の優しさがあればよい．そこで，内部の居住域に微気候環境をつくり出す床輻射冷暖房と，書架から照らされる「ゆるやかな弧」が連続するライトシェードに光を造形して，ラグジュアリーな落ち着いたインテリア空間を生み出した．

外部は，カフェテラスと合わせて，既存樹木林と地形を生かし，グループ利用に適したデッキを小さなスロープで繋いだ．この木陰のある外部空間を「本の広場」と呼び，チェアやベンチを散りばめた．館内WiFiも届くこのエリアは，隣接する公園と連続するブックパークであり，動植物と人が共に暮らす街のリビングでもある．

建築はXLスケールの日陰を生み出すと共に，そこには，「陰」のシークエンスと質感のある空間がある．これまでも，そしてこれからも，このスペースで過ごす人びとの「時」に寄り添い続けることだろう．

外装維持とL型カウンター

これまで親しまれてきたオーセンティックなカーテンウォールとアルミパネルの外装は，まず全面的なクリーニングを行い，ガラス面には書籍への紫外線の影響を抑制するため，飛散防止フィルムを貼り，シルバーグレーのエイジングされた外観を維持する計画とした．また，慢性的な閲覧席不足を解消するため，建物の特徴である雁行したカーテ

本の広場鳥瞰．右下に図書館，左上に公園の池．

新たな屋外の居場所「本の広場」

竣工当時にはなかった読書の森公園が15年ほど前に西側隣地に整備されていたが，建屋と公園の間の整備エリアは，クヌギやエノキなどの大木の林冠が空を覆っていた．その鬱蒼と生い茂る薄暗い林に間伐と枝抜きを行うことで，明るい林の整備を目指した．間伐により下層の既存モミジにも光が当たるようにもなったため，下枝の上がった既存樹に加え，視線に近い位置で紅葉や花などを楽しめるイロハモミジやヤマボウシなども新植した．

既存樹の間のスペースには，根への負担軽減と敷地の高低差解消のため，浮床木デッキによる階段状のテラスを整備し，図書館フロアレベルから約1.6m下がった隣接する公園へ緩やかに繋がるよう配置した．大小さまざまな段状のテラスは，柔らかく区切られたセミプライベートな空間を提供し，本を読む，集中して勉強する，仲間と話す，親子の読み聞かせなど，利用者自らが好きな場所を選び，色々な使い方ができる居場所をつくり出す．

（戸田知佐＋田下祐多／オンサイト計画設計事務所）



配置兼1階平面　縮尺1/500

ンウォールに沿って，個人利用に適したL型カウンターと，閲覧テーブルやミーティングルーム等を設け，そのほかカフェや外部空間と共に，調べものスペースを重点的に拡充している.

既存諸室のレイアウト変更と免振書架

改修計画時点で，要望の多かった現状の使い勝手上の課題を解決するため，個々の活動の妨げにならないように，一般開架・児童調べもの・新聞雑誌の主要3ゾーンの構成を変えている.

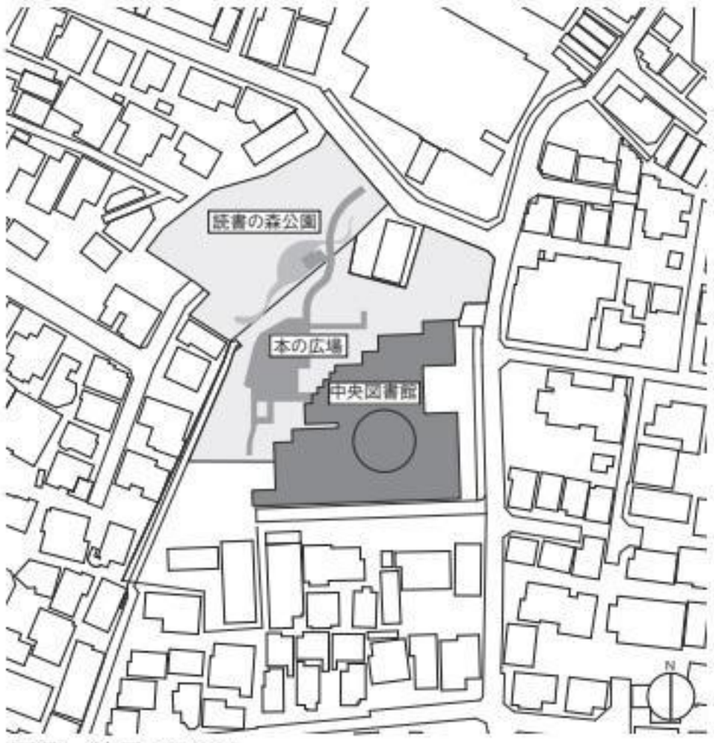
誰でも気軽に立ち寄れるように，接地性の高いグランドフロア(1階)に一般書，カフェ，展示コーナーを集め，目的や特定の属性を持つ各諸室を上下階に振り分けた．原則5段以上の独立書架は，書架照明付きの免震仕様を採用し，書架の倒壊及び書籍の落下を防ぎ，合わせて，排煙たれ壁をフィルムタイプとして，利用者の避難安全性を高めている.

（櫻井成行／日総建）

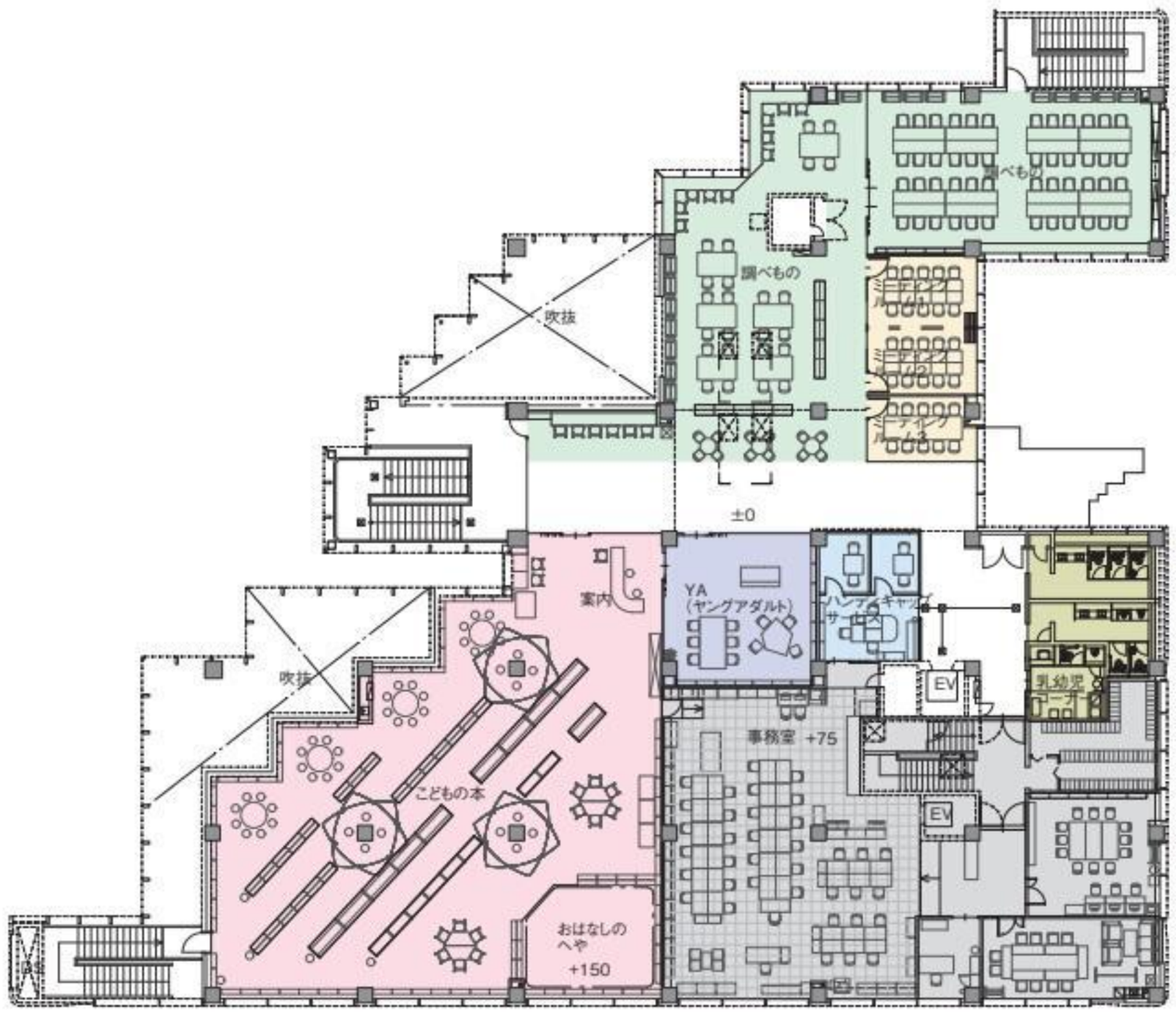


写真提供：日総建

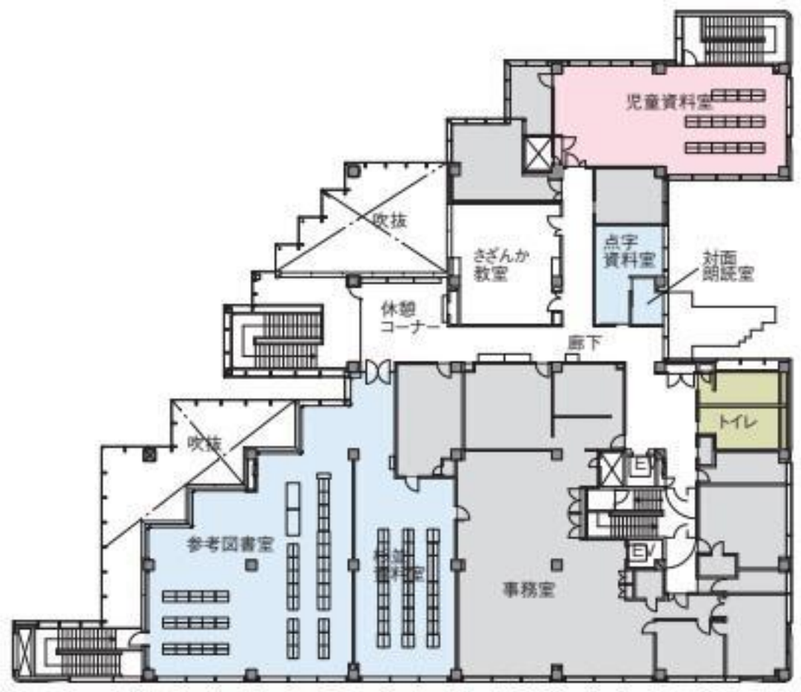
本の広場の改修前．木々が鬱蒼としていた.



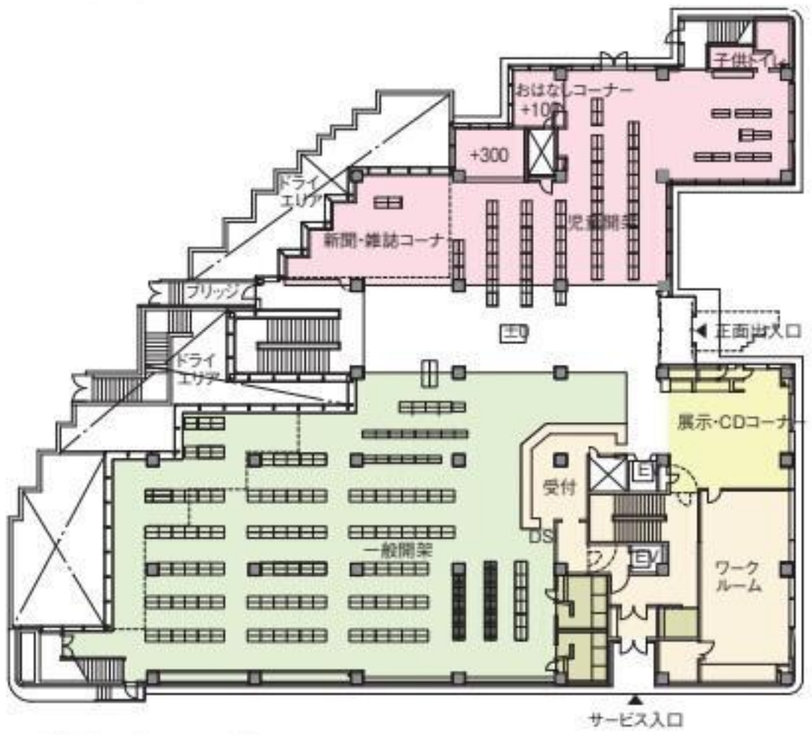
配置　縮尺1/3,000



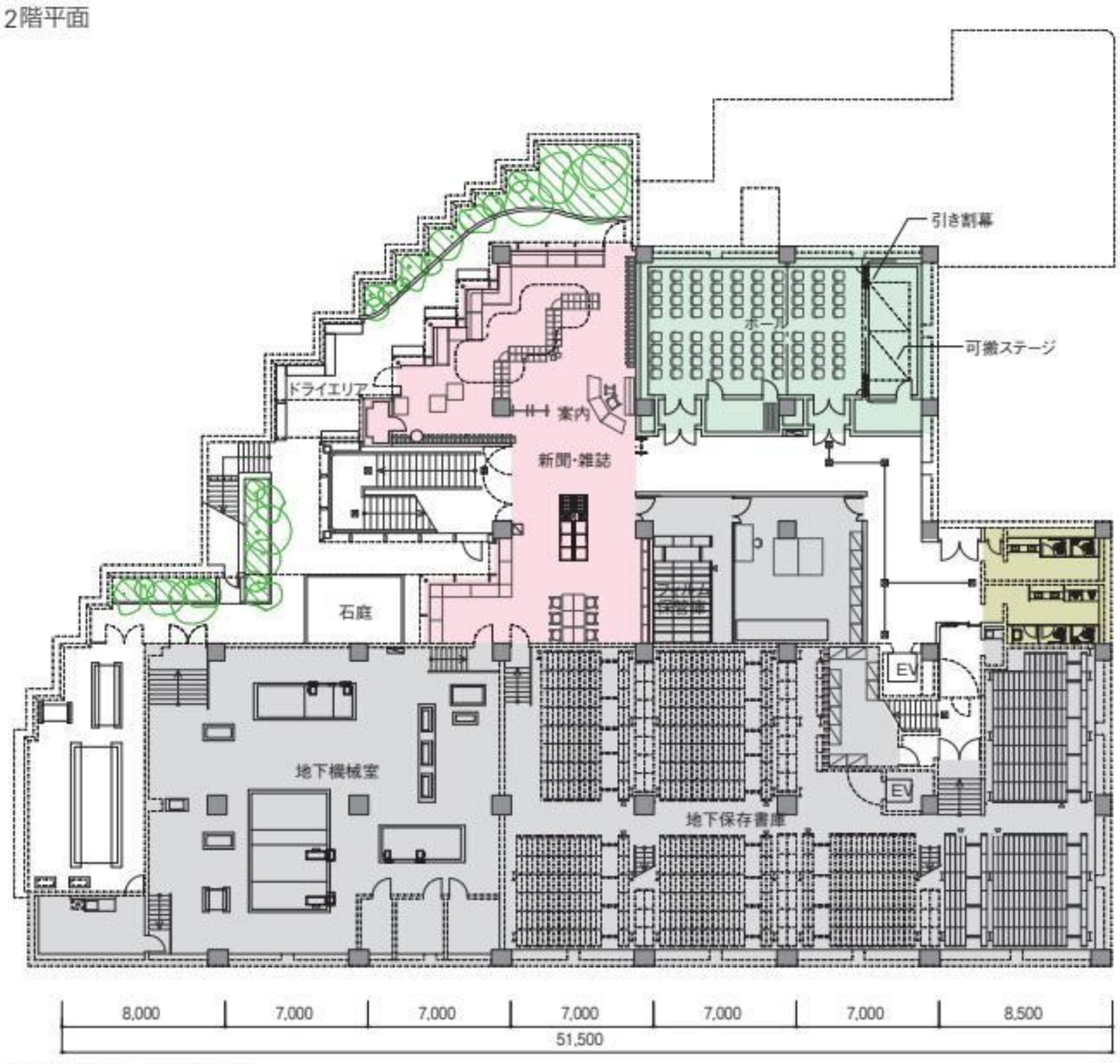
2階平面



改修前2階平面



改修前1階平面　縮尺1/800



地下階平面　縮尺1/500



改修前地下階平面

黄金湯

設計　長坂常／スキーマ建築計画
　　高橋理子（クリエイティブディレクション・グラフィックデザイン）
施工　TANK
所在地　東京都墨田区
KOGANEYU
architects: JO NAGASAKA / SCEHMATA ARCHITECTS, TAKAHASHI HIROKO

南側低層部夕景．幅4,160mmと広く設けられたエントランスの奥に，番台と小上がりが見える．上部は既存ガラスブロックを撤去し，高さ1,170mmのシングルガラスを嵌めている

南側全景．6階建てマンションの1階に入っていた銭湯を改修・再編すると共に，賃貸住宅だった2階をドミトリー・飲食店として整備している（工事中）．

エントランスタ景．入口すぐに番台が設置されており，クラフトビールを提供するサーバや人が集えるようバーカウンターが設けられている．

ロビーから外を見る．改修にあたっては一度スケルトンにした上でエントランスの幅を拡張し，番台の位置や土間と脱衣場のプランを一新させた．カウンターの高さは1,150mm．

土間と番台．番台の上部には照明・看板・収納機能を持つ大提灯と名付けられたガラスの構造物が吊るされ，場を照らし出す．

浴場内部．高さ2,250mmの境界壁で男湯と女湯が分けられ，ほしよりこ氏による壁画とラブバーと名付けられた手すりが，ふたつの場を越境する．奥にサウナゾーンが新設された．

水風呂と外気浴スペース．かつて設置されていた火炊場は撤去して地下のボイラー室にその機能を移し，空いたスペースを水風呂とした．

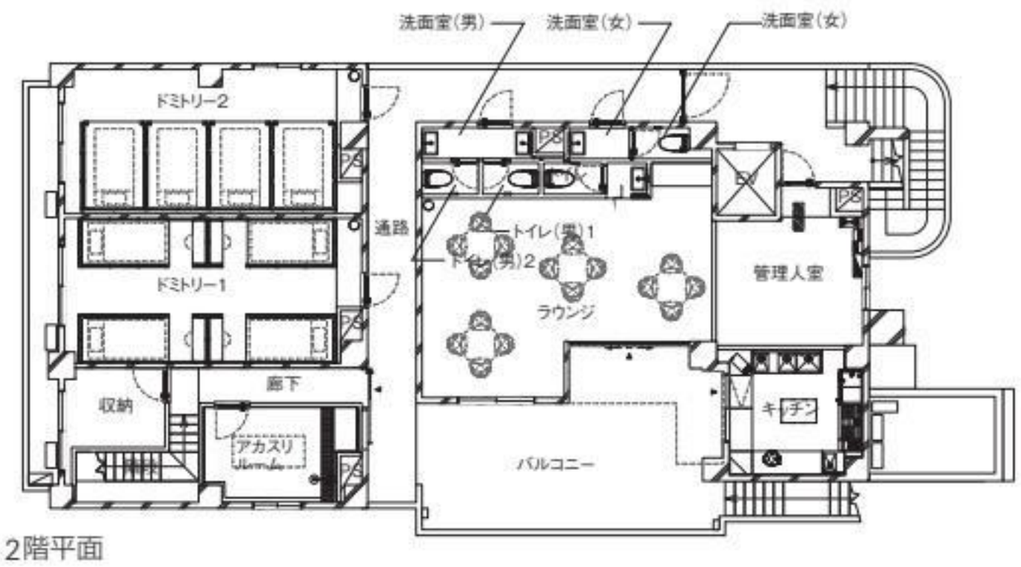




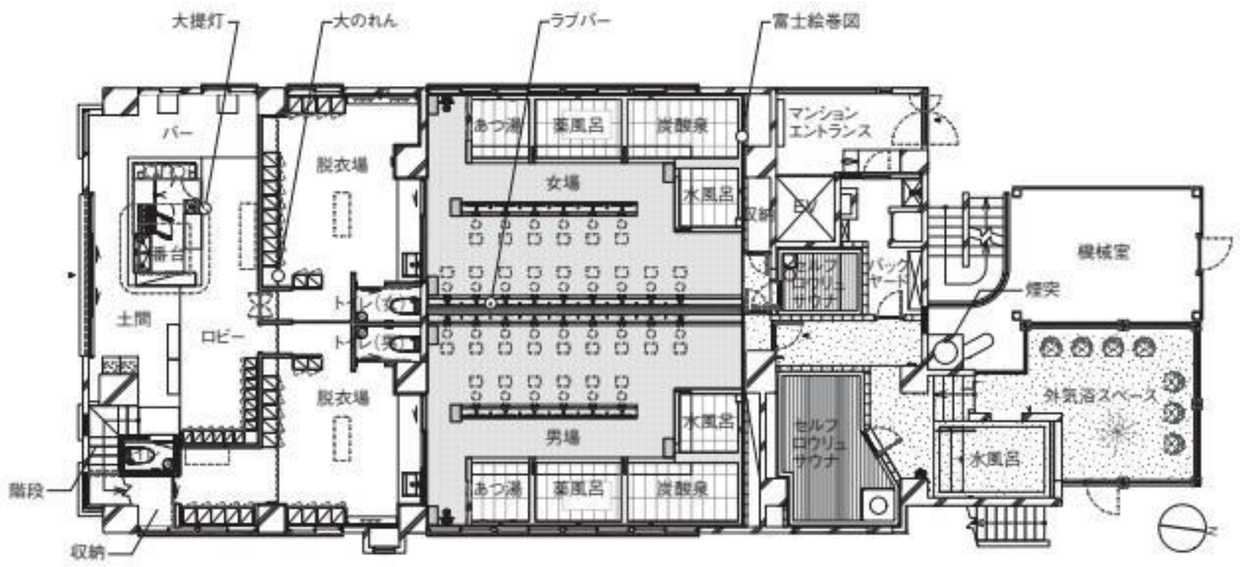


左・中：銭湯の付加価値として設置されたバーとサウナ.

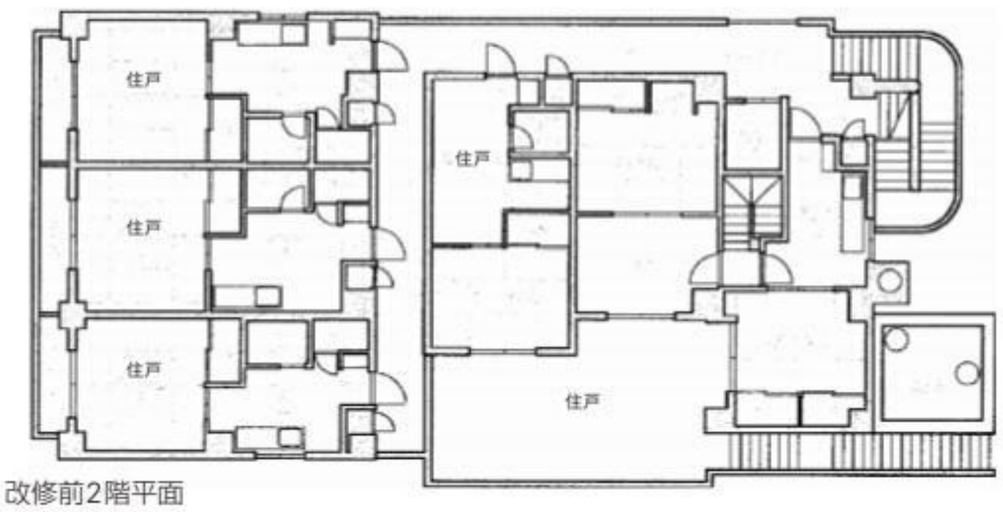
脱衣場．田中偉一郎氏による暖簾が，男女の脱衣室を繋ぐ.



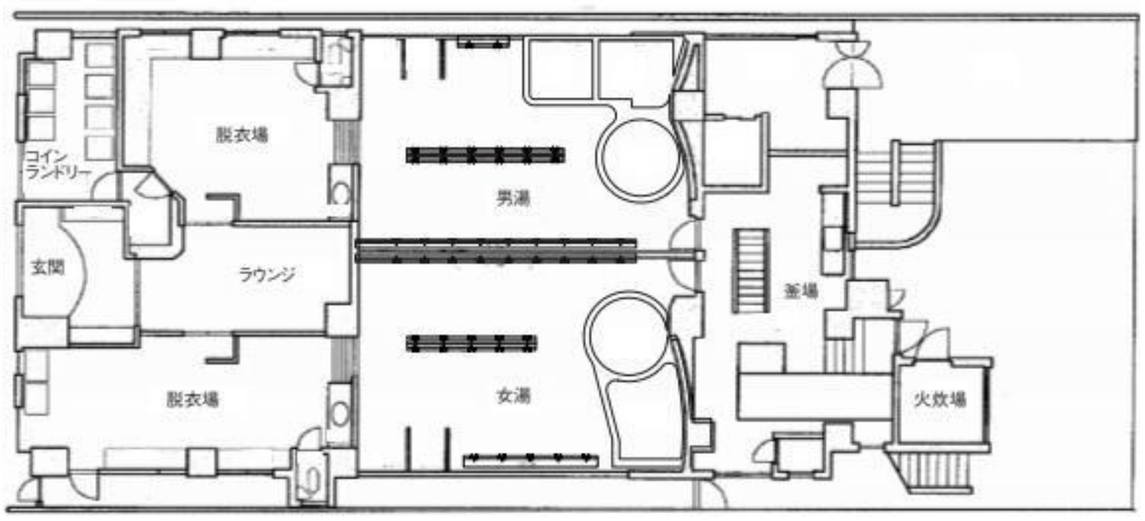
2階平面



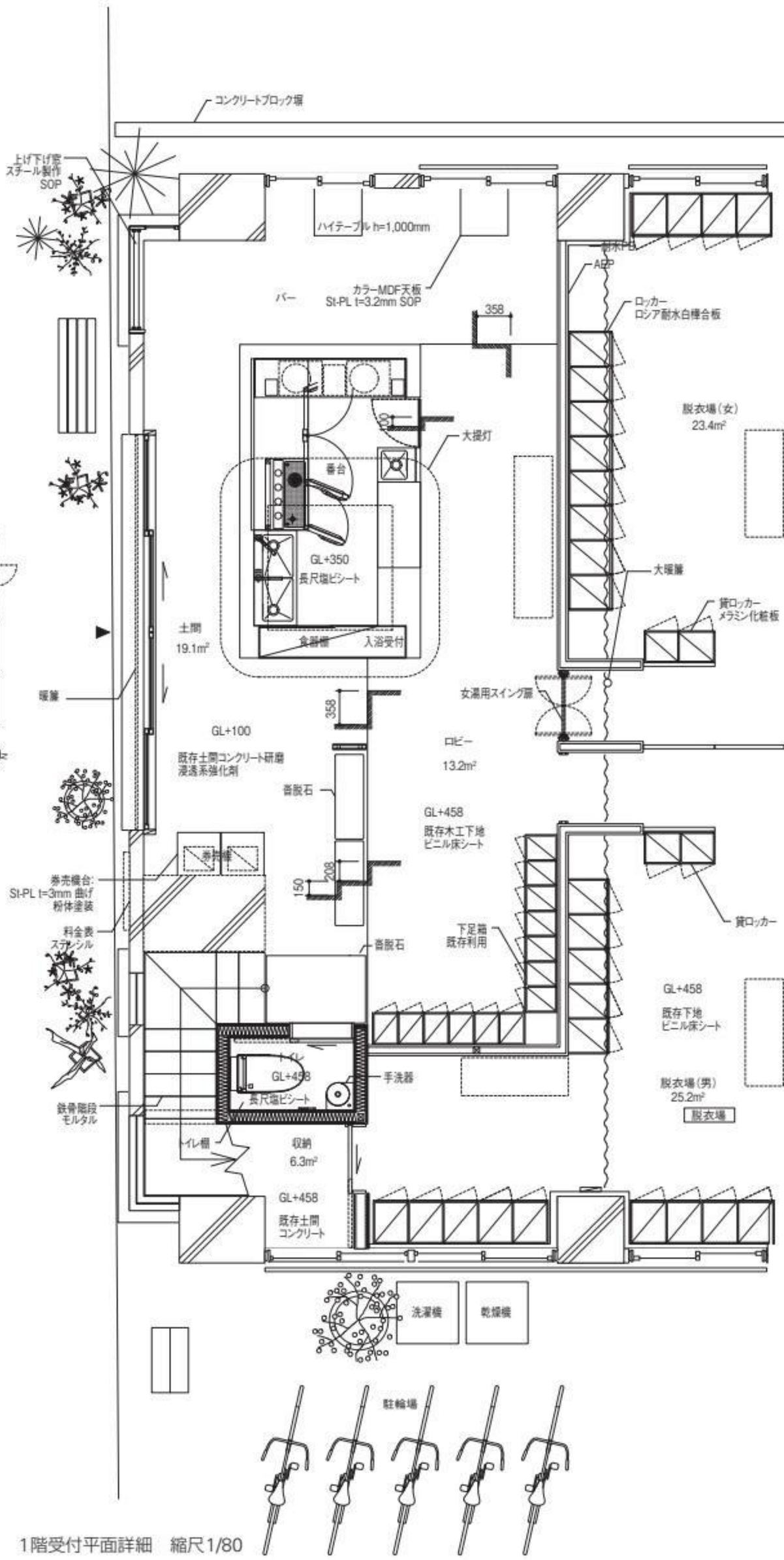
1階平面　縮尺1/300



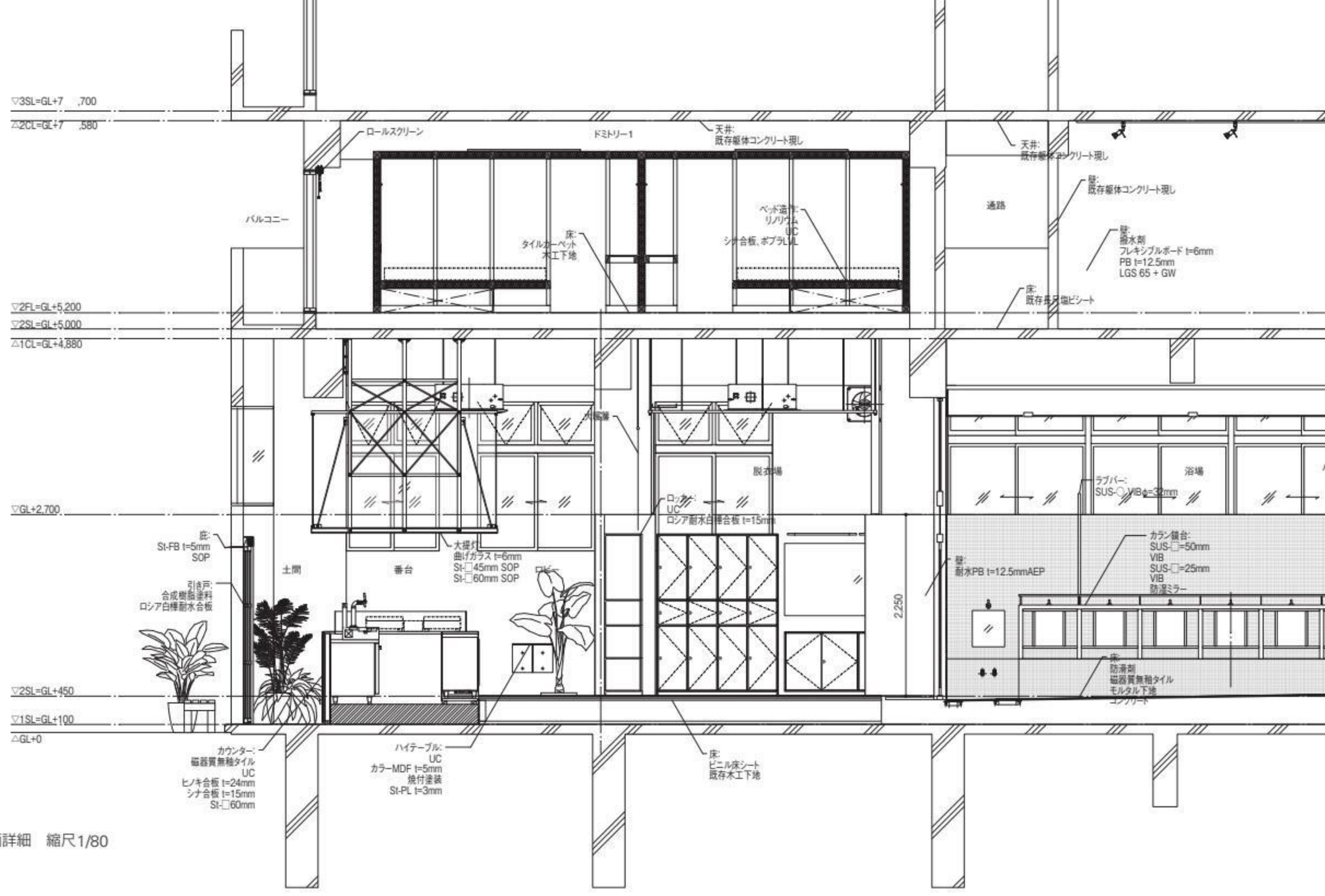
改修前2階平面



改修前1階平面　縮尺1/300



1階受付平面詳細　縮尺1/80



断面詳細　縮尺1/80

地域に親しまれる新しい銭湯を

もともと黄金湯から徒歩5分の位置にある押上温泉大黒湯の3代目です．黄金湯の元店主がご高齢で，2018年に経営権を引き継ぎました．ただ老朽化が激しく，1年あまり営業した後に改修を決心し，クラフトビールの提供やDJブースも設けました．黄金湯の入るマンションは以前からわれわれの所有だったので，2階はドミトリーと飲食店に挑戦し，泊まれる銭湯を目指します．すっかり数が少なくなった銭湯ですが，付加価値をつけて，地域の人びとやこの街を訪れてくれた方が，気持ちよく過ごせる銭湯文化を残すべく頑張りたいです．（新保卓也／黄金湯オーナー）

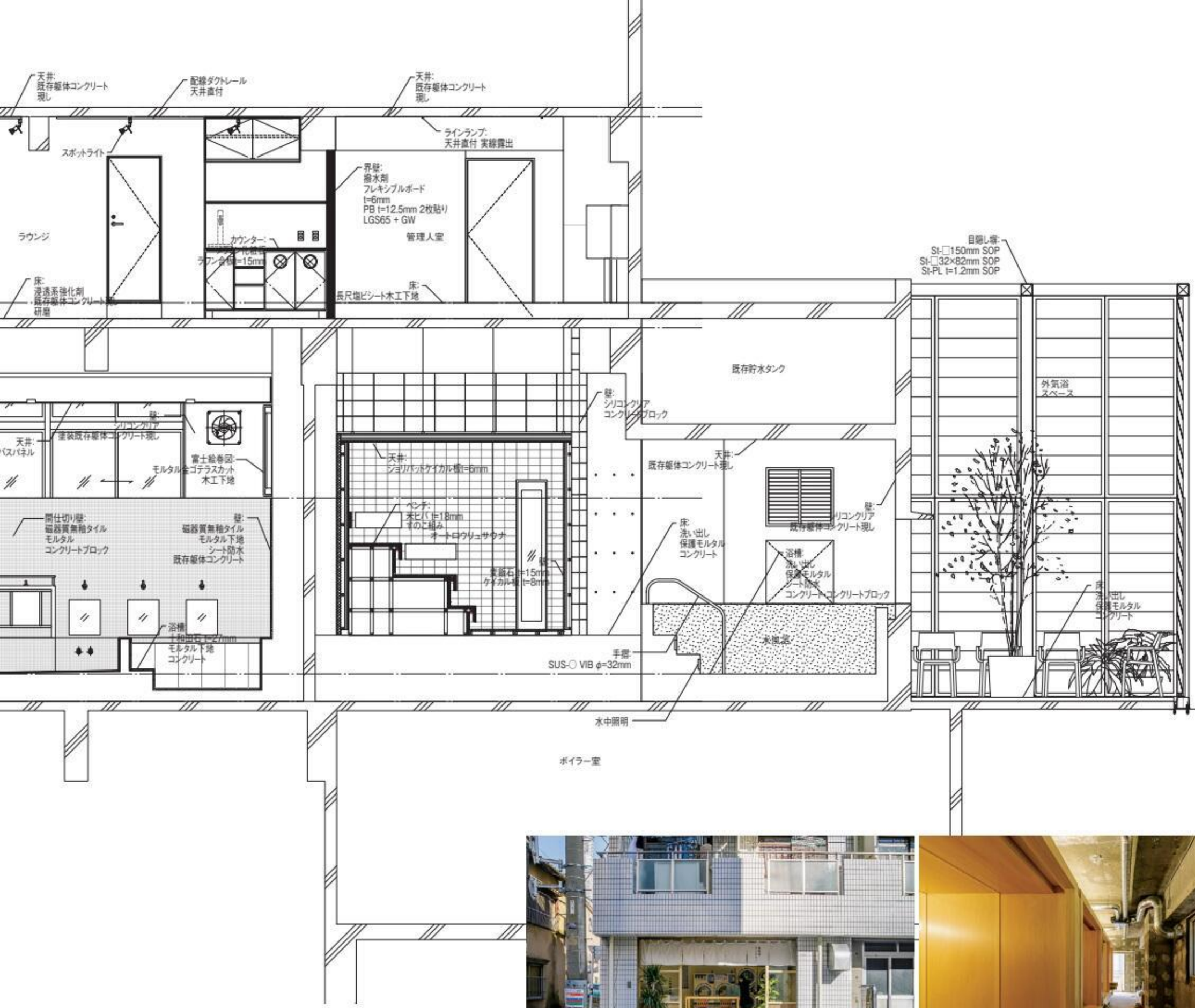
設計　建築　長坂常／スキーマ建築計画
　　構造　ハシゴタカ建築設計事務所
　　設備　上尾製作所　TANK
施工　TANK
クリエイティブディレクション・グラフィックデザイン　高橋理子
敷地面積　371.30m²
建築面積　259.90m²
延床面積　505.46m²（改修部分）
階数　地下1階　地上2階（改修部分）
構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
工期　2020年2月〜2020年7月
撮影　新建築社写真部
（データシート174頁）

夜景．「大提灯」の光が街へとにじみ出る．



広域配置　縮尺1/3,000









左：改修に伴って，元々併設していたランドリーは2軒先へ移された．
右：2階ドミトリー（工事中）．泊まれる銭湯として，オーナー自身が飲食店と合わせて運営する予定．

銭湯の持つコミュニティ機能を現代に再編する

地域のコミュニティを繋ぎとめる場として長らく慕われてきた銭湯だが，浴室保有率が95％を超えた今，根強いファンはいるものの実際の集客は減り，廃業していく銭湯は後を絶たない．その中で黄金湯はあえて改修という選択を取って勝負に出ることになり，われわれが設計でお手伝いさせていただくことになった．

そこで，まずは現代においてもコミュニティを繋ぐ役割を担えるように，既存のお風呂の大きさをそのまま維持し，使われなくなった焚き場やストック，機械室など限られた場を再利用し，ビアバーとサウナ＋外気浴という新たな機能を足し，若いカップルや地域の仲間が仕事帰りなどに集う場として設定した．デザイン面は，日本全国どこの銭湯でも共通となっている，男女間の上が開いた境界壁に着目した．構造面から考えたら，天井まで壁があった方が当然安定するし，つくるのも楽だと思うが，なぜそこが今も開いているのか？ という疑問に向き合った．きっと，家族で別れて入っている時も声かけ合って，一緒に出るのが便利だったり，互いに臨場感が出てよいとか，そんなことが理由かもしれないが，今ひとつ限定できない．そこでわれわれは，その空きはじめる2,250mmの高さをきっかけにデザインすることにして，その上下で素材を切り替えることにした．

肌に近い2,250mm以下をできるだけ温かみの感じられるベージュの素材で統一し，2,250mmより上はスケルトンのコンクリートと，それに合わせた素材で構成した．さらに，ところどころで男女互いに「思いを馳せる」をテーマに，境界を越境する作品をアーティストにつくってもらった．銭湯特有の富士の壁画ではほしよりこさんにお手伝いいただき，男女の境界を越え，ひとつの物語を表現した長い絵巻物のような富士山の絵を描いてもらった．その絵は，男女それぞれの場所から互いに完全には見えない．田中偉一郎さんには銭湯で昔から男女間で言い合ってきた「おーい!」を利用し，暖簾で壁の向こうに「思いを馳せる」気持ちを表現してもらった．

われわれは境界壁を越えてひとつの長い手すりをつくり，男女間で見えないが，1本の手すりを握り合い「思いを馳せる」ことを表現した．

そしてその壁もなくなる番台周りでは，境界のベージュゾーンをカウンターの高さである1,150mmに下げ，男女共に語らう場所としてビアバーを設置した．さらに，この春には上階の集合住宅の一部である2階に宿泊施設がオープン予定である．これによって，施主念願の「入って」「整えて」「飲んで」「寝る」施設が実現する．

ただ，これは必ずしもひとつの施設でコンプリートするのではなく，「入って，整えて，（近所で）食って，寝る」もあるし，「飲んで，帰る」でもいいし，「（近所で）飲んで，入って，寝る」でもいいし，「（上の集合住宅の部屋から）降りてきて，入って，整えて，（近所に）飲みに出かける」でもよい．決して閉じるのではなく，近隣の施設と絡みながら，地域を育てる施設としてあってほしいと思っている．　（長坂常）

なっつらぼ

設計　teco＋小坂森中建築
施工　国井建設
所在地　千葉県八街市
NUTS LABO
architects: T E C O + KOSAKA MORINAKA ARCHITECTURE

千葉県八街市に建つ，木造平屋の小規模多機能型居宅介護施設．天井高約4.5mの室内には，ガラスやポリカーボネートの高窓から取り込んだ光が広がる．吹き抜け部の天井はシルバー塗装．居間・食堂の一部にはジュートをはめ込んだ引違いの建具を設け，建具を閉めて居場所をつくったり，個室化も可能なつくりとした．

健康へ向かう建築の5原則

今，集まることへの不安は街の風景や建築に空洞化を生み，ITのようなスピードで対応できない実空間は暮らしの変化から置き去りになっている．これからの都市空間や建築は，いかに不安を取り除き健康な暮らしを志向することができるのか．「健康」という概念は時代や環境によって変化するものであり，WHO憲章の前文においても，肉体的な観点のみならず精神的，社会的に満たされた状態とされている(*1)．健康と空間の関係に着目した中でも，19世紀，感染症や飢餓の広がる社会において医療の環境改革を図った看護師ナイチンゲールは，『住居の健康』を5つの基本的な要点「清浄な空気，清浄な水，効果的な排水，清潔，陽光」として論じた(*2)．上下水道の整備も不十分な時代の切実さが感じられると同時に，今，私たちの生きる環境を問う視点とも捉えられる．ここでは，この要点を踏まえながら精神的，社会的な視点を加え，現代における健康へ向かう建築の5原則『1陽光，2清浄な空気，3他者の余地，4律動，5調整のスキル』を提起したい．千葉県八街市における高齢者福祉施設と地域交流スペースの計画．主たる矩形ボリュームは，通い・宿泊・訪問を組み合わせた小規模多機能型居宅介護の拠点であり，面積規定に則ると，少なからず平面に個室グリッドが現れる．このグリッドを積極的に建物全体に展開しながら，前面道路へ顔を出すように三角形の土間広場を設けたり，屋根中央を断面的にずらして高窓を設けることで，静的なグリッドに余白を纏う気積を生むことを考えた．まさにこれら余白の気積が，健康へ向かう建築の5原則を可能にしているのである．1陽光：建物は敷地境界からオフセットして建ち，四方へ開口部を備え，とりわけ土間広場には直射光が日時計のように差す．また，中央の居間上部の高窓により，北面のガラスを通した間接光と他三面の半透過壁のつくる柔らかい光が屋外のような明るい環境をつくる．これらにより日々刻々と変化する陽光環境を生んでいる．2清浄な空気：南の土間広場から北の高窓へ，重力換気を利用して建物のすみずみへと清浄な空気が流れる．また，地域特有の八埃(ヤチボコリ)という強い砂嵐に対し，間口いっぱいに設けた土間広場が居間へ抜ける風を濾すような風除室の役割を担う．3他者の余地：

南東より見る．道路に沿って配置された土間広場は，軒下部分と連続したコンクリートの土間床とすることで，地域の人びとが気軽に立ち寄り，さまざま活動に利用できる．外壁は砂壁風塗装．この地域にみられる「八埃(ヤチボコリ)」という強烈な砂埃への対応と，落花生畑の赤土の風景から引き出された．

周辺には昔ながらの農の風景が広がり，ワークショップを通して食が新興住宅地と昔からの農家の接点となることが予想された．そこで，食を中心とした地域の人びとの活動を支えるような大きなキッチンを土間広場にも設えた（*3）．福祉サービス利用者にとっては，日常生活に他者と関わる余白があることで，社会的な役割を見出すこととなるだろう．4律動（リズム）：四方の開口部や高窓が導く陽光の動きと空の移ろいといった自然現象の変化，小学校の登下校や農作業といった地域の人びとの活動が常に感じられるこの建築では，日常に律動を生むこととなる．こうした律動が，生活の営みを彩ることを想定している．5調整のスキル：軸組のグリッド下には，空気，光，音，距離感の調整を可能とする，建具や可動間仕切りを設けている．また，柔らかい畳，ひんやり硬い土間，庇下の縁側など多種の床は，太陽の熱と共に居場所の質を変える．これら多様な質の中に過ごすことで，それらを調整するスキルを促すことになる．自らの過ごす環境をマネージメントする能力は，時代を経るごとに退化しているようにも感じられるが，建築はこの調整のスキルを奪うのではなく誘発するべきだろう．

この建築の計画を始めた当初は，現在のような社会状況はまったく予想をしていなかった．しかし，常にある種の切実さを抱える介護の現場に触れ，建築への大きな期待を感じてきた過程の延長に，必然的に「健康へ向かう」という建築の役割があぶり出されてきたようにも感じている．（金野千恵／ｔｅｃｏ）

*1：1947年に採択されたWHO憲章の前文においては，「健康」を以下のように定義づけており，この定義が時代や環境に即して変化するものとされている．"健康とは，病気でないとか，弱っていないということではなく，肉体的にも，精神的にも，そして社会的にも，全て満たされた状態にあることをいいます（日本WHO協会訳）．"

*2：ローレンス・ナイティンゲール『ノーツ・オン・ナーシング 1859』．『看護覚え書』（現代社）の2章「住居の健康」の記述より．

*3：運営者をサポートするかたちでStudio-Lが協働し，竣工の約2年半前から，近隣との関わりをつくるためのヒアリングやワークショップを進めている．見守りを生業とするケアスタッフは，人びとの話の聞き取りに非常に長けている．2019年の台風災害時にも地域の各住戸を訪問するなど，地域の活動に触れ，関係づくりの土壌を育んできた．



居間・食堂から玄関を見る．床は全面畳の馬目地張りとした．柱は各所共通して120mm角，現しの梁は120×150mm角．建具のレールは木枠なしで梁に直付けのディテールとし，将来的な増設も想定しやすい仕組みとした．

天井高の異なる空間を持つ木造平屋の計画

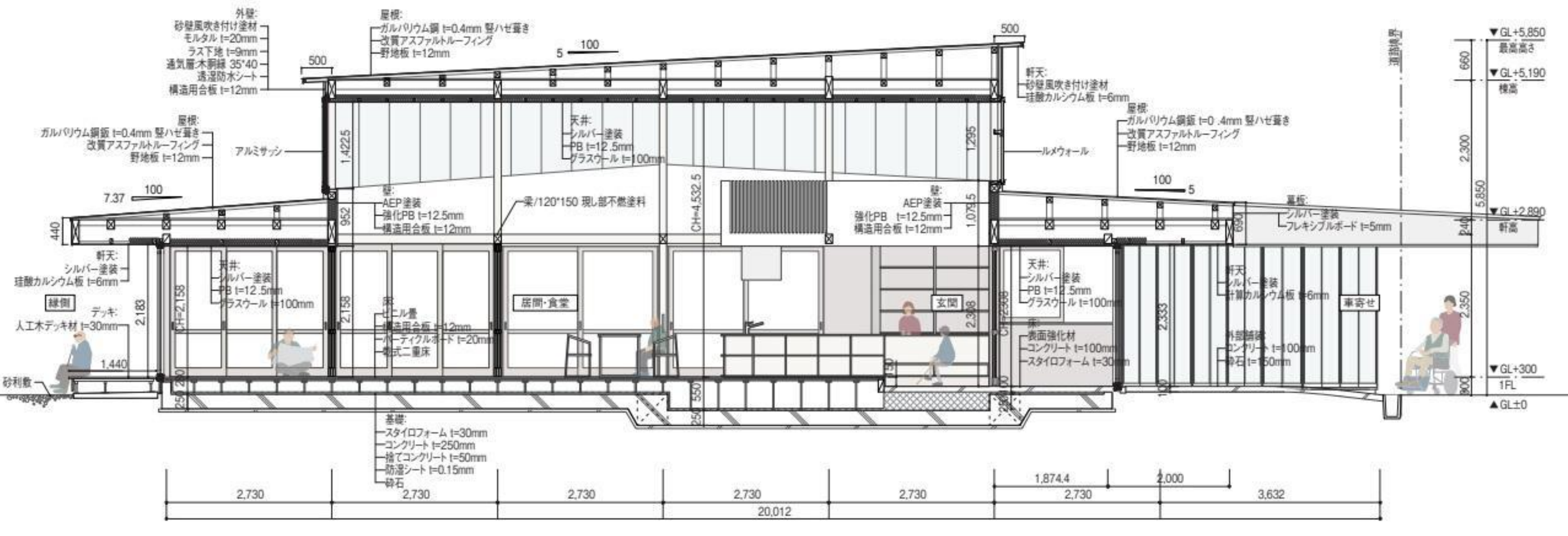
東西に配置された低い屋根の諸室にある壁を耐力壁に利用し，吹き抜け部に，梁をそのまま連続させることで，建物全体の挙動を揃えるとともに，高い屋根を支える柱の座屈防止を兼ねている．多くの木造住宅が小屋組と屋根組を一旦切り離して考える「和小屋」として発展しているため，プレカット技術もその形式に依存しており，できることが限られるため，このプロジェクトでも低層部はまさに小屋梁の上に屋根組を組んで構成し，高い屋根部では，低層小屋梁の上に高い屋根が載った，「和小屋的」な構造形式を採用している．「和小屋的」な構成を守ることで，構造的合理性とあわせて，既存のプレカット技術でできる経済性，技術的合理性に配慮した架構を実現している．

（大野博史／オーノJAPAN）

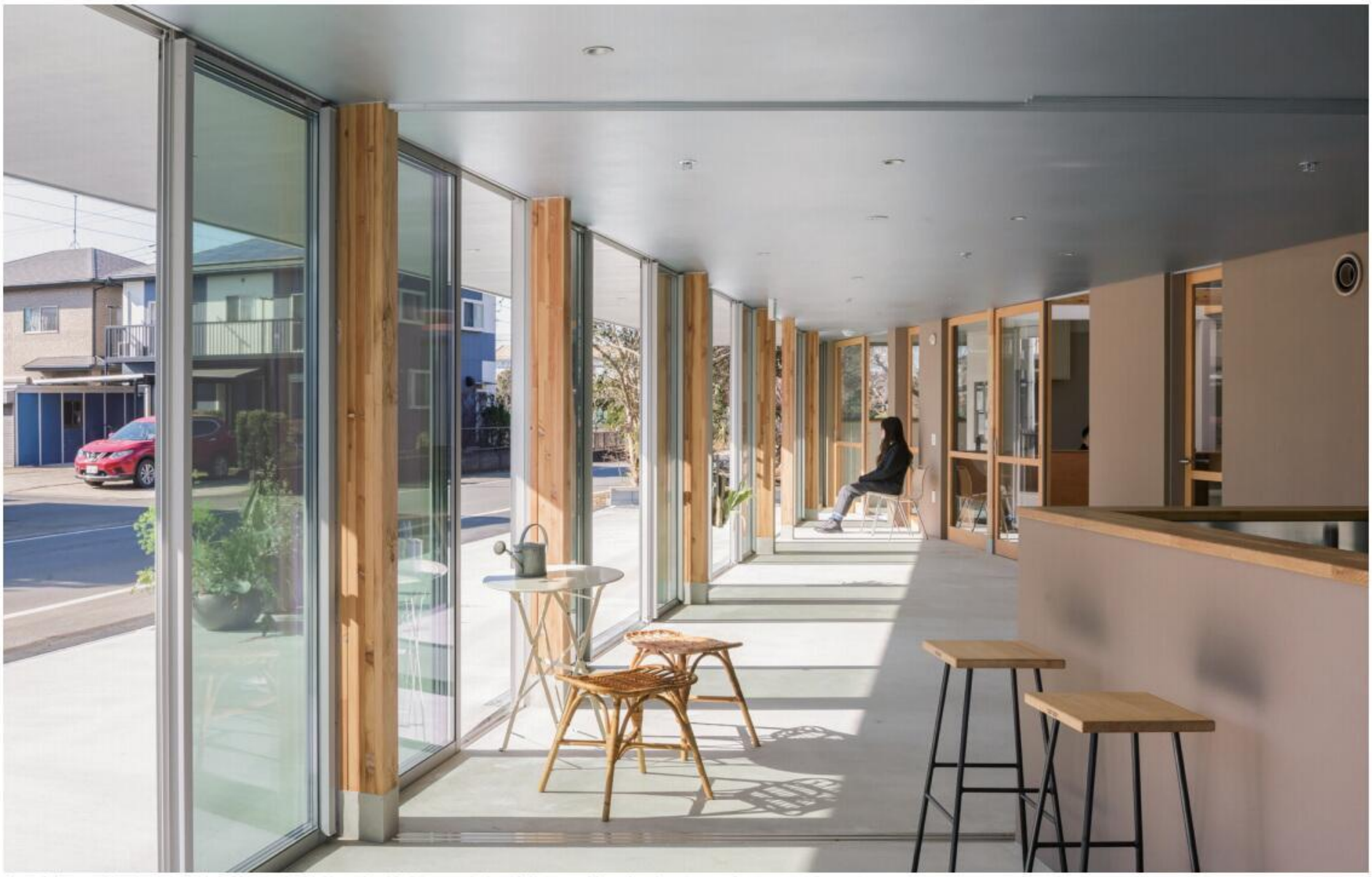
居間・居室の天井（夕方）．時間の経過を，高窓から取り入れる光の移ろいから感じ取ることができる．シルバー塗装の天井により，光を柔らかく拡散する．

居間・食堂から土間広場を見通す．天井の高さの違いや建具の有無の組み合わせにより，グリッド状の形式の中で雰囲気の異なる居場所をつくる．

事務室から玄関と居間・食堂のキッチンを見る．キッチンのカウンターには土間部分にベンチを設えた．キッチン上部は設備スペース．



断面　縮尺1/120



土間広場．天井は軒天と連続したシルバー塗装．壁は外壁と同じ砂壁風塗装とし，外に近い空間として感じられるようにした．



南西側外観．緩勾配の片流れの屋根と切妻屋根が重なる．

さまざまな主体を迎え入れる外のような空間

道路に面する建物の南側に計画した三角形の土間広場．二辺を全面開口部とし，できる限り開放できるものとすることで，太陽高度に沿ってさまざまにかたちを変えて入り込んでくる陽の光や，窓を開け放って吹き込んでくる風の流れを迎え入れるような場所となっている．

もう一辺には，居間・食堂に設けたキッチンと対となるようなもうひとつのキッチンを設け，地域住民も利用できるようにすることで，豊かな「農」が育まれる地域のなかで「食」を通じて人びとが繋がるような場所となることを期待している．

（小坂怜＋森中康彰／小坂森中建築）



配置　縮尺1/2,500

設計　建築　ｔｅｃｏ＋小坂森中建築
　　構造　オーノJAPAN
　　設備　MCC
施工　国井建設
敷地面積　1,263.51m²
建築面積　332.72m²
延床面積　290.41m²
階数　地上1階
構造　木造
工期　2020年6月～12月
撮影　新建築社写真部
（データシート174頁）

小規模多機能型 居宅介護

「通い」を中心に，要介護者の様態に応じ「訪問」や「宿泊」を組み合わせるケアサービス．
中重度となっても，在宅での生活が継続できるよう支援する施設．

訪問

利用者の自宅への訪問ケア

社会福祉法人
「生活クラブ　風の村」

ケアマネージャー
「風の村」他施設との連携

利用者の家族
介護の負担軽減

ケアサービスの利用者
同世代と交流
外出の機会

通い

日帰りの食事や入浴を含むケア

近隣障がい者施設

利用者
カフェや駄菓子屋のお手伝い

風の村 関連団体
「認定 NPO 法人
コミュニティケア街ねっと」
ボランティアの派遣・人材発掘
馬頭琴の演奏会などの
イベントの実施

散歩をしている人が
ひと休みできる外ベンチ

散歩の途中でコーヒー
休憩する近隣住民

古くからの民家
新興住宅街
建物名称の公募・住民投票

地域の寄合所として
利用する近隣住民

自治会
「出前餅つき」の実施

駐車場

日向ぼっこしたり
バリアフリーの動線にもなる縁側

広場で農作物を栽培
農作業を体験

広場

駐車場（所有地）

広場に面して隣地を購入
現状は駐車場として利用

放課後に小学生が遊べる広場

形の不揃いな農産物を
提供する近所の農家

土間広場の使い方を
一緒に考える設計者

地域のリサーチを
手伝う studio-L

地域の高齢者をまとめる
商店のおかみさん
イベント時に協働

宿泊
2~3日程度の
宿泊ケア

居間食堂の北側２スパンは
建具を開ければ宿泊室として利用できる

17,290
2,275 | 2,275 | 1,365 | 3,185 | 3,185 | 1,820 | 3,185

2,730 | 2,730 | 2,730 | 2,730 | 3,146.5 | 3,146.5
19,943

洗濯干し場
雨落（砂利）
縁側
浴室
脱衣室
脱衣室
汚物処理室
宿泊室
宿泊室
宿泊室
宿泊室
宿泊室
居間・食堂
休憩室
事務室
相談室
玄関
土間広場
車寄せ
地域交流スペース
西庭
東庭

小学生
放課後に親を待つ
放課後に遊ぶ
駄菓子を買いに来る

小学生の母親たち
カフェで一休み
お菓子の購入
同世代との交流

八街市立川上小学校
近所の小学校の通学路
小学校保護者と施設との連携
小学校のイベント時に駐車場を貸出

土間広場に設置する
家具製作に協力する元大工

非常用電源
災害時に防災拠点として
居間・食堂・水回りを地域に開放

車での送迎利用にも対応した
大きな車寄せと庇

ケアマネージャーが
ケア利用者のための食事を作る
居間・食堂のキッチン

地域に開放する土間広場のキッチン

工事現場勤めの外国人
とその家族
「食」イベントへの参加
自国の料理を振る舞う
防災情報の収集

母親と自治会長の自助グループ
子供向けに「防災クッキング」の実施
「困りごと」の相談
地域の見守り

「食」に興味のある人々
スタートアップ支援により
キッチンを利用

地元の中学生
放課後に立ち寄り

平面　縮尺1/200

IYO夢みらい館　伊予市文化交流センター

設計　山下設計
施工　合田工務店
所在地　愛媛県伊予市
IYO CITY CULTURAL EXCHANGE CENTER "IYOYUMEMIRAIKAN"
architects: YAMASHITA SEKKEI

西側より見る．市街地に立つ図書館，文化ホール，地域交流館の3機能を有する公共施設．各機能を包み込む大屋根を架けながら，軒高を2.7mにすることで地域のスケールに合わせている．

縁側モール吹き抜け．大屋根の下に複数の場が混ざり合い，連続する．写真左に学習コーナー．

2階縁側モールからアトリエを見る．グループや個人の活動を支える小さなスペースが，大屋根の下に点在する．

1階縁側モールより開架閲覧室を見る．市民が立ち寄れる居場所であり，催し物ができる広場にもなる．

382席の文化ホール．煉瓦をねじるように連続させて音を拡散し，響きのあるホールとしている．

こども図書館．軒高が抑えられた大屋根のかたちが諸室に現れる．
低層部の開口より，外部とゆるやかに繋がる．

1階縁側モールから文化ホールを見る．ホールの外周壁面には展示什器が埋め込まれ，ホールの催事がない時も活用できる．

チタン亜鉛合金板 t=0.5mm一文字葺
裏打特殊ブチルゴム t=1.0mm
ポリオレフィン系補強層入り非加硫ブチルゴムシート t=1.0mm
硬質木毛セメント板 t=20mm
現場発泡硬質ウレタンフォーム t=25mm
GB-R t=9.5mm+岩綿吸音板 t=9.0mm
GB-Rt=9.5mm+珪酸カルシウム板t=8.0mm+EP-2
露出アスファルト
防水外断熱工法
水勾配1/75
小幅板:スギ
t=15mm,25mm,35mm
×100mm,L900mm
木材保護着色塗料
レンガルーバー:
240×100×60mm
(回転角7.5°)
手摺:
強化ガラス t=8mm
飛散防止フィルム貼り
笠木:
タモ集成材
板貼
縁付
合板
コンクリート
打ち放し補修の上、
塗装
文化ホール
笠木:タモ集成材UC
縁付
合板
タイルカーペット t=6.8mm
フェノールフォーム
保温板
t=35mm打込
配管ピット
押えコンクリート t=80mm
コンクリート均しの上、
湧水処理層 t=40mm
手すり:
FB-12×25@100mm+SOP
学習コーナー
タイルカーペット t=6.8mm
縁側モール
コンクリート化粧打ち放しの上,撥水材塗布
GB-R t=9.5mm+岩綿吸音板 t=9.0mm
GB-R t=9.5mm
珪酸カルシウム板 t=8.0mm+EP-2
天板:
メラミン化粧板
小口:
ポプラ合板積層仕上げ
+クリア塗装
受付カウンター:
人工大理石 t=10mm
+ウレタン塗装
コンクリート金ごて押え t=70mm
浸透性表面硬化剤塗布+磨き仕上げ
フェノールフォーム保温板t=35mm打込
ポリスチレンフィルムt=0.15mm
捨てコンクリートt=50mm 砕石t=50mm
GB-R t=9.5mm+岩綿吸音板 t=9.0mm
アルミ樹脂複合板t=4.0mm
保育所園庭
開架閲覧室
タイルカーペット t=6.8mm
河原ゴロ太石(3~5寸)
単粒砕石
鋼製床組+合板 t=15mm二枚貼+
タイルカーペット t=6.8mm
▽2FL
▽1FL
▽GL
2,550
7,950
15,000
1,500
100
1,560
2,655
1,300
970
500
150
14,810
21,200
65,000

断面詳細　縮尺1/150

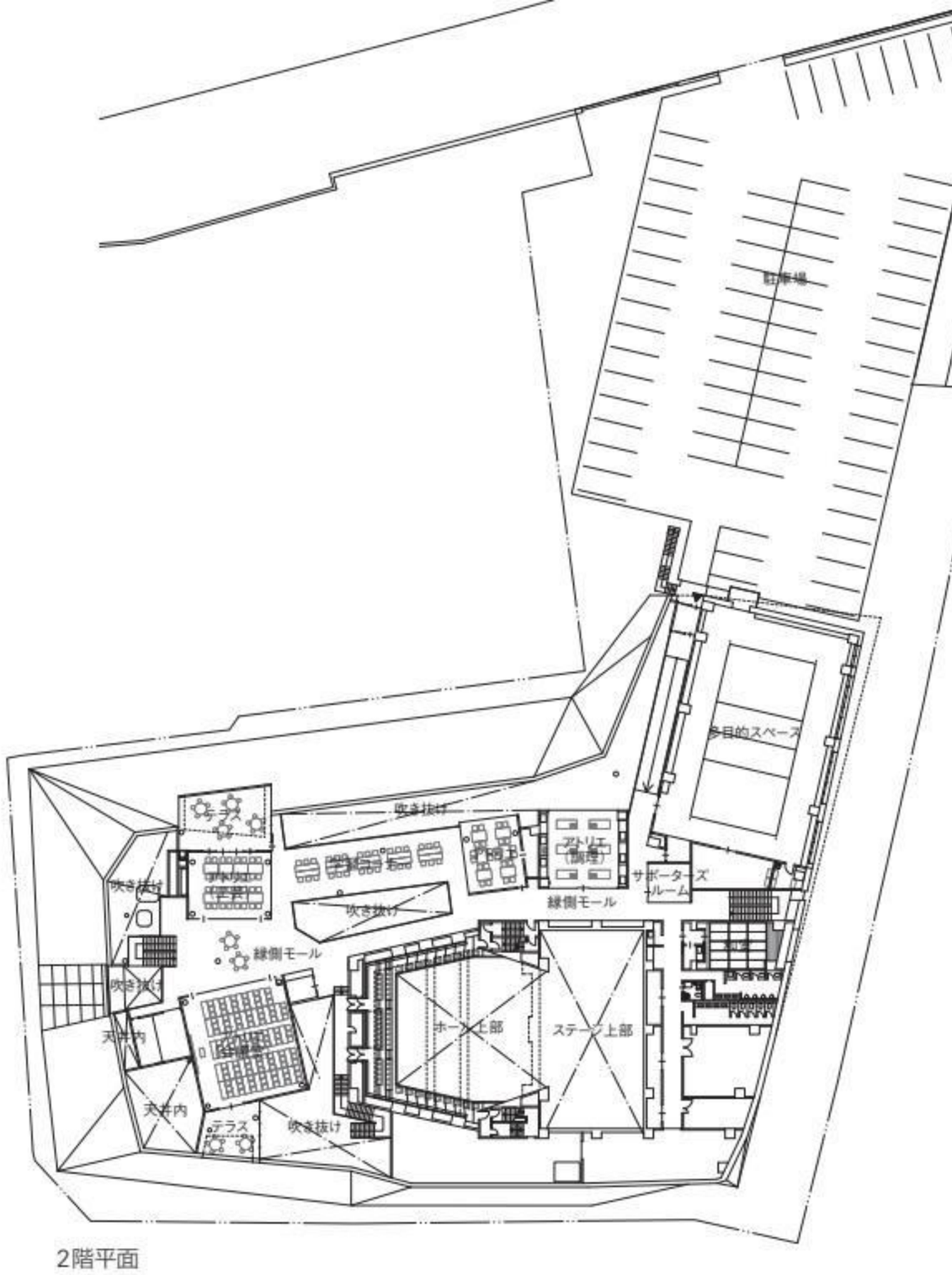
鋼製床組+合板t=15mm 二枚貼り+
タイルカーペット t=6.8mm
1,380
ヤングアダルトコーナー
こども図書館
子どもを見守りながら談話
伊予ラウンジ
床:
タイルカーペット
t=6.8mm
本棚席
雑誌書架
ソファ席
開架閲覧室
自動貸出返却機
天板:メラミン化粧板
小口:ポプラ合板積層仕上げ
+クリア塗装
760
柱:耐火塗料
子どもたちは放課後の勉強
テーマ展示,今回は伊予の音楽家
受付カウンター:
人工大理石 t=10mm
+ウレタン塗装
整理作業室
受付カウンター
500
床:
コンクリート金ごて押え t=70mm
浸透性表面硬化剤塗布+吸水防止剤(シランシロキサン系)塗布+磨き仕上げ
自動販売機
手洗い
作業カウンター
調理機器
テーマ展示,身近な動物たち
ミニコンサートの開催
縁側モール
床:
コンクリート金ごて押え t=70mm
浸透性表面硬化剤塗布+磨き仕上げ
コンクリート化粧打ち放しの上,撥水材塗布
新刊本コーナーでお気に入り探し
展示棚(企画展)
展示棚(常設展)
レンガルーバー:240×100×60mm
(回転角7.5°)
縁付合板
文化ホール
床: タイルカーペット
t=6.8mm

平面詳細　縮尺1/150

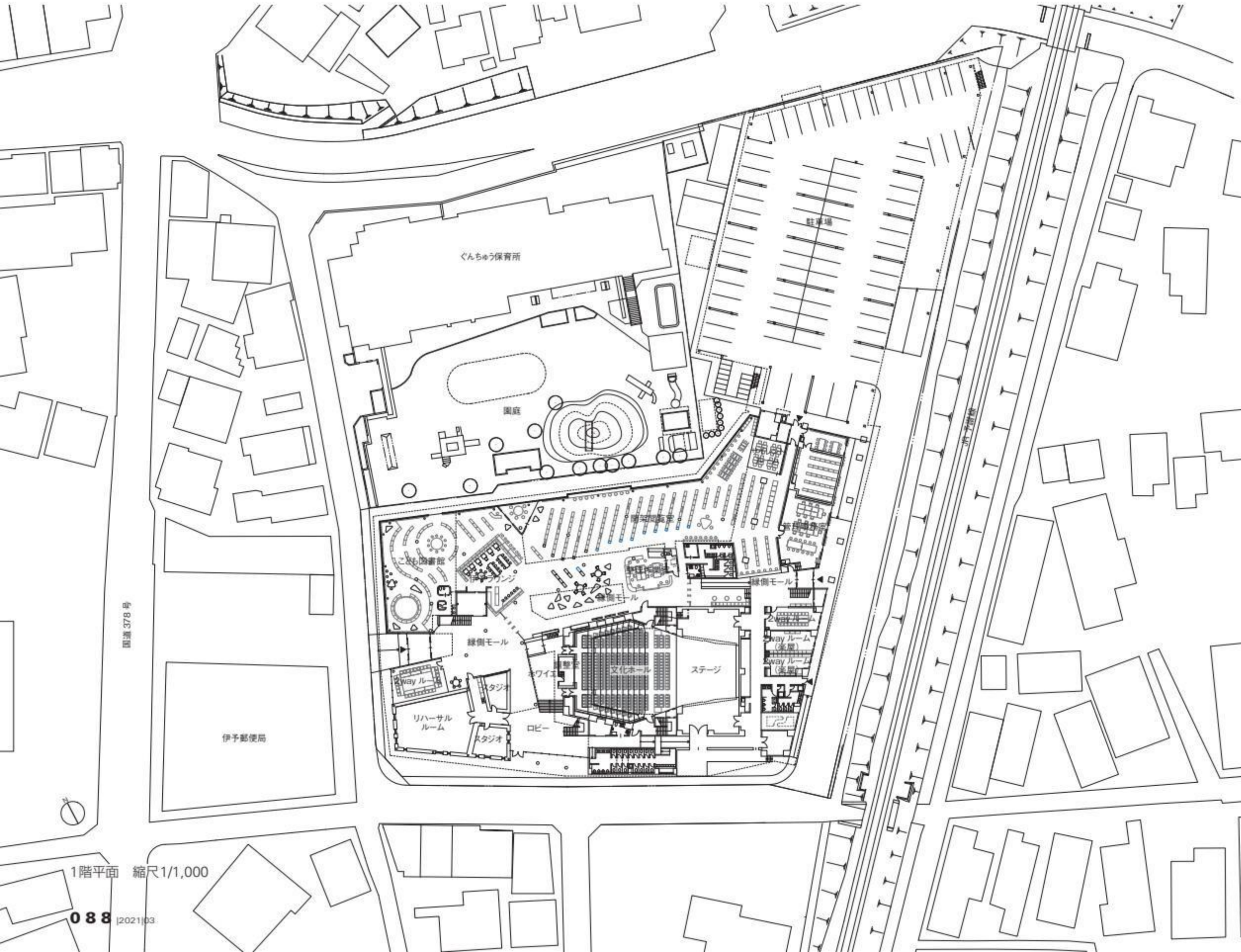


広域配置　縮尺1/15,000

設計　山下設計
施工　合田工務店
敷地面積　7,428.30m²
建築面積　5,560.22m²
延床面積　5,867.51m²
階数　地上3階　塔屋1階
構造　鉄骨鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
工期　2017年2月～2020年2月
撮影　髙橋菜生
（データシート176頁）



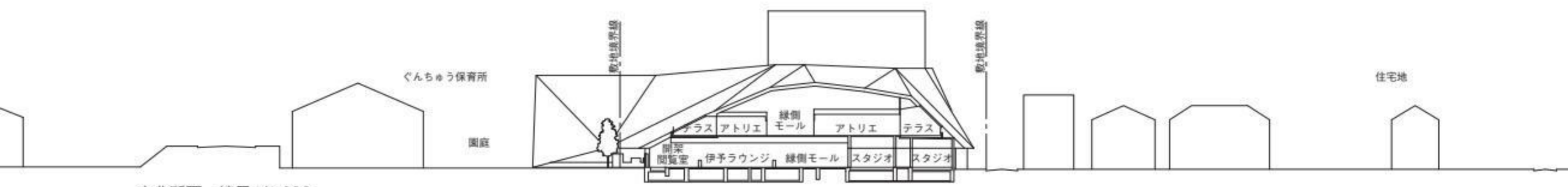
2階平面



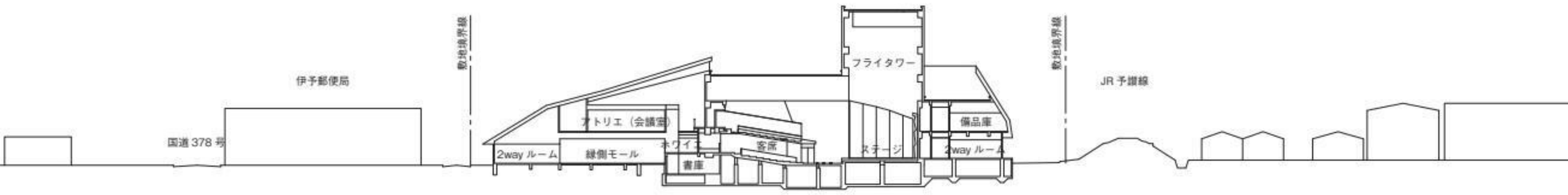
1階平面　縮尺1/1,000



北側鳥瞰．街道や鉄道，保育施設が近接する中心市街地に立地する．大屋根は敷地形状と内部機能から導き出された形状で，周囲に建物の影が落ちないように配慮している．



南北断面　縮尺1/1,000



東西断面　縮尺1/1,000

大きな屋根のトショカン

図書館は，本や情報を提供し知る権利を保障するという基本機能（一般的な図書館のイメージ）に，公共性やさまざまなものを繋ぐ性質が加わることで拡張し，その姿を自由に変えることができる特異な存在である．そこで，図書館と公民館が一体化し，広場性や居場所性を有するパブリックスペースへと拡張された本施設を，カタカナで「トショカン」と呼ぶこととした．

トショカンは設計に入る前，その敷地選定で多くの議論がなされた結果，郊外の広々した敷地ではなく，街道に沿って古くから栄えていた市街地にある北側に保育園が隣接する変形した敷地に建てることが決まった．施設が立地するまちの中心にはさまざまな時代の記憶や空間が積み重なっているが，商業は郊外に移動し，高齢化が進み，若者は町から出ていき，その中心性は時と共に薄れつつある．そんな中，本施設はみんなが集まる拠り所となることを求められていた．そこで選択したのが大きな屋根という形態だ．

大屋根のひとつ目の役割は，ここに来ると何かあるという期待感の醸成であり，みんなが時間や空間を共有する広場ができたことを発信する「異形」がつくる風景である．

一方，大屋根の軒高は2.7mに抑えられ，まちなかに佇んでいる．大きなヴォリュームを必要とするホールを含む施設の大きさは，周りの住宅や保育園のスケール感とはまったく異なるが，建物に近づくと，軒高を抑えた上で勾配屋根がヴォリューム感を消し去るため，違和感なく周辺に溶け込む．

また大屋根は，その内側に特徴的な空間を生み出した．ひとつ目は包み込まれる感覚だ．内部にいると落ち着きや安心感に包まれ，お互いの気配が感じられ緩やかな共同体のような雰囲気が生まれている．ふたつ目は，屋根が誘導する視線の交錯により，さまざまな関係が生まれるということである．視線が立体的に交錯する状況が，色々な興味を誘発すると共に，人と人の新しい関係や，人と活動を結び付ける，そんな多くのキッカケが内包されている．

そして3つ目が，均質ではない空間が連続するという特徴である．それぞれに異なる特徴を持つ空間は，さまざまな居場所をつくり連続させ，図書館をサードプレイスへと拡張する．

大きな屋根のトショカンは，外では異形と親和性という振れ幅の大きい関係を，内においては包み込まれる感覚や屋根の形が生み出す関係，そして均質ではない空間が織りなすさまざまな居場所を生み出し，人・施設・まちの間に，波紋の重なりのような多層の関係をつくっている．

（安田俊也／山下設計）

垂井町役場

設計　梓設計

施工　TSUCHIYA・内藤特定建設工事共同企業体

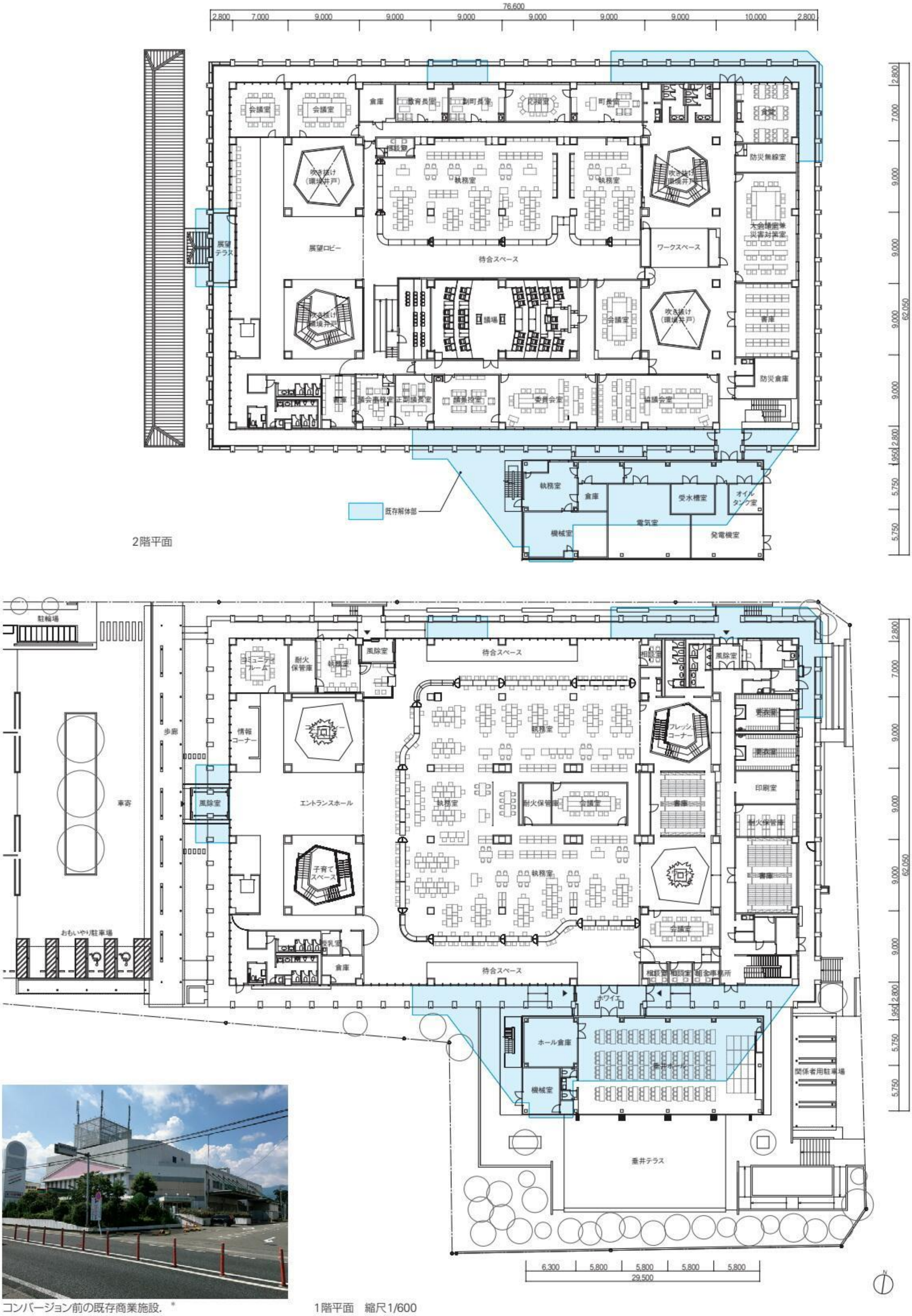
所在地　岐阜県不破郡垂井町

TARUI TOWN OFFICE

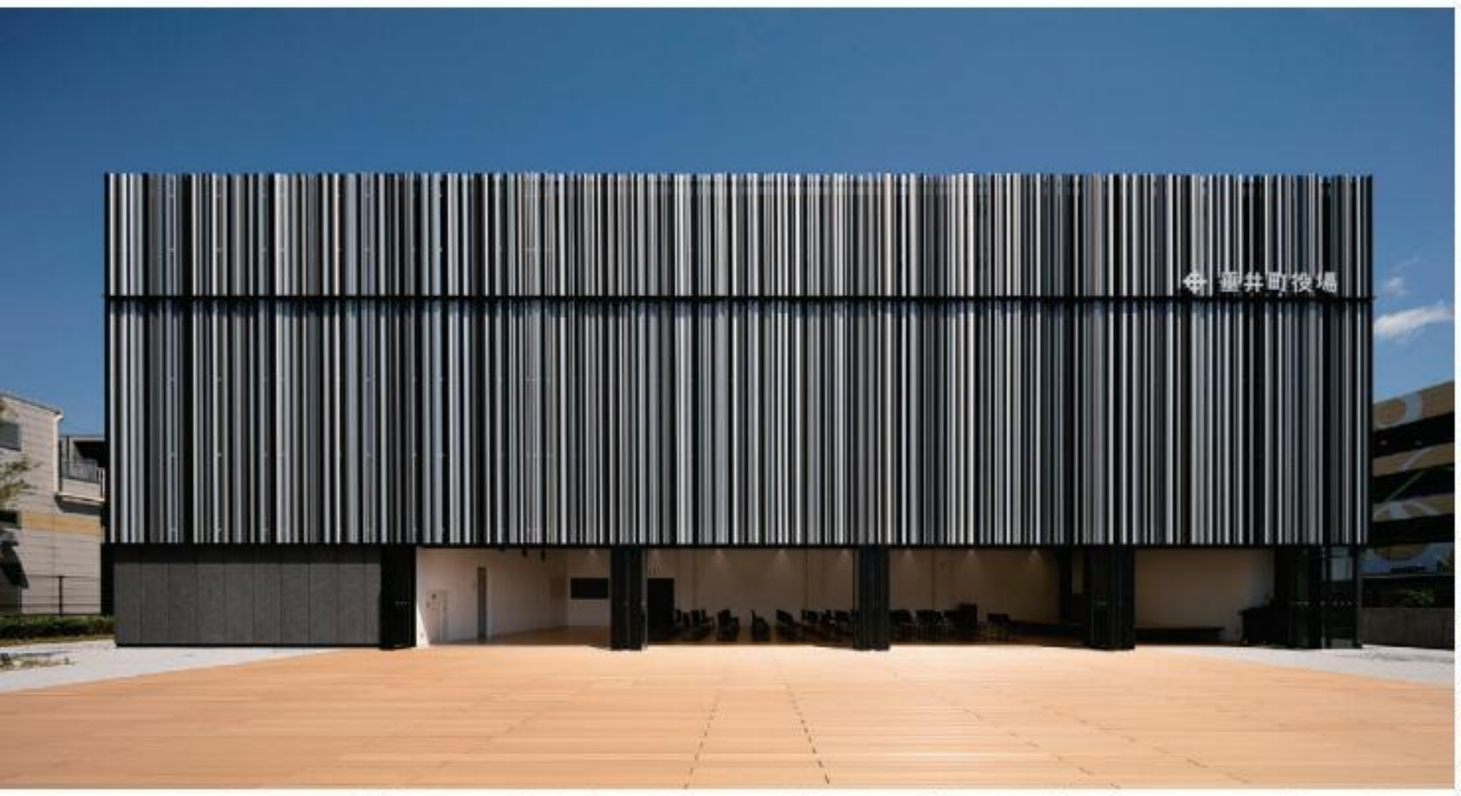
architects: AZUSA SEKKEI

商業施設から庁舎へのコンバージョン．既存建物の外側に鉄筋コンクリート造のアウトフレームを増設することで耐震性能向上と共に，庁舎として風格ある外観に刷新した．

4カ所に設けた吹き抜け「環境井戸」．内装は岐阜県産材のスギ無垢材，床には垂井町産のスギ材を圧密加工したフローリングを使用．

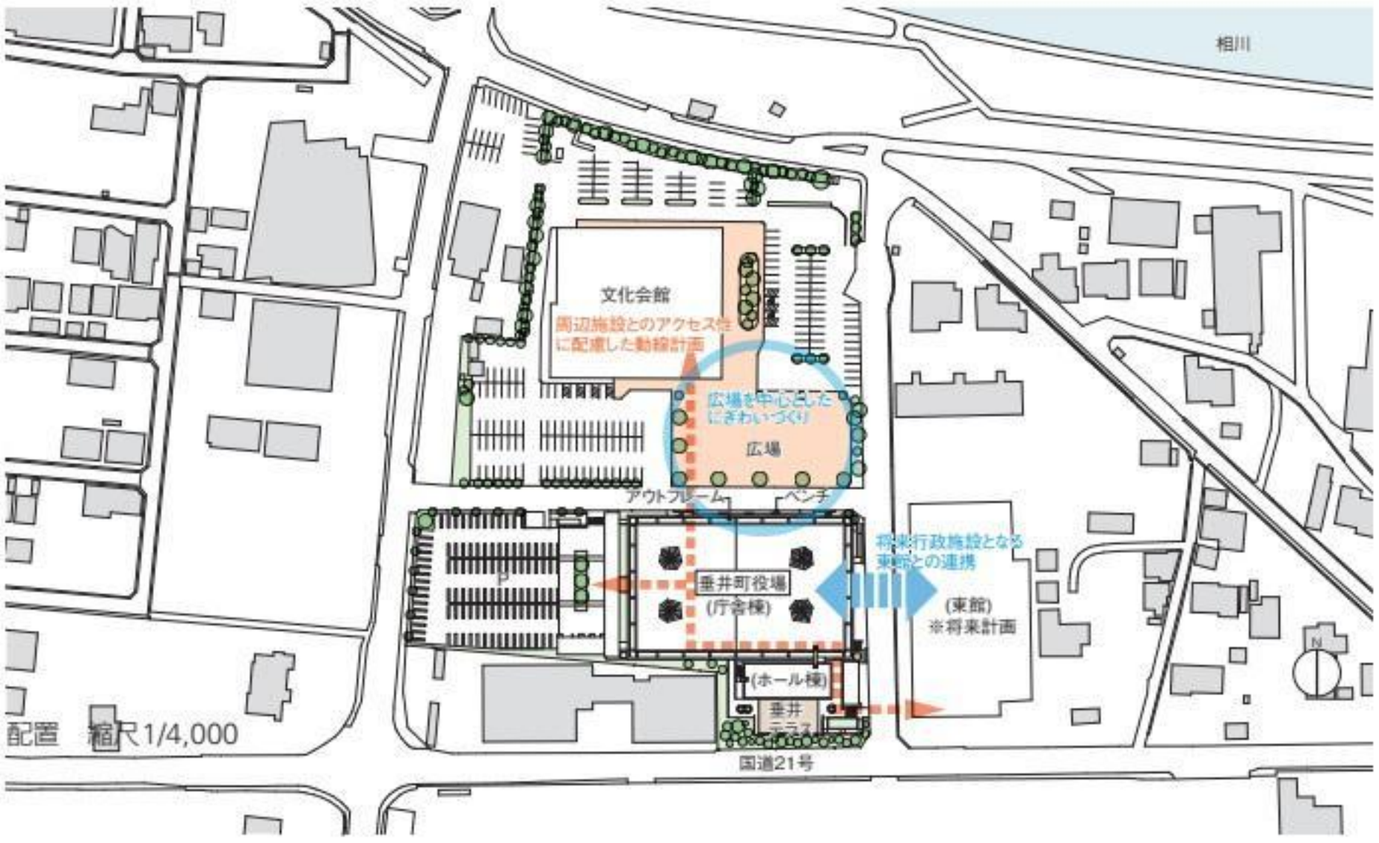

76,600
2,800
7,000
9,000
9,000
9,000
9,000
9,000
9,000
10,000
2,800
62,050
2,800
7,000
9,000
9,000
2,800
950
5,750
5,750
会議室
会議室
倉庫
教育長室
副町長室
応接室
町長室
書架
書庫
防災無線室
大会議室兼災害対策室
吹き抜け（環境井戸）
執務室
執務室
待合スペース
ワークスペース
展望テラス
展望ロビー
議場
会議室
吹き抜け（環境井戸）
吹き抜け（環境井戸）
書庫
防災倉庫
議会事務局
正副議長室
議員控室
委員会室
議会会議室
既存解体部
執務室
倉庫
受水槽室
オイルタンク室
電気室
機械室
発電機室
駐輪場
車寄
おもいやり駐車場
歩廊
風除室
エントランスホール
風除室
コミュニティルーム
耐火保管庫
執務室
情報コーナー
子育てスペース
授乳室
倉庫
待合スペース
執務室
執務室
執務室
フレッシュコーナー
会議室
耐火保管庫
書庫
書庫
書庫
印刷室
耐火保管庫
相談室
相談室
相談室

庁舎棟の西側正面外観．アウトフレーム内の2階部分は展望テラスとし，緑化を施している．手前の歩廊には風除スクリーンとしてスギ板型枠の壁を設けている．

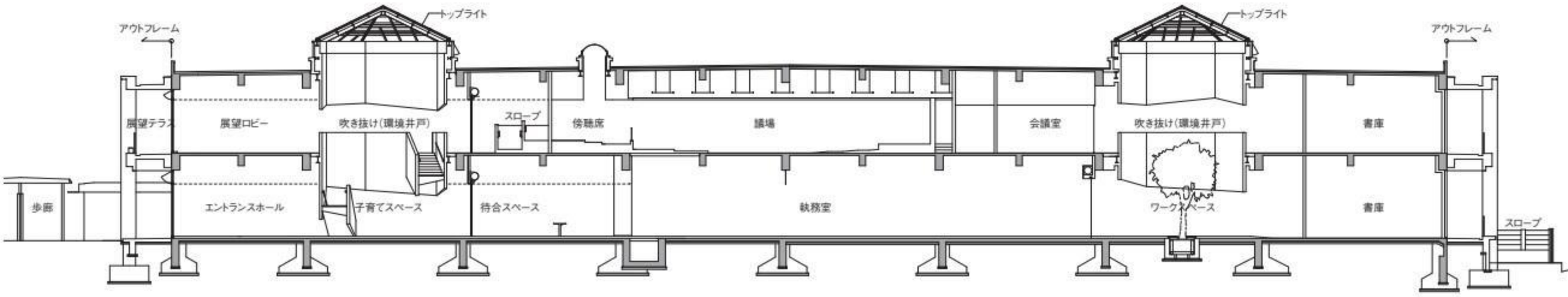




左：ホール棟外観．さまざまな色の既製アルミ形材を用いて「水のゆらぎ」を表現している．右：アウトフレーム内の展望テラス．垂井町の象徴的な風景である伊吹山を望むことができる．



設計　梓設計
施工　TSUCHIYA・内藤特定建設工事共同企業体
敷地面積　9,476.80m²
建築面積　4,438.80m²
延床面積　7,434.66m²
階数　地上2階
構造　鉄筋コンクリート造（庁舎棟）　鉄骨造（ホール棟）
工期　2018年5月～2019年7月
撮影　上田宏
＊提供　梓設計
（データシート176頁）



断面　縮尺1/400

商業施設から庁舎へのコンバージョン

商業施設を活用した庁舎へのコンバージョン計画である．計画地の岐阜県垂井町は，古くから天下の名水と親しまれた名泉により中山道の宿場町として栄えてきた歴史を持つ．旧庁舎の老朽化が進む中，防災拠点として対応可能な新庁舎を整備するため，既存の商業施設を利活用することとなった．コンバージョンにあたっては，既存建物の躯体の状況や耐震性能，内部を庁舎に転換可能かどうかなど，さまざまな視点で検証がなされた．文化会館が隣接していることから，日常的なにぎわい創出や災害時の連携など，まちづくりの観点からも利点が大きいことが決め手となった．

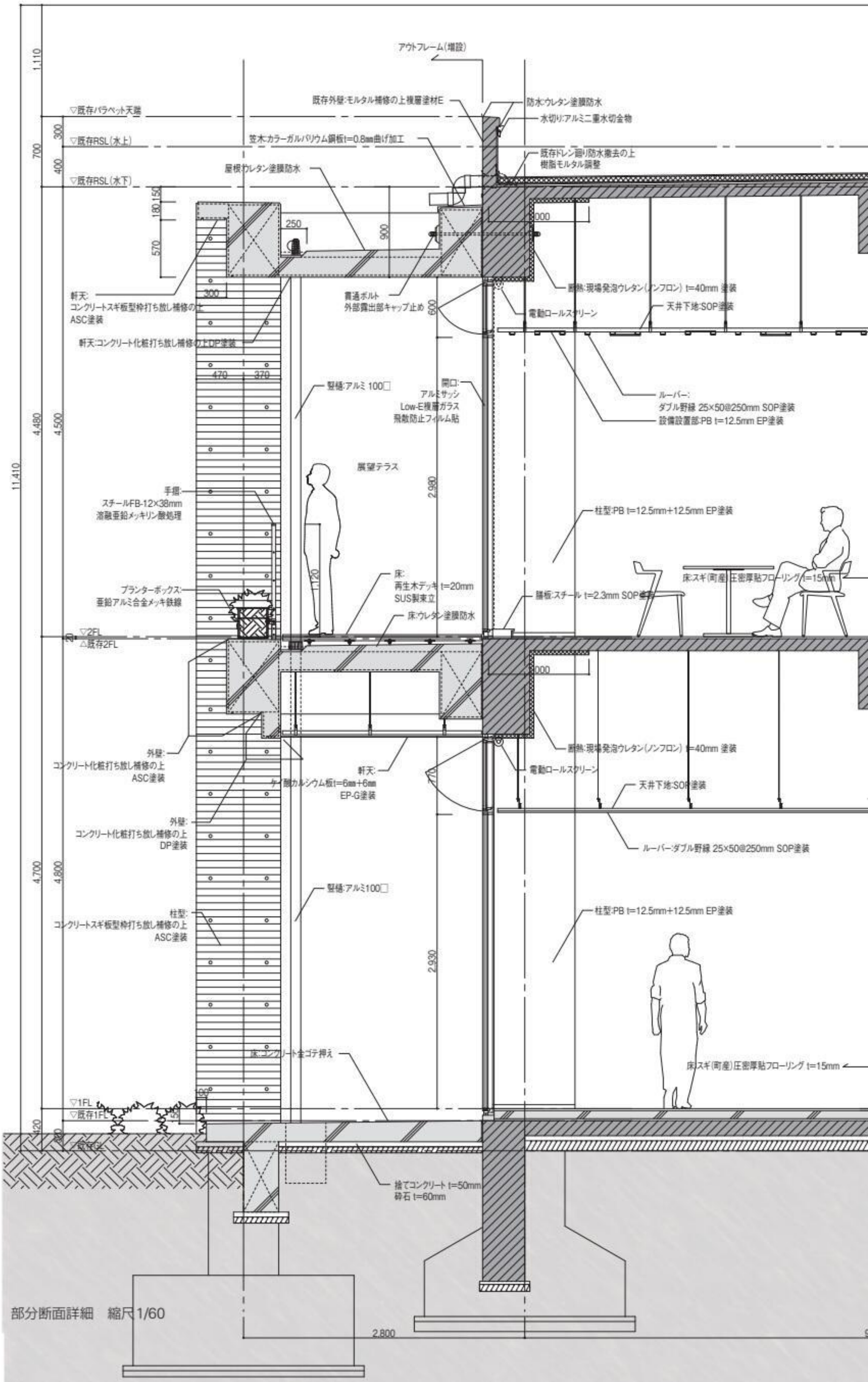
新しい表情を生み出すアウトフレーム

既存商業施設は1990年に建設された新耐震基準に適合した建物であったが，防災拠点とするために耐震安全性を1.5倍に向上させる計画とした．外周部に約3m間隔の現場打ち鉄筋コンクリートの柱・梁からなるアウトフレームを設けることで実現している．アウトフレームは，日射抑制のための環境装置として，隣接建物とのアクセス性を高める歩廊として機能している．リズミカルに連続することで，既存商業施設のファサードを刷新させ，庁舎としての風格ある表情を生み出している．

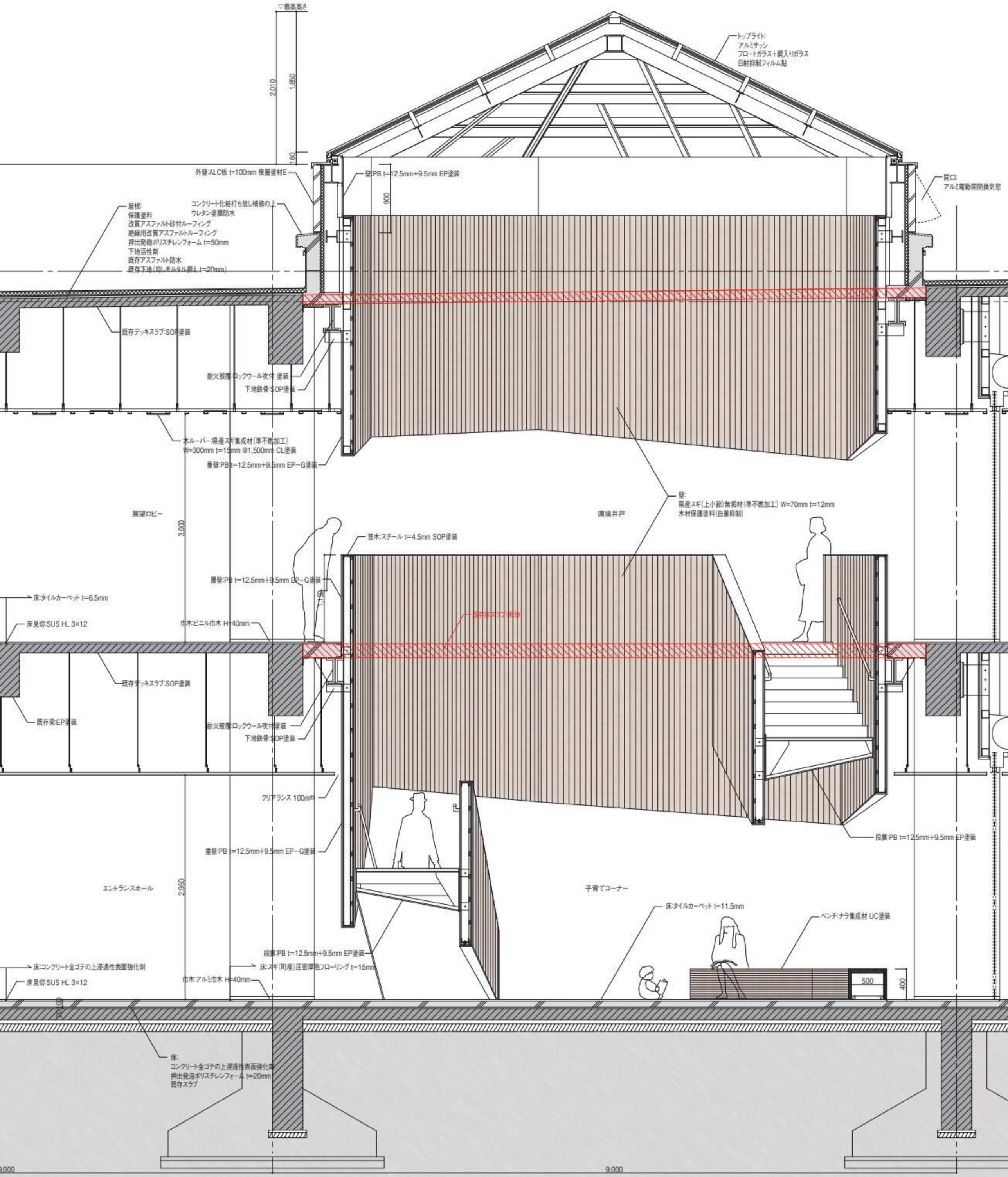
「垂井らしさ」をつくる

商業施設の閉鎖的な内部環境を改善するため，4カ所にトップライト付きの吹き抜け空間「環境井戸」を貫入し，自然採光・自然換気を促進させている．内装に地場産木材を用いた温かみのある空間の下に交流や憩いのスペースを配置することで，環境井戸が町の名泉のような潤いをもたらし，交流やにぎわいを生むことを意図した．また，南側の国道沿いには，既存建物とは構造を切り離した鉄骨造2階建てのホール棟を新設し，1階に垂井ホール，2階に重要設備を集約配置した．外観は，既製のアルミ形材をランダムに配置し「水のゆらぎ」を表現したファサードとすることで，「垂井らしさ」を発信している．

循環型社会を象徴するコンバージョンにより，低コストで「垂井らしさ」を実現した本計画は，ゼロカーボン時代に向けた，庁舎整備の新しいあり方だと言える．　（永廣正邦＋日比淳＋森一広／梓設計）



部分断面詳細　縮尺1/60


▽最高高さ
2,010
1,850
160
トップライト:
アルミサッシ
フロートガラス+網入りガラス
日射抑制フィルム貼
外壁:ALC板 t=100mm 複層塗材E
壁:PB t=12.5mm+9.5mm EP塗装
900
開口:
アルミ電動開閉換気窓
屋根:
保護塗料
改質アスファルト砂付ルーフィング
絶縁用改質アスファルトルーフィング
押出発泡ポリスチレンフォーム t=50mm
下地活性剤
既存アスファルト防水
既存下地(均しモルタル掻え t=20mm)
コンクリート化粧打ち放し補修の上
ウレタン塗膜防水
既存デッキスラブ:SOP塗装
耐火被覆:ロックウール吹付 塗装
下地鉄骨:SOP塗装
木ルーバー:県産スギ集成材(準不燃加工)
W=300mm t=15mm @1,500mm CL塗装
垂壁:PB t=12.5mm+9.5mm EP−G塗装
展望ロビー
3,000
壁:
県産スギ(上小節)無垢材(準不燃加工) W=70mm t=12mm
木材保護塗料(白華抑制)
環境井戸
笠木:スチール t=4.5mm SOP塗装
腰壁:PB t=12.5mm+9.5mm EP−G塗装
床:タイルカーペット t=6.5mm
床見切:SUS HL 3×12
巾木:ビニル巾木 H=40mm
段鼻:PB t=12.5mm+9.5mm EP塗装
既存デッキスラブ:SOP塗装
既存梁:EP塗装
耐火被覆:ロックウール吹付塗装
下地鉄骨:SOP塗装
クリアランス 100mm
垂壁:PB t=12.5mm+9.5mm EP−G塗装
段鼻:PB t=12.5mm+9.5mm EP塗装
エントランスホール
2,950
子育てコーナー
床:タイルカーペット t=11.5mm
ベンチ:ナラ集成材 UC塗装
500
400
床:コンクリート金ゴテの上浸透性表面強化剤
床見切:SUS HL 3×12
巾木:アルミ巾木 H=40mm
段鼻:PB t=12.5mm+9.5mm EP塗装
床:スギ(町産)圧密厚貼フローリング t=15mm
150
床:
コンクリート金ゴテの上浸透性表面強化剤
押出発泡ポリスチレンフォーム t=20mm
既存スラブ
9,000
9,000

栃木県総合運動公園東エリア

設計　梓設計・大成建設・安藤設計設計共同企業体

施工　大成・中村・渡辺特定建設企業体

所在地　栃木県宇都宮市

TOCHIGI SPORTS PARK EAST AREA

architects: AZUSA SEKKEI, TAISEI DESIGN PLANNERS ARCHITECTS & ENGINEERS, ANDO ARCHITECTUAL DESIGN OFFICE



南西側のメインアプローチ部外観．栃木県が進める宇都宮市の栃木県総合運動公園と隣接する元競馬場や元栃木県警察機動センターなどの跡地を活用した「総合スポーツゾーン」整備の1プロジェクト．もともと栃木県警察機動センターが建っていた敷地に，PFI事業として体育館と屋内水泳場を備えた施設を計画．「GREENa とちぎ」をコンセプトに運動公園から連続した「交流の丘」を設け，3つの機能を繋いでいる．公園中央エリアと繋がる歩行者用地下通路から2階マロニエテラスまで，2層分の高さを自然豊かな緩やかな「交流の丘」で構成している．

マロニエテラスへと繋がる交流の丘の外部階段を見る．手前のサブアリーナはガラス越しに天井の日光スギの格子状の仕上げが見える．

メインアリーナと屋内水泳場を繋ぐ大庇．日光スギのルーバーを活用した温かみのある空間とした．ルーバーは1/fの揺らぎを生成するアルゴリズムをDynamoにより作成し検討した．

大谷石採掘場をモチーフとした外壁．日光スギ板型枠を用いたPC版と，石塊を削り出すイメージとして掘り込んだ部分に大谷石を用いている．

まちに開かれた新たな居場所「交流の丘」

2022年に開催される栃木国体のためのアリーナと屋内水泳場を新たに整備するPFI事業である．敷地は栃木県総合運動公園の東端に位置し，住宅地が近接している．公園全体の繋がり，まちに開かれたスポーツを核とした新たな交流拠点づくりを目指した．

公園中央エリアとの接点である地下通路のレベルまで地盤を掘り下げ，2階マロニエテラスまでを緩やかに繋ぐ「交流の丘」をつくり，公園としての一体性を確保した．メインアリーナ・サブアリーナ・屋内水泳場の3棟は「交流の丘」を中心に配置し，誰もが日常的に立ち寄りやすい施設を実現している．また，各空間はガラス張りで大きく開くことで，多様な活動を発信するスポーツギャラリーとして，にぎわいある風景をつくり出している．

大谷石採掘場を想起させる石塊の表現

3棟ボリュームから構成される外観は，大谷石採掘場をイメージした石塊の表現とした．外壁は，日光スギ板型枠のPC版により石塊の力強さを表出している．さらに石塊を削り出したリアリティを追求し，彫り込んだ部分には，実際に大谷石を使用することで栃木らしさを発信している．

栃木の魅力を繋ぐ新たなスポーツ交流拠点

3棟を繋ぐ1階メインコリドーは，スポーツ施設としての躍動感や力強い外観からの連続性を意識した．伝統的な鹿沼組子の幾何学模様をもとに，照明と床面サインを斜めのライン状に設け，スポーツ施設らしい動きのあるデザインとした．壁面のコンクリートは一部ウォータージェットで削り出すことで，外観の石塊と調和する力強い表情を醸し出している．

利用者のアクティビティが集中する箇所に大谷石・芦野石・日光スギなどの多様な県産材をちりばめ，栃木県の魅力を広く発信している．この施設が地域の魅力を育み，多様な楽しみを提供する場として，新たな県民の居場所・スポーツ交流拠点となることを期待する．

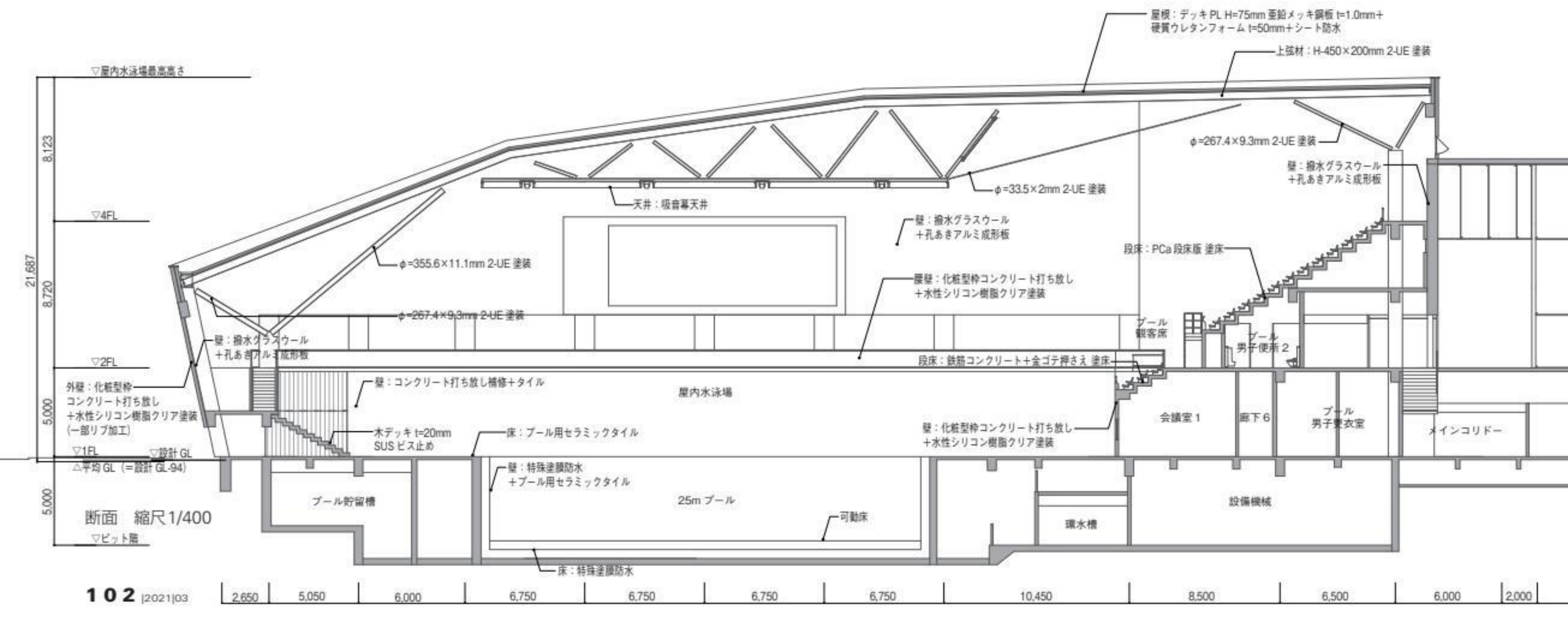
（永廣正邦／梓設計＋川野久雄／大成建設）

外観夕景.

メインアリーナ用ホワイエ．マロニエテラスから出入り可能で，アリーナが見通せる．

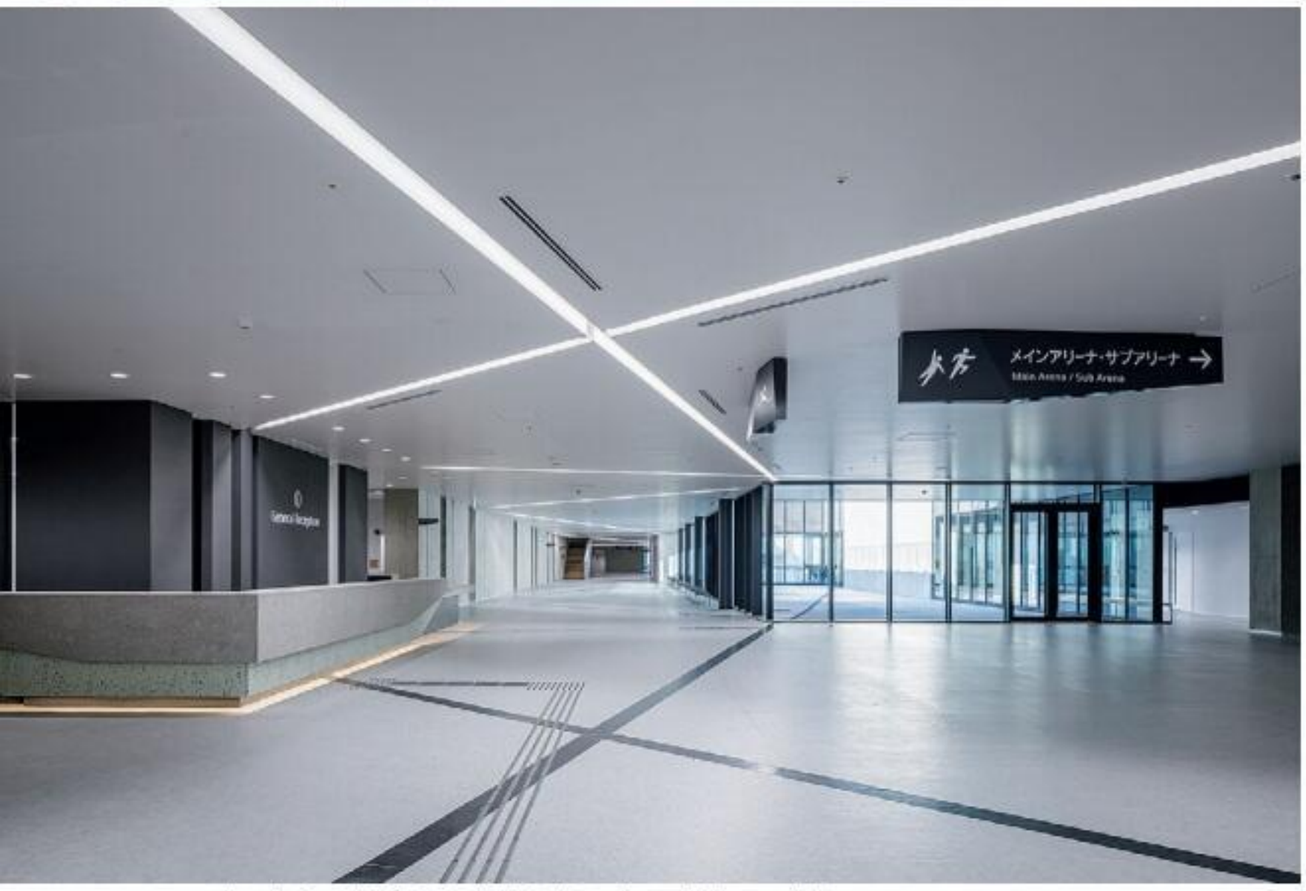


断面　縮尺1/1,000

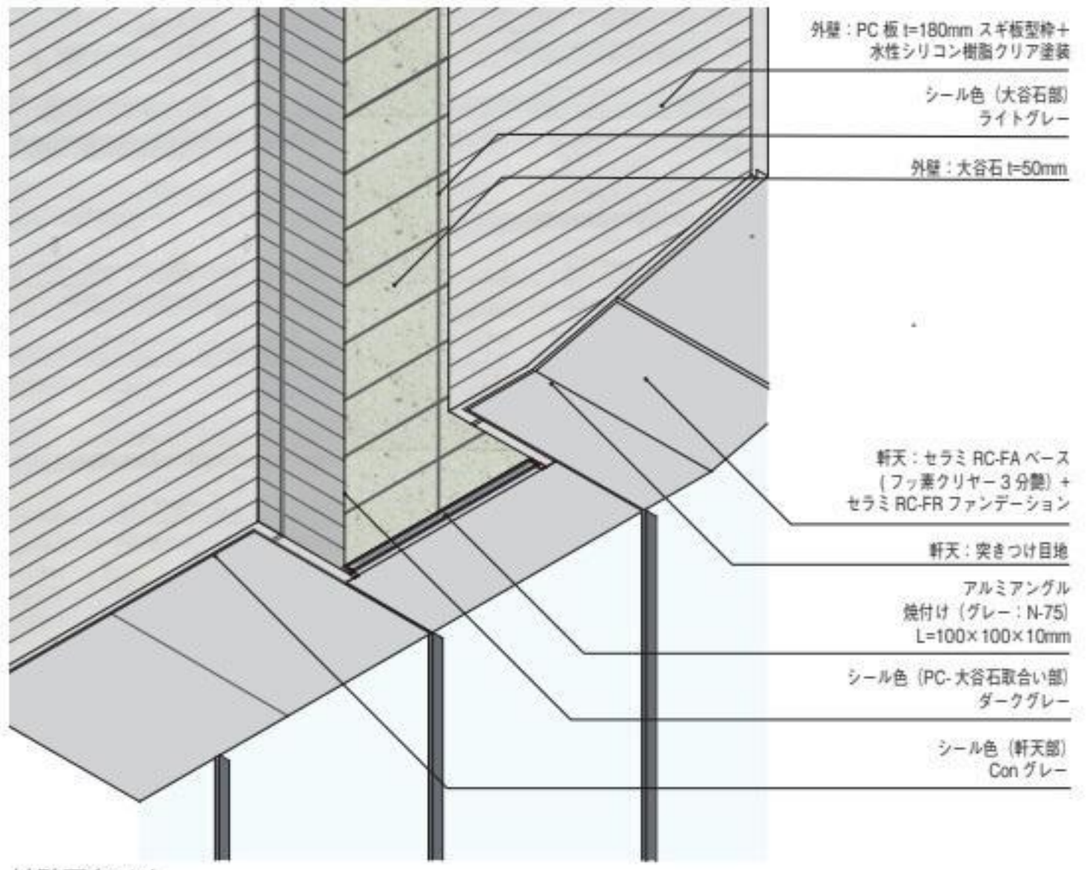


断面　縮尺1/400





上：メイン・サブアリーナ間のホワイエ．壁はコンクリート打ち放しとし，帯状にウォータージェット加工を施している．下：1階エントランスからメインコリドーを見る．



外壁アクソメ

大谷石採掘場を具現化する素材とディテール

栃木を象徴する大谷石採掘場のイメージを具現化するため，石塊としてのテクスチャーやエッジ部の処理など，入念にディテールを検証した．PC版は化粧型枠ではなく，日光スギから転写した樹脂型枠を用いることで有機的な表情を創出している．外壁頂部や下端は金属見切りを用いない納まりとし，軒天は風合いある特殊塗装を施すことで，質感や塊感を持ったデザインを追求した．彫り込んだ凹部には中目・ダイヤ挽きの大谷石を使用しているが，中高層の外壁使用は全国的にも例がないため，耐久性確保と脱落防止のための表面保護・裏面処理・工法について，実験と検討を重ねた上で決定した．施工段階においては，5m×5mの実寸大モックアップを製作し，細部にわたるまで入念に確認を行い，栃木の新たなシンボルとしてふさわしいファサードを実現した．

（日比淳／梓設計＋飯田雄介／大成建設）

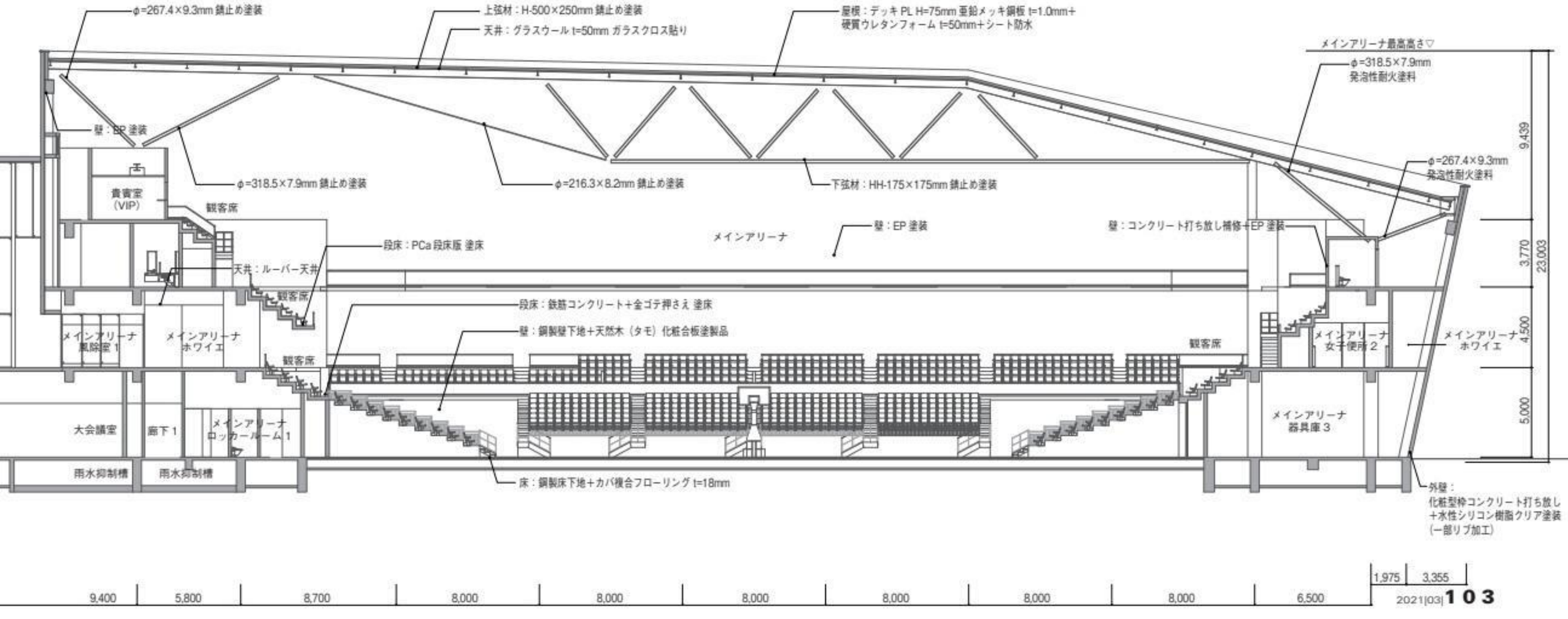
設計　梓設計・大成建設・安藤設計設計共同企業体
施工　大成・中村・渡辺特定建設企業体
敷地面積　66,151.85m²
建築面積　24,898.57m²
延床面積　38,524.27m²
階数　地上4階
構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
工期　2018年6月～2021年1月
撮影　新建築社写真部
（データシート177頁）



屋内水泳場．



サブアリーナ．

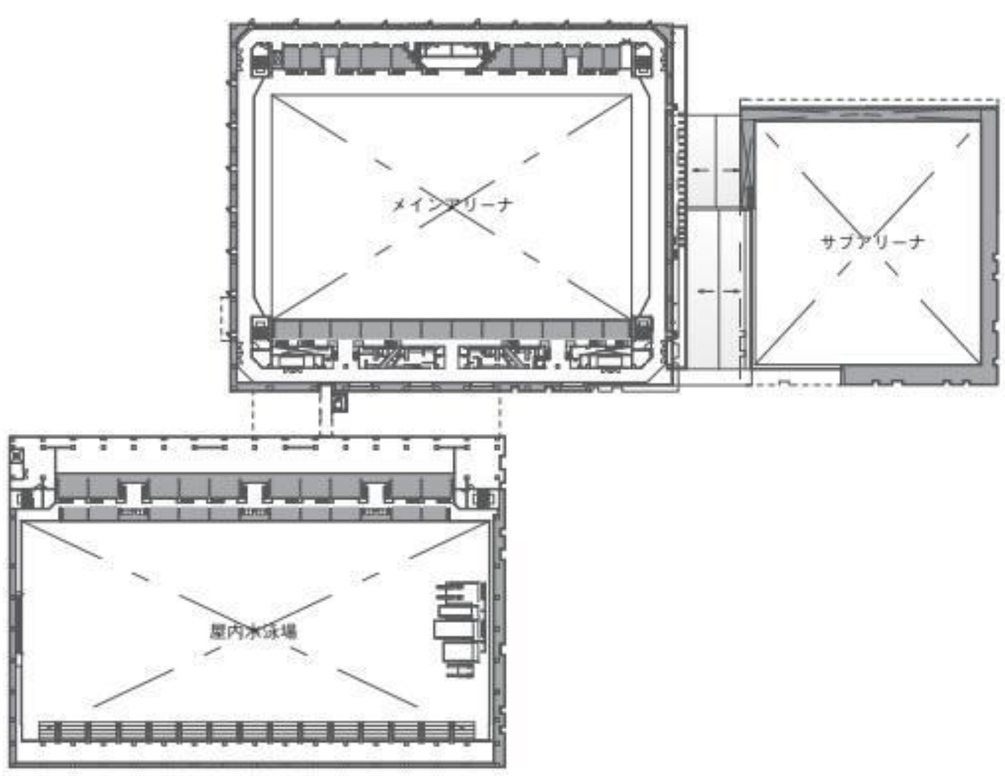




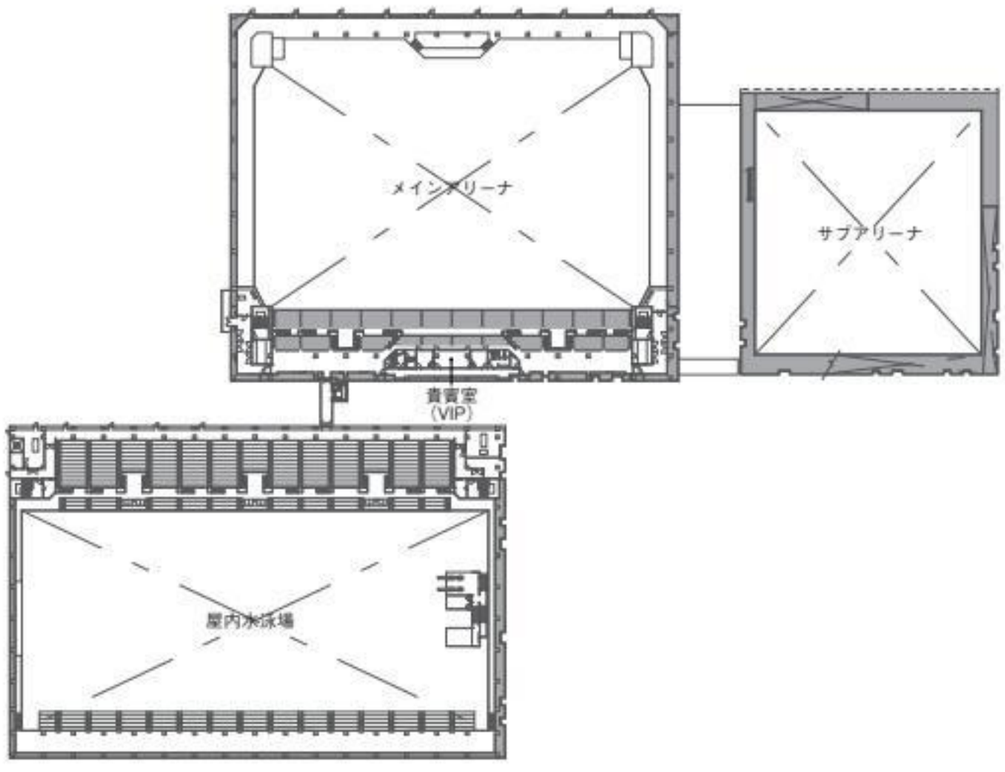
マロニエテラスから見る．マロニエテラスには芦野石と植物マットによるベンチを設置し，憩いの場として計画した．左はメインアリーナ，右はサブアリーナ．



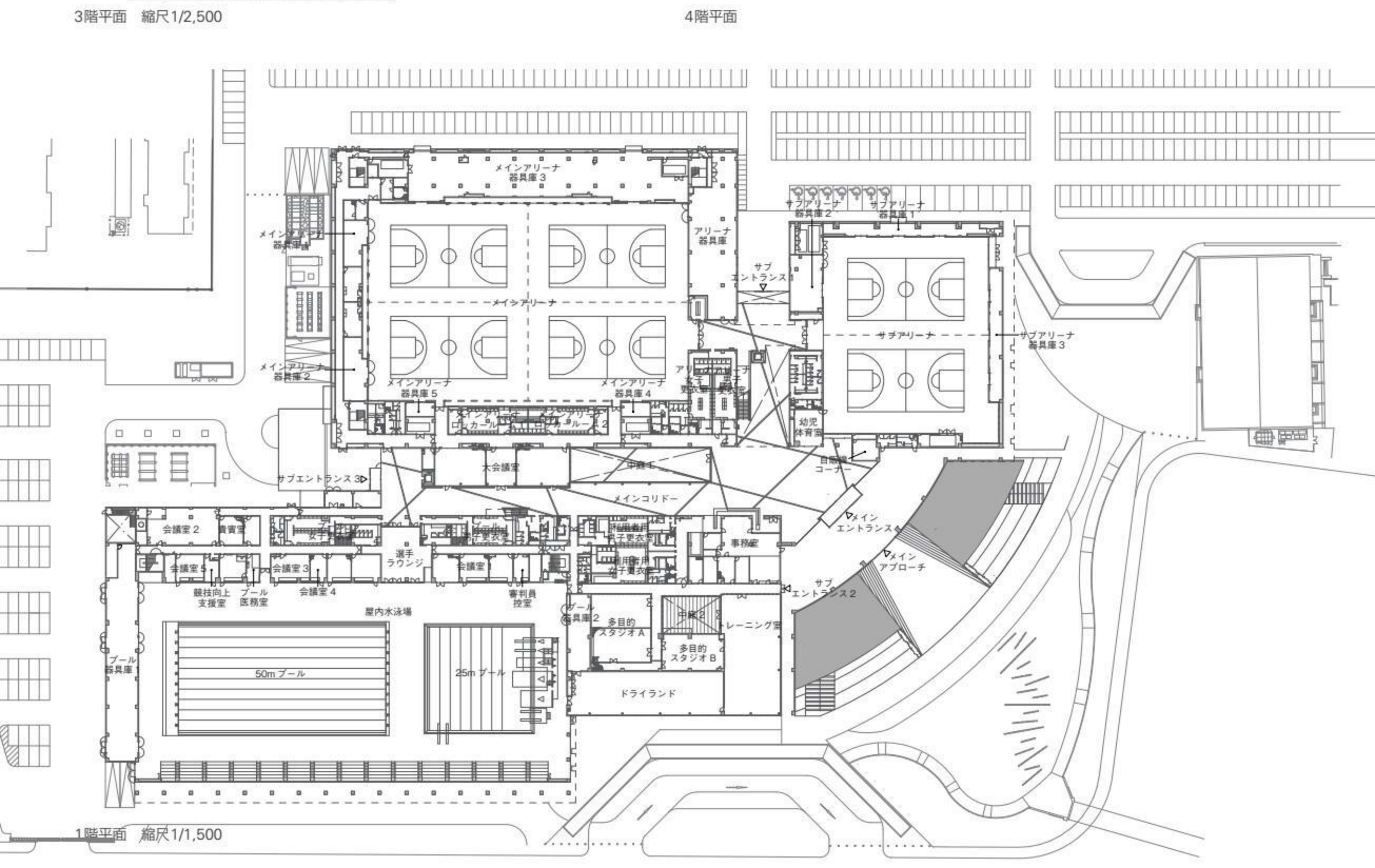
マロニエテラスから西を望む．右奥は屋内水泳場．



3階平面　縮尺1/2,500



4階平面



1階平面　縮尺1/1,500

栃木県総合スポーツゾーン

栃木県では，「県民に愛され，県民が誇れる，県民総スポーツの推進拠点」として，2022年に開催予定のいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会にも使用される総合スポーツゾーンの整備を進めてきた．公園全体のゾーニングは，カンセキスタジアムとちぎがある北エリア，野球場・武道館がある中央エリア，アリーナ・屋内水泳場がある東エリアの3ゾーンから構成される．今回整備された東エリアは，「"とちぎ"を表現」「"百年"愛される」「主役は"ひと"」という3つのコンセプトをもとに，県民がスポーツを楽しめる拠点づくりを実践している．（栃木県）

広域配置　縮尺1/8,000

配置兼2階平面図　縮尺1/2,000

北東角より見る．写真左に大名小路，百尺規制（高さ31m以下），容積率1,000％以下が定められていた時代のヴォリュームからなる．北面（写真右）は約200m．各面が接する通りの持つ要素に対応したモチーフのフレームで外壁を覆い，スケールを街並みに揃えた．既存不適格（地区計画の壁面後退）の外壁ラインを越えない制限の中で，既存ビルのアウトフレームによる柱梁架構を活かした，影の深い窓開口を強調する外装デザインとした．

大手町ビル・リノベーション

設計　**三菱地所設計／飯沼安裕＋荒井拓州**
メック・デザイン・インターナショナル／三田高章＋小田代美月（共用部内装デザイン）
施工　大成建設・東光電気工事・第一工業・斎久工業
所在地　東京都千代田区
RENOVATION OF OTEMACHI BUILDING
architects: MITSUBISHI JISHO SEKKEI ／ MEC DESIGN INTERNATIONAL



北面外観．写真左にアルミパネル，右に日比谷通りが面する和田倉濠など皇居の石垣の表情に合わせた石垣調GRCパネル．Low-E複層ガラスによる新設サッシ開口の手前に日射フレームを設けることで，外皮の環境性能を高めた．

北西側1階にはコワーキングスペースが入る.
外周部の柱（石張り）の中央部に溝を切り，表情を付けた.

南側．丸の内仲通りの突き当たり．1階壁面をガラス張り，上階をガラスカーテンウォールとし，建物の先にも伸びる仲通りの連続性をつくる.
7階共用部にはテラスを設置．左右は色調の異なるアルミパネル.

6階廊下見通し．左はオープンイノベーションのためのコラボレーションスペース「Inspired.Lab」（設計：オカムラ）のカフェテリア．各オフィスの入口扉回りは新たに照明やサインを設置．

仲通りから通じる中央部吹き抜け．床は丸の内仲通り等で用いられているアルゼンチン斑岩敷き．天井はブラックアウトさせ，既存のトラバーチンの壁面が映えるデザインとした．

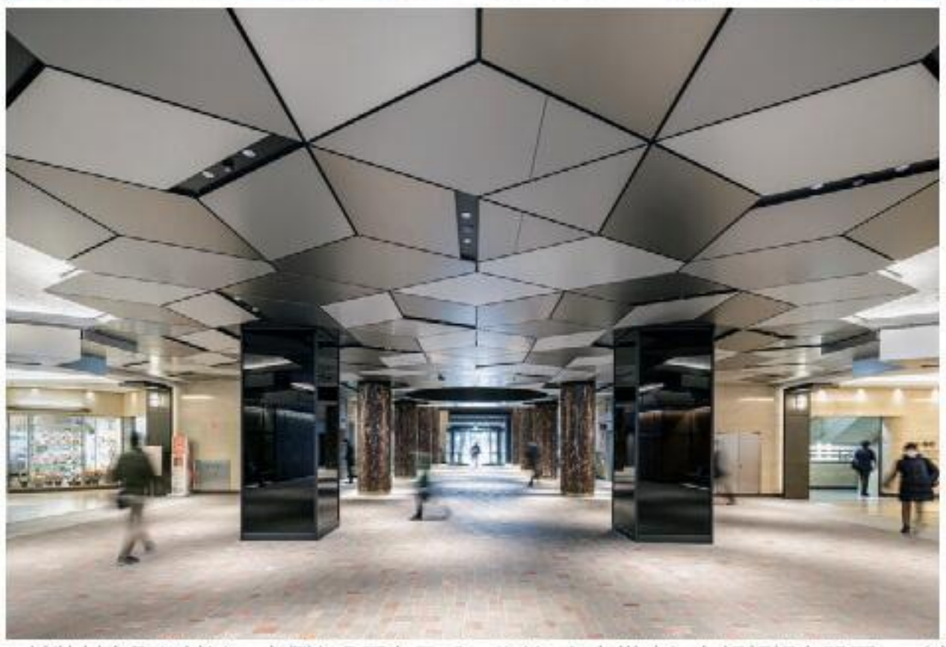
大名小路沿いの通り抜け．柱および外壁は東京駅舎や三菱一号館の煉瓦などに対応した煉瓦タイル張り．既存軒天井を撤去し，間接照明によって，天井が高く感じられるようにした．













左上：開口部近景．外側からアルミサッシ，外装材を取り付け，内側から既存スチールサッシを撤去し内部額縁を設置．／中上：新たに設けたテラスから仲通りを見下ろす．／右上：「Inspired. Lab」にある工房（正面），デザインシンキングスペース（右）．（共に設計：オカムラ）．大企業とベンチャー企業が同居するイノベーションスペース．大手町ビルには，フィンテック拠点「FINOLAB」も入居する．／左下：1階店舗エリア．L型ゲートとブラケット照明で200mのロングスパン通路にリズムを持たせた．／中下：建物中央部1階から仲通り方向を見る．／右下：各階のエレベータホールは天井や照明を変更．

100年建築をめざして

1958年竣工の大手町ビルのリノベーションである．数多くの企業が集積している大手町に，フィンテック関連やベンチャー，スタートアップ企業を新たに誘致し，大手企業とスタートアップが協業する拠点を整備すれば新たなビジネスチャンスを創造することができる．

大手町ビルは，当時の法的・技術的制約により，低層（地上9階）で，柱が多く，長い廊下形式である．これが，今日的には20坪単位で仕切れる小割りオフィスに適していると言えることから，建て替えではなく，ストック価値を活かした全面的なリノベーションを行い，成長企業を誘致することとなった．

戦後復興期に建設された当初は東洋一の規模と言われたこの巨大なビルも，今では周囲に林立する超高層ビルの谷間に埋もれている．一方で200mに及ぶ東西に長い建物形状から，大名小路／丸の内仲通り／日比谷通りの3つの南北方向の通りに接するという，周辺ビルにはない特徴を持つ．そこで外装改修にあたっては，周辺環境との関係性を尊重しながら，全体を緩やかに統合できないかと考えた．

水平垂直に組まれたフレームで覆い統一感を持たせつつ，大名小路には煉瓦タイル，日比谷通りには皇居石垣をモチーフとして埋め込むことで，接する通りの風景を形づくることを意図した．中央部は，透明なカーテンウォールと仲通りの路面と同じ床仕上げとし，有楽町・丸の内エリアからの街の繋がりを，建物を貫いて延伸させている．個々の環境に応答して体色変化し，その身を委ねることで，周辺環境との親和性を大切にし，都市風景を顕在化する街並みのような建築となった．

2021年3月，大規模なリノベーションはひととおりの完成を迎えた．時代に合わないから壊して新しいものに取り替えるのではなく，場所性と時間性を包含しながら時代の変化に並走して建築のあり方をハード・ソフトとも軽やかにアップデートしていく．今後は屋上空間をワークプレイスとして活用する計画も控えている．100年建築に向かって，大手町ビルは時を歩み続ける．

（飯沼安裕＋荒井拓州／三菱地所設計）

設計・監理　三菱地所設計
　　メック・デザイン・インターナショナル
施工　大成建設　東光電気工事　第一工業　斎久工業
敷地面積　10,496.03m²
建築面積　10,082.64m²
延床面積　111,272.72m²
階数　地下3階　地上9階　塔屋2階
構造　鉄骨鉄筋コンクリート造
工期　2018年5月～2020年12月
撮影　新建築社写真部（特記除く）
*撮影　黒住直臣
（データシート178頁）



改修前の大手町ビルを東側より俯瞰（2017年撮影）．今後，屋上空間も改修予定．*

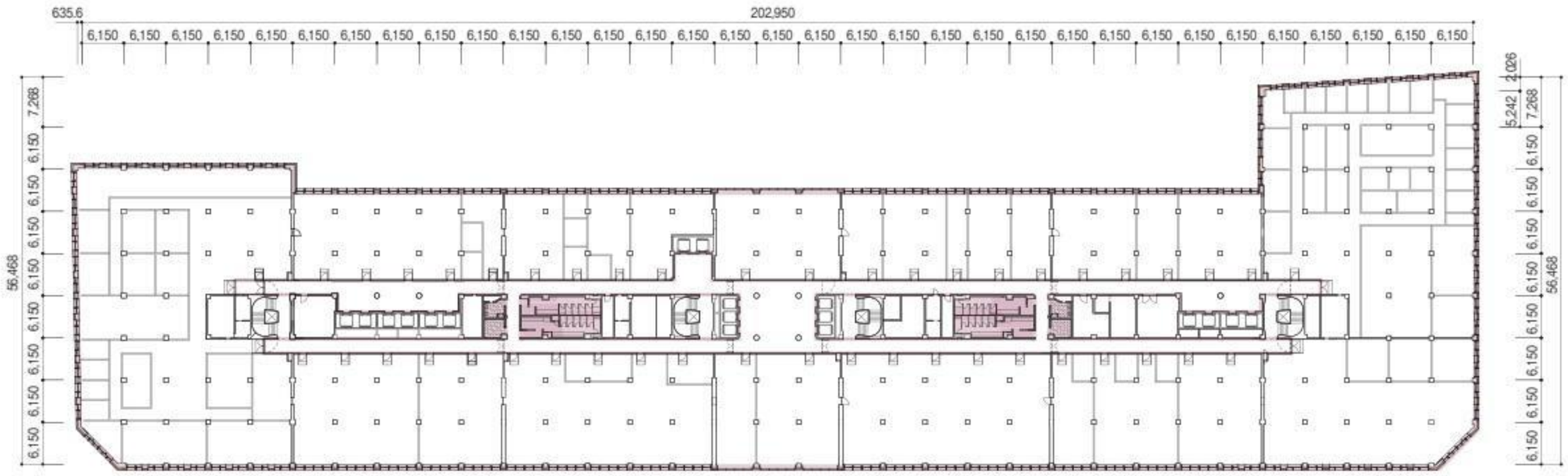


丸の内仲通りより見る．中央に「大手町の森」，右に「大手町タワー」（本誌1407）．*

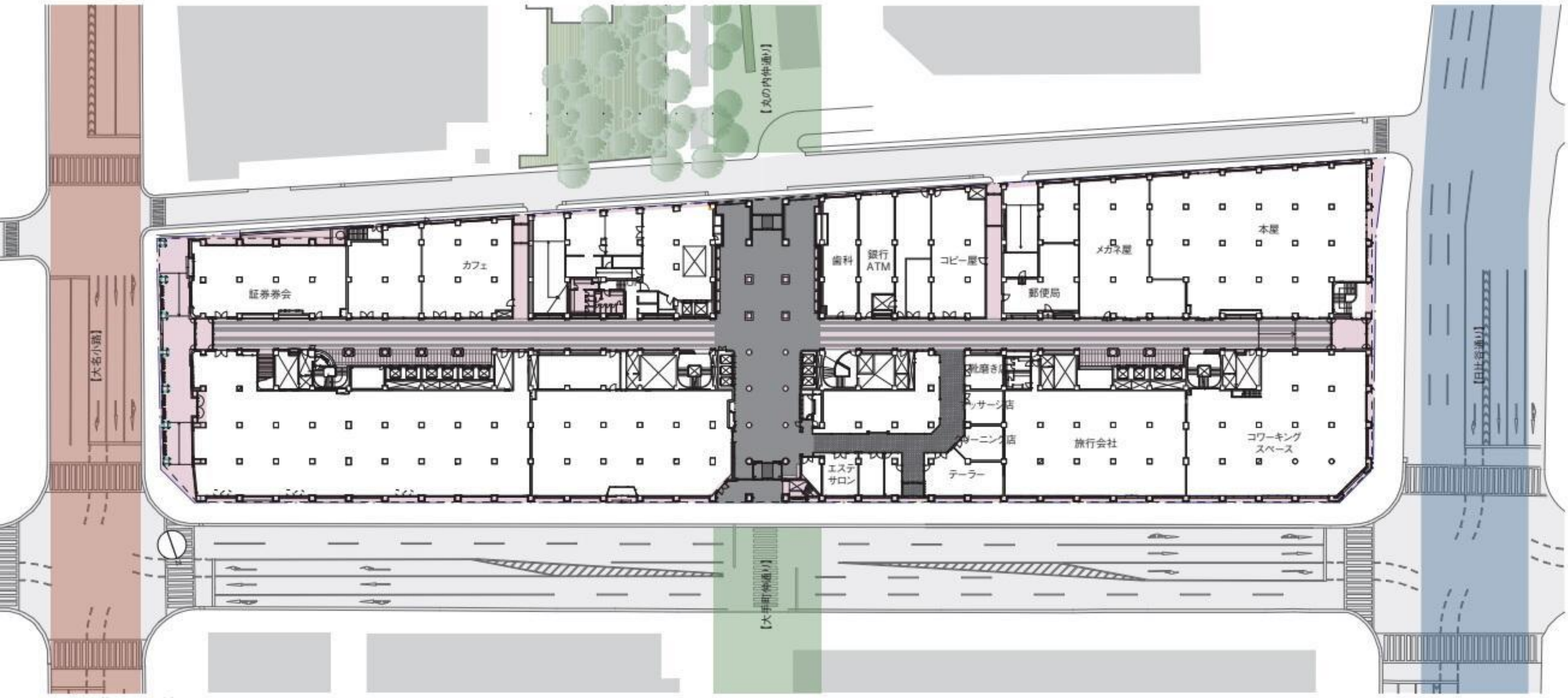


提供／三菱地所設計

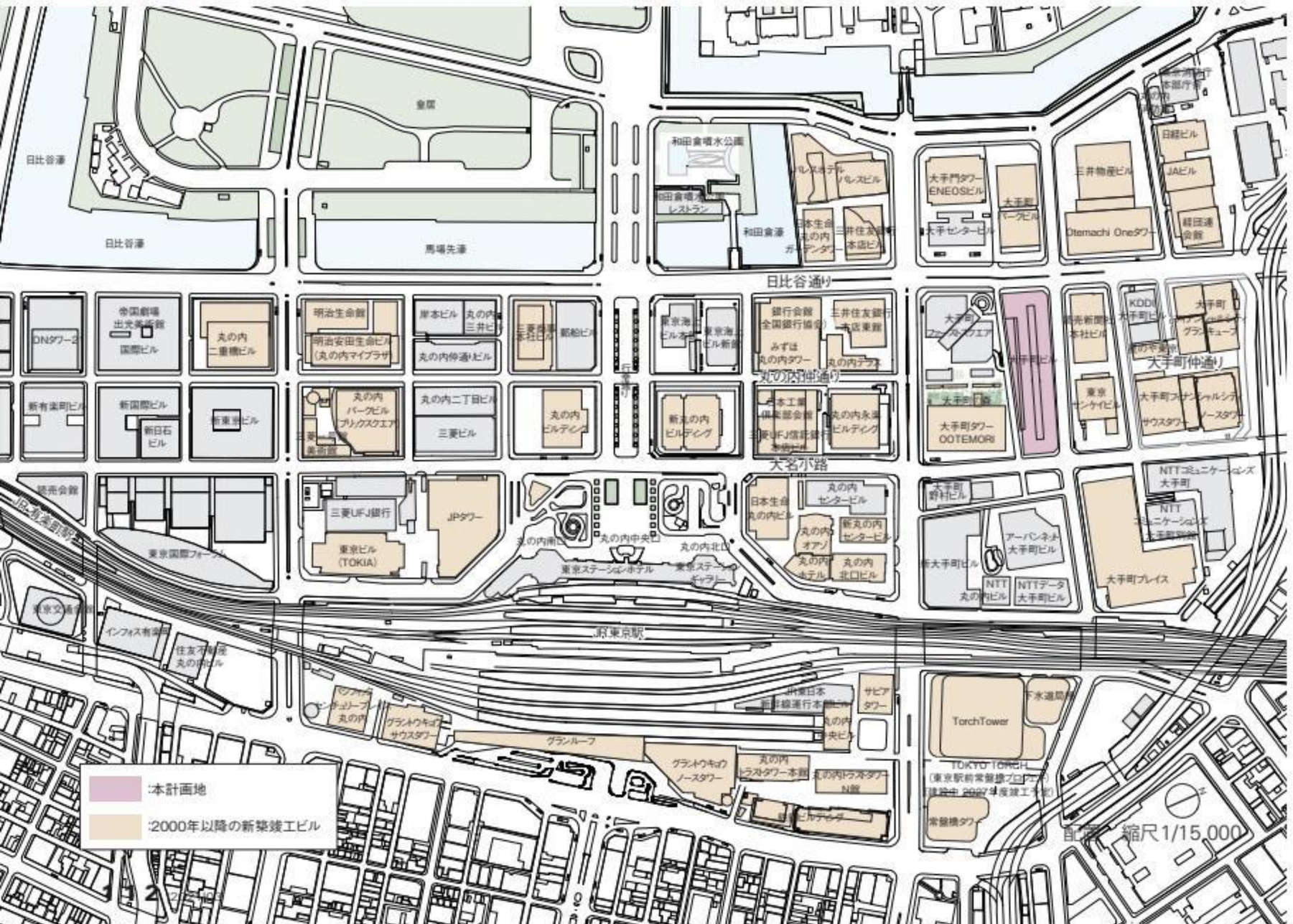
計画中の屋上ワークプレイス．



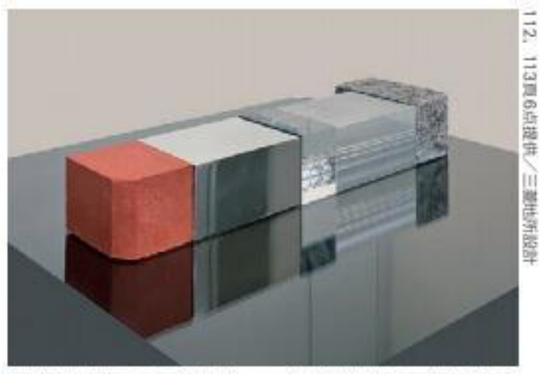
基準階平面
小割りオフィスにも対応可能な平面となっている（区割は想定）



1階平面　縮尺1/1,200
（平面のピンクの面は改修エリア）



配置　縮尺1/15,000

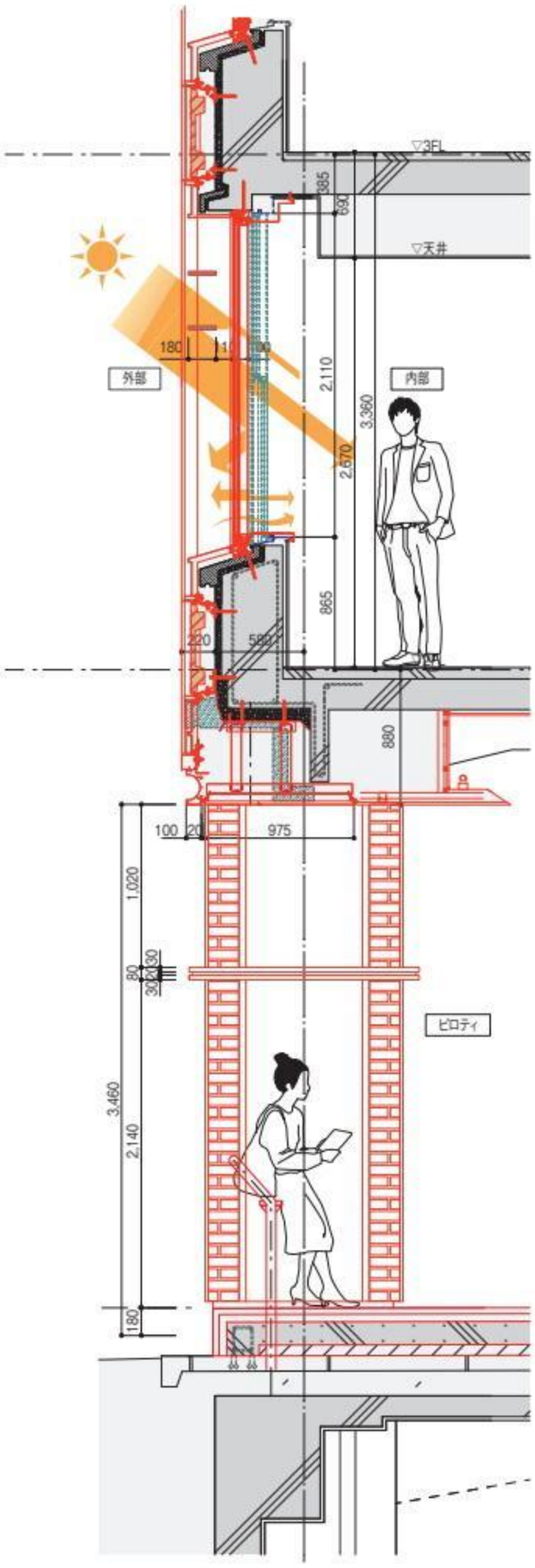


外装素材でのヴォリューム分節を示す模型.

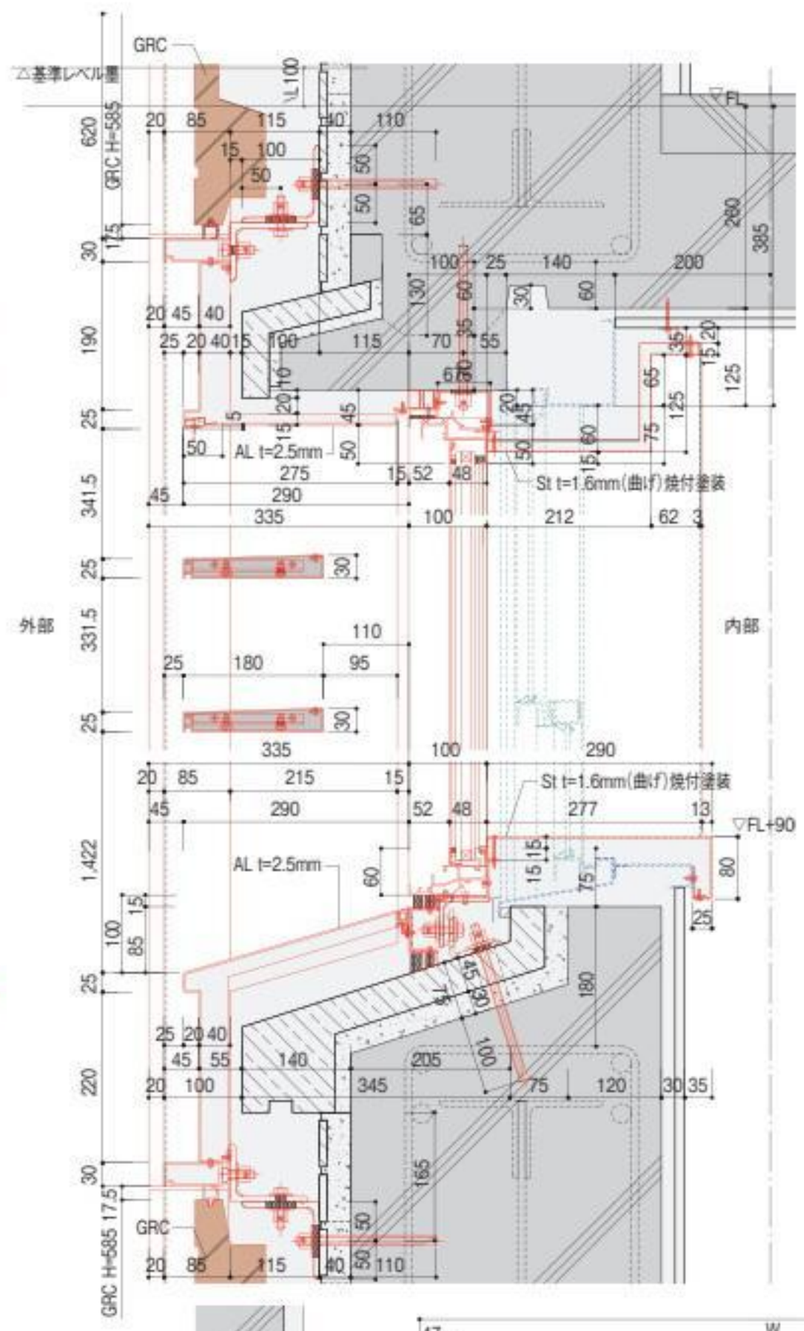


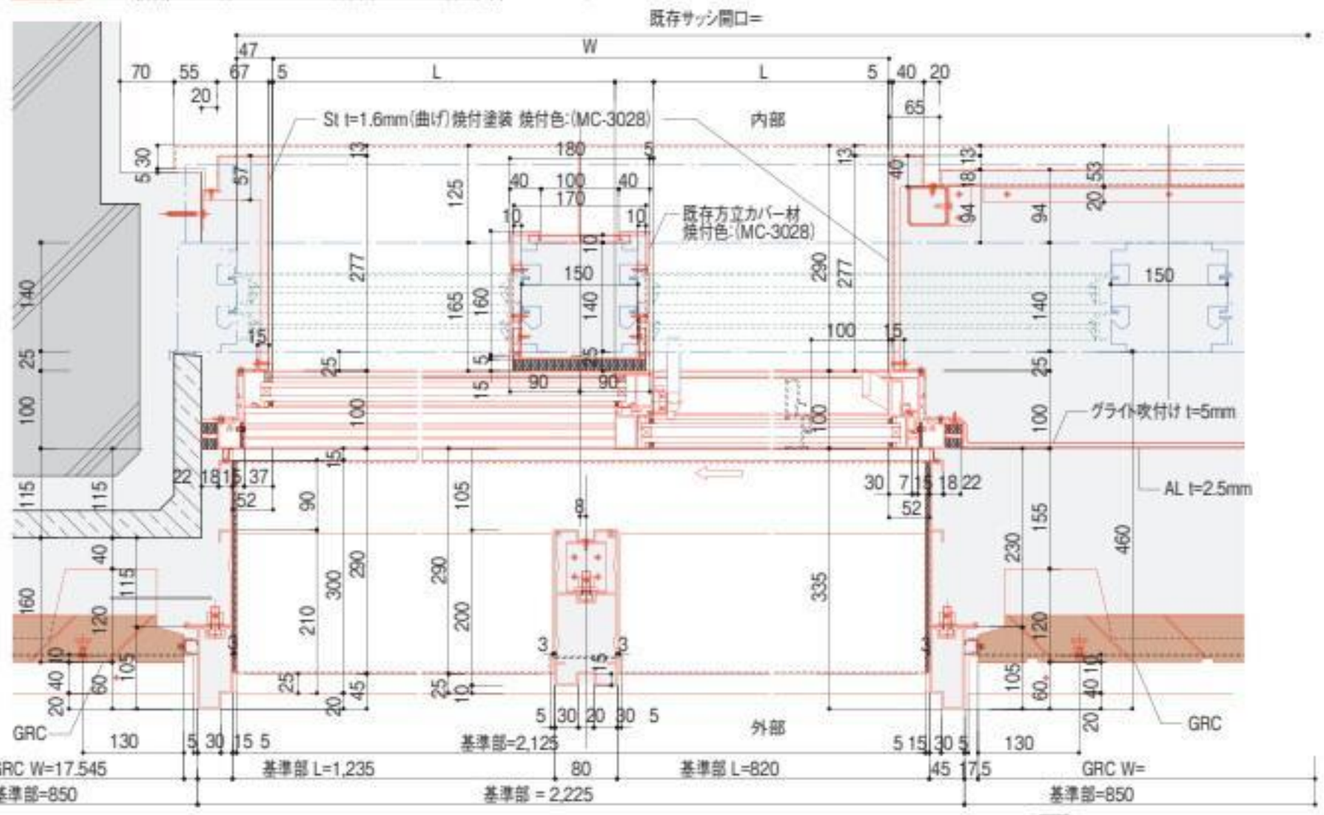


上：GRC製作風景．GRCパネルの厚みは60～75mm．下：煉瓦タイルのゴム型.



部分断面（東側隅角部）　縮尺1/60

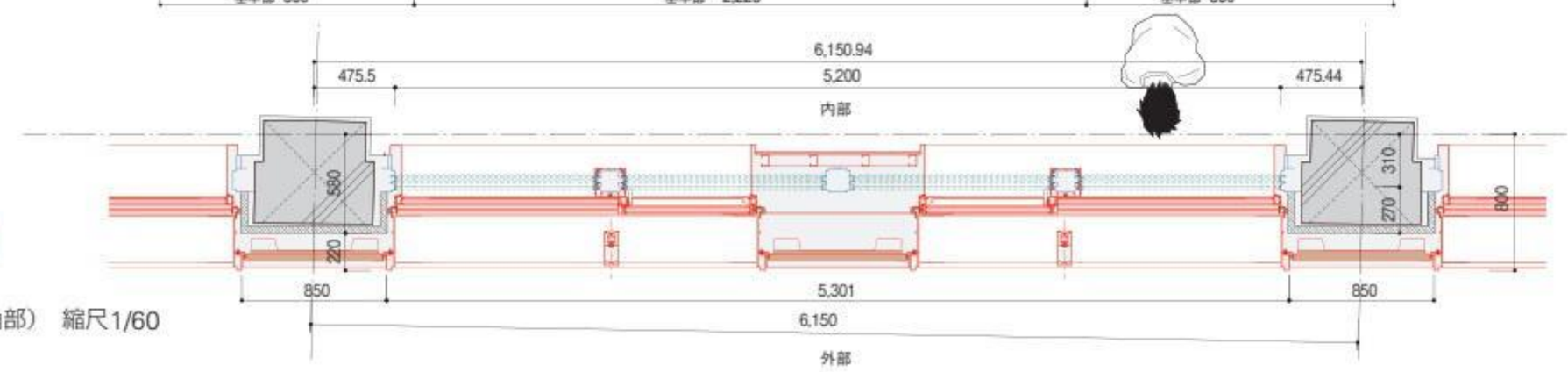




凡例

撤去　残置　新設

部分平面（東側隅角部）　縮尺1/60





左上：外側から新設サッシを取り付けた後にフレームを施工する状態．この後，内側から既存スチールサッシを撤去．左下：フレーム取り付け中の見下ろし．足場と既存外壁のわずかな隙間でGRCパネル等の外装取付工事を行った．右：左が改修後，右が改修前の外装．



断面　縮尺1/800

外装改修における構法

今回のリノベーションはテナントが入居したままの工事，いわゆる「居ながら工事」だ．

窓を塞ぐ仮囲いの期間をできるだけ短くするため，外装全体を細かく工区割するのだが，テナント貸室内へ入室して工事することは想像以上にハードルが高い．というよりも，テナント都合で入室工事のタイミングを変更することが多々生じ，こちらの思い描いたとおりには工事が進まないのだ．そこで外側からの工事と内側からの工事を切り離し，それぞれを独立して行えるようにした．

外側からはアルミサッシを新設して既存石笠木・躯体との間に止水ラインを構築し，水平垂直に組まれたフレーム，GRCパネル，焼付印刷パネルといった外装取付工事を行う．フレーム同士は接合部で10 ～ 25mmの微妙な勝ち負けをつくり，それらが幾重にも重なり合うことで陰影を生み，既存外壁から敷地境界までの限られた290mmの隙間に新たに奥行き感をもたらす．一方，内側からは竣工当時からの古くなったスチールサッシを撤去して，内部額縁を仕上げた．こうして外側では尺取虫のように仮設足場を動かしながら外装取付を進捗させつつ，テナントの要望に柔軟に対応しながら内部仕上を進めていった．建物全体を仮囲いで覆い，完成して初めてその姿を現す新築工事とは違い，少しずつ段階的にビルの様相を変容させていく改修工事は，その過程そのものが都市風景のリノベーションだと思えた．

（荒井拓州／三菱地所設計）

上：開口部断面詳細（東側隅角部）　縮尺1/15
下：開口部平面詳細（東側隅角部）　縮尺1/15

横浜市の沿岸工業地区に建つ，AGCのガラス製造拠点敷地内につくられた研究施設．旧京浜工場と中央研究所中央研究所（横浜市神奈川区）に分散していた基盤技術開発・新商品開発・プロセス開発・設備技術開発機能を集約・統合した．社内外の人びとのコミュニケーションを促進させ，研究開発のスピードを上げるため，各フロアにはオープンエリアを設けている．

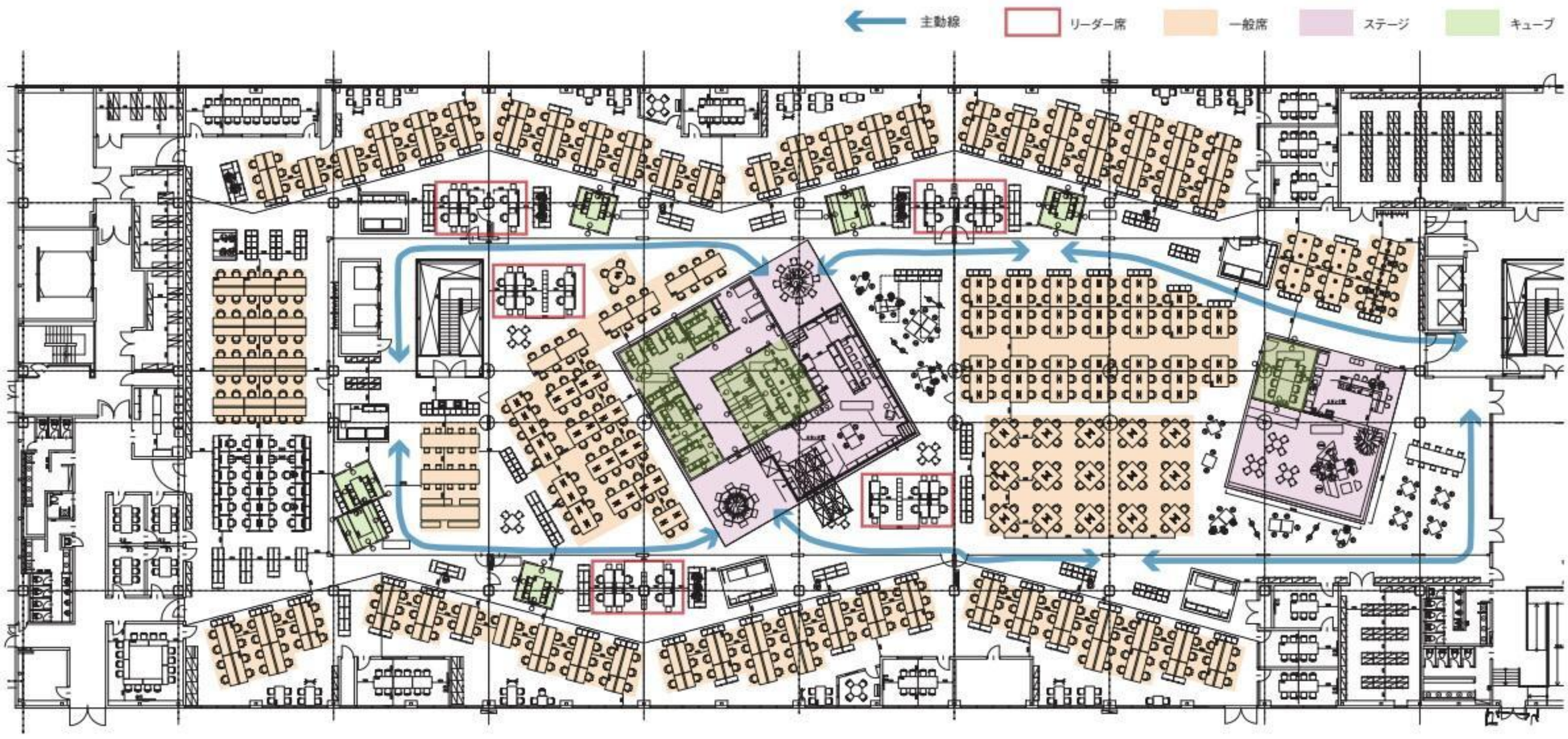
AGC横浜テクニカルセンター SE1

設計　**類設計室**（計画・基本設計）　**フジタ**（実施設計）
施工　フジタ

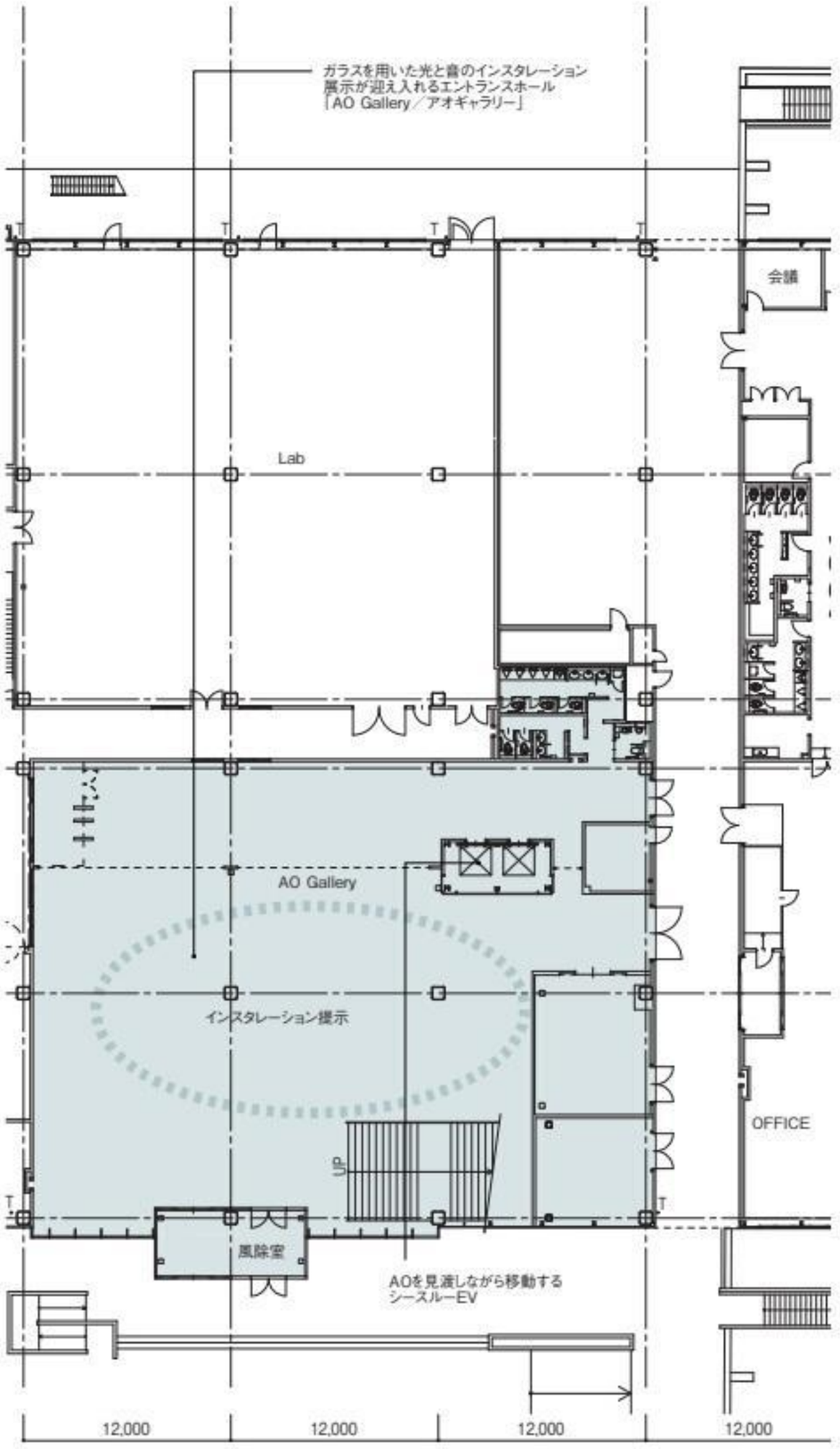
所在地　神奈川県横浜市鶴見区
AGC YOKOHAMA TECHNICAL CENTER
architects: RUI SEKKEISHITSU　FUJITA



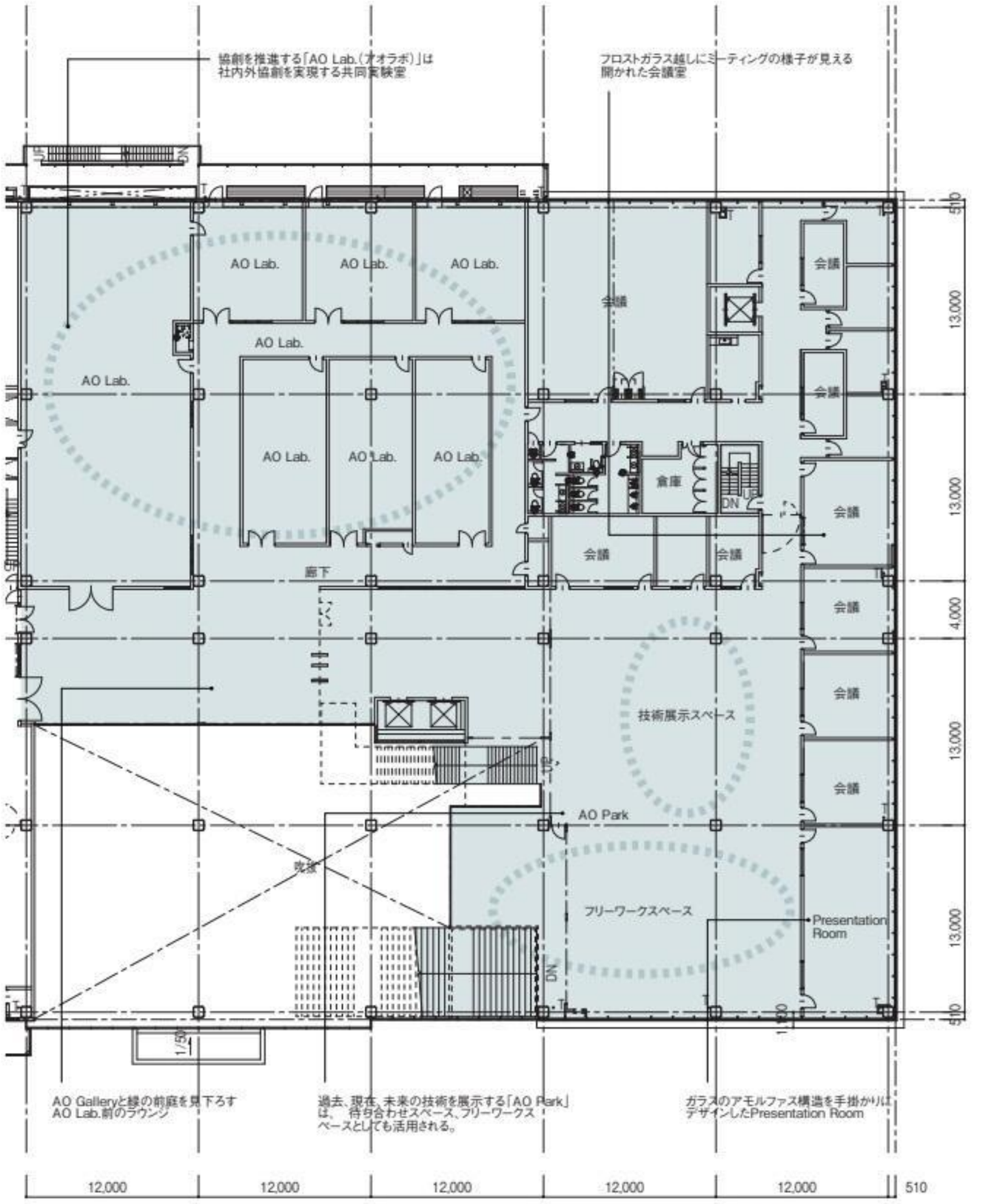
2階よりエントランスを見る．エントランスホールの天井高は18.3m，柱スパンは12m．東壁面には，高さ7.5mの大判Low-Eガラスを使用．フロートガラスリブの表面に施した溝にアルミホルダーを接合し，フェイスガラスを支持するディンプラス®工法を用いた．



4階オフィス平面　縮尺1/600



1階部分平面　縮尺1/600



2階部分平面

1階エントランスホール．3層の吹き抜けには，協創製作によるインスタレーションを展示する「AO Gallery」や社内外の協創を促進する研究室「AO Lab.」，待ち合わせスペース「AO Park」，社内外の利用ができる食堂・カフェ「AO cafe」が面する．

AO Gallery．天井は現しとすることで，空間の連続を表現した．

「ものづくりの熱量」があふれる協創拠点

本施設は，50年以上にわたりAGCグループの研究開発を支えてきた横浜市羽沢の中央研究所と，鶴見の旧京浜工場を統合した新たな研究開発拠点「AGC横浜テクニカルセンター（YTC）」の中核施設である．ガラス技術を核にイノベーションを起こしてきたAGCが，21世紀型の新事業を創出するために，研究開発体制のあり方から掘り下げ，ともに追求を重ねた．

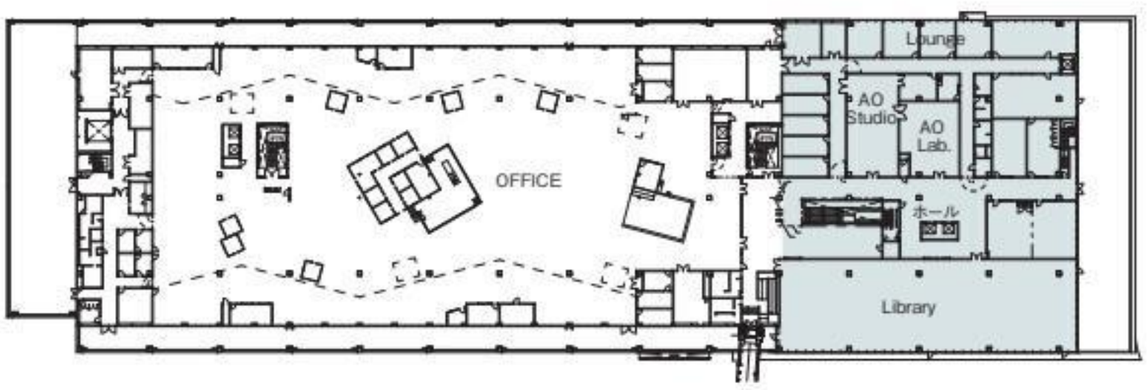
これまでの中央研究所モデルは，基礎研究から製造までを自社の各部門で完結することが多かったが，革新的技術の創造と開発スピードが求められる社会で，社内外の「協創」を核とした研究体制を強化．そのため，社会から離隔されていた研究所を大胆に開くとともに，新技術の開発空間を，クライアントや外部研究者，社員の目に触れるオープンエリアに配置し，変異を生み出すことを意図した．

全体ゾーニングは，社外との協創を推進する「AO（アオ／AGC OPEN SQUARE）」エリアと，社内協創エリア（オフィス・実験室）のふたつに分けられる．「AO」は，3層吹き抜けのボイドに沿って，「AO Gallery」「AO Park」と呼ばれるインスタレーションや技術展示が展開され，来訪者の反応を引き出す．複数階に配置された共同実験室「AO Lab.（アオラボ）」は，協創を推進する象徴として，際立った色彩を与えた．

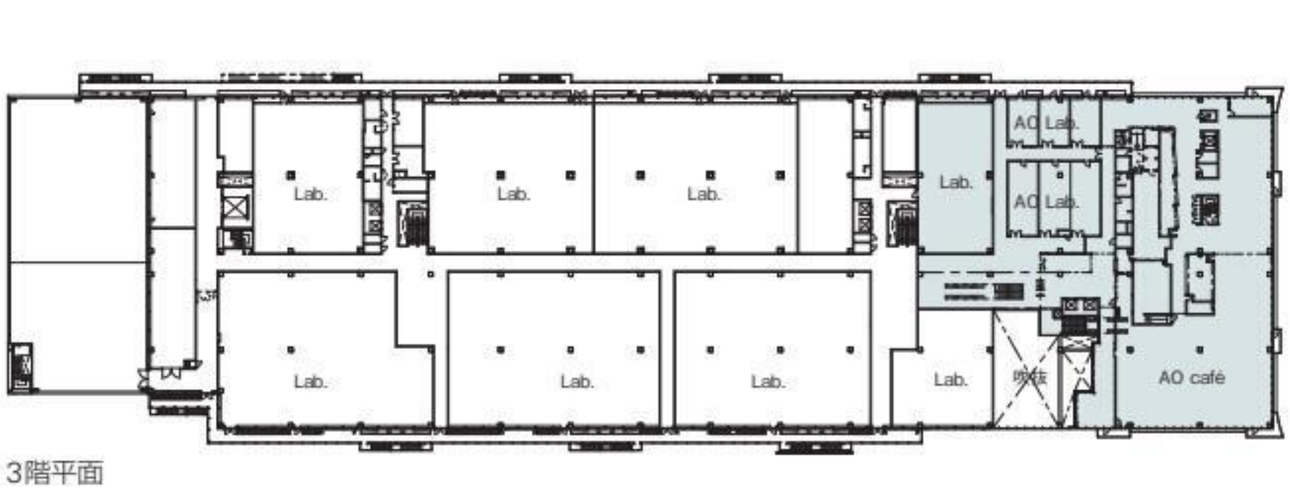
社内協創の中心は，最上階に配置されたワンルームのオフィスである．100×50mのメガオフィスは，ハイサイドから差し込む光で変化を生み出すとともに，ステージやキューブ等で空間を緩やかに分節することで，一体感の中に多様性を生み出している．デザインコンセプトは「Future Factory Lab」．試行錯誤で挑戦してきたAGCの「ものづくりの熱量」を継承するとともに，「AGCの次をつくる」未来感のある空間を目指した．美しく整った清廉な研究所よりも，ファクトリーのような荒々しい空間をつくり出したことが，その答えである．国内最大級のガラスで構成された外観は，AGCの熱量を来訪者に発信するとともに，変貌する京浜工業地帯のオープンイノベーションの象徴となる．

（新川啓一＋安藤太地／類設計室）

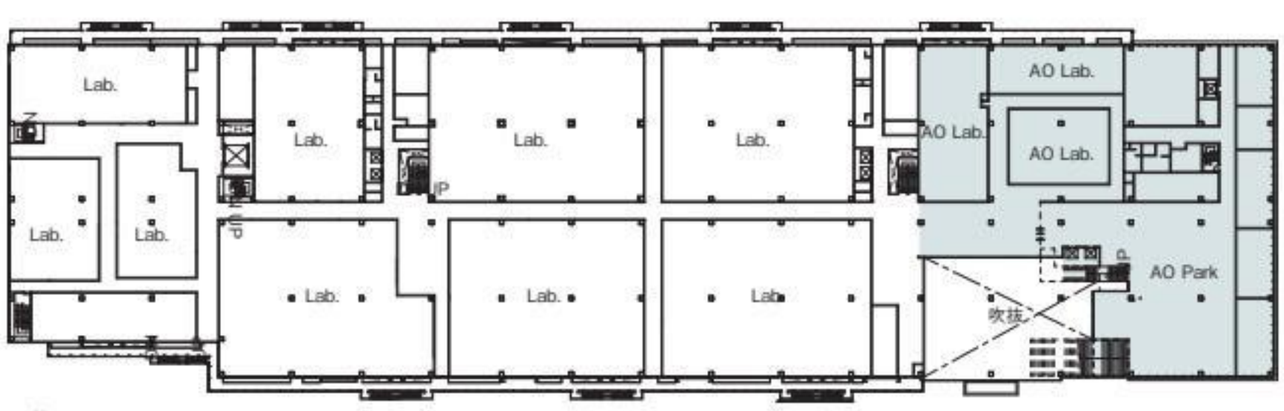
設計　類設計室（計画・基本設計）　フジタ（実施設計）
施工　フジタ
敷地面積　186,302.21m²
建築面積　12,899.92m²
延床面積　44,883.21m²
階数　地下1階　地上4階
構造　鉄骨造（基礎免震）
工期　2018年6月～2020年12月
撮影　新建築社写真部
（データシート180頁）



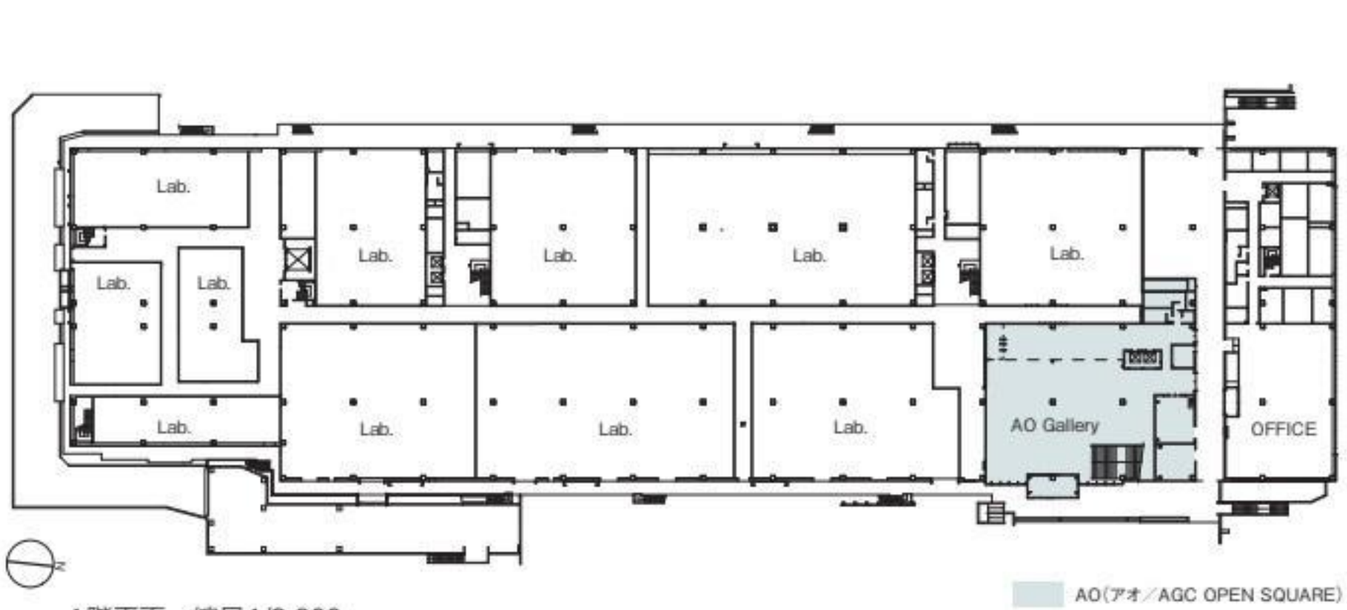
4階平面



3階平面

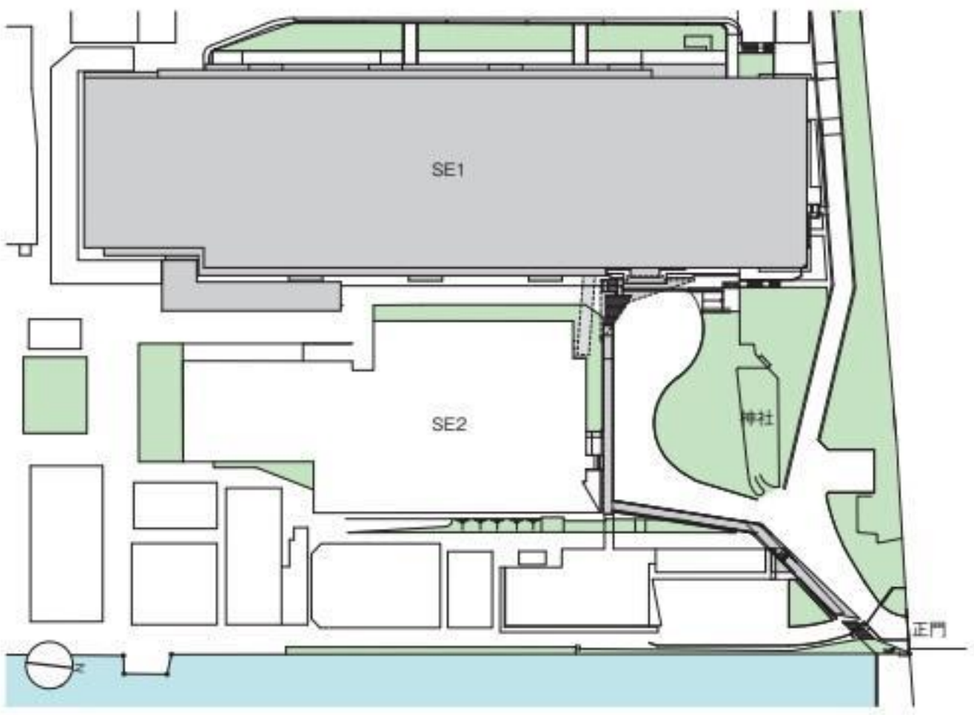


2階平面



AO（アオ／AGC OPEN SQUARE）

1階平面　縮尺1/2,000



配置　縮尺1/3,500

上：東側全景．隣接する既存開発棟（SE2）とは，4階のブリッジで接続する．
下：北東より敷地全体を見る．エントランスキャノピー，保安棟，厚生棟，神社と一体のランドスケープを整備した．





4階ワンルームのオフィス．オフィスを回遊する主要動線と，動線沿いに分散配置されたさまざまな併用スペースにより，視線の移り変わりや賑わいを演出．周囲より1m高くしたステージが，ワンルームをゆるやかに分節し多様な場をつくる．

2階AO Park．待ち合わせ利用だけでなく，技術展示スペースとしても使用される．

4階ワンルームのオフィス．動線に面して，リーダー席や打ち合わせコーナーを配置．

3階AO café．食堂稼働時間以外は，インフォーマルな打ち合わせの場として機能する．

2階AO Lab．社外利用も可能な実験室．

東側夕景.

実験室の可変性を実現するブロックゾーニング

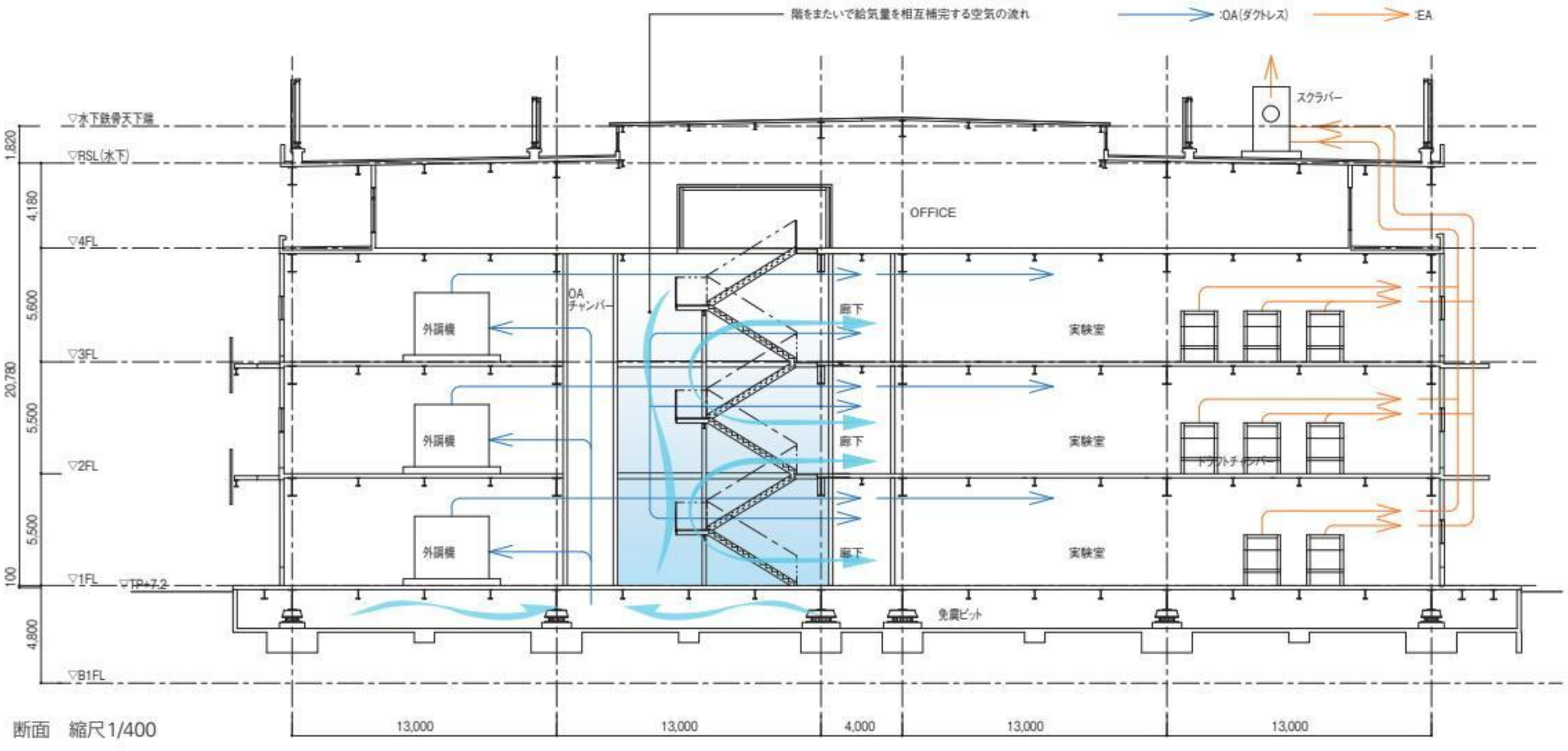
研究開発のスピードアップに伴い，実験室にはこれまで以上に可変性が求められている.

実験室は1,000m²ごとのブロックに防火区画し，ブロック内の実験室間仕切りは自由に変更できるようにした．また給排水やガス等の供給もブロックごととして変更工事の影響範囲が最小限になるようにしている.

実験室の局所排気量変動に対応するダクトレス給気システム

1～3階の実験室ゾーン各階に2カ所ずつ外調機室を設け，廊下を介してダクトレスで各実験室に新鮮空気を供給するシステムとした．実験室にはドラフトチャンバーなど局所排気が必要な機器が多数設置され，稼働状況により必要給気量が大きく変動するため，廊下と外気の圧力差を検知して供給風量を自動制御するとともに，急激な排気風量変動時は開放的な2カ所の屋内階段を通じて階を跨いで給気量を相互補完できるようにしている．また，外調機の給気は免震ピットからとして地中熱の活用を図っている.

（新川啓一／類設計室）



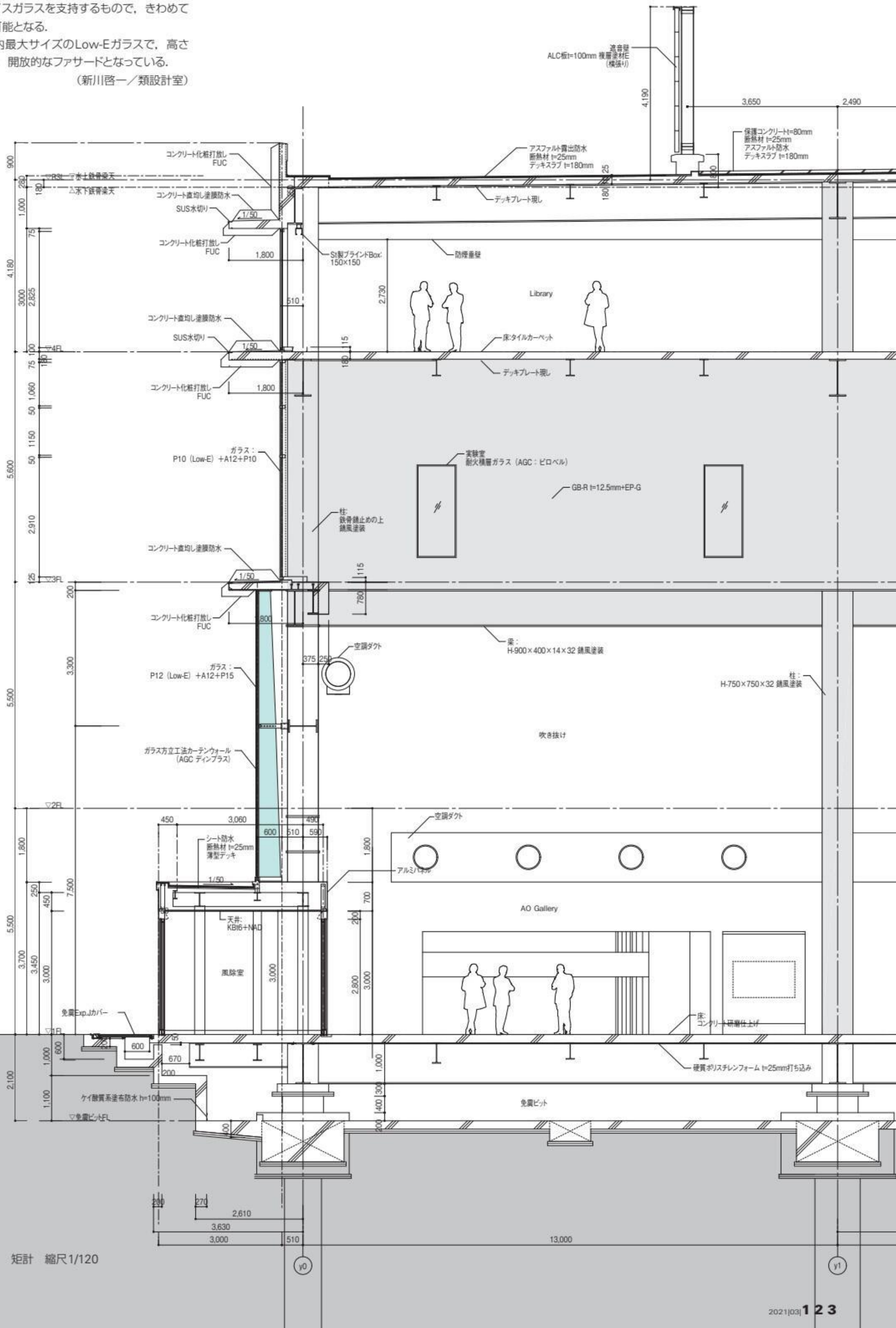
断面　縮尺1/400

「開かれた研究開発拠点」に相応しいガラスファサード

エントランスホールのカーテンウォールは「AGC　ディンプラス」を採用し，開放的で外部に開かれたファサードとした．ディンプラスはガラスリブ方立の特殊溝加工にアルミホルダーを接合してフェイスガラスを支持するもので，きわめてシンプルな納まりが可能となる．

フェイスガラスは国内最大サイズのLow-Eガラスで，高さ7.5mを1枚で構成し，開放的なファサードとなっている．

（新川啓一／類設計室）



矩計　縮尺1/120

TODA Innovate Lab

設計　戸田建設一級建築士事務所
施工　戸田建設
所在地　東京都江東区
TODA INNOVATE LAB
architects: TODA CORPORATION

戸田建設が所有する「南砂工作所」跡地に建つ，宿泊機能付きの研修施設．研修室内の環境や受講者の会話状況，感情データを分析するセンシング技術を導入し，コミュニケーションを核とした研修内容の充実を図る．1階レストラン横には，一体的な使用ができるテラスを併設．

1階エントランスロビー．1〜2階に研修室18室とレストラン，3〜7階にホテル客室217室の構成．

1階レストラン横のラウンジを見る．建物奥の研修室へ続く動線「活動軸」に対して角度を降ることで，レストランや外部テラスへの空間の展開を促す．

「活動軸」に直交する2階ラウンジ．中庭や水盤を眺めることができる．研修参加者のコミュニケーション・休憩の場となる．

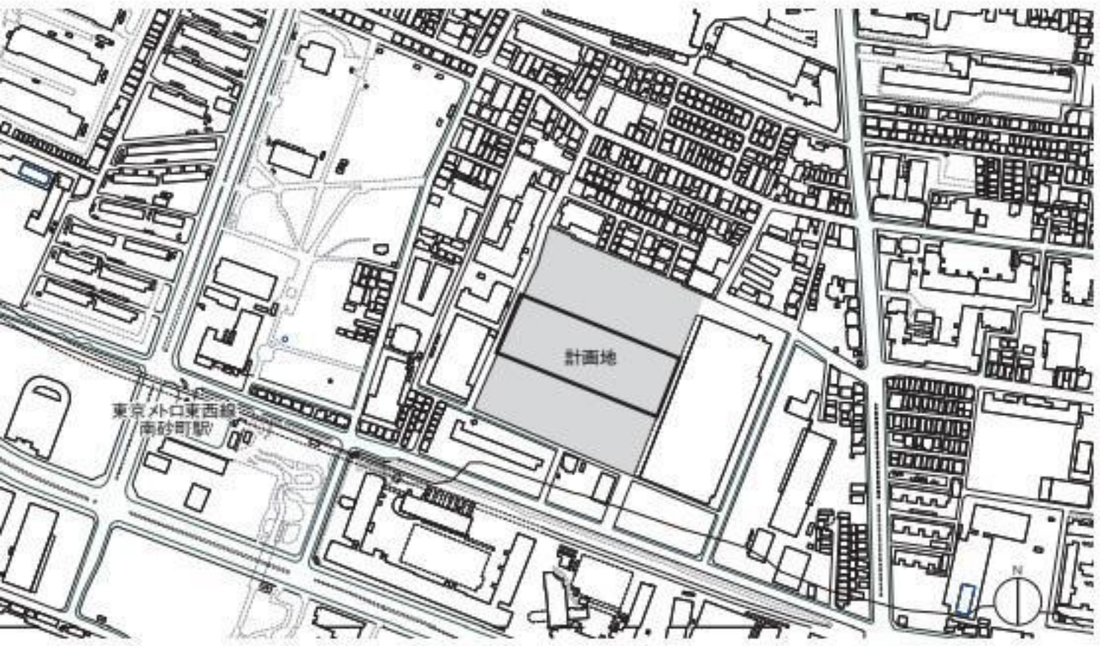
1階レストラン．低層部に戸田式座屈拘束ブレースを採用し，16mのスパンを実現．

2階「活動軸」沿いのコモンスペース．研修の合間にディスカッションや談話ができる中間エリアを設けた．

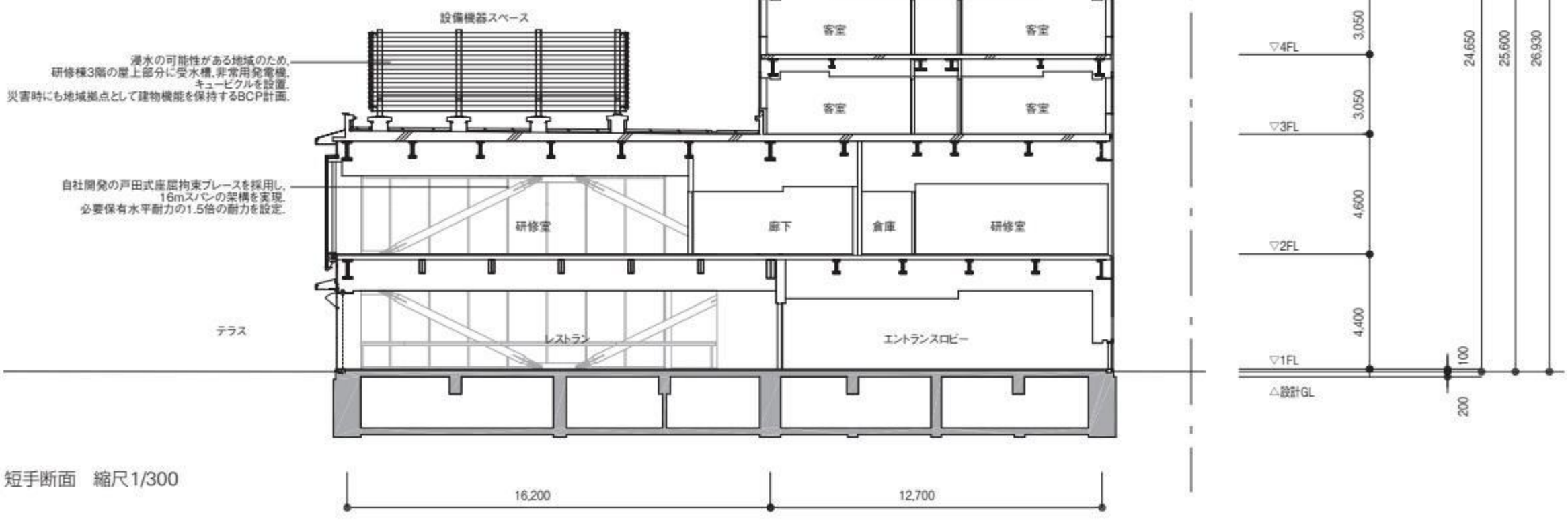
ホテル客室．各客室には，コミュニケーションをとることができる設えを備える．

1階研修室．可動式間仕切り壁によりフレキシブルな利用が可能．水盤越しにレストランを望む．

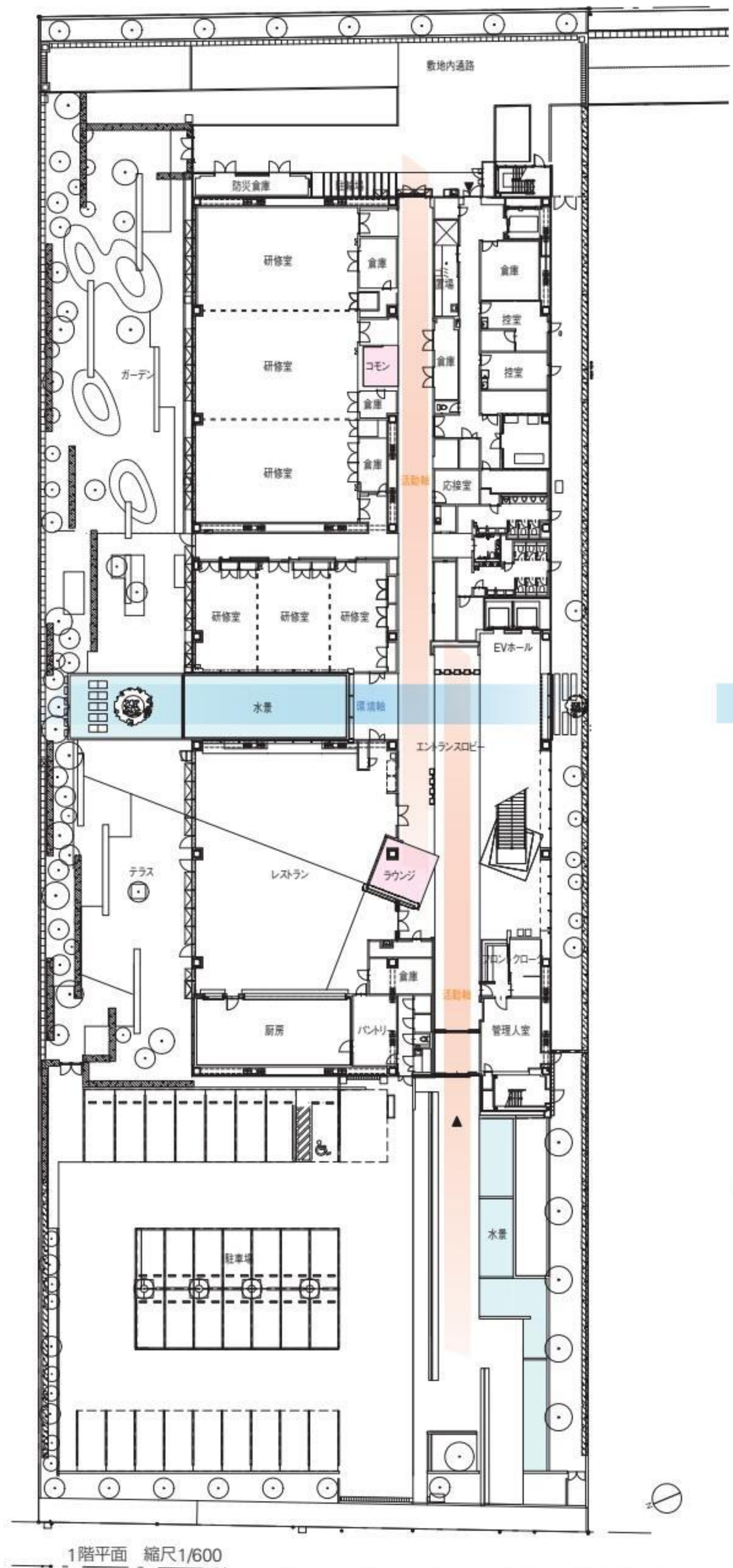
西側全景．水平・垂直を強調したデザイン．



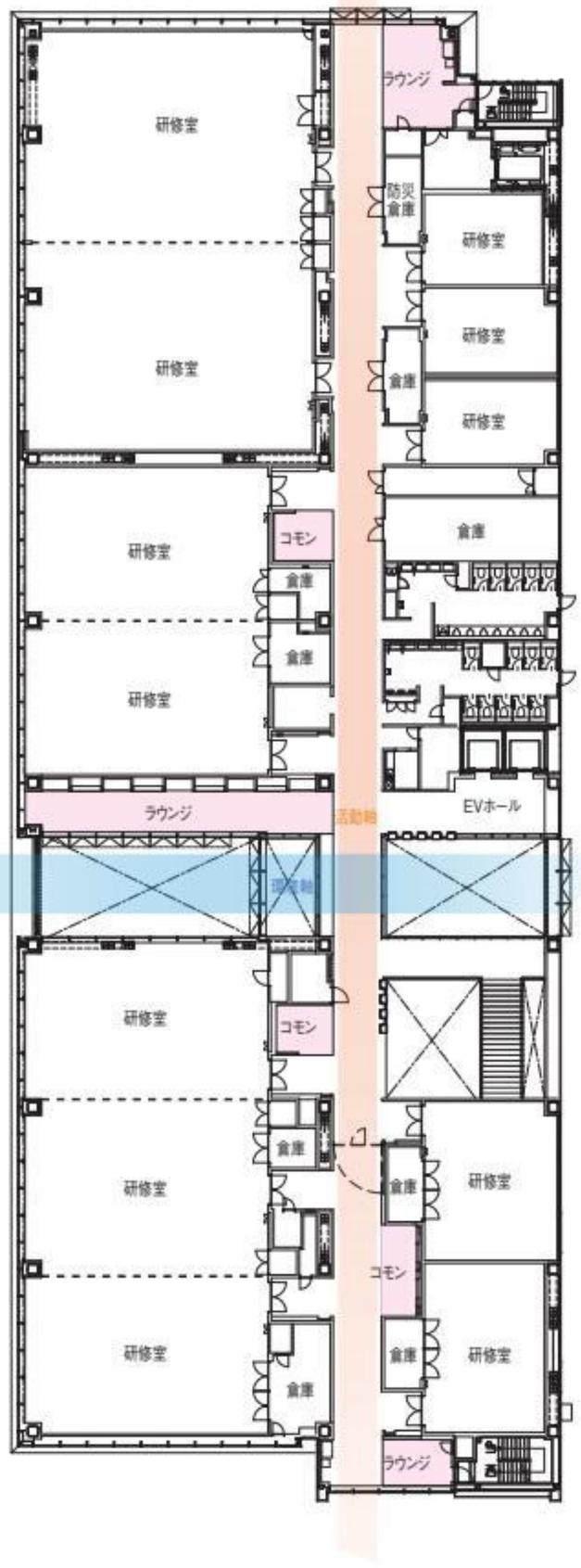
配置　縮尺1/10,000



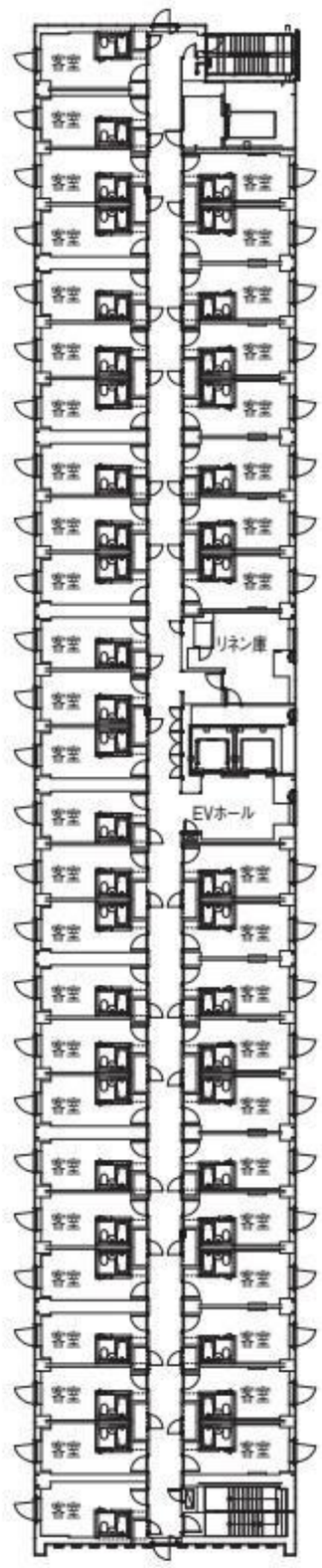
短手断面　縮尺1/300



1階平面　縮尺1/600



2階平面



4階平面

設計　戸田建設一級建築士事務所
施工　戸田建設東京支店
敷地面積　5,705m²
建築面積　2,322m²
延床面積　9,632m²
階数　地上7階
構造　鉄骨造
工期　2019年4月～2020年10月
撮影　新建築社写真部
（データシート180頁）

次世代のコミュニティを生み出す研修施設

南砂町は近年居住人口が急増し，かつての工場や倉庫はマンションや公園等へと変化し，コミュニティと自然豊かな街である．戸田建設はこの街に工作所や社宅を築き，長きにわたり街の変化とともに歩んできた．

そして今，新たに次世代の活動や居住のためのエリアに進化させるプロジェクトが進行している．「TODA Innovate Lab」はその中心に建つ滞在型研修施設として，人材の進化を促す次世代のコミュニケーションを核とした自己研究の場である．

建築はアプローチから内部にメイン動線としての「活動軸」を貫き，それとクロスする中庭等の「環境軸」で程よく分節している．水平・垂直の伸びやかな線や面の強調により「成長」を象徴するとともに，地域に馴染む外装の質感と色彩，そして水と緑豊かにさまざまな光がおりなすデザインを目指した．

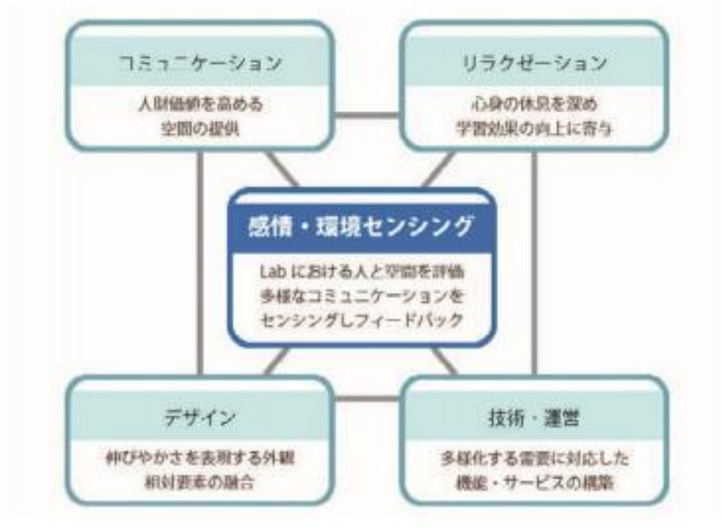
用途構成は「Focus/Relax」をテーマに，学習への集中をより高めるため，その対極にある寛ぎの空間の充実を図り，両者の相乗効果によって研修の質を高めることを狙っている．

近年の研修動向として一方的な講義型研修スタイルから，コミュニケーション・ディスカッションが重視された研修が増加傾向にある．ここで重要なのは中間エリアの存在である．活動軸沿いに配したコモンスペースやラウンジは，研修の合間の程よいコミュニケーションを促す有機的空間とした．

また，次世代のコミュニティとして感情・環境センシングを実施し，その技術やデータは研修内容のさらなる充実化を図ると同時に，最適な環境条件にする制御への情報収集を行うこととし，さらに今後のプロジェクトに応用・進化できるよう開発を進めている．

（鈴木宏昌＋國又要／戸田建設一級建築士事務所）

センシング技術を用いた研修施設



感情・環境センシングの意義．次世代の研修施設として各要素を統合させる役割をもたせた．

次世代の研修施設として，受講者のコミュニケーション能力や研修時の感情を数値化し，測定・分析することで，よりよい研修へと改善し，成長を促進させる．研修形式を教師講義型とグループディスカッション型に分類しデータ収集・分析するシステムを構築した．また，教室講義型の研修時には，温度・湿度・気流などの室内環境を計測する環境センサーを配置し，感情データと合わせた統合分析が行える空間を構築した．（市川勇太／戸田建設一級建築士事務所）

感情の見える化

教室講義型の感情センシング

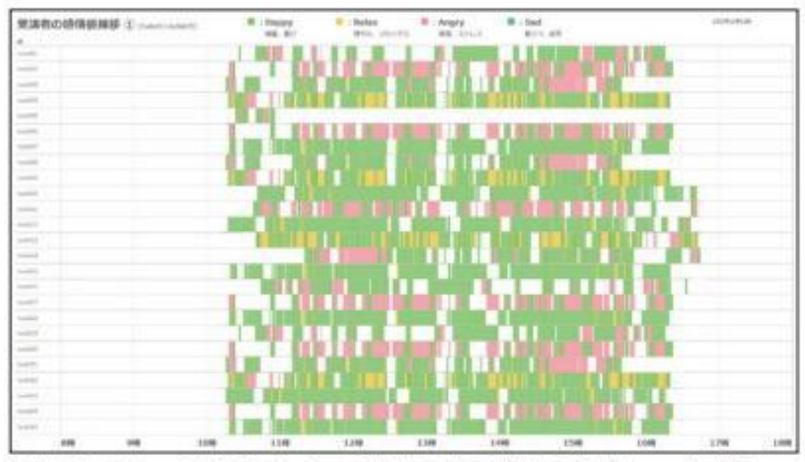
2階研修室を教室講義型の感情センシングLabと位置付け，脈拍数などを基にした感情データの収集を行う．各個人の感情を数値化し，記録するため，ウェアラブルデバイスを使った感情分析ソリューションシステムを導入した．分析結果は，ビジュアル分析プラットフォームにより，研修の企画者，講師，受講者へ情報提供を行う．



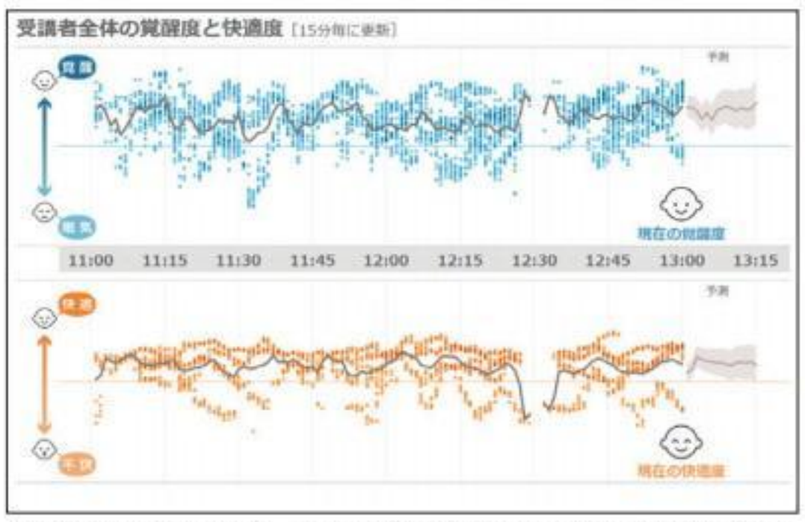
ウェアラブルデバイスによるコミュニケーション分析イメージ



教室講義型の研修．



研修企画者への提示画面．受講者ごとの感情の動きを，各感情に対応する色により把握できる．



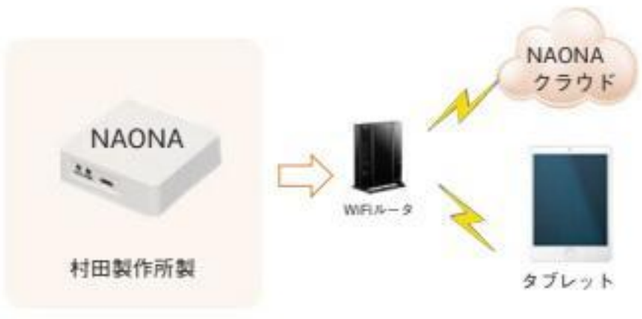
研修講師への提示画面．講義中の受講者の快・不快／覚醒度の推移を表示し，全体の様子を把握できる．また，今後受講者の感情がどのように変化するのかの予測傾向を表示する．



受講者への提示画面．研修後に，受講者のスマートフォンへデータ分析結果のフィードバックを行う．

グループディスカッション型の会話センシング

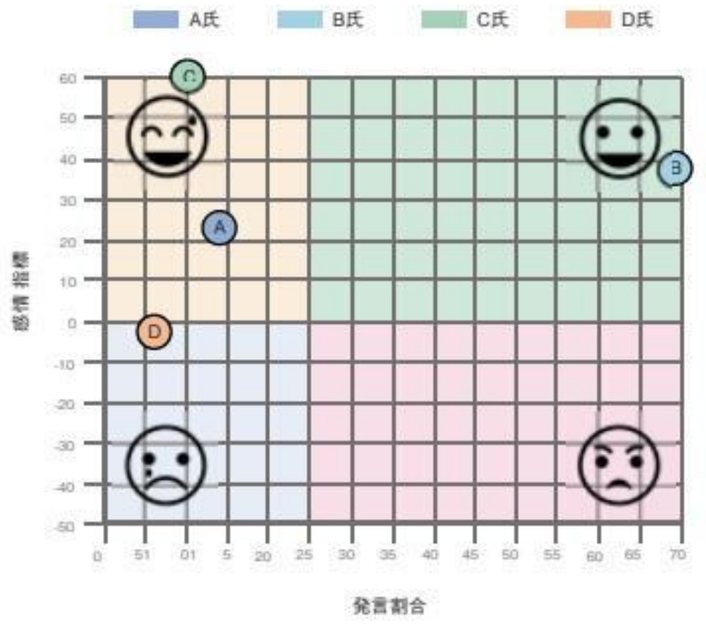
グループ形式（5～6名程度）の研修時に，音声データを可視化するNAONA（村田製作所製）を用いてコミュニケーションの見える化を図る．発言回数・発言時間・発言テンポを計測．受講者のコミュニケーション能力の評価や，議論の活性度をグラフ化し，各個人の会話傾向や特性をデータとして得ることで，自己啓発へ繋げる．



NAONAによるコミュニケーション分析イメージ



発言モード推移．背景色により，発言モードを示す．発言比率の推移を確認し，ディスカッション中の先導者を明確にする．

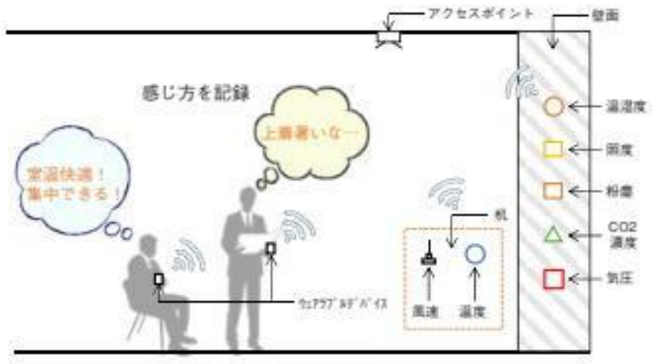


コミュニケーションスタイル．個人の傾向を，感情指標と発言割合で評価する．

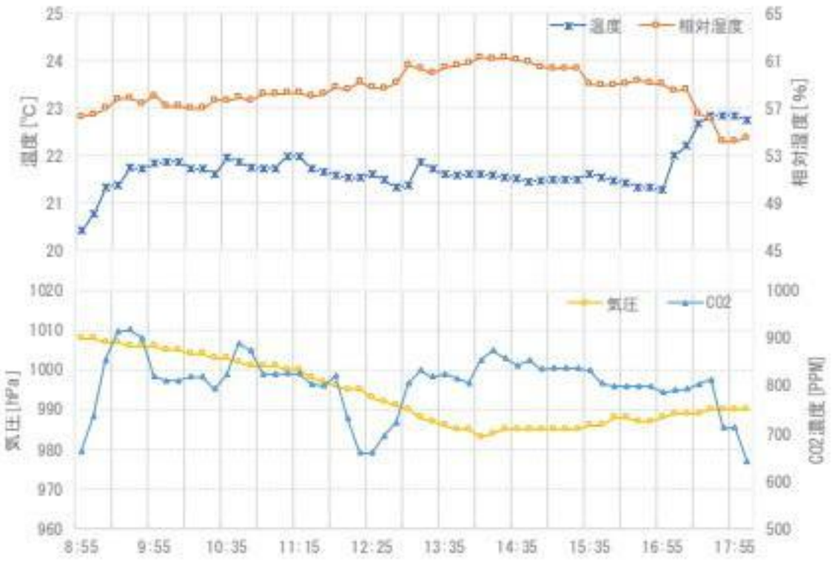
人の感じ方と屋内環境連動の実証と今後の展開

環境変化の感じ方を評価するために，環境情報を収集する空間を構築した．研修空間において，室内環境（温度・湿度・気流・照度・CO_2）の変化に対し，在室者がどのように感じられるかをウェアラブルデバイスにより測定する．

今後は，データ蓄積および統合分析により，研修プログラムへのフィードバックと改善や最適な研修室の環境制御を行う．さらに，人を中心とした空間づくりの基礎データを整理することで，さまざまな空間に求められる最適な環境の実現や多用途への展開を図る．



環境センサー配置図．



環境データグラフ．時間による環境の変化を記録し，感情データとの統合分析を行う．

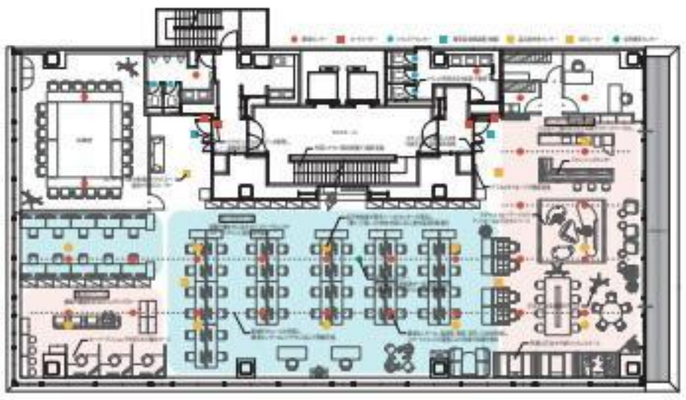


今後の展開イメージ．

他プロジェクトにおけるデータ収集実例と今後の展望

T-FIT HATCHOBORI（本誌2007）

戸田建設が展開する賃貸オフィスビルの第1弾．空調，照明，セキュリティなどの各種制御を一元的にネットワーク接続することでビル全体のIotを実現した．ビル内の設備・環境データはクラウド上のデータベースに収集し継続的に実証・分析を行っている．



7階平面　縮尺1/650



温度分布ヒートマップ



T-FIT HATCHOBORI東側外観．

新TODAビル（2024年竣工予定）

さまざまなデータを「ビルOS」に呼び込み統合型制御を行う．それはヒューマンセンシング（人の位置情報）を中心に各種技術の連携を図り，人に優しく，機能的で環境に配慮した次世代型のビル制御となる．



ビルOSとヒューマンセンシング





上：1階共通ロビーイメージ．
下：オフィスイメージ．



新TODAビル南西側全景イメージ．

リバーホールディングス本社

設計施工　竹中工務店

所在地　東京都墨田区

REVER HOLDINGS HEADQUARTERS
architects: TAKENAKA CORPORATION

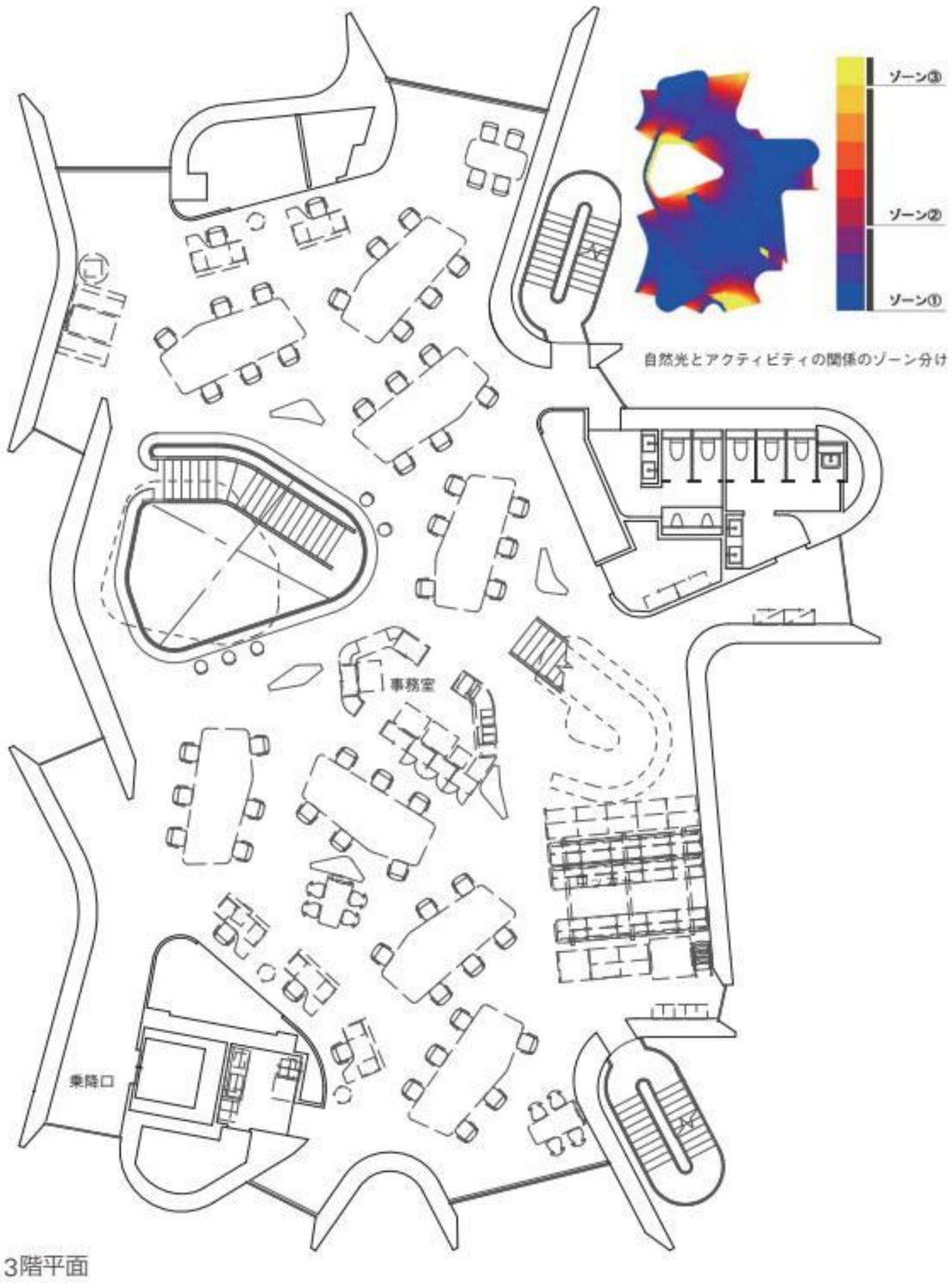
産業廃棄物のリサイクルなどを行う企業の本社ビル建て替え．光や風をさまざまな場所から取り込む不整形なプランとし，熱負荷や明るさなど多変数解析を行い，最適な計画となるよう計画されている．

南側外観．現場打ちコンクリートによって
シームレスな曲面壁が形成されている.

エントランスホールから吹き抜けを見上げる．吹き抜けの形状はデスクワークに適した設定照度に収まる範囲を最大化するよう解析したことで，各階で異なる形状となった．

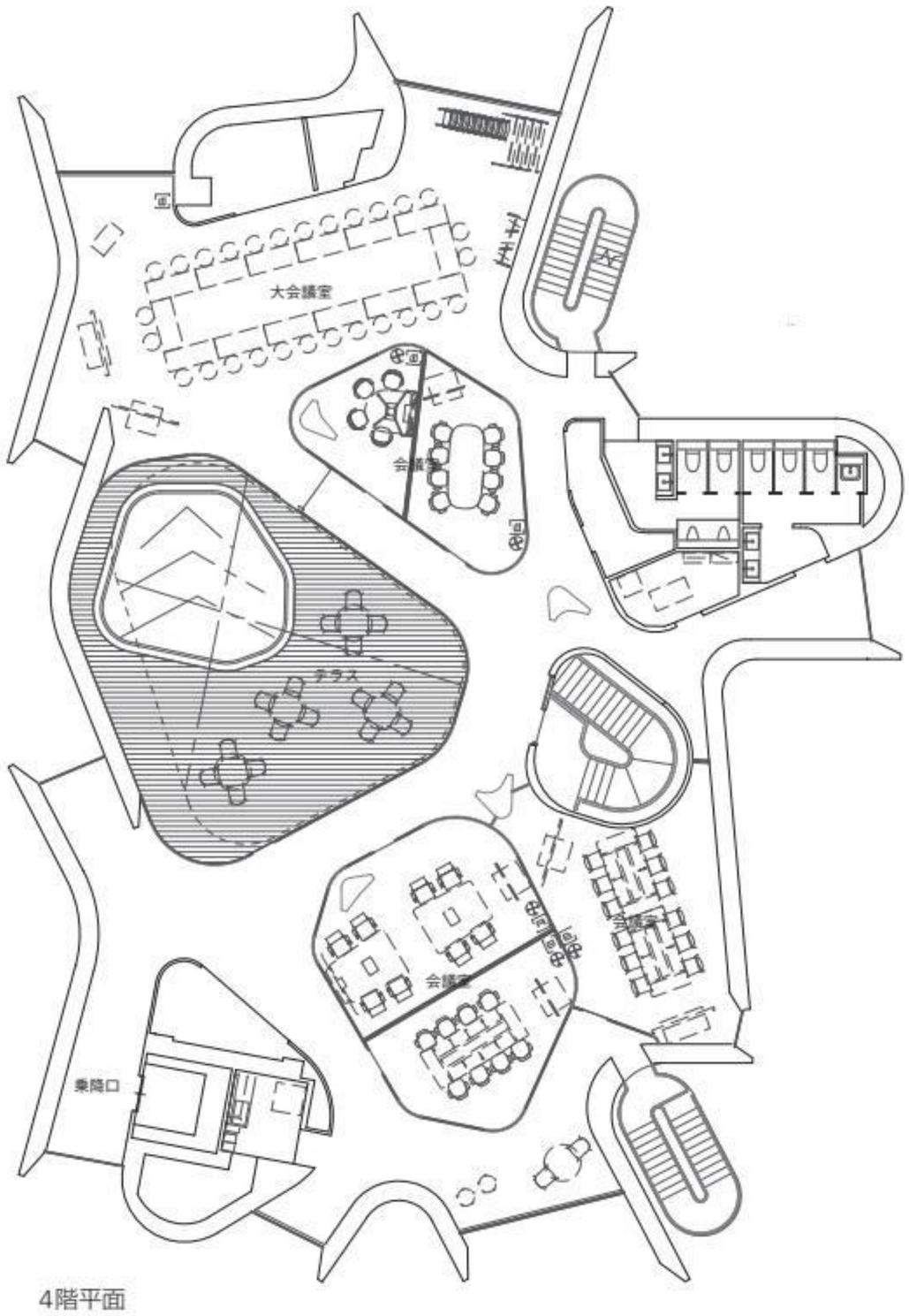
4階．中庭を取り巻くように会議室を配置．

3階事務室．コンクリート躯体は現し．
奥まで外部を取り込む．

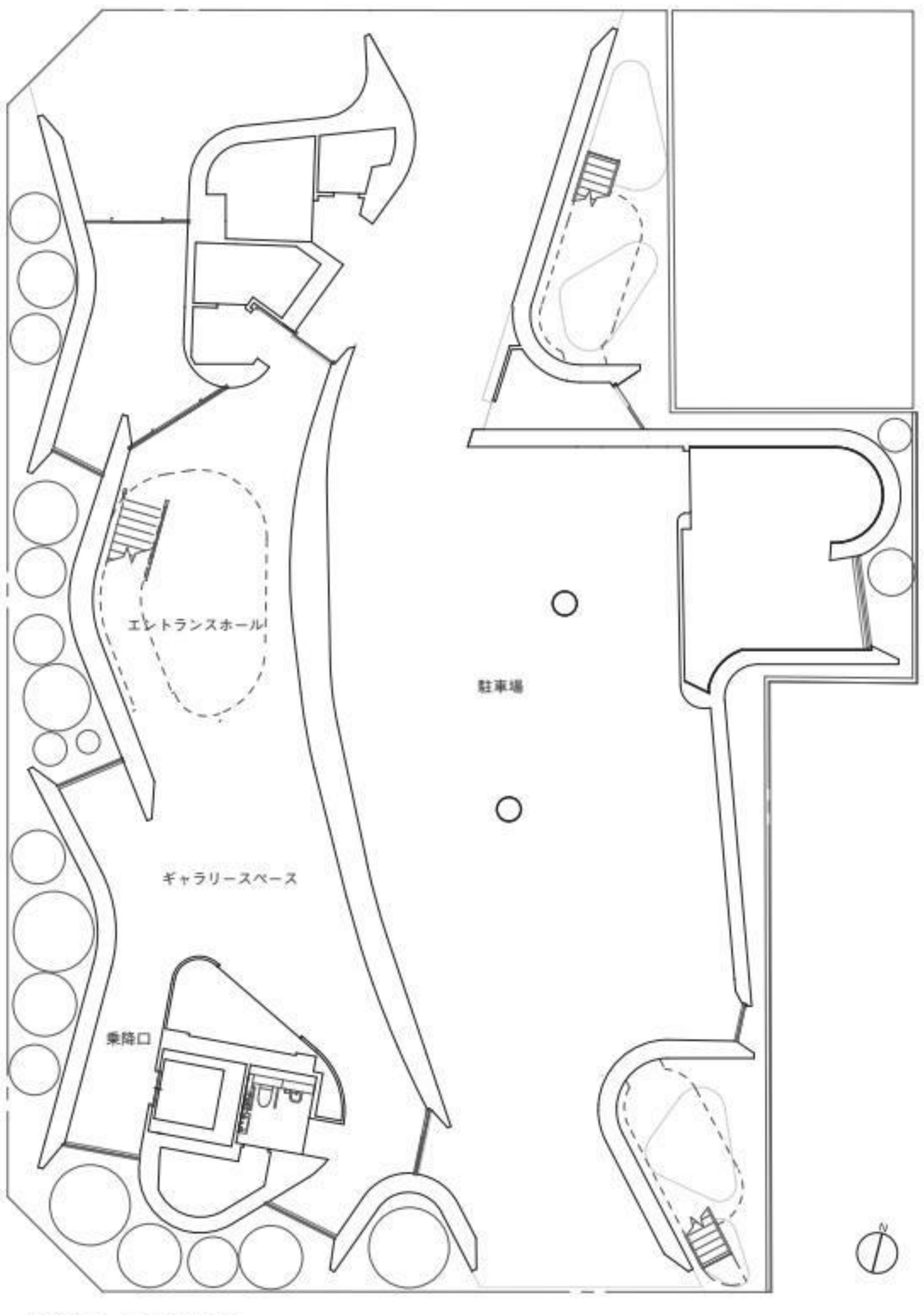


3階平面

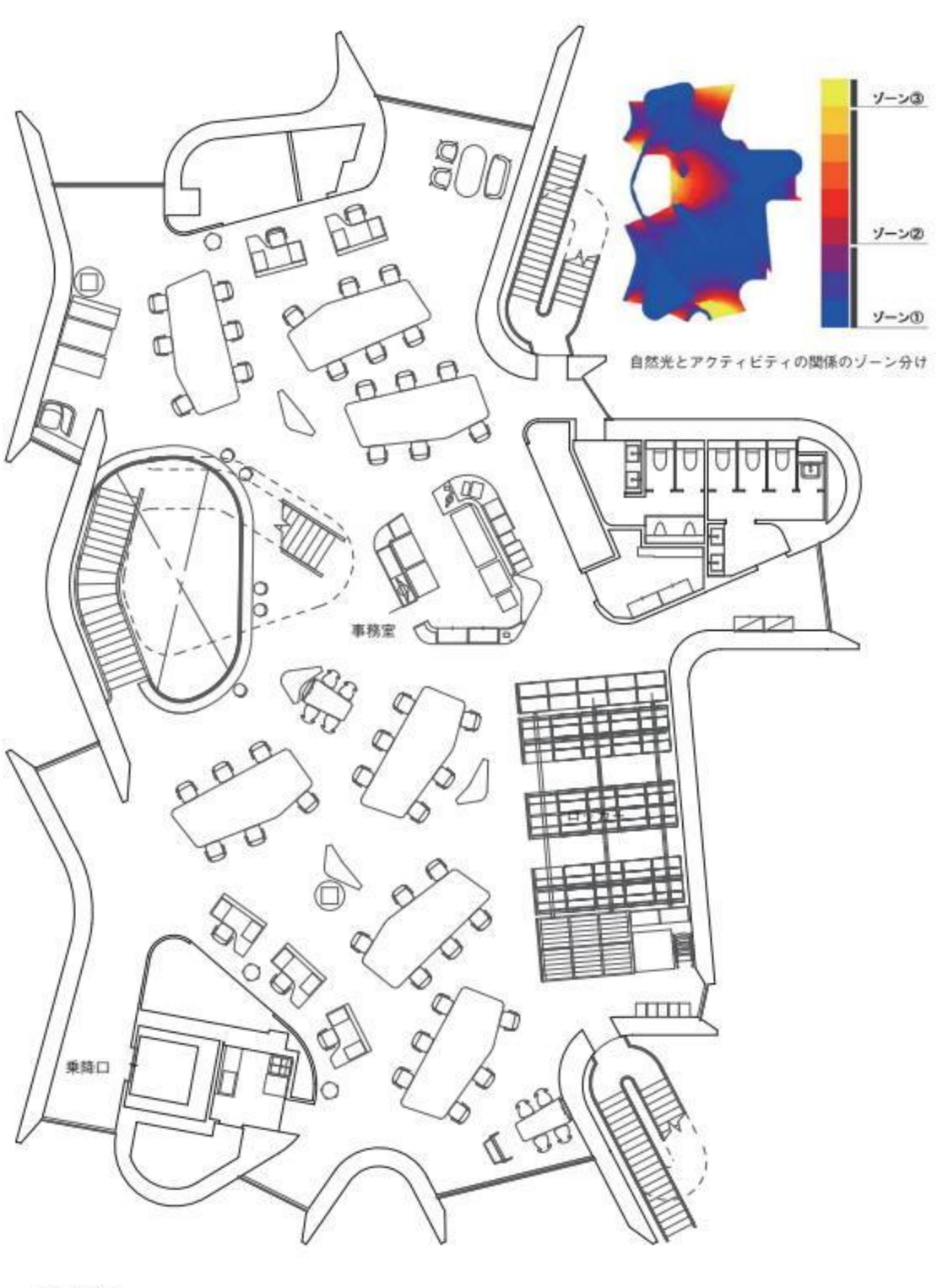
自然光とアクティビティの関係のゾーン分け



4階平面



1階平面　縮尺1/300



自然光とアクティビティの関係のゾーン分け

2階平面

北側外観.

環境を内包するワークプレイス―「木漏れ日」と「洞窟」

建築のインテリアの起源として，「木漏れ日」と「洞窟」というふたつの原初的な空間があると考えている．空間の内外の関係性において，これらは対極を成している．前者は樹木という生命体によってつくられた環境であり，四季折々に変化する．心地よい光に包まれ，風が吹き抜け，周辺環境の息吹を感じ，内外の境界が曖昧である．後者は地球の内部であり，安定している．光は限定的な開口部から，岩肌を舐めつつ差し込み，奥があり，自己の息吹を感じる空間でもあり，岩石による質実剛健な境界が形成される．これら「木漏れ日」と「洞窟」が持つ遺伝子は，時に独立し，時には絡み合いながら建築を構成している．EQ House（本誌1907）では，ハードとしての建築と，IoTとAIを実装したシステムを統合的にデザインすることで，「木漏れ日」的遺伝子を発現させることを試みた．学習することを可能とした建築は，無数の開口を設けた軽やかなアルミパネルを通して光と風を取り込み，人とコミュニケートしながら共に成長することができる．人工物であるはずの建築に，生命が宿っているかのように感じる現象をArchiphiliaと命名した．一方で，今回のリバーホールディングス本社は，東京都心に位置する中規模本社ビルである．中規模のオフィスは，本来であれば外部環境をワークプレイスの奥まで取り込みやすいはずだが，密度が高い都心部においては，周辺の建物や隣地との関係で，むしろ取り込みが難しくなるケースが多い．今回の敷地も，三面接道という恵まれた条件ではあったものの，最も長い接道は西側で，周りを集合住宅に囲まれていた．この敷地におけるワークプレイスのあり方を考えた時，組織全体のアクティビティと環境をよりダイナミックに関連付けることが，この場に集う意義においても重要ではないかと考えた．環境が外装を透過して中へ染み込むというよりは，あたかも外部環境を内包しているような印象を生み出すことができないか．「洞窟的」遺伝子の可能性を強く意識し，現場打ちコンクリートによる骨格をそのまま生かした空間に対し，トップライトと壁の間から，バウンスさせるように柔らかく光と風を取り込み，その変化を包み込むことを目指した．

変容するワークプレイス

複数のグループ企業で構成される建築主の組織は，今後さらに成長する可能性が大きい．変容し続ける組織を前提にした有機的なワークプレイスを構築するにあたり，一般的な回答である均質空間とは異なる方法で，裏表をなくすことを考えた．具体的には，緩やかに繋がる不均質な空間に対して環境を丁寧に織り込むことで，働きやすく，環境の変化も楽しめる場を提案した．本社であることを最大限に生かし，賃貸オフィスビルでは通常コアとしてまとめる垂直動線や洗面室，設備スペースなどの要素を分散配置した．これにより廊下をなくし，ワークプレイスをフロア全体に広げている．さらに，動線の主従を極力なくした家具レイアウトにより，デスクを超えたグルーピングをしやすくすると共に，コミュニケーションの機会を増やした．

環境の変化を内包する

環境の変化を内包するにあたり，室内の仕上げを極力なくし，コンクリートの躯体をそのまま生かすことで内外の印象を近付けた．この天井躯体を美しく見せるため，設備はアンダーフロア空調を基本とし，居住域の効率的な空調を図った．タスク用とアンビエント用の吹き出し口を使い分けることで，個々の感覚に合わせたパーソナライズ化を可能とした．照明は，床からの自立式を基本とし，直仕上げの天井を利用した間接光によって輝度対比を抑え，外光との連続性を確保しながら室内を柔らかく照らした．

現象と印象

物理的な現象と，それを受け取る側の人の認識の両方によって建築の印象が形成されるため，これまで物理現象の把握と共に，それがどのように認識されるかに着目することで，実態を超える奥行や，広がりを生み出そうと試みてきた．環境に対しても同様に，物理的な現象を前提としつつ，その「感じ方」を設計の対象にしたいと考えている．ワークプレイスのアクティビティと環境特性を，密接に関連付けてデザインすることで，一日の生活の中に環境の印象を織り込むこととした．人と環境を繋ぐ試みを継続していくことで，本来人工物であるはずの建築があたかも自然の一部のように感じられればと思う．

（花岡郁哉／竹中工務店）



北側外観．エントランス．

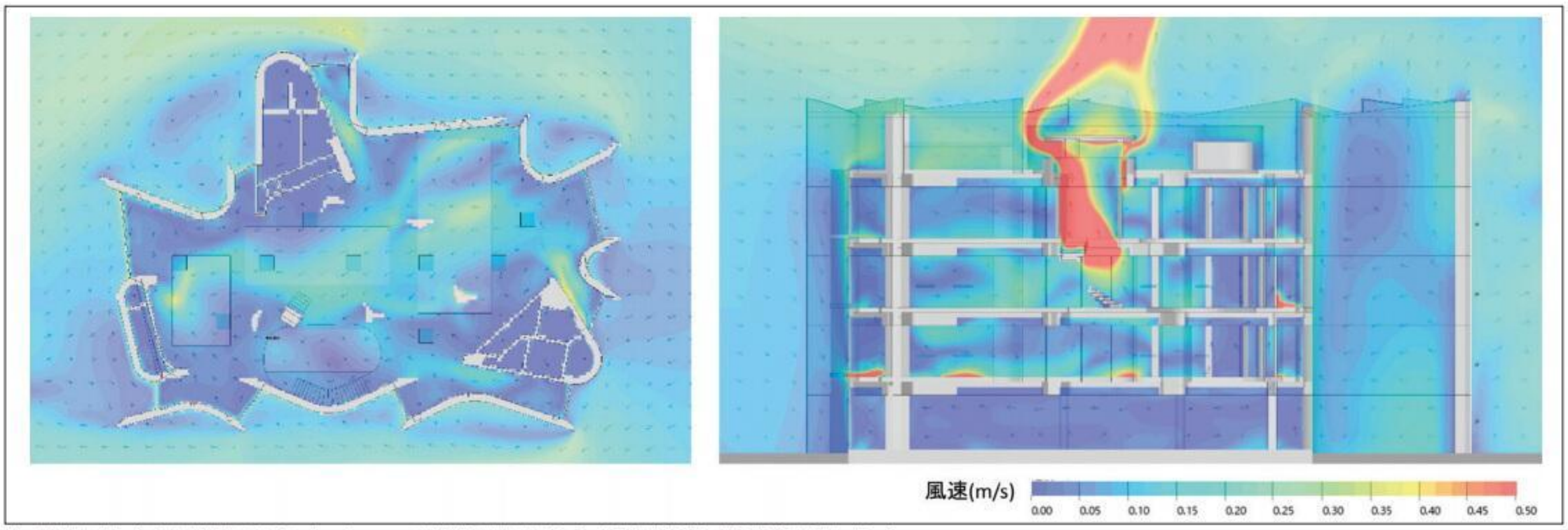
設計施工　竹中工務店
敷地面積　861.45m²
建築面積　607.49m²
延床面積　2,138.42m²
階数　地上4階
構造　鉄筋コンクリート造
工期　2018年11月～2020年2月
撮影　新建築社写真部
＊撮影　井上登
（データシート180頁）



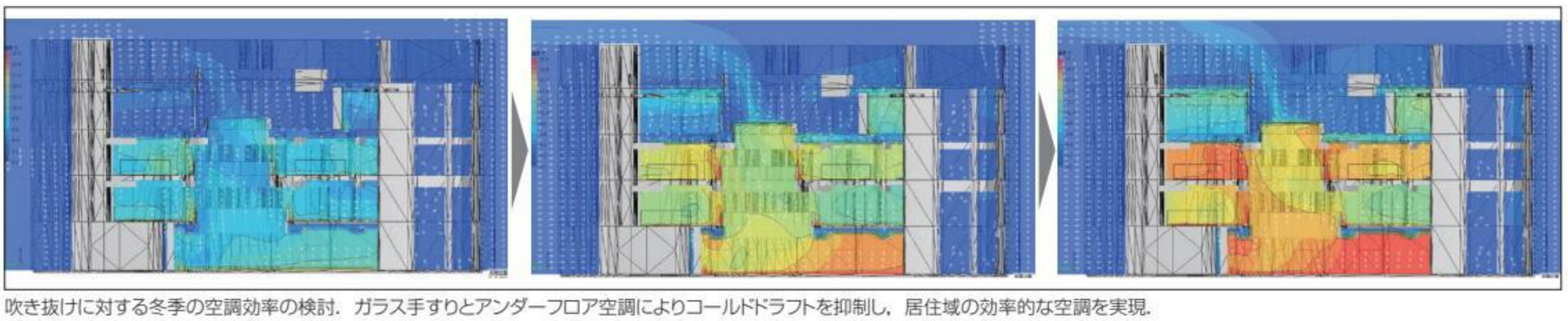
配置　縮尺1/2,000

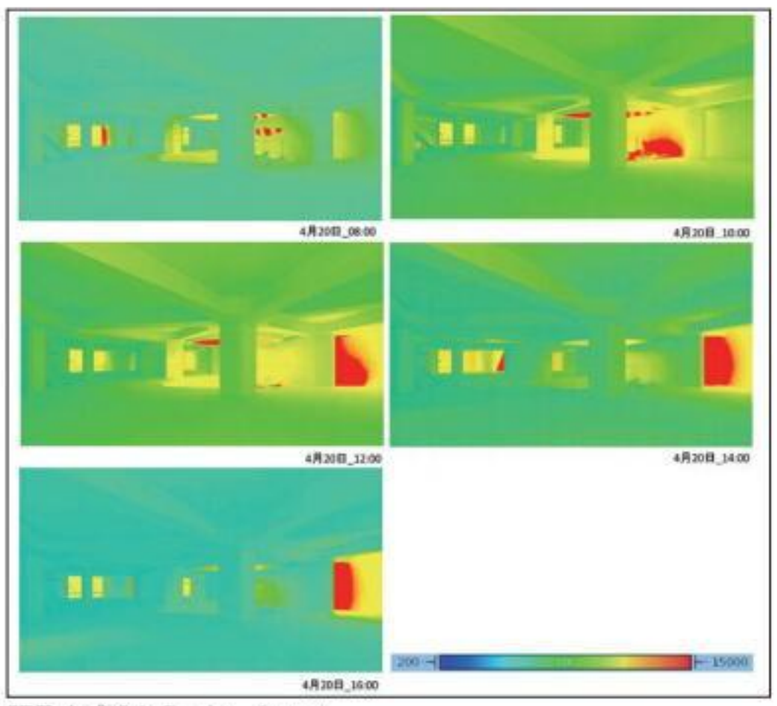
断面　縮尺1/200

環境と行動をエンジニアリングで繋ぐ

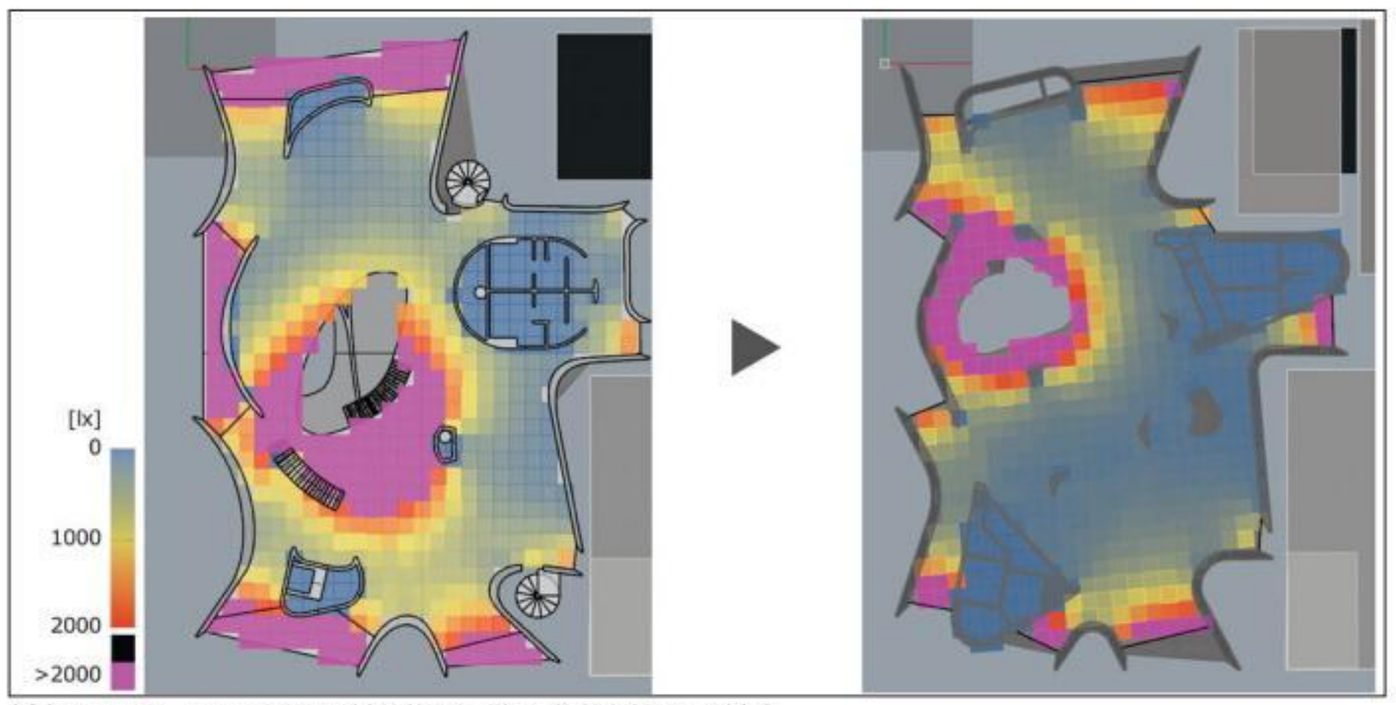


吹き抜けを活用した自然換気のシミュレーション．中間期の外気を取り入れるために開口部の解析検討を行った．

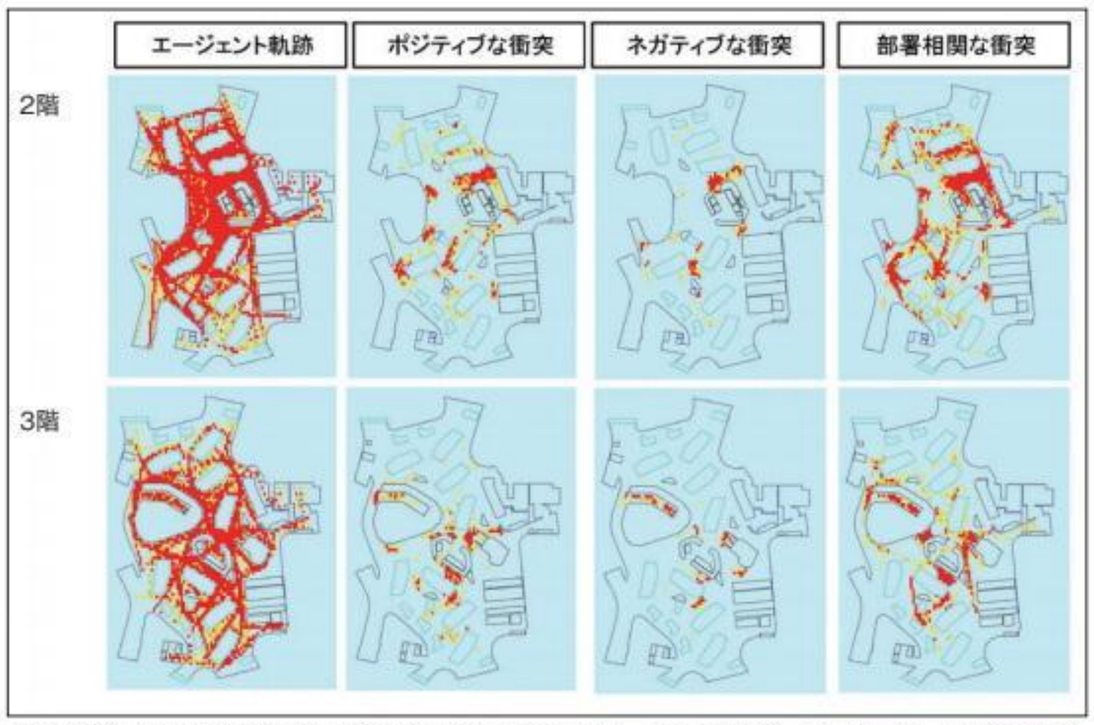

吹き抜けに対する冬季の空調効率の検討．ガラス手すりとアンダーフロア空調によりコールドドラフトを抑制し，居住域の効率的な空調を実現．



明るさ感のシミュレーション．



採光シミュレーションにより日射負荷となり得る部分を約60％削減．



社員へのヒアリングをもとに事務室内の行動シミュレーション行い，コミュニケーションが起こりやすく混雑しにくいオフィスレイアウトを決定．

環境と体験を統合的にデザインするためのシミュレーション

リバーホールディングス本社では，外部環境を適度に緩和しながら取り込み，その変化を享受できるワークプレイスとすることで，「我慢」ではなく「楽しむ」ことができる省エネを目指しつつ，標準的なオフィスビルに対する消費エネルギーを57％削減してZEB Readyを達成している．今回は主に，光環境，風・熱環境，行動に関するシミュレーションを行った．自然光とアクティビティの関係については，概ね3つのゾーン（ゾーン①：年間を通し有効照度以内，ゾーン②：有効照度を超える場合がある，ゾーン③：直達光が当たる場合がある）に区分し，それぞれに対してアクティビティを設定（①：個人が集中して行うデスクワーク，②：カジュアルなミーティングや気分転換，③リフレッシュが期待できる移動）して検討を進めた．輝度対比を抑えつつ，デスクワークに適した設定照度に収まる範囲を最大化するよう，壁と吹き抜けの形状をパラメトリカルにチューニングした．アンダーフロア空調によって居住域を効率的に空調しつつ，吹き抜けを自然換気にも活用することで，自然光だけでなく，そよ風も感じることができる場所としている．　（花岡郁哉＋千賀順＋Pennisi Fiammetta／竹中工務店）

気仙沼内湾 ムカエル・ウマレル（PIER7）

設計　LLC SMDW　アール・アイ・エー　オンサイト計画設計事務所　ぼんぼり光環境計画
施工　みちのく建設工業　東鉄工業

所在地　宮城県気仙沼市
KESENNUMA NAIWAN "MUKAERU & UMARERU（PIER7）"
architects: LLC SMDW　RESEARCH INSTITUTE OF ARCHITECTURE　STUDIO ON SITE　BONBORI LIGHTING ARCHITECT & ASSOCIATES



宮城県気仙沼市の内湾地区に建つ，気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ「PIER7」（ウマレル，左）と民間スローシティ観光商業施設（ムカエル，右），防潮堤と一体型となる建物を計画し，街と海の連続性を確保した．海とまちの一体的な景観形成と利用促進のため，さまざまな事業主体，所有者，管理区分を整理し，宮城県や気仙沼市と連携しながらエリアマネジメントが行われている．

■気仙沼内湾ムカエル

設計　建築　LLC SMDW
　　構造　遠山建築構造研究所
　　外構　オンサイト計画設計事務所
　　照明　ぼんぼり光環境計画
　　機械　前田設備設計事務所
　　電気　イーエル・ワークショップ
施工　みちのく建設工業
敷地面積　1,176.05m²
建築面積　765.73m²
延床面積　1,169.28m²
階数　地上3階
構造　鉄骨造
工期　2017年8月～5月（躯体および一部店舗の完成・仮使用）
　　2017年8月～2018年10月（全店舗の完成）
撮影　*齋藤涼（エスエス）
　　**LLC SMDW（特記を除く）
（データシート182頁）

上：北東より見るムカエル外観．防潮堤と建物2階のFLを合わせ，片持ちのウッドデッキで防潮堤の天端レベルに海を望むテラスを配置した（2019年7月，南町海岸公園工事中）．**
下：西より見るウマレル．1階の防潮堤部分は駐車場として利用される．海の正面には広場を整備し，視界の抜けと海への動線を確保した．2棟はブリッジで繋がれる．*

■気仙沼内湾ウマレル

設計　建築　アール・アイ・エー
　　外構　オンサイト計画設計事務所
　　照明　ぼんぼり光環境計画
施工　東鉄工業
敷地面積　2,025.76m²
建築面積　1,291.53m²
延床面積　2,403.42m²
階数　地上3階
構造　鉄骨造　一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工期　2017年9月～2019年3月
撮影　*齋藤涼（エスエス）
　　**LLC SMDW（特記を除く）
（データシート182頁）

下：東より見る．計画嵩上げ地盤面より高さ4.4mの防潮堤よりも海側に斜面緑地・ステップガーデン・回廊を設置し，まち側に建築をセットバックさせた．敷地に隣接するフェリー乗り場には，現在は遊覧船やプレジャーボートが停泊する．*

ウマレルの2階防潮堤デッキよりムカエルを見る．2棟は2階のウッドデッキにより連続する．ウッドデッキ，手摺り，照明の仕様は隣接する公園を含め統一化した．建築と一体とされた1階レベルの防潮堤のまち側は，防潮堤の管理・点検用通路となる．**

ムカエルの2階中庭デッキより内湾を見る．**

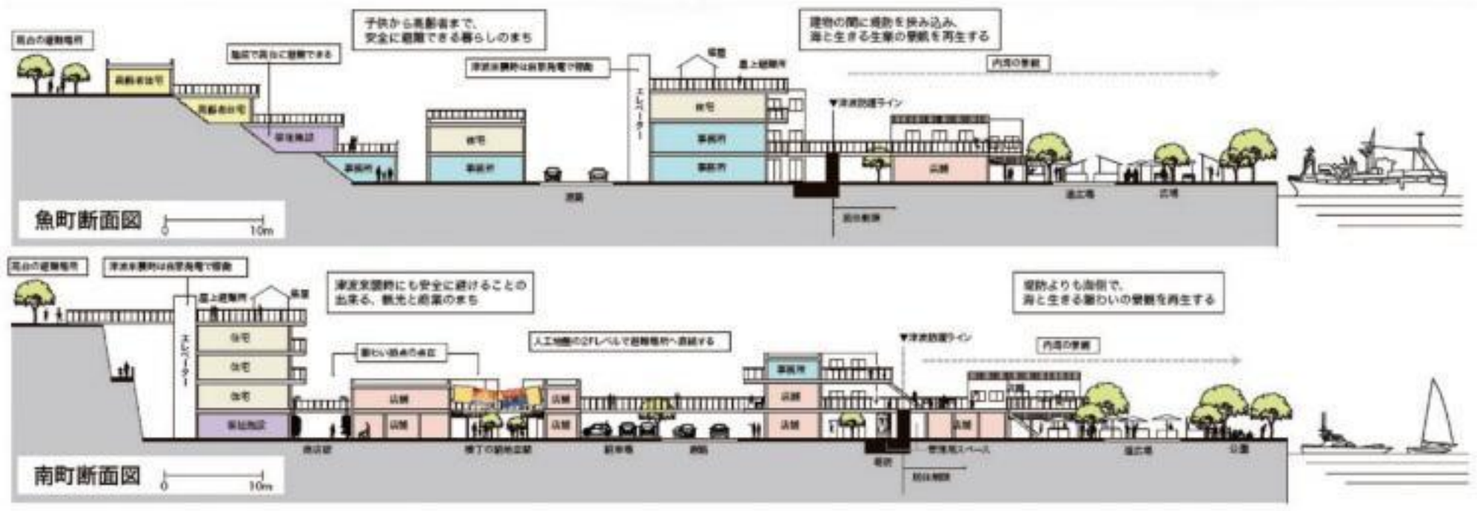
防潮堤の反対と景観デザイン

震災前の岸壁には防潮堤が存在していなかった内湾地区に，宮城県から防潮堤の計画が示された．その高さはTP 6.2mであり，計画嵩上げ地盤面（TP 1.8m）から4.4mの見た目の高さとなるため，まちから海への眺望は遮られてしまう．震災前は防潮堤がなかったまちに住み続けてきた多くの住民は，美しい港町の景観が失われてしまうことを危惧し，防潮堤の計画に反対した．

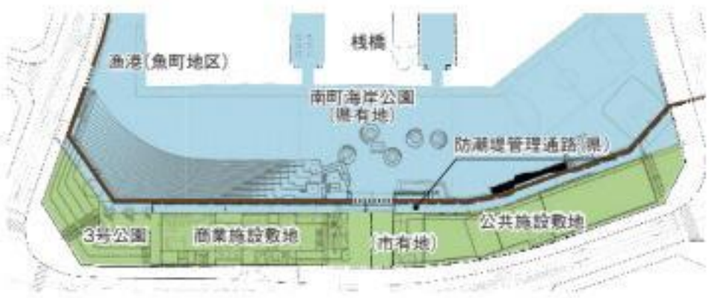
気仙沼市は，内湾地区復興まちづくりコンペを開催し，安全性と景観を両立できるアイデアを募集した．最優秀賞を受賞した浮上式防潮堤の案の実現には至らなかったが，次点の筆者らの案に基づいて，住民・行政・専門家によるまちづくり協議会を設立し，模型やCGなどを使ったワークショップを繰り返し実施した結果，防潮堤を建築とランドスケープによって隠す案が合意された．

なお，防潮堤周りの土地所有及び管理区分は，行政各課やまちづくり会社等に複雑に分かれていたため，筆者が各分野の専門家とともに，全体の景観デザインの統括を担った．

（阿部俊彦／立命館大学，
まちづくり協議会アドバイザー）



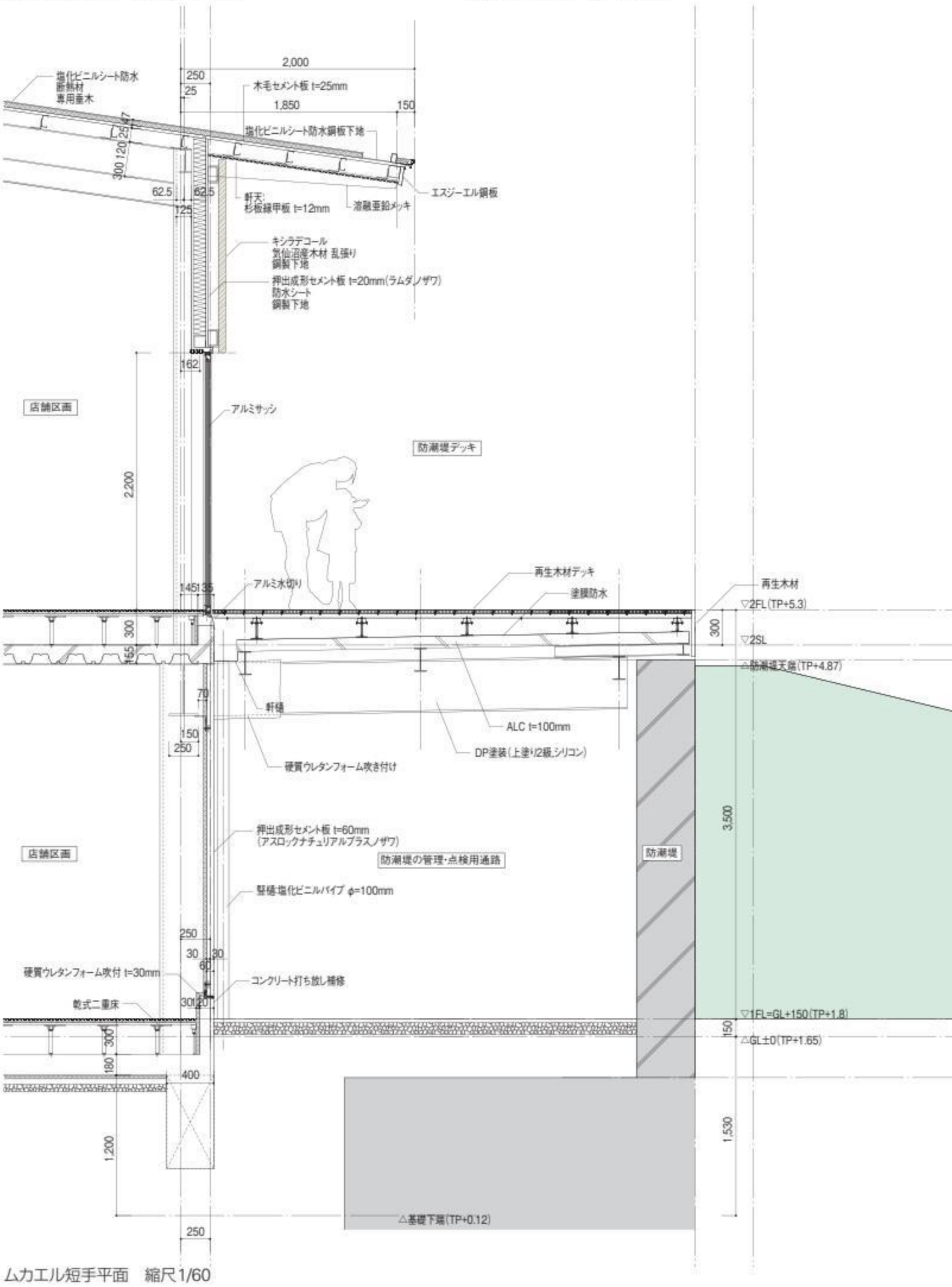
内湾地区復興まちづくりコンペ案（早稲田大学都市・地域研究所による案）



気仙沼内湾地区　土地所有区分図



気仙沼内湾地区　管理区分図



ムカエル短手平面　縮尺1/60



ムカエル建設前の敷地．防潮堤を見る．**



上：ムカエルイベント時の様子．ステップガーデンと斜面緑地を客席として利用．**
下：ステップガーデンと斜面緑地．



ウマレル2階内湾ラウンジより海を見る．すべての室から海への眺望を得られる計画．*



ウマレル北西から2階デッキへ続く階段を見る．外装材の木ルーバーと軒天の木仕上げはムカエルと共通．屋根はT形鋼を網状に組み合わせた構造．*

海とまちを繋ぐ防潮堤一体型の建築

気仙沼の顔である内湾地区は，海とまちの一体的な景観が美しい港町である．東日本大震災の津波被害を受け，宮城県より示された防潮堤の計画に対し，シームレスな海とまちの関係を再生するために，防潮堤をふたつの建築とランドスケープデザインで融合させた計画である．防潮堤より海側には，斜面緑地・ステップガーデン・階段キャノピーを配置した．一方，まち側のふたつの建築は，防潮堤上部にオーバーハングした幅約4mのデッキ空間で連続させ，一体的な回遊空間を創出している．

ムカエルは，気仙沼地域開発が事業主の鉄骨造3階建ての商業施設である．建築設計はLLC SMDWが担った．1階のテナント区画はまち側へ面し，2階のテナント区画は海へ開く．3階には一帯を管理し，イベント運営も行う同社の事務所が入る．テナントごとに個別のエントランスを持ち，まちや防潮堤デッキを散策しながら店へアプローチできる．屋内共用部を持たないことで施設管理費の低減にもなる．1階は駐車場機能のために7.2×8.4mグリッドの純ラーメン構造として自由度を確保すると同時に，防潮堤デッキを支える長さ4.3mの片持ち梁元端柱梁接合部の回転剛性を高めて変形を抑制した．2～3階は細幅規格H形鋼と鋼管によるブレース構造である．125mm角の柱がサッシ方立に合わせて2.7mピッチに並ぶ．柱梁接合部はピン接合とし，3方向の梁角度の自由度を確保した．2.7mごとに梁の傾きを変化させて，気仙沼の海，山，船を想起させる大きな波型屋根をつくった．

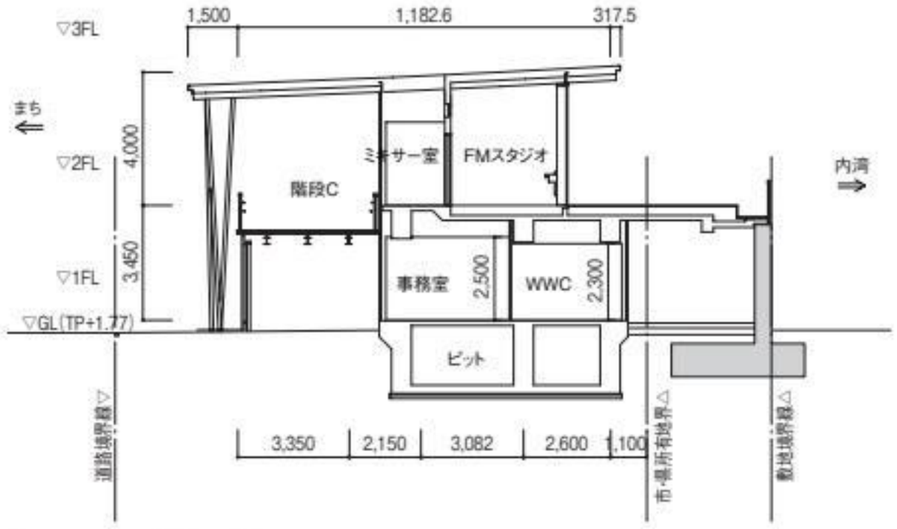
ウマレルは被災したふたつの公共施設を「まち・ひと・しごと交流プラザ」として合築再建した気仙沼市の建築である．設計はRIAが担った．まち側に面する1階は観光案内所と船のチケット売場，チャレンジショップ，コワーキングスペース．2～3階は軽運動室，音楽スタジオ，研修室など海が見える活動室．防潮堤デッキをもうひとつの地盤と見立てた離れには，ラヂオ気仙沼のFMスタジオを配置した．1階は鉄骨鉄筋コンクリート造，上部は鉄骨ブレース構造とし，母屋はϕ=205mm，離れはϕ=101.6mmの細い柱と懸垂曲面等のなだらかな屋根，県産スギ材ルーバー等の外壁で構成した．屋根はT形鋼を網状に組み上げた架構とし，そのまま見せている．内部も県産スギ材をふんだんに使い，海とまち双方に開かれた内湾ラウンジを中心に，各活動が，見る・見られる空間構成とした．人・まち・海が繋がり，活力や賑わいの相乗効果がウマレルことを期待している．

ムカエルとウマレルは，異なる事業者・設計者による建築であるが，設計者間でデザイン調整会議を繰り返した．2階のウッドデッキの色や配置，外壁の木ルーバーのディテール，海の見える道からのアプローチとなる大階段の方向および幅，向かい合う屋根の高さ，手摺，照明，サイン等，景観デザインの統一化を図った．

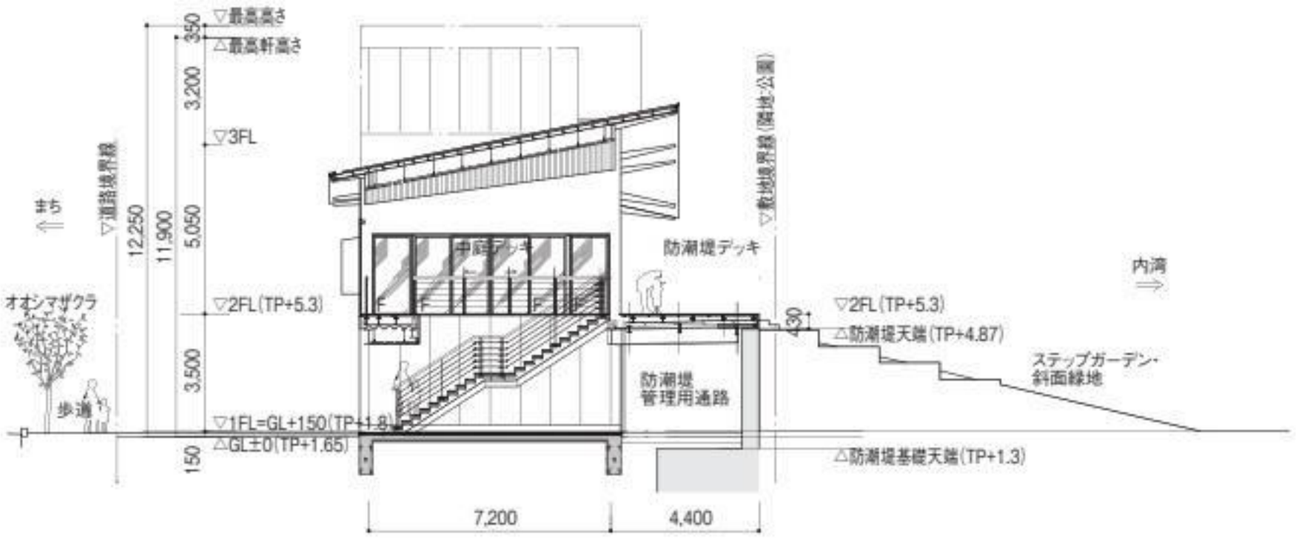
（阿部俊彦＋津久井誠人／LLC SMDW，
村山寛／アール・アイ・エー）

ウマレル2階内湾ラウンジ．*

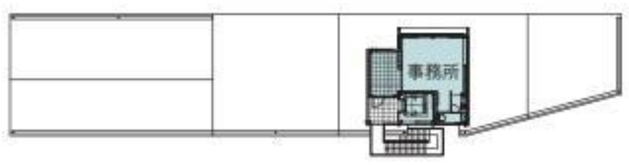
ウマレル2階軽運動室．壁仕上げは県産材を小端立て貼りした．海側・まち側どちらの壁もガラス張りとし，中の活動を外から伺える．*

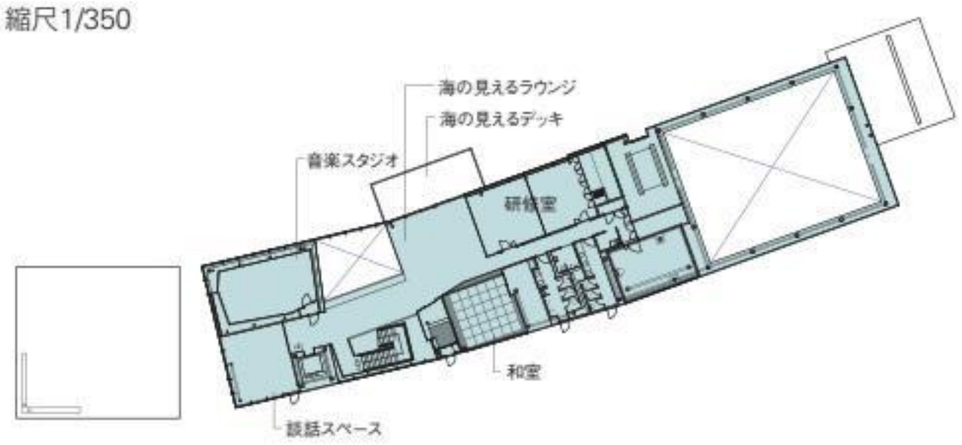


ウマレル短手断面　縮尺1/350

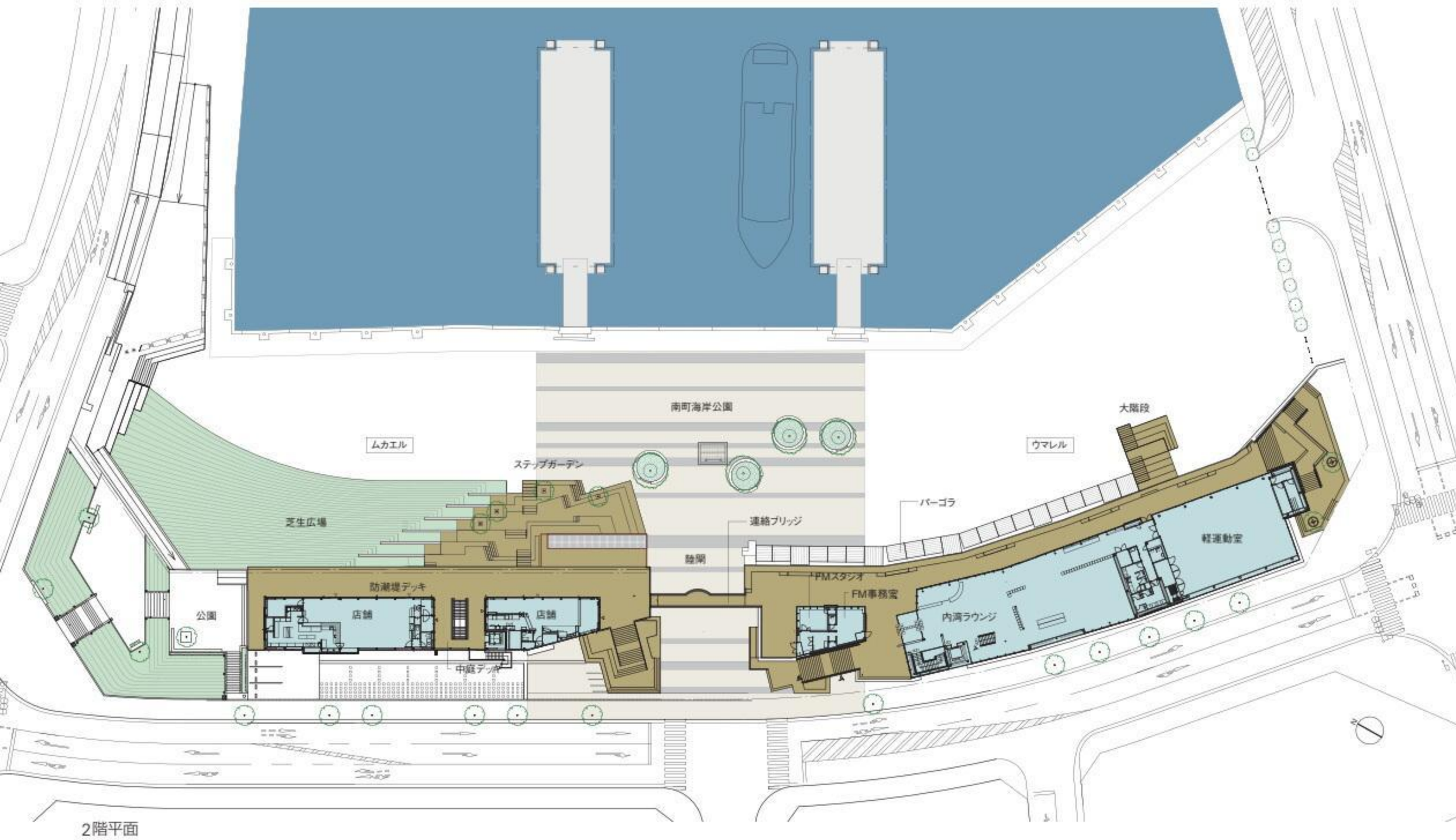


ムカエル短手断面　縮尺1/350

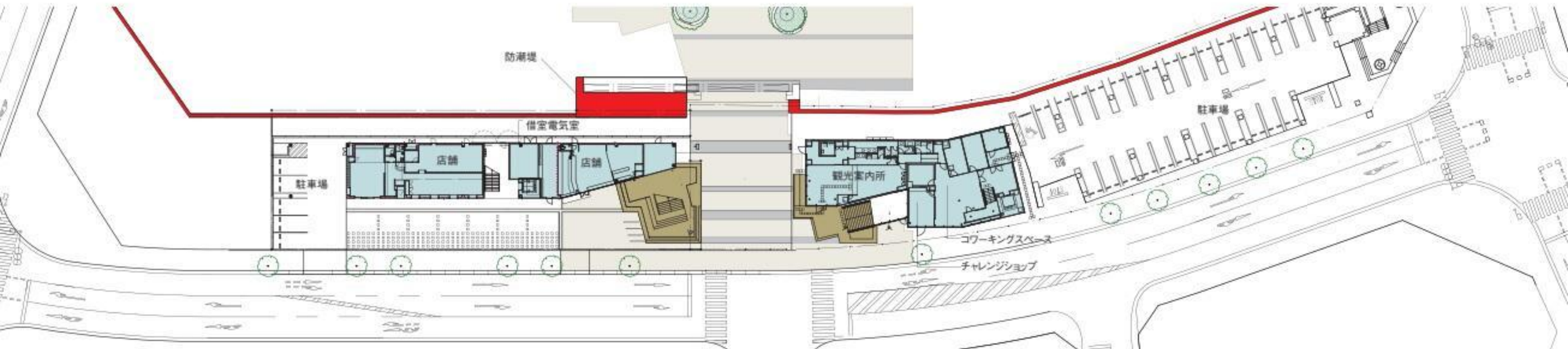




3階平面



2階平面



1階平面　縮尺1/1,000

復興まちづくりのプロセス

2011年3月11日の被災から半年後，気仙沼市は「海と生きる」をスローガンに掲げ，復興計画を示した．それに基づき，内湾地区では，まちづくり協議会が設立され，住宅・商業・観光の3つの部会でワークショップを通じてアイデアを出し合ってきた．そして，地域住民と行政の間で目標空間イメージを共有し，以下のような検討の段階を経て，個々の小さな復興プロジェクトが漸進的なプロセスで実現してきた．

第一段階では，被災者のための災害公営住宅の用地の不足と，個別で店舗を再建することができない事業者が多かったことから，被災者の店舗および住宅再建のための共同化による小規模まちづくり事業を検討した．その結果，共同店舗やコミュニティ施設を併設した4つの災害公営住宅が実現した．

第二段階では，災害公営住宅に入居する住民が必要とする生活支援施設の検討を行った．その結果，銀行，マーケット，福祉施設，料理学校などが誘致された．

第三段階では，行政により土地区画整理事業で整備されることが決まっていた公園のデザインや機能を提案した．さらに，海と商店街を繋ぐための歩行者空間のデザインと，その沿道の商業施設の必要性を提案した．その結果，内湾の中心軸となる海の見える道が実現した．

第四段階では，南町海岸のウォーターフロント（ムカエル・ウマレル）と海の見える道の沿道の商業施設の事業検討が進められ，それらの拠点施設が実現した．

（阿部俊彦／立命館大学，まちづくり協議会アドバイザー）



提供／阿部俊彦

ワークショップで復興のアイデアを出し合う．ワークショップでは，模型を使用しながら，ウォーターフロントの使い方を模索した．



南より見る．2棟間を通る「海の見える道」は，海と既存の商店街を繋ぐ中心軸として整備された．**



提供／阿部俊彦

内湾から見る夜景．



目標空間イメージと復興プロジェクトの完成年



防潮堤（赤いライン）の位置図　縮尺1/5,000

南相馬市小高区における自然的実践

小高復興デザインセンターの取り組み

窪田亜矢（東京大学地域デザイン研究室 特任教授）

東日本大震災による福島第一原子力発電所被災地域の現場で起こっていることを，私たちはどう理解できるだろうか．

原発事故が起きる前，人は，日常を支えている土台に多少なりとも安らぎを感じつつ，ご近所さんや学校や雑草や田畑など，あらゆるモノとの関係を調整しながら，生活を成立させていた．しかし，水素爆発による放射性物質の拡散，長期にわたる避難指示を経て，安定して見えていた土台の不安定さが露わになった．帰還もしくは移住してきた人びとは，それでもあえて，避難指示が解除されたまちを選択し，あらゆるモノとの関係を再び調整している．それは自然的な実践と言える（避難指示が解除できない地域の住民や解除されても戻れず移住した人びとも同じことだ）．中動態の世界の中で，当事者のそれまでの経験や知見に基づいて，周囲の状況に応じながら，今ここでの行動が自ずと決まっていく．

現場の自然的実践を見れば，復興という目的を掲げた空間計画のパラダイムシフトが，本当は既に起きていることが分かる．現場とは「今ここ」であり，そこでの実践は事実だ．もし私たちひとりひとりがこれらの事実を見逃さなければ，社会的通念としてのパラダイムシフトは本当に起こる．しかし誰も留意しなければ，いつか誰かが発見してくれるまで，実践があったという事実は，風景や記録の中に隠れながら孤立してただ待っている．

南相馬市小高区とのご縁をいただいたのは，2014年，いつ避難指示が解除されるのか，まだ不明な頃だった．避難住民の多くは，同市内の原町区や鹿島区の仮設住宅などに暮らしていた．研究室の学生らと一緒に通っているうちに，私たちも現場のあらゆるモノの中に位置付けていただいたように思う．住民が市に対して協働の仕組みを提案し，小高復興デザインセンターという場ができた．取り壊し予定だった社協会館を借り受けて，みんなで掃除した．使っていないからと座卓や家電が届けられ，少しずつそれらしくなっていった．

避難指示の解除となった2016年7月より，一緒に通っていた元学生は約3年間常駐することになり，歓待された．私たちはできることを探した．何をすればよいのか，分からなかったので，誰もが発言したり，相互に聴いたり，話し合ったりできる開かれた場を設けることにした．始められそうな実践があれば，一員となって試してみた．既に始まっている実践があると聞けば，現場に出かけて話を伺い，記録し，周知した．

小高は，2006年に南相馬市の一部となるまでは自治体としての町であり，明治の町村制以前に遡る39の集落から構成されている．それぞれの集落は，津波被害によって災害危険区域が指定された海岸沿いから，帰還困難区域を抱える山際まで，地形や立地に応じた生業を展開し，村社や公会堂や墓地を共有する，土地と人の一体的な範囲である．常磐線小高駅西側のまちなかは，駅前通りを中心として，外からの客を迎え入れる商店街という独自の機能を有していた．

そうした履歴，すなわち過去の実践の蓄積の中で取り組まれる自然的実践は，それぞれ違って当然だ．しかしいずれも，個性的であり，自由であり，このまちで暮らすという倫理の再構築である．

2021年度からは，小高復興デザインセンターの名前を変えようと話し合っている．

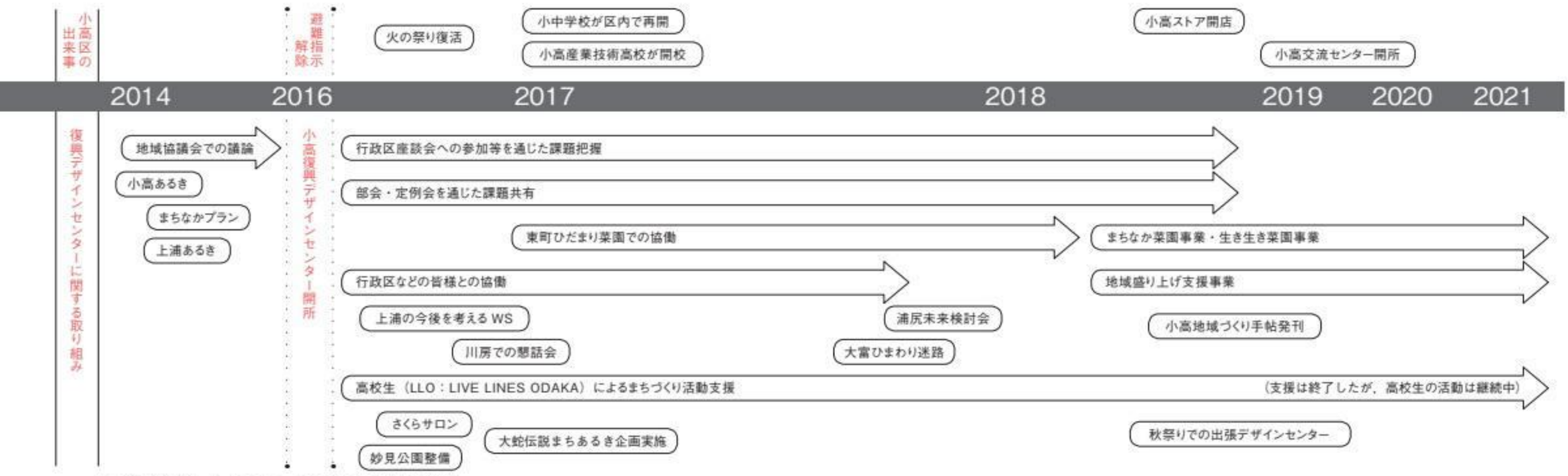


避難指示解除3カ月後（2016年10月12日）の小高区の住民帰還状況
（数字は帰還した世帯数，色は地域を示す）

	2011年3月（東日本大震災前）	2016年10月（左図）	2021年1月
人口	12,840人	894人	3,758人 ＊住民登録 7,003人
世帯（小高区内に居住）	3,791世帯	434世帯	1,682世帯
高齢化率	27.9%	57.7%	48.9%

小高区の被災後の人口変化

- 福島第一原発から20km圏内に位置し，原発事故後，警戒区域に指定された．
- その後，避難指示解除準備区域，居住制限区域，帰還困難区域に再編された．
- 2016年7月12日に帰宅困難区域意外の避難指示解除．仮設住宅・借上げ住宅の供給も2019年3月末をもって終了した．



小高復興デザインセンターのこれまでの取り組み

南相馬市小高区川房公会堂

設計　内藤廣建築設計事務所
施工　中里工務店
所在地　福島県南相馬市
KAWABUSA PUBLIC HALL
architect: NAITO ARCHITECT & ASSOCIATES

川房行政区公会堂の改修は，地域盛り上げ支援事業のひとつとして位置付け，小高復興デザインセンターが企画から完成まで支援した．公会堂は1971年に建てられ，大字会や祭りの練習などが行われていた．内部は，断熱の上壁を張り，既存天井を剥がし小屋組を現した．



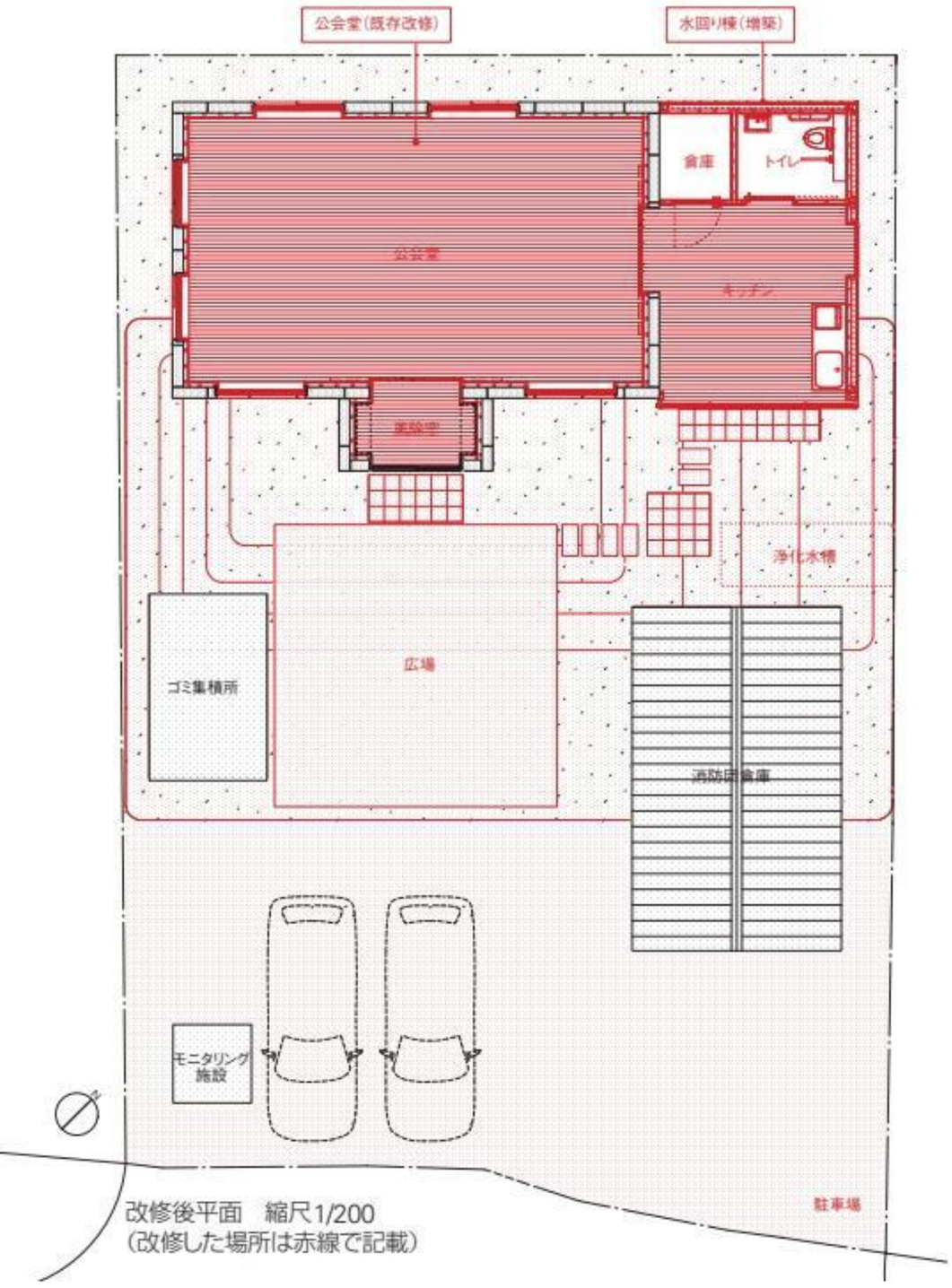
増築したキッチンより既存の石積みの壁越しに公会堂を見る．



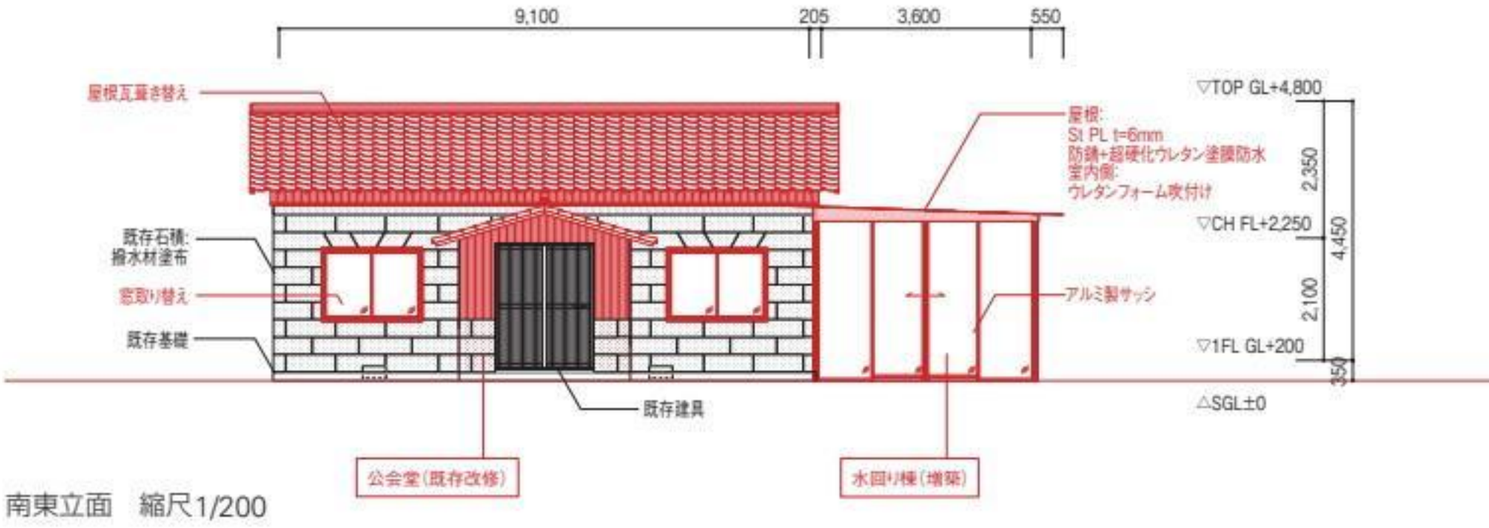
広場越しに見る南東外観．屋根瓦は吹き替え，開口部は取り替えた．



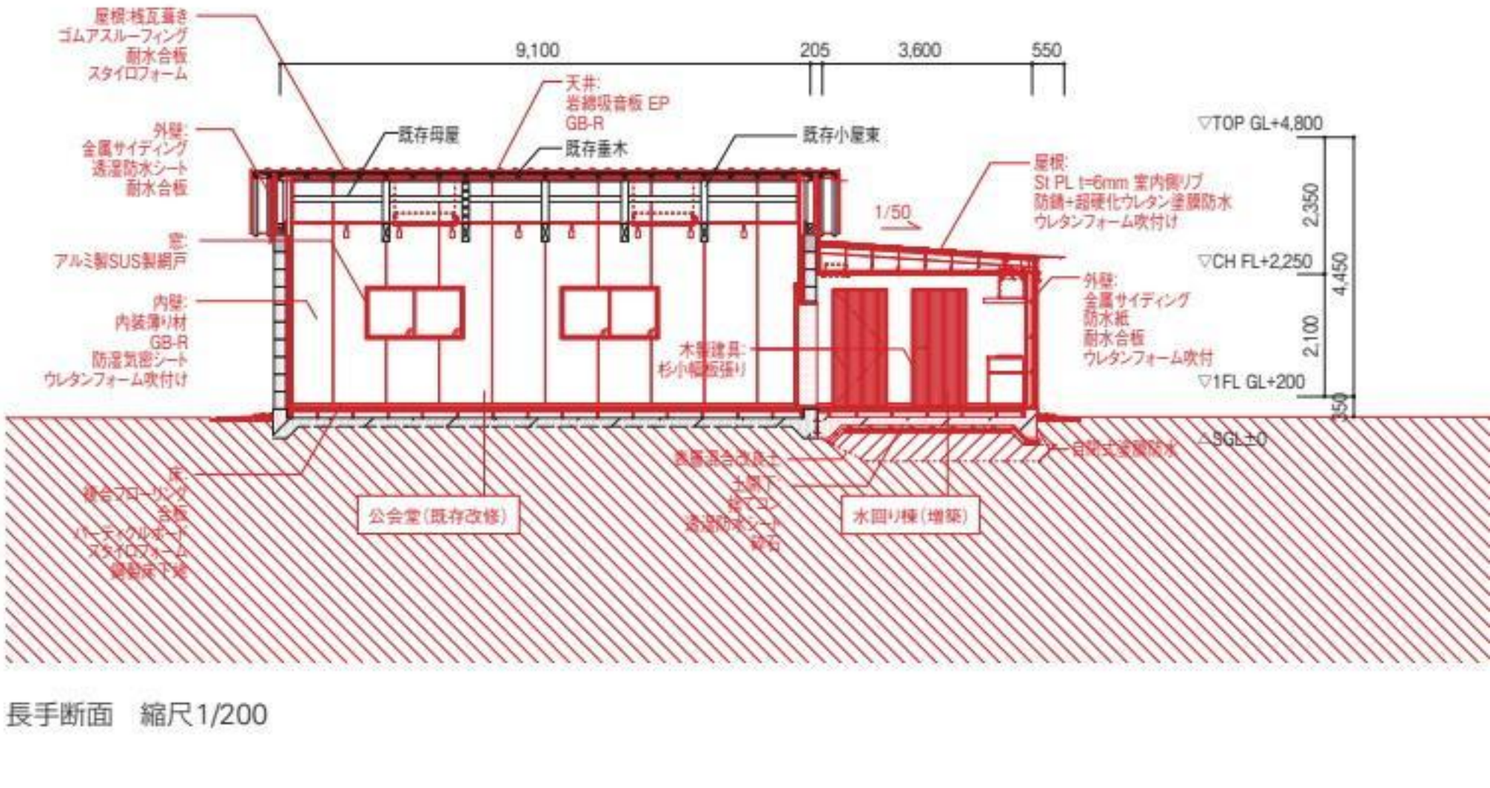
北東外観．キッチン増築部．屋根は鉄板段葺きに特殊防水を施した．



改修後平面　縮尺1/200
（改修した場所は赤線で記載）



南東立面　縮尺1/200



長手断面　縮尺1/200

南相馬川房公会堂

三陸の被災地にはずいぶん通ったが，新幹線で福島辺りを過ぎる時はいつも胸が痛んだ．ずっと三陸で手一杯だった．だから3年ほど前に窪田さんから連絡をもらった時，一も二もなく引き受けた．小さな公会堂の建て替えなのだが，ということだったが，大きさの問題ではない．

まず，現地を訪れてみる．この地域一帯は，何もなければ間違いなくわが国でも有数の美しい田園地帯のひとつといえる．その中の少し奥まった田畑の中に，公会堂，消防団の倉庫，ゴミ集積所，放射線量を計るモニタリング施設，それらが小さな敷地に寄せ集まって建っている．道路を隔てた反対側には長大な白い仮囲いの塀が見える．塀の向こうは除染廃棄物を詰めたトンパックという膨大な数の黒い袋が集められている．

建物を見ると，なんの被害も受けていない．大谷石のような石でつくられた積石造の建物だが，あれほどの揺れが来たはずなのに壁にはほとんどクラックが入っていない．聞けば近くに住んでいた大工さんが積んだという．丁寧に積まれている．立派なものだ．ひと目見て，これはこの地域が誇りにすべきもので，残すべきだと思った．横に炊事場とトイレがあったが，これは増築だろうから残す意味がない．本体は改修で対応し，増築部分を新築し，これまでの記憶を留めつつ気分を一新してもらうことにした．屋根瓦は汚染されているので取り替えた．断熱材のない石の壁からの湿気に悩まされているとのことだったので，内壁を貼り替えて断熱材で覆って仕上げ，床も傷んでいたので断熱した上でやり替え，小屋組はそのまま残して梁を露出させた．小さな増築部分は意外に難しく，軒との関係からフラットに近い屋根にせざるを得ない．また，既存の積石造に力がかかることを極力避けたかったので，狭いスペースで自立させなければならない．やはりKAPの岡村仁さんの手を借りた．彼もボランティアで加わってくれた．感謝したい．鉄板を使った鉄骨造とし，屋根は鉄板を段葺きにして特殊防水を施した．

最初に訪れた時，既に帰還していた何人かの主婦が歓待してくれた．とても明るくにぎやかな人たちだった．自家製の漬け物をたくさん出してくれて，食べてくれ，という．そのあとに，だいじょうぶだから，とひと言付け加えた．その言葉が今でも脳裏を離れない．思わず出たその微妙な言葉の中に，すべてが含まれているように感じられたからだ．本質的問題は建物なんかではない．人の存在と暮らしにまつわる哲学的な問いかけだ．南相馬小高は，あの『闇のなかの黒い馬』を書いた埴谷雄高の本籍地である．（内藤廣）

設計　建築・設備　内藤廣建築設計事務所
　　構造　KAP
施工　中里工務店
敷地面積　262.56m²
建築面積　100.64m²
延床面積　75.07m²
階数　地上1階／構造　組積造　一部，鉄骨・木造
工期　2019年8月～12月
151～153頁写真提供　小高復興デザインセンター
*撮影　内藤廣建築設計事務所（データシート183頁）

配置　縮尺1/7,000（出典：Google Map）



川房行政区聞き書きマップ（小高復興デザインセンター作成）





改修前の川房公会堂．*

■まちなか編



まちなかにおける実践

小高駅の西へ200mほど伸びる駅前通りは，かつての街道・浜通りでもある．北の小高川を挟んだ高台に小高神社（旧小高城）を冠し，養蚕業で栄えた歴史を，人びとは今も大切にしている．敷地は，駅前通り沿いの店舗＝見世，奥に庭と住まい，さらに奥に作業場や倉庫などを配し，裏通りに接する．居住と生業をうまく融合させたものだと感心する．しかし原発事故以降，建物が建つことを前提とする空間秩序は，成り立たなくなった．よって，志のある人ができることを増やせるように，小高復興デザインセンターでは，NPO法人balloonの鈴木亮平さんと共に空地の「まちなか菜園」利用に取り組んでいる．同時に，植物の力を借りながら，管理し尽くすのではない，新たなまちなか風景を生み出すことに繋げたい．

（窪田亜矢）







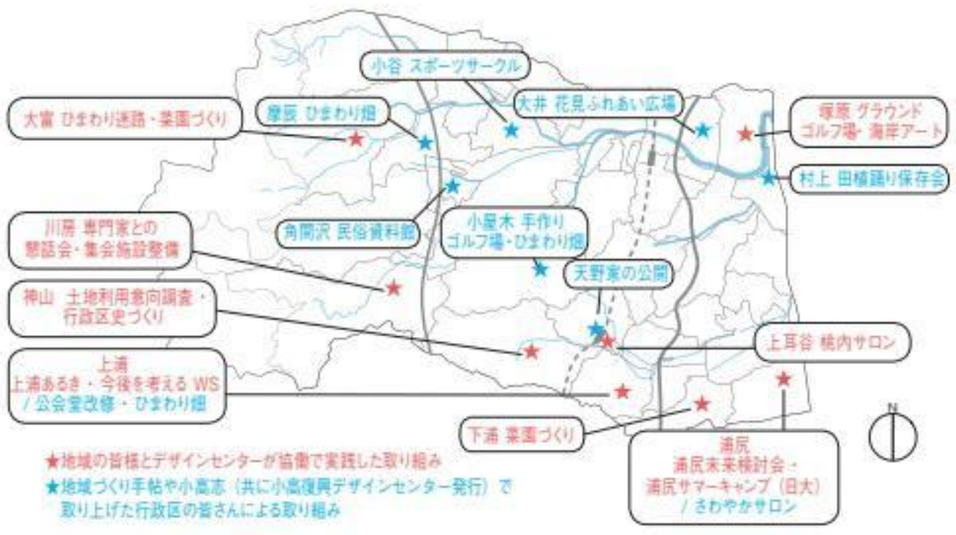






上左：東町ひだまり菜園．公営住宅の空いた空間を使い，菜園づくりを行う．上右：空間の提案を行った集いの場．中左：屋根園でのヨガ教室．中右：光るベンチ製作ワークショップ．下左：現小高復興デザインセンター．下右：小高交流センターでの住民主催イベント．

■集落編



集落部における行政区の実践

話し合いを続ける中で，川房は，暮らしのよすがとしての公会堂を「残す」決断をした．人は減るけれども土地は減らない問題に向き合い，維持管理組織を立ち上げた集落もある．災害危険区域になった海辺に，芸術の力を借りて場所の意味を浮かび上がらせた集落もある．畑に菜の花迷路をつくって名所に仕立てた集落もある．昔の写真を持ち寄って語り合った歴史を冊子にまとめた集落もある．いずれの集落もいつまでも続けられるとは思っていない．しかし，自分ができることはやるという責任感がある（持続可能ではないとかもっと大きな取り組みをすべきだとか，何もやらない人の無責任な批判が，現場に届かないことを願う）．動きが取れなくなっている集落もある．いずれにしても答えが落ちているわけではないが，日常の風景に実践を見出したい．

（窪田亜矢）













上左：塚原海岸アートフェス当日．上右：塚原海岸の海岸アートの製作風景．中左：神山の歴史をまとめた「神山今昔」冊子づくり．中右：大富ひまわり迷路・菜園づくり．下左：上浦あるき・今後を考えるワークショップ．下右：浦尻のワークショップにて被災後の今を知るためのまちあるき．

左3点：小高区の避難指示解除後の風景．右1点：南相馬市原町区の相馬野馬追（2016年）．小高復興デザインセンターでは，「行政区が主体的に実践する」「さまざまなつながりを大切にする」「歴史や復興の経験をいかす」「土地のあり方を見つめ直し，風景を再生する」「行政区の個性を活かしながら，緩やかに連携する」という5つの方針を立て，地域づくりに関わっている．







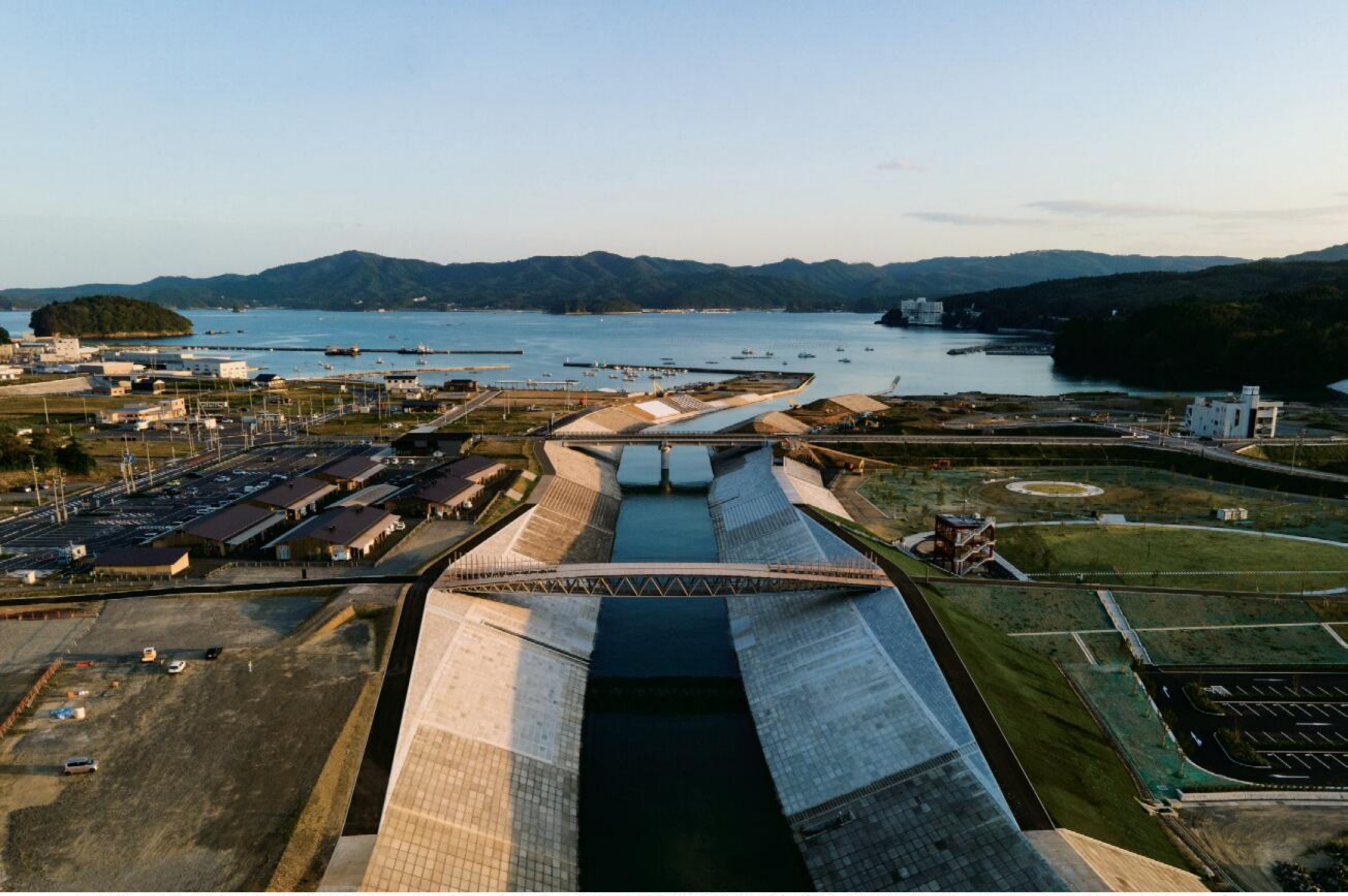


南三陸町震災復興祈念公園・南三陸さんさん商店街
中橋・南三陸ハマーレ歌津

設計　設計組織 プレイスメディア　隈研吾建築都市設計事務所　パシフィックコンサルタンツ・隈研吾建築都市設計事務所設計共同体

所在地　宮城県本吉郡

2011年の東日本大震災で大きな被害を受けた南三陸町．津波によって低地部の広範囲で大きな被害を受けた志津川地区では2014年に隈研吾建築都市設計事務所の協力のもとグランドデザインを作成．グランドデザインをベースに復興が進められている．2017年に南三陸さんさん商店街，2020年に南三陸町震災復興祈念公園，中橋などが完成した．（2020年10月撮影．写真提供：UR都市機構）



北側俯瞰．約9.0m程度嵩上げして造成された東側敷地に南三陸さんさん商店街，西側に南三陸町震災復興祈念公園がつくられ，中橋が両者を繋ぐ．八幡川沿いには防潮堤が設けられている．

南三陸に寄り添い続ける

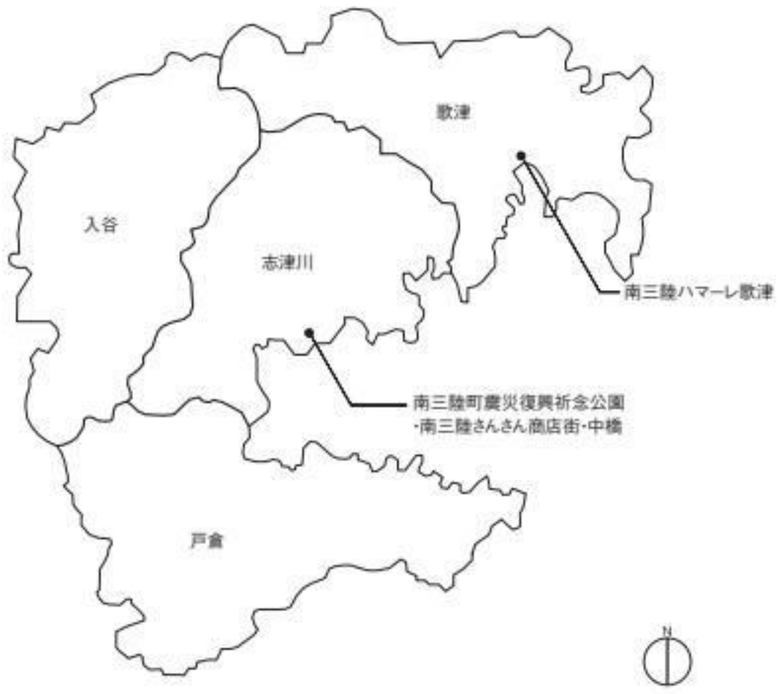
東日本大震災の日から2週間後に，津波の海水が引く前の南三陸町になんとかしてたどり着くことができた．僕らが設計した石巻市の北上川・運河交流館（1999年，本誌9909）とやっと電話が通じたので，その被害の様子を自分の目で確かめたくて，道路状況は不明だったが，取り急ぎ車を出して北に向かったのである．その時に見た南三陸町の風景は，今でも頭から消すことができない．

2年後に南三陸町の佐藤仁町長からマスタープランの依頼を受けた．上から線を引くのではなく，南三陸町の皆さんの気持ちを基に描こうと考え，話し合いを始めて，みんなの考え方がさまざまであることを知った．津波の際の悲劇で知られる南三陸町の防災対策庁舎も，長く保存して震災遺構とすべき派と，見ると辛い記憶が蘇るので，残したくないと考える方たちがいた．

復興という行為には正解というものはないことを知った．復興を計画する上で重要なのは，この辛い体験をしてもなお，この場所に住み続けたいと思う人たちの気持ちに，どこまで寄り添えるかであると教えられた．美しく象徴的な建築をデザインすることではなく，そこに住み続けると決意した人たちと，一緒に考え続け，一緒に走り続けることが，復興という「長距離走」であることを知った．

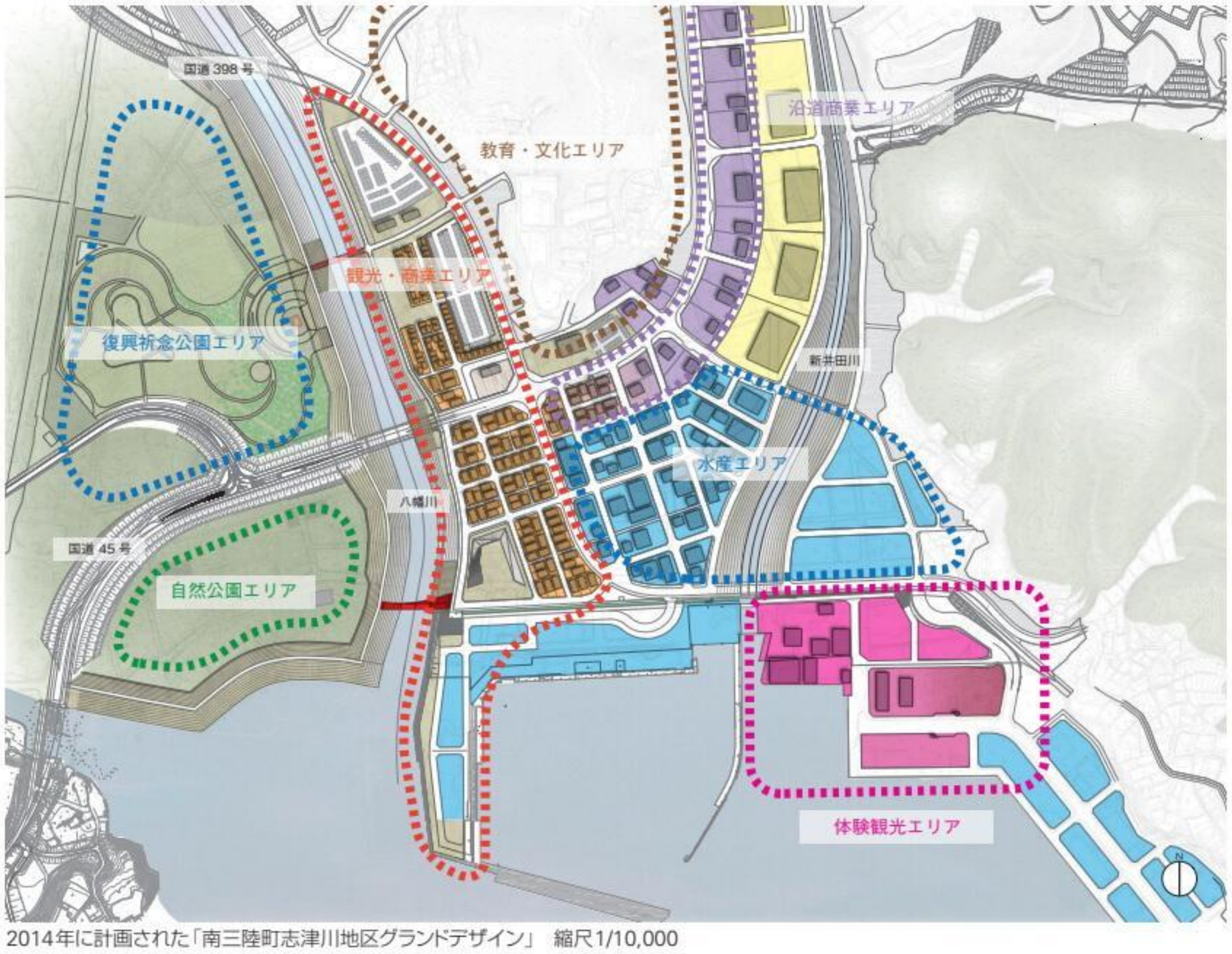
そんな思いで，僕らは南三陸町と長距離走を始め，8年が経ったが，8年ばかりで長距離走というのはおこがましいと感じている．まっさらな人工の盛土の上に街が生まれ，生活が始まるためには，8年は一瞬でしかないし，実際に一瞬に過ぎた．

この8年間の対話で一層強く感じたことは，南三陸町の人びとの海への思いである．多くの生命を奪った海ではあるが，ここに住む人たちは海を愛し続けている．海とひとつになって暮らしたいと考えている．マスタープランでは，嵩上げされて海から遠くなってしまった街を，どこまで海に近づけられるかをいちばん大事にした．どの路地の先にも海が見えるように道路の線を引くことで，まず街と海を繋ぎ直し，街はなるべく低く，やさしく柔らかくして，大地に近く，重心の低いものにしようとした．夜間に人が住まない街は，どこだか分からない「夢の高台」になりかねない．その対極にある，大地に根の生えた，海とひとつになった街をつくろう，いや，取り戻すために走り続けようと考えた．（隈研吾）



南三陸町広域配置　縮尺1/400,000

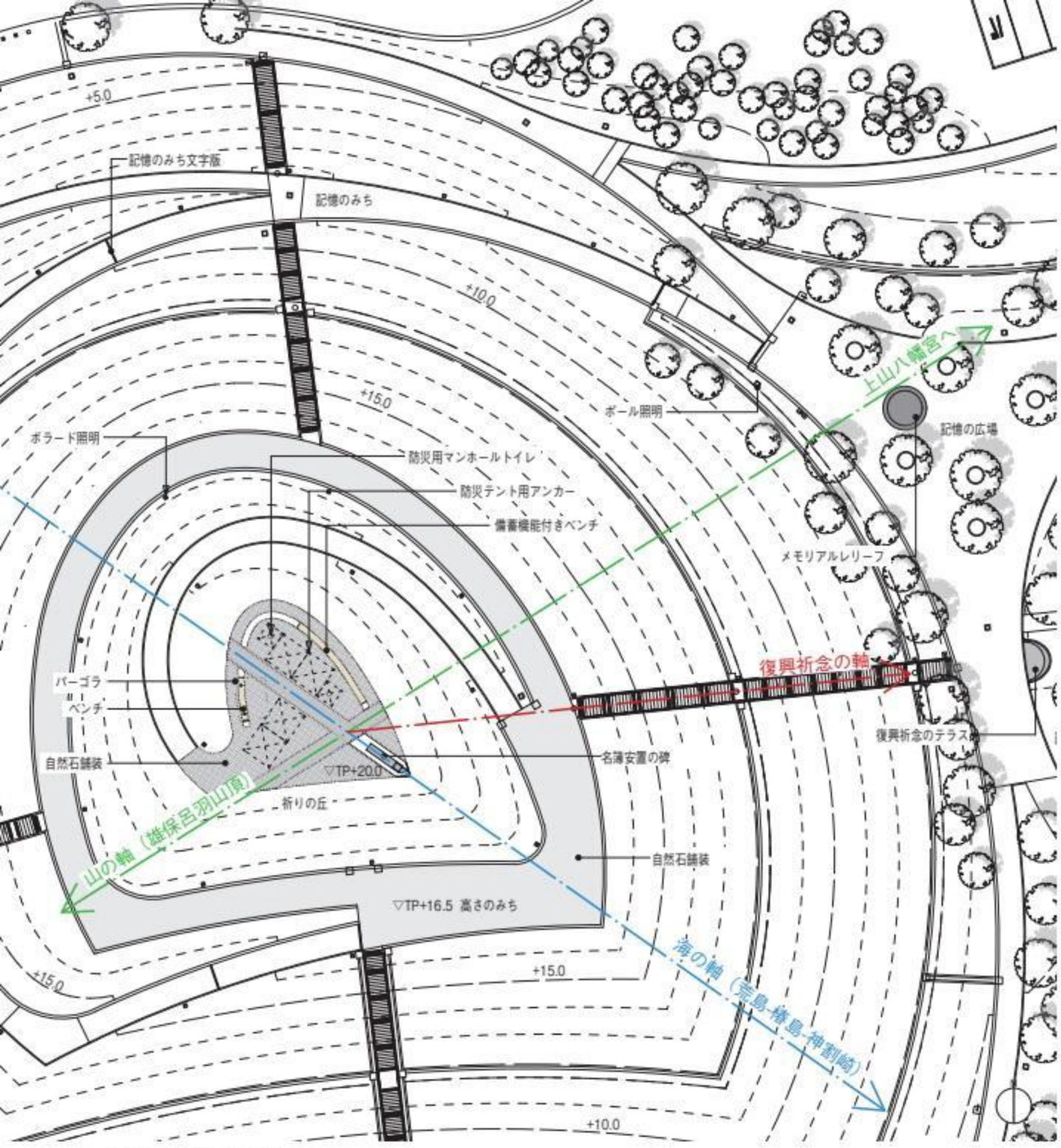
志津川地区配置　縮尺1/3,000



2014年に計画された「南三陸町志津川地区グランドデザイン」　縮尺1/10,000

新しい中心市街地をつくる

2011年3月11日の東日本大震災で津波による大きな被害を受けた人口約13,000人の南三陸町では「住居ゾーン」「公共公益施設ゾーン」「公園緑地ゾーン」「水産業関連ゾーン」「商業・業務ゾーン」など役割に応じた土地利用のゾーンが設定され，さまざまな復興事業が進行している．八幡川下流域周辺の低地部では嵩上げ工事と新しい区分けを行う区画整理事業が実施された．実施にあたり，新たなまちづくりのイメージを共有するため，2014年に隈研吾建築都市設計事務所によって「南三陸町志津川地区グランドデザイン」を策定．それを基に復興事業が進められ，2017年に南三陸さんさん商店街，2020年に南三陸町震災復興祈念公園，中橋が完成．2022年春（2021年度内）には震災伝承館の完成が予定されている．今後，沿岸部に広場が計画され，新しい中心市街地として機能する観光・交流・商業・業務機能再生拠点ゾーンとなることが目指されている．（「南三陸町志津川地区まちづくりマスタープラン」などをもとに編集部執筆）



平面　縮尺1/1,000



左は震災遺構として遺された旧防災対策庁舎．**



海・山・街のあいだに

海抜16.5m，これは東日本大震災の時に南三陸町志津川地区を襲った津波の高さである．公園の中央部を占める「祈りの丘」は，発災時に一時的な避難地となり得る高さ（海抜20.0m）を確保するために造成された避難築山であるが，その頂上のすぐ下では，この高さの等高線に沿って「高さのみち」が丘をぐるりと取り巻く．その名称は端的にして，しかしきわめて重い．眼下には骨格構造だけが遺る旧防災対策庁舎が見えるわけだから，被災直後には周辺が湖のようになっていて，足下の高さまで津波が迫っていたであろうことを想像できるのではないだろうか．丘の頂に上がれば，そこからは志津川湾に浮かぶ荒島と椿島の島影が重なって見え，さらにその先には太平洋の水平線が延びる．左手には，震災遺構の背景をなす新しい市街地が八幡川を隔てて広がり，振り返ると街を取り囲むように連なる山々の稜線が，海と空の間に鮮やかなスカイラインを描いている．海と山，そのあいだの街，古より南三陸町の人びとの生業を支え，暮らしの中で常に意識されてきたこれらのモノとコトの関係を，一望のパノラマの中に感じ取ることができるはずである．この公園の設計に携わるにあたって，被災された方々や町役場の方々と共に考えたキーワードは，犠牲者の追悼，記憶の継承，大自然への畏敬と感謝，街が復興することの想像，そしてさまざまな人びとの協働であった．震災復興祈念公園は，これらのキーワードすべてに繋がる風景が随所に立ち現れる場所でありつづけてほしい．

（宮城俊作）

南三陸町震災復興祈念公園

設計　設計組織 プレイスメディア

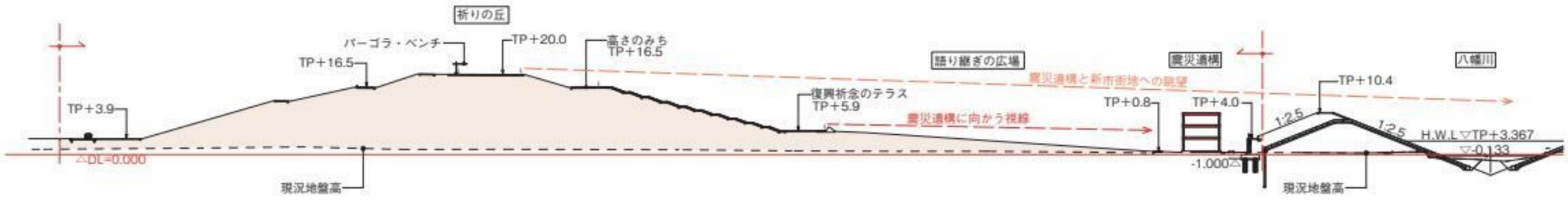
施工　飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント南三陸町震災復興事業共同企業体

MINAMISANRIKU MEMORIAL PARK OF EARTHQUAKE DISASTER
architects: PLACEMEDIA, LANDSCAPE ARCHITECTS COLLABORATIVE



北側俯瞰．右が祈りの丘．記憶の広場，中橋を介して南三陸さんさん商店街と繋がる．東日本大震災の犠牲者の名簿を納める「名簿安置の碑」，復興を祈念して設えられた「復興祈念のテラス」が設置．標高20mの祈りの丘は災害時の避難場所としての機能も持つ．**

設計　ランドスケープ　設計組織 プレイスメディア
　　土木　玉野総合コンサルタント
　　統括　UR都市機構　飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント南三陸町震災復興事業共同企業体
施工　飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント南三陸町震災復興事業共同企業体
敷地面積　62,900m²
工期　2018年4月～2020年9月
**提供　設計組織 プレイスメディア
（データシート184頁）



断面　縮尺1/2,000

南三陸さんさん商店街

設計　隈研吾建築都市設計事務所

施工　ナイス・志津川・山庄特定建設共同企業体

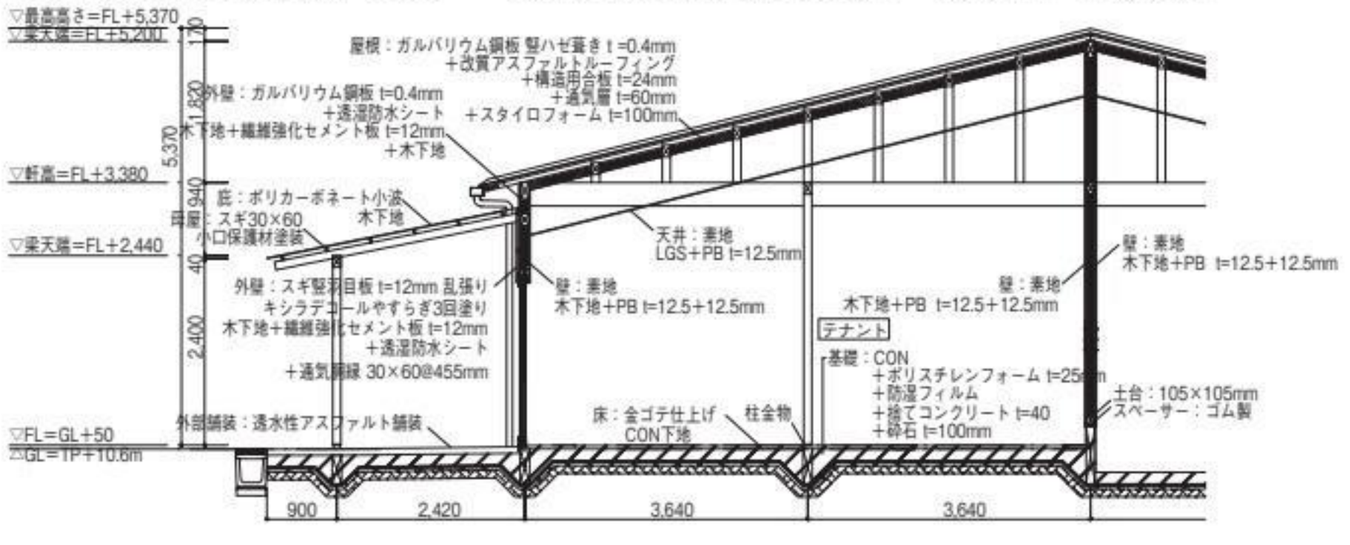
MINAMISANRIKU SUN SUN SHOPPING VILLAGE
architects: KENGO KUMA AND ASSOCIATES



2012年にオープンした仮設商店街の本設として計画．南三陸スギを利用した6棟の平屋を海への視線を確保するように配置．下屋を設けることで人びとのアクティビティが外部に表出する計画としている．

「小さな物」たちのためのステージ

震災11カ月後に，竹のすだれのかかったプレハブ建築として復旧した仮設のさんさん商店街は，たくましい復興の象徴として観光客からも地元の人からも愛された．その気取らない，ざっくばらんな雰囲気を，新築の本設の建築でつくり出すことは，決して容易ではない．在来木造はその柔らかさをつくる武器となるが，木造だけでは十分ではない．僕らは，下屋（ゲヤ）を張り出すことによって，その難問に挑んだ．日本建築は下屋の建築であると僕は思っている．本体すなわち主屋の構造をそのままにして，庭側，道路側に下屋を増設することによって，日本建築は内部と外部，プライベートとパブリックとを巧みに繋いできたのである．下屋は主屋の庇の下から張り出されるので，自動的に天井の低い，ヒューマンで仮設的な空間となる．その下屋という知恵を，新しい南三陸さんさん商店街，ハマーレ歌津では全面的に活用した．下屋は，駐車場や物置の屋根に用いられる安価な塩化ビニル製の波板で葺かれ，そのやさしい質感によって，ここが主屋でも外部でもない第三の空間であることを，人びとは身体的に感じる．下屋の奥行きは広めに取り，そこはベンチやサイン，行灯などの「小さな物」たちの格好の置き場となる．ジェイン・ジェイコブスは『アメリカ大都市の死と生』の中で，路地の魅力は建築によってではなく，「小さな物」がつくることを看破したが，下屋は「小さな物」たちが自由に歌い，踊るステージである．下屋の先端には森本千絵がデザインしたひらひらした暖簾がぶら下げられて，新築，本設とは思えない楽しくてざっくばらんな商店街ができ上がり，人びとからは仮設商店街以上に愛されることとなった．（隈研吾＋名城俊樹）



断面　縮尺1/150

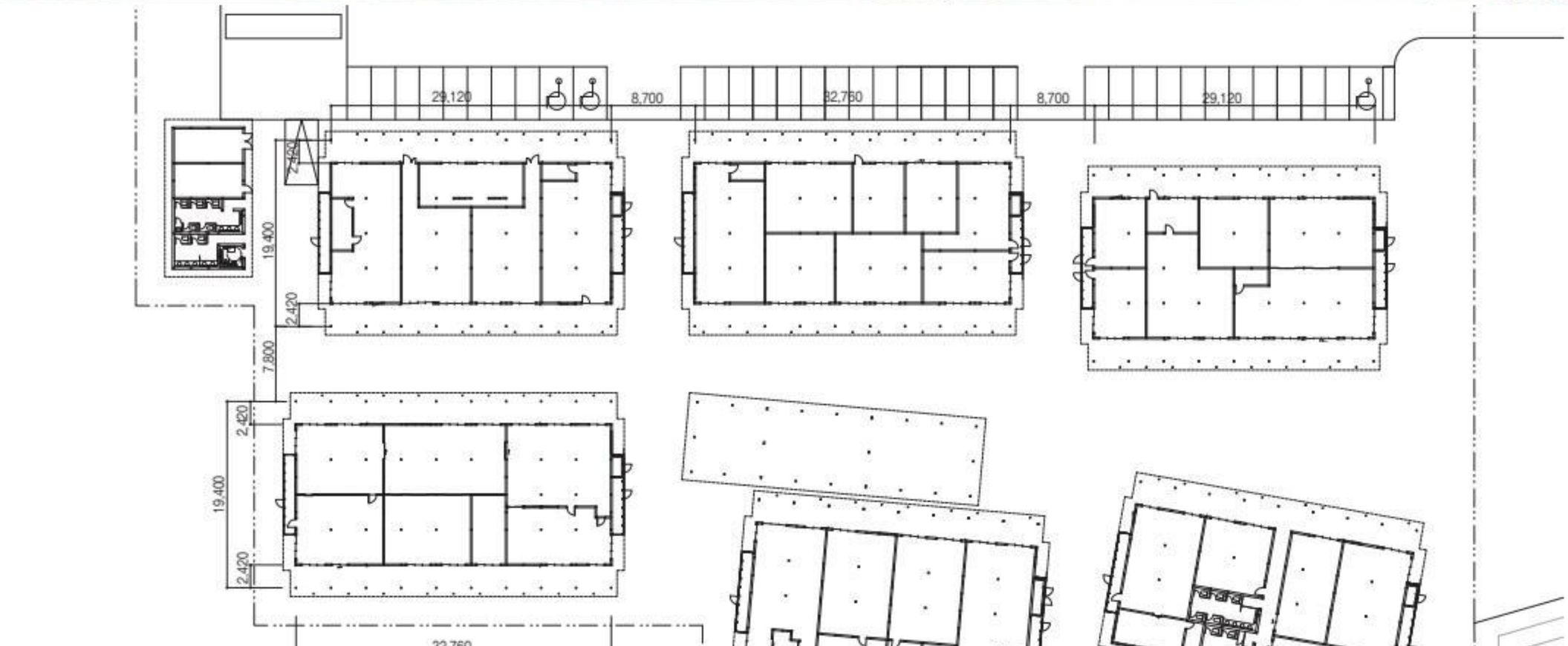




下屋を見る.



内観．流通量の多い105mm角の木材を主要な部材に採用し，プレカット材を多用することで低コスト・短工期を実現した．*



平面　縮尺1/900

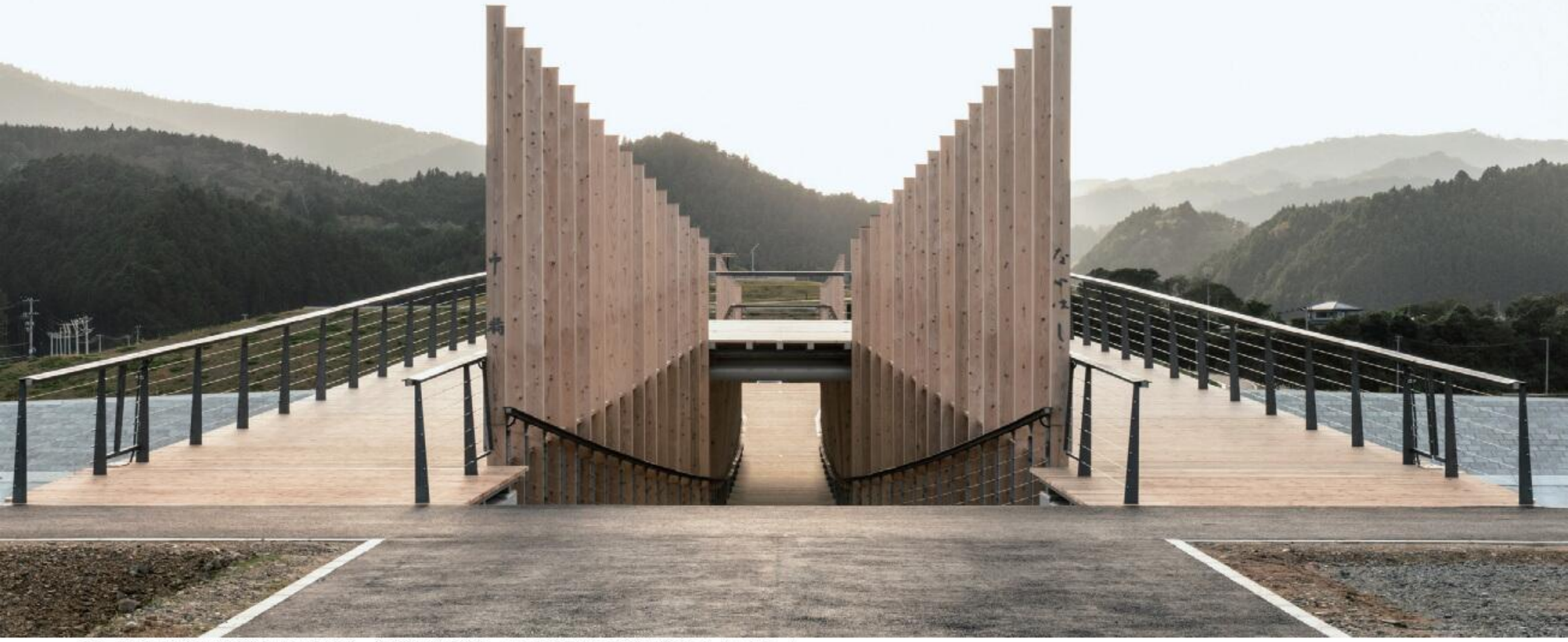
中橋

設計　パシフィックコンサルタンツ・隈研吾建築都市設計事務所設計共同体

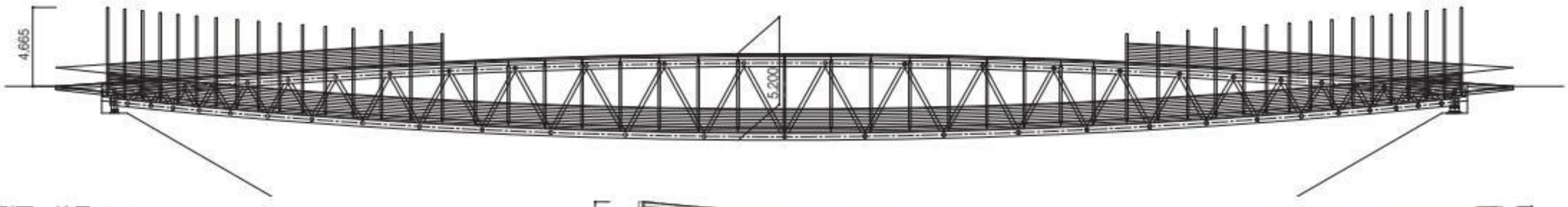
施工　矢田工業（上部工）　右岸：升川建設，左岸：飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント南三陸町震災復興事業共同企業体（下部工）

NAKAHASHI

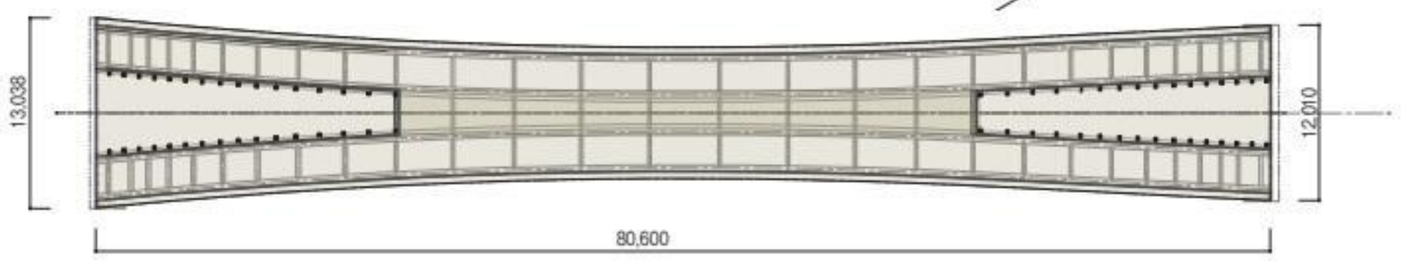
architects: PACIFIC CONSULTANTS AND KENGO KUMA AND ASSOCIATES JV



南三陸町震災復興祈念公園の方を見る．海を望む上の橋，川面を眺める下の橋が合わさった構成．*



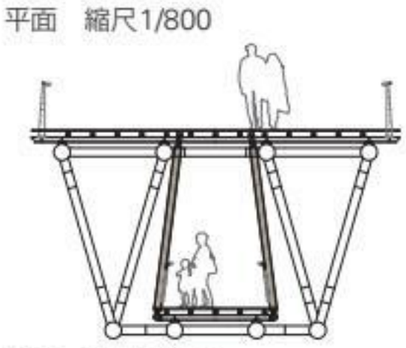
側面　縮尺1/500



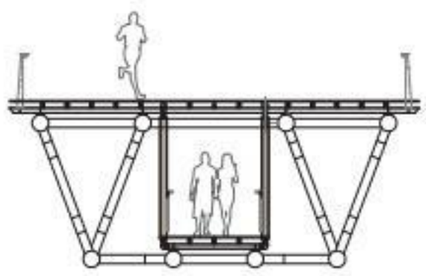
平面　縮尺1/800

南側から見る．*

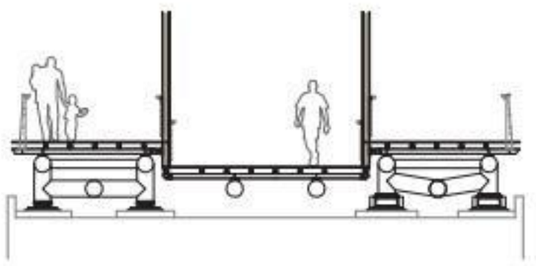




断面　縮尺1/300



断面



断面

ふたつの反り橋

南三陸さんさん商店街のあるにぎわいのエリアと，旧防災対策庁舎を中心とする祈りの場である復興祈念公園とを繋ぐ，木と鉄でできた人道橋である．

大地が感じられるウォーカブルな「海の街」をつくるにあたって，この街を繋ぎ，川面と海の両方をのぞくことのできる人道橋は，街の要であり，復興の象徴そのものになりえるだろうと考えた．さまざまなものをこの橋は繋いでいる．まず，旧防災対策庁舎からこの橋を渡った先には上山八幡宮があり，この橋は神社にいたる参道である．日本の神社では神聖な世界と日常をしばしばゆるい反りの断面形状の橋で区切る．中橋で反り橋のアーチは反転され，橋全体でレンズ型のトラス構造を形成し，80mのワンスパン構造が実現した．反転された下部の逆反り部分は，地面に近いもうひとつの人道橋として機能し，海を望む上の橋と，川面を眺める下の橋のふたつの反り橋がひとつに繋がったともいえる．下部の橋へアプローチするスリットの両側には木製の高欄支柱が並び，地元の皆さんはこの連続する支柱を千本鳥居と評した．鉄の構造に付加された木材は，変形抑制の役割も果たし，「海の街の人道橋」にふさわしいやさしい表情が生まれた．鉄と木もまた，ここでひとつに繋がれることになった．デザインしながら，「建築とは塔と思われがちであるが，実は何かと何かを繋ぐ橋である」というハイデガーの言葉をたびたび思い出した．ハイデガーに導かれた，橋であり，同時に建築でもあるものができ上がった．

（隈研吾＋名城俊樹）

南三陸ハマーレ歌津

設計　隈研吾建築都市設計事務所

施工　ナイス・志津川・山庄特定建設共同企業体

MINAMISANRIKU HAMARE UTATSU
architects: KENGO KUMA AND ASSOCIATES



南側から見る．下屋がそれぞれの棟を繋ぐ．ふたつの棟の間の下屋下の空間は，多目的スペースとして活用される．*

■南三陸さんさん商店街

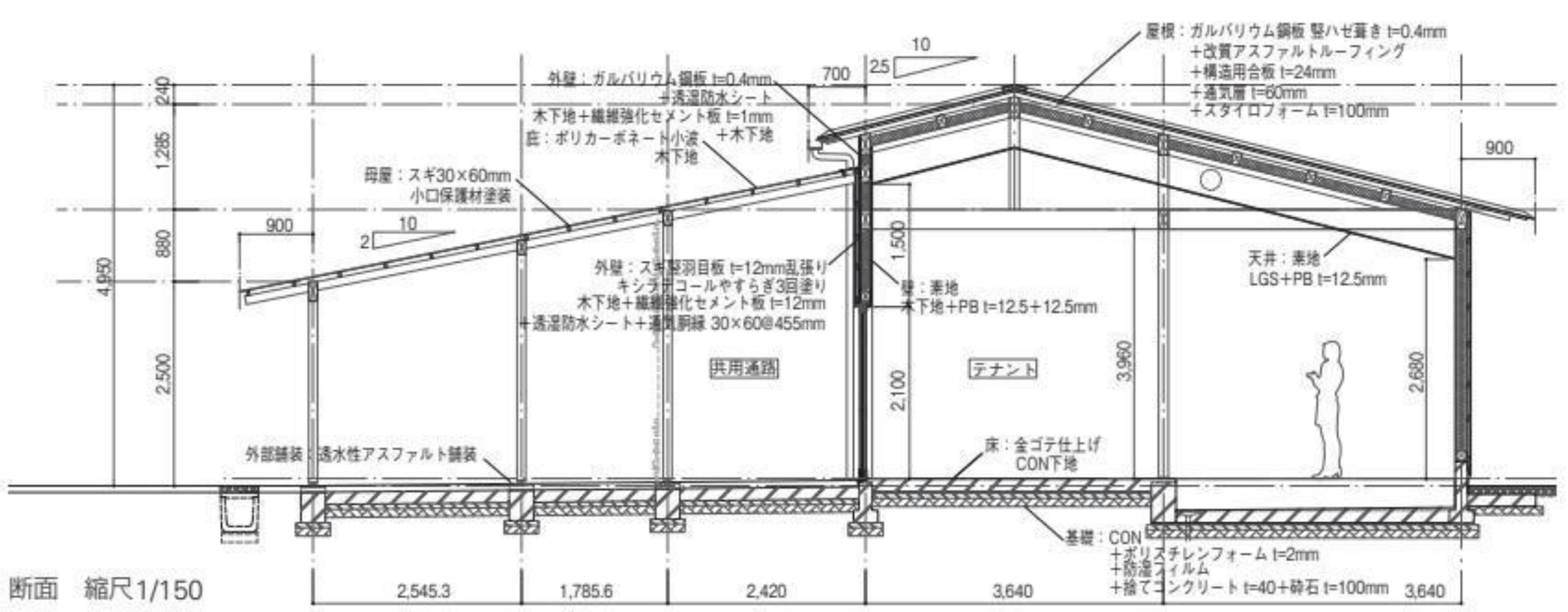
設計　建築　隈研吾建築都市設計事務所
　　構造　オーク構造設計
　　設備　森村設計
施工　ナイス・志津川・山庄特定建設共同企業体
敷地面積　12,687.28m²
建築面積　3,990.02m²
延床面積　3,085.70m²
階数　地上1階
構造　木造
工期　2016年7月～2017年1月

■中橋

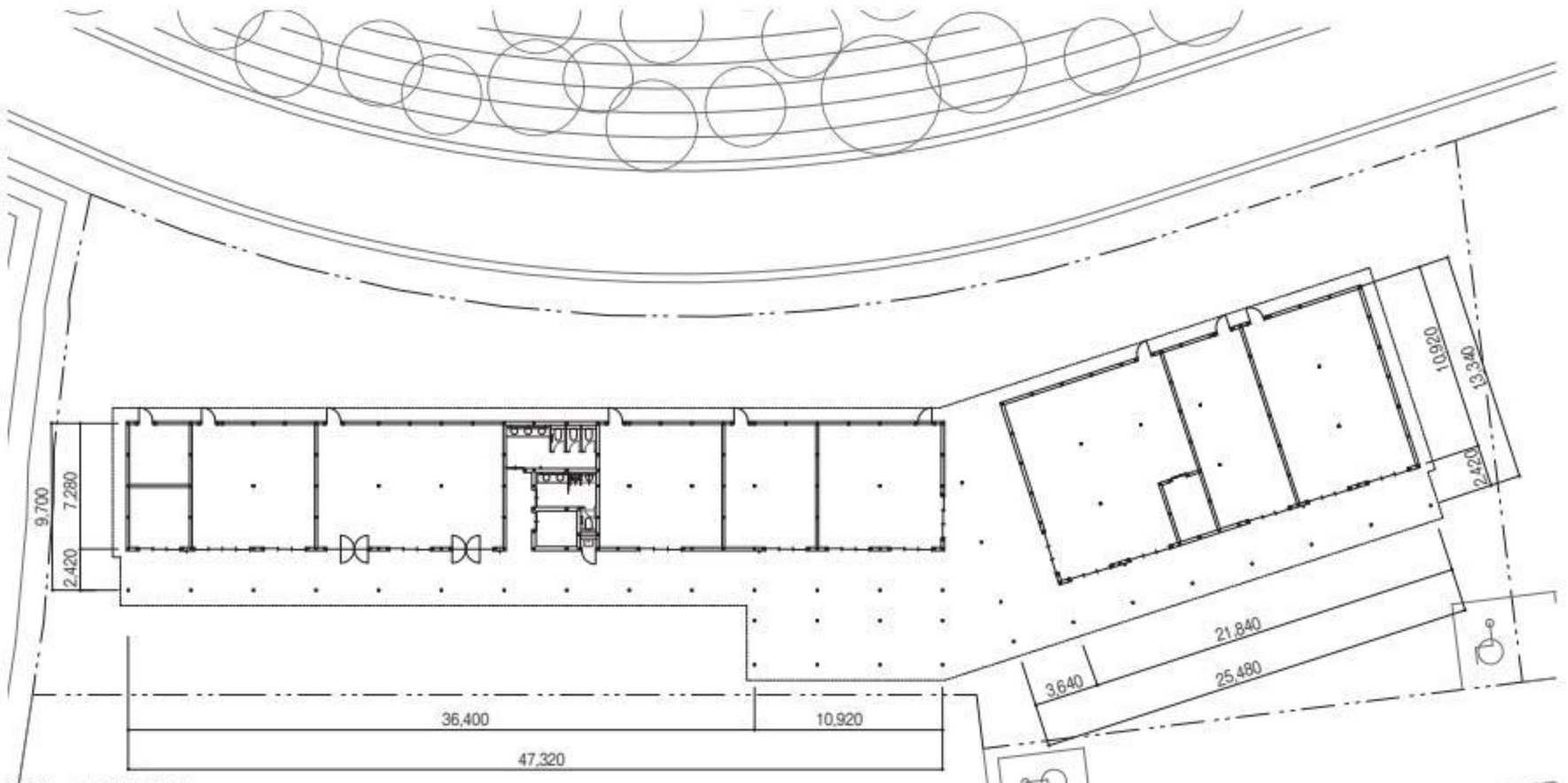
設計　パシフィックコンサルタンツ・隈研吾建築都市設計事務所設計共同体
施工　（上部工）矢田工業　（下部工）右岸：升川建設　左岸：飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント南三陸町
構造　鉄骨造
工期　（上部工）2018年6月～2020年9月
（下部工）左岸：2015年9月～2016年8月　右岸 2016年6月～2019年2月

■南三陸ハマーレ歌津

設計　建築　隈研吾建築都市設計事務所
　　構造　オーク構造設計
　　設備　森村設計
施工　ナイス・志津川・山庄特定建設共同企業体
敷地面積　2,149.55m²
建築面積　875.21m²
延床面積　672.79m²
階数　地上1階
構造　木造
工期　2016年10月～2017年3月
＊撮影　エスエス
（データシート184頁）



断面　縮尺1/150



平面　縮尺1/600

記事：東日本大震災10年

復興まちづくり その効果と課題

姥浦道生（東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授，同大学災害科学国際研究所教授）

はじめに

東日本大震災の被災地が，復興空間計画とその実施によって共通して目指したのは，以下の2点である．第一には，今回の災害の原因となった津波からの安全性を確保することである．被災者の直接的な願いは，「同じ被害を二度と繰り返さない」という点にあった．

第二には，これを機に地域が有していた従前の空間的課題を認識し解決することである．場所によっては津波による消滅リスクよりも衰退による消滅リスクの方が高い地域である．不十分なインフラの改善，人口減少に伴う空き地の発生，高齢化社会への対応など，さまざまな空間計画的な課題の解決，たとえば「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」についても，同時に意図された．

そして，これら2点を達成することによって，被災地をサステナブルな地域に再生させる．これが復興において共通して目指された姿であり，空間計画が担ったのは，そのための空間づくりであった．

以下では，その中で見えてきたまちづくりのポイントについて述べていく．

人口減少時代における復興：「所有」から「利用」へ

被災地の多くは人口減少地域である．基盤をつくれば時間の経過と共に自然に埋まり利用されていくという時代ではない．むしろ，量的利用は今回の復興時が最大であり，今後は空き地・空き家が増加していくことが想定される．したがって，たとえ復興当初は政治的掛け声として「もとの街を取り戻す」と言ったとしても，それとは別に現実的需要を把握する冷静な目と，それを実現する制度の適切な運用が重要となる．

この点，今回は高台等への住宅の集団移転を行う防災集団移転促進事業（防集事業）においては，世帯レベルの詳細かつ丁寧な意向調査に基づき，基本的には適切な規模での造成が行われた．しかし，特に原位置での嵩上げ再建を行う土地区画整理事業においては，造成後に空き地が大量に発生する結果となった．防集事業は利用を前提として規模を決定した一方で，区画整理事業は基本的には地権者に土地を返すという所有を前提とした事業であったことが要因である．

同様のことは，商店街についても言える．今回，街づくり会社がまちなか再生計画に基づく補助金を利用して商業施設を建設し，テナントに賃貸するというかたちで中心市街地の復興を行った場合がいくつかあった．その場合，テナントの退出があっても，街づくり会社が周辺のエリアマネジメントとも関連させつつ新規のテナント誘致を行うことで，比較的後継店が決まりやすい．一方，従前の所有地を基盤とした商店街の再生を目指した場合には，そもそも土地所有者の意向により商業施設が立地せず，住宅になったり空き地になったりして，歯抜け状態になっている場合も見られる．

このように，人口減少時代の復興においては「所有」ではなく「利用」を基礎として規模や構成を考えていく必要がある．

質的論点：地域の魅力創出とふたつのレベルの総合化

安全性の確保と共に重要なのが，交通や産業活動の利便性の確保，歴史や風土を活かしたデザインによる地域の魅力向上などである．極端な話，津波による消滅リスクよりも衰退による消滅リスクの方が高い地域であるからである．これらを高いレベルでバランスさせるためには，防潮堤，道路，住宅（地）などのさまざまな空間構成要素を地区レベルで調整しながら総合的に計画する必要がある．

この調整は，地区の社会的価値判断によって決定されるべきものである．したがって，意思決定主体として適切なのは地区住民であり，その集合体としての地区レベルの意思決定主体の存在が重要な意味を持つ．地域自治の進展に応じて，地区の空間計画・マネジメントに関する権限も，一定程度，平時から地区自治組織に移譲する必要があるだろう．

さらに，この個別的空間構成要素の整備主体である縦割り型行政組織の横断的調整の場の設定も重要な課題である．このような場は，必ずしも制度化されておらず，また手間がかかることによって事業の実施スピードが阻害されることになるため，敬遠されることもある．しかし，整備実施権限は各行政



宮古市田老地区．防災集団移転団地の事例．



区画整理事業後，空き地となったR市．



キャッセン大船渡．街づくり会社が商業施設を運営している．

主体にあり，そのレベルでの事業間調整が行われないと，前述の地区レベルの総合的計画も画餅に帰すことになる．基本的には，地区住民に最も近い立場にある基礎自治体がコントロールタワーとなって，このような計画実現のための事業間調整を行う必要がある．

個別移転再建を前提とした土地利用規制・誘導

今回は，集団移転並みの支援が行われたことや，各種ハード整備事業の実施には時間がかかると予想されたことなどを原因として，個別移転再建を行った世帯が，公営住宅入居を含む住宅再建を行った世帯全体の約半数に上ると思われる（このような被災者意向の把握の必要性は，前述の「利用」の論点である）．このような個別移転がインフィル的集約的に行われるかスプロール的拡散的に行われるかは，将来的な都市経営に影響してくる．したがって，それを適切に規制または誘導するような土地利用コントロール方策が重要である．なお，このような個別移転再建の効果については，移転先におけるコミュニティの影響，移転元の衰退加速化への影響など，多面的長期的評価が求められる．

効率的な復興

今回の復興においては，一定の基準（たとえばL1対応防潮堤＋L2対応住宅地）内であれば，事業実施に関する予算は基本的に全額国費であった．そのため，自治体は予算についてほとんど考慮することなく事業を進めることができた．逆に，費用対効果を考慮することなく，機械的に事業が計画され行われた場合もあり，「過剰投資」であると評価されるような工作物もある．しかし，通常のまちづくりにおいては言うまでもなく，南海トラフ等の次の復興局面においても，このようなことは不可避であろう．

さらには，このような効率性の課題は，整備時点のみにとどまらず将来にもわたる話である．たとえば公共施設に関しては，ほとんどの自治体がほぼフルセットの再建を行ったため，その維持管理費用が今後，縮小した自治体の財政を圧迫することが容易に想定される．しかし，公共施設の効率性の観点による公共施設の整理統合の取り組みは，平時においてもまだ行われ始めたばかりであり，復興の局面でそれを実施することは困難であった．

今後，より効率的な復興のあり方，平時の公共施設整備のあり方を考えておく必要がある．

終わりに：平時の都市計画・まちづくりの重要性

ここまで述べてきた多くの論点は，平時の都市計画・まちづくりでもほとんど解けていなかった課題である．個別的にも述べたが，今回の復興過程で開発された方法論等を平時の都市計画・まちづくりにも還元すると共に，そこで得られた知見経験等を次回の復興まちづくりにおいて活用することが求められる．

2011年3月11日午後2時46分に起きたマグニチュード9.0の地震，東北地方太平洋沿岸地域を襲った津波災害，福島第一原子力発電所事故に伴う放射線災害による被害をもたらした東日本大震災から，今年で10年となります．19,729名（災害関連死含む），行方不明2,559名，住宅被害（全壊）121,996戸の被害をもたらし，10都県241市区町村に災害救助法が適用されました（復興庁発表，2020年3月10日時点）．この10年の間，地域の復興とまちの将来を見据え，土木インフラが整備され，公共施設や災害公営住宅をはじめとした地域の居場所がつくられてきました．今回，まちづくり，土木デザイン，住宅再建，学校整備の立場から，地域の復興に関わられてきた専門家の方々に，10年を振り返り何が課題となったのか，またこれからの地域や建築においてどのような考え方が重要となるのか，ご執筆いただきました．（編）



石巻市かわまち地区．地区レベルの総合的な計画に基づき横断的調整がなされた．



個別住宅再建の状況（石巻市渡波地区の被災前後の状況．左：被災前，右：被災後．　出典：Google Earth）

記事：東日本大震災10年

現場から見た土木の光と影

平野勝也（東北大学災害科学国際研究所 准教授）

宿命としての復興参画

2011年3月11日以来，東北を拠点とし土木で景観・デザインを専門とする者として，宮城そして岩手の沿岸部をこの10年間，駆けずり回ってきた．2011年6月から，建築：小野田泰明氏，都市計画：姥浦道生氏らと支援のためのコラボレーションチームを結成し東北大学として石巻市の復興事業全般に参画したのを皮切りに，個人として女川町の復興まちづくり全般，そして旧北上川河川堤防，閉伊川水門といった岩手・宮城各地の河川・海岸堤防や水門等の土木デザイン，さらには名取市閖上地区のかわまちづくりや高田松原津波復興祈念公園（本誌2001）にも深く関わり続けてきた．結果的には，依頼された案件はすべて引き受けてきたように思う．自分が東北にいることの宿命を感じていたのだろう．当然，濃淡はあるが「学識経験者」というよりは，直接的に計画・設計を提案し，調整まで行う実務家としての参画であった．

石巻での実務的支援の実際

そうした実務家としての参画の一端を，石巻を例に簡単に振り返っておこう．計画・設計案の調整・修正は復興を急ぐという関係者全員が共有する使命感ゆえに簡単ではなかった．そんな時は決まって，「急ぐからと言い訳しながら，今，手間を惜しんで質の低いものをつくってしまえば，それを住民は100年使うのです．だからこの修正はやりましょう」と，関係者を鼓舞しながら，急ぎながらもでき得る限りの計画・設計を目指してきた．

たとえば，石巻市のリアス部では基本設計段階においては，市から委託を受けたコンサルタント諸氏が猛烈な勢いで描き上げてきた50地区以上に及ぶすべての造成基本設計を精査し必要な修正案を出し，地形に馴染み土工量や法面を減らして工期を早める設計とすることや，各宅地や道路からの眺望等を考慮し少しでも質が高まるように努力してきた．東北大の支援チームのスタッフと共に代替案をCADで作成し提出したこともしばしばあった．そんな中で，信じられない低レベルの設計もあったが，その一方でわれわれが提案した修正案をコンサルタントがさらに向上させてくれた設計もあった．そのおかげもあり，雄勝中心部（伊勢畑）地区では地形に合わせたグレーディングを丁寧に行った地形に馴染んだ法面設計が実現している（写真1）．ともあれ，実際に線を引いた技術者によって設計の質には大きな差があったというのが率直な感想である．雄勝，鮎川と言ったリアス部の拠点的地区では宮城県が整備する県道や海岸堤防との調整を図りながら，立ち上がる建築物まで念頭に置き，少しでも魅力の高い地区になるように土木と建築のトータルデザインを仕掛けていった（写真2，3）．市役所内部の縦割りを超えた調整もさることながら，県事業との調整は，県の担当職員の熱心さとは裏腹に時間を要した．国費100％の復興事業は批判も多いが，もし自治体負担があった場合，その負担金調整という難題によってさらなる時間をどれだけ要したのか想像するだけでも恐ろしい．

石巻市の中心市街地でも同様にさまざまな支援を行ってきた．たとえば，旧北上川の河川堤防である．川湊としての街の歴史を色濃く受け継いでいるために今まで堤防がなく，川と街が密接な関係にある魅力的な佇まいを，堤防をつくりつつもどのように未来へ引き継いでいくのか．地元市民と共に考えながら河川堤防と近隣の建築物が一体となる解決策を目指した．このエリアは，石巻市で最も重要な場所のひとつである．そのため一帯の官民を越えた関係者間で議論しながらトータルデザインを志向した．地元の熱意が要ではあったのだが，東北大が土木・建築・都市計画のコラボレーションチームであったことも，そうしたトータルデザインの実現そして現代的な施設・空間の利活用に向けて役立ったのではないかと自負している．さらには，旧北上川の河川堤防整備を担当する国交省北上川下流河川事務所の尽力もあり，中心市街地部での建築との一体化だけではなく，丁寧な地元対応と共に，堤防そのものの土木デザインも早稲田大学の佐々木葉氏にも参画いただき，全川にわたり実現している（写真4）．

復興という土木の総力戦に見え隠れするもの

さて，今回の復興は，再び同じ津波に襲われても



写真1．雄勝中心部（伊勢畑）地区のグレーディングを施し地形と馴染ませた切土法面．



写真2．雄勝拠点地区：背後の総合支所も建つ高台移転地と低平地の観光交流施設等をセットで，雄勝湾湾口への眺望が美しい場所を精査しつつトータルコーディネートした事例．撮影地点の背後に写真1の雄勝中心部（伊勢畑）地区がある．



写真3．鮎川地区：既存住宅地の背後に高台移転地を埋め込み，県道の位置を調整し，観光交流施設等の形状に合わせて海岸堤防の位置線型形状までトータルコーディネートした事例．故・小嶋一浩氏の構想に基づいている．

住宅に被害が出ないような復興として，リアス部では街や集落の高所移転・嵩上げや，平野部では内陸移転や事実上の二線堤を用いて安全・安心な復興まちづくりが企図された．もちろん500年に一度と言われるきわめて低頻度の巨大自然災害からの安全性を担保することが本当によかったのかどうかということそのものが，東日本大震災がこの国に突き付けた重要な課題ではある．しかし，現場感覚として「再び同じ津波に襲われても大丈夫な復興」を覆すことが可能な雰囲気はまったくなかったのも事実であることは付言しておく．この「雰囲気」にこそ大きな課題が潜んでいる．そこには，合理的に導かれる方向性と，国民全般との合意形成の間に大きな齟齬が見て取れるからである．その一方で人口減少という新しい時代においては，街そのものがなくなる可能性まで秘めている．そうした事態を招かないためにも，その街に魅力を感じて移転する産業や人，観光やワーキングホリデーといった交流人口を高めるためにも，空間としての質の高さも同時に求められたのが今回の復興なのである．

いずれにせよ，高所・内陸移転や嵩上げということはすべての社会基盤施設をゼロからつくり直しすることを意味している．そして，海岸堤防や事実上の二線堤まで含めた施設まで同時に考えていく必要に迫られた．膨大な土木事業量である．日本の土木の総力が試された復興だと言ってよいと思う．

考えてみれば，先述した「設計の質の差」も，総力戦であるがゆえだとも思える．実際，自分が参画していない地域を見て回るとそれがよく分かる．三陸沿岸道路の気仙沼湾横断橋（写真5）や気仙沼大島大橋（鶴亀大橋）のように秀逸な橋梁もあるが，その一方で「なぜこうしなかったのか?」と思える設計に多く出合う．残念ながら，それが現代日本の土木の総力なのである．総力を決めている本質的な要因は，高度成長期以来の標準設計の呪縛から逃れられず，「工夫してよいものをつくる」というものづくりでは当たり前のはずの技能が育ちにくい環境にあるのだと思う．人口減少という新時代の中で，土木は大きく変わらなければならない．なけなしの公共事業費を，今まで通りの標準設計的なデザインの土木施設に投資するような自治体はどんどん減っていくはずだ．デザインだけではなく，施設の維持管理や更新・縮小ということも含めての「質」と「機能」を適切かつ創造的に考えられる土木でなければならないのだ．津波被災地の今の姿を見て回れば回るほどその思いは強くなる．

高質な空間づくりのために

とはいえ，そうした中で今回の復興において，先述した旧北上川の河川堤防だけでなく，各地で河川堤防，海岸堤防といった災害防御施設とまちづくりとの一体化が実現できた．今までも河川・海岸空間の利活用のための遊歩道や高水敷の公園といった施設整備は行われてきたが，堤防本体はいわば聖域であり，まちづくりの論理で手を加えることはできなかった．しかし，今回，土木側のカタチは何もしていないケースもあるのだが，市民の街の将来に対する危機感と熱意によって，各地でその敷地や河川堤防や海岸堤防上の建築等による占用が実現したこと自体を評価するべきだと思う．人口減少時代のまちづくりは，投資効率がより重視される．そしてその中で高質な空間をつくり，街の魅力を高めていかなければならない．したがって，今まで以上に，街で実施されるさまざまなプロジェクトを官民そしてハード・ソフトを超えて共鳴させて効果を高める必要があるのだ．その共鳴させる対象がこれからは聖域なく広がり，より効果的で広範囲なトータルデザインが実現し得る時代になったと言ってよいのではないだろうか．地元市民の見識に支えられ，立命館大学の阿部俊彦氏の尽力によって完成した気仙沼内湾地区の「気仙沼内湾ムカエル・ウマレル（PIER7）」（写真6，本誌140頁）の両施設にはそんな新しい時代への希望の「光」が輝いているのである．こうした復興まちづくりの「光」が，通常のまちづくりに広がっていくことを祈念してやまない．



写真4．沿川建築の2階と一体化するだけでなく地元産材である稲井石も用い，丁寧にデザインされた旧北上川堤防．



写真5．復興の華とも言える三陸沿岸道路「気仙沼湾横断橋」（設計：大日本コンサルタント）．震災復興のリーディングプロジェクトである三陸沿岸道路のうち，気仙沼道路に架かる橋梁．



写真6．海岸堤防（特殊堤）と一体となったムカエル（本誌140頁）．左に見える格子状のフレームが陸閘（堤防内外の動線確保のために堤防に設けられるゲート）の門扉収納部である．

記事：東日本大震災10年

生活再建のための住まいの復興

佃悠（東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 准教授）

はじめに

東日本大震災から10年が経つ．10年というのは馬鹿にならない年月で，どんなに大きな悲劇であっても，その記憶は少しずつ薄れてしまう．しかし，時折鮮明に蘇ることもある．この原稿を作成していた，2021年2月13日深夜，福島・宮城県で震度6強の地震が発生した．東日本大震災の余震というこの地震は，まだあの巨大地震が続いていることを再認識させた．一方で，人間の時間軸から見ても，10年は決して長いとは言えず，復興のその先が大きな意味を持つ．そのようなことを念頭に置きつつ，住まいの復興の観点からこの10年に何が生じたか記しておきたい．本稿では，建物としての完成だけを対象にするのではなく，「住まい」が内包するべき生活の再建を目標に置いて考えてみたい．これまでの災害でも生活再建の重要性は訴えられてきた．しかし，大規模・広域な被害により，生活の基盤とすべき住宅の建設が長期化することによって，よりその生活再建の困難さが浮き彫りになったのが，この災害の特徴でもあったと思う．この10年を捉えるために建物の計画から入居までのプロセスに沿って，その時々に発生した課題を振り返っていきたい．

復興の方針と整備戸数の検討

どのような復興を目指すのか，各自治体はまずその方針を立てなければいけない．復興事業の多くは国からの復興交付金によって賄われたが，その交付に向けて，各被災自治体は2011年末までに復興基本計画を策定している．これが大きな筋となりその後の復興が進められた．

さらに具体的な公的住宅復興事業の実施にあたって，その必要戸数算定のために，各自治体は複数回の住宅再建意向調査を実施している．この整備戸数の大枠が決定しないと，その後の事業内容を検討することができない．一方で，被災者の住宅再建意向は時間によって変化する．被災地で最大規模の被害を受け，約4,500戸の災害公営住宅を建設した石巻市の意向調査の分析からは，2012年12月時点で災害公営住宅を希望していた約4割が2年後には意向を変化させたことが分かっている．そのため，ある程度の変化を見込みながら計画を立て，数年かかる建設事業の時間を逆手に取って，柔軟に計画戸数の修正をしていくという視点が重要になってくる．さらには，今回借り上げ仮設が採用されたが，七ヶ浜町の調査からは仮設期に町を離れると町外での住宅再建に繋がることが分かっている．仮設住宅の状況がその後の住民構成に影響を与えることも頭に入れておく必要がある．また，大量の災害公営住宅の建設は，既存公営住宅の何倍もの戸数を今後管理することを意味する．老朽化した既存住宅の将来の除却戸数と時期を見込んで，トータルのストックマネジメントを行い，必要戸数の算定に反映した自治体もある．このように災害復興だけでなく，まちの将来像と合わせて維持管理可能な計画を行う必要がある．

災害公営住宅・宅地の計画・建設

全体戸数の算定に並行して，具体的計画を進めるために，災害公営住宅や移転住宅地が建設可能な土地の選定が行われた．早い段階で選定が完了した自治体もあれば，被害状況の大きさや必要再建戸数が多いことで，時間を要した自治体もある．特に，東日本大震災の被災地では，今後，津波被害の可能性がある場所を災害危険区域に指定し，居住の用に供する建物の新規建設を禁止した．つまり災害危険区域に居住していた被災者の他所へ移転を意味する．石巻市の牡鹿半島以北はリアス式海岸や隆起海岸により沿岸部が形成され，深い湾の奥の少ない平地と急峻な傾斜地に小規模な集落が多数位置している．防災集団移転促進事業は，通常10名以上である要件を5名以上として，もともとの集落の人的関係性を維持した移転が目指された．また大船渡市では，既存の集落との空間的連続性に配慮した差込型防集（既存の集落形態を生かし，それに付随させる形で設定された防災集団移転）が試みられている．

仙台平野に位置する地域は，沿岸から内陸にかけて，広大な低平地が続く．岩沼市では沿岸6集落が玉浦西地区に共に内陸移転を行い，2015年にいち早い復興を遂げている．計画段階からまちづくり協議会が形成され，各地区から代表者（地区長，女性代表，若者代表）が参加したワークショップで住宅地の素案がつくられた．まちづくり協議会は，その後まちづくりの中心組織となり，玉浦西地区の良好な住環境を維持している．同じく早期の復興を実現した七ヶ浜町では，従前の地域の繋がりを生かし，地区ごとに災害公営住宅・防災集団移転住宅地・地区避難所が建設された．

東北は震災以前から人口減少・高齢化が進む地域だったこともあり，災害公営住宅の計画では，孤立化・孤独死防止に取り組んだ事例が少なくない．特に，阪神・淡路大震災での教訓が生かされ，コミュニティ活動を行うための集会所の設置だけでなく，日常生活での居住者のアウェアネスに配慮したリビングアクセス型住宅（釜石市，石巻市，七ヶ浜町など），小規模な単位でのコモンを持つ住宅（岩沼市，石巻市など）なども取り入れられた．高齢者同士が，支え合って生活する共助型住宅（相馬市，石巻市）も建設されている．また，段階的な災害危険区域の設定や2階以上に居室を設けることなどにより大規模な嵩上げを回避し，中心市街地の早期再生を目指した例からは（気仙沼市，釜石市など），まちづくりや生業と連携した視点も重要であることが分かる．

岩手・宮城県の災害公営住宅の建設は，当初2015年度までに完了する予定であったが，各地で一斉に建設入札が始まった結果，入札不調が発生する事態となった．特に大都市圏から離れた沿岸部の都市では，職人や材料の確保が困難となり，不落が複数回続くこともざらであった．そのため，公共工事では一般的に設計施工分離による発注が行われていたが，デザインビルド，買取型，地元協議会方式など発注の多様化や，木造や鉄骨造など構法の多様化によって，必要な住宅の確保が図られた．木造の住宅については，特に集落部において，周辺の景観や漁業集落での生活との親和性，将来的な払い下げ，鉄筋コンクリート造に比べて除却しやすいなどの利点もある．

恒久住宅移転後の生活支援

建物を建てるという視点からは，竣工時点で復興は終了である．しかし，被災者の生活再建は入居してからが本番といっても過言ではない．さまざまな建築的空間的工夫もそれを使いこなすことができなければ意味がなく，計画段階から建築と生活支援の両輪で考えていく必要がある．生活支援の面では，「被災前や仮設住宅からの連続性」，「新しいコミュニティ

の形成」，「社会的課題を抱える人への支援」の3つが重要である．まず，1点目として，避難時や仮設時にはさまざまな外部支援団体が支援を行っていたが，必ずしもすべてが，恒久住宅への移転後も支援を継続できているわけではない．その中であすと長町仮設住宅の支援から発展した「つながりデザインセンター」は長く継続している例のひとつである．2点目のコミュニティ形成では，地域包括ケアとも連携した自治会立ち上げ支援を行った釜石市や，「くらしの懇談会」などで住民と共に，災害公営住宅のコミュニティ形成だけでなく，福祉関連施設の活用検討なども行った南三陸町の例が挙げられる．3点目については，災害公営住宅の入居の段階で，罹災判定や公営住宅の家賃滞納履歴により入居資格がなかったり，無職のため経済的な自立が難しいなど，仮設住宅に取り残されてしまう人がいることが見えてきた．そのような被災者のために，仙台市や石巻市では，組織横断的に生活再建支援を行うプログラムを策定した．弁護士や支援団体，民間事業者とも共同して被災者ひとりひとりを支援する災害ケースマネジメントは近年重視されてきている．

このようにさまざまな支援が試みられたことも特徴のひとつである．しかし，コミュニティ・生活支援の多くは，復興関係の交付金によって賄われていたが，震災から時間が経つにつれてその費用をどこから支出するかが課題となっている．これらは，平時にも関わる問題であり，災害復興という枠組みを超えた継続的な支援が必要とされている．

多様性を支え未来の世代の資産となる復興へ

駆け足で東日本大震災から10年の住まいの復興に関わる課題を見てきた．避難所でのプライバシー確保の問題や，仮設期のコミュニティ形成と自治，放射能による複合被害を受けた福島での課題など，他にも取り上げるべき内容は多岐にわたり，ここでの内容はその一部に過ぎない．東日本大震災での住まいの復興は混線型とも言われたように，それまでの災害復興に比べて多様な住宅再建の選択肢が生まれているが，その提供の仕方は，いまだ，「一般」の層を想定した上で公平に対応することが原則となっている．しかし，多様性こそを前提とする必要性や頻発する災害を鑑みると，住まいの再建自体もその被災者の多様な課題にあったあり方を検討していく必要がある．一方で，都市や建築をつくる専門家には，今この時だけの欲求を満たすだけでなく，持続可能性の高い空間を生み出す責任もある．つまり，被災者それぞれの希望を叶えるという短期的目標の達成のみに拘泥するのではなく，未来の世代の資産となるようなまちづくりを前提とした上で，被災者自身が再建しようとする力を支えるような方策を見出すべきであろう．

参考文献

集合住宅の新しい文法—東日本大震災復興における災害公営住宅，新建築社，2016.8

佃悠，山野辺賢治，小野田泰明：災害公営住宅入居登録者の登録までの住宅再建意向変化とその要因，日本建築学会計画系論文集，第82巻，第731号，pp.1-9，2017.1

佃悠，横田小百合，小野田泰明：大規模災害後の住宅再建意向決定の要因と仮設居住による影響，日本建築学会計画系論文集，第84巻，第756号，pp.311-321，2019.2

佃悠，石井敏：高齢者の自立的生活を支える共助型集合住宅に関する研究：相馬井戸端長屋を事例として，住総研研究論文集・実践研究報告集　No.45，pp.95-106，2019.3



釜石市天神復興住宅（設計：千葉学建築計画事務所＋大和ハウス工業，本誌1608）．リビングアクセス型で計画された．*



石巻市営新西前沼第三復興住宅（設計：阿部仁史アトリエ＋大和ハウス工業）．共助型災害公営住宅．



商店街併設災害公営住宅「気仙沼市営南町二丁目住宅」．



七ヶ浜町代ヶ崎浜災害公営住宅（設計：松本純一郎設計事務所）．地区のまとまりを生かした復興事業．



防災集団移転住宅地（岩沼市玉浦西地区）．



木造災害公営住宅「釜石市尾崎白浜復興住宅」（設計：CAt＋平井政俊建築設計事務所＋菊地設計）．

記事：東日本大震災10年

東日本大震災からの学校復興が未来に伝えるもの

長澤悟（教育環境研究所 所長，東洋大学 名誉教授）

10年の重み

東日本大震災から10年が経つ．これまで学校復興に関わってきて，長いとも短いとも思い，また時の経つのは早いとも止まっているとも感じられる．この10年の学校復興の動きを振り返ってみたい．

東日本大震災は，地震，津波，原子力災害の三重被害であった．学校は被害を受ければ真っ先に復旧，復興が求められる公共施設だが，被害の重なり具合によって復興への時間は大きく異なる．

地震のみの被害の学校は，早々に改築，補強が行われた．阪神淡路大地震や中越地震等を経て進められていた全国の学校耐震化事業はスピードアップされ，数年前に実質的には達成されたと言ってよい．

津波により学校は立地的に地域もろとも被害を受けた．地域ぐるみの高台移転，防潮堤や土地の嵩上げによる現地復興等，地域の復興方針が定まるまで，多くの学校は本格復興の動きが取れなかった．その間には学校の児童・生徒数の減少に拍車がかかり，数多くの学校統合計画が進められた．

学校は海沿いで被害を受けたが，多くの住宅が被害を免れた地域の学校（大船渡市立赤崎小学校，赤崎中学校，越喜来小学校・こども園など）では，いち早く学校に隣接する高台に学校復興が決まり，震災翌年の2012年には設計がスタートしている．それでも検討に参加した住民からは，遅いと苛立ちの声が聞かれた．その気持ちを受け止めつつ，自由度の高い教育空間，地域利用，避難施設機能，木造等，学校施設計画の課題に応えた学校づくりが進められた．

岩手，宮城では津波地域からの移転を伴う学校復興設計が2013，14年に相次いで始まった．いずれも住宅地の復興計画の中で，住民の活動やコミュニティ再生の核となる学校づくりが進められた．大槌町では岩手県内初の小中一貫の義務教育学校（大槌学園）が誕生し，また，釜石市でも小中一体型の学校施設（釜石東中学校・鵜住居小学校・児童館・幼稚園，唐丹小学校・中学校・児童館など（共に本誌1803））が実現された．宮城県では内陸側の新市街地への移転（石巻市立渡波中学校，山元町立山下第二小学校（同1611），名取市立閖上小中学校など）や，高台に移転する住宅地の中心への統合新設（東松島市立宮野森小学校（同1704）など）により，新しいまちの顔，避難拠点となるよう計画されている．複合化と言わずとも，学校施設はそれ自体が運動，集まり，音楽や創作等，地域みんなの場となるソーシャルキャピタルであることに気付かされる．

一方，統合がらみで市街地とは離れた位置に独立して建設された学校（石巻市立雄勝小学校・中学校（同1803），陸前高田市立高田東中学校（同1704）など）は，広く住民が会する場として位置付けられた．前者は地域特産のスレートで外壁を仕上げ，靴を脱がずに入り，畳の間に上がる時に履き替えればよいという，言わば地域のサロンとなる場を持つ．計画当初に寄宿舎を設けたいという要望が出されたが，子どもたちには地域の学校で育ってほしい，地域で生きる術を地域で教えたいという切望からだった．後者は図書館を地域みんなの場として見える計画となっている．

2020年に完成した陸前高田市立気仙小学校（同1906）は，全体が嵩上げされ，高い防潮堤に守られた予定市街地を見下ろす高台に，まちのシンボルとして見えるよう設計されている．2021年には石巻市立北上小学校の新校舎が竣工した．まちづくりの専門家たちの長い支援を得て策定された構想に則り，眼下に北上川を見通す軸線上に地域の総合支所，こども園，消防署，既存中学校と一帯をなすゾーニング計画（同2006）の上に建設されている．

どの計画も，学校を復興することで子どもを呼び戻し，地域の将来に繋げることが意図されている．残念ながら，元から減少傾向にあった地域性もあり，子どもの数は開校した当時から漸減している．

原子力災害からの学校復興

これに対して，福島県の原発事故により時間が止まったままだった避難地域の学校復興はようやく動き出したところだ．子どもを最重要課題に据え積極的にさまざまな取り組みを進めた飯舘村では，2018年に3小1中を統合し，義務教育学校いいたて希望の里学園を開校した．また，この2021年3月には川内村に川内学園義務教育学校が開校する．事故後，全村避難となり，翌年4月に帰村し学校を再開した時には，就園就学者は全体の16％と激減していた．その後回復してきているものの依然少人数であることに対し，既存の小学校に中学校校舎，こども園を移転新築してコミュニティ・スクー

3点提供／筆者撮影



小中学生が一緒になった石巻市立雄勝小学校・中学校の復興学校づくりワークショップ．石巻市教育委員会が東北大学の基本構想検討委員会支援チームの協力を得て実施．



石巻市立雄勝小学校・中学校のラウンジに併設した和室．地域の人に開放されるほか，普段は生徒のスクールバス待合としても使用される．

ルとし，教育復興の仕組みづくりを始めている．

これまで各地の学校復興に関わってきて強く感じるのは，学校，特に小中学校とは，そこで学び，過ごす時間を通して子どもたちに地域のよさを伝え，また地域の人びとが自ら関わることにより，地域の将来の担い手を育てる場なのだということである．町や村唯一の学校の多くが，9年間を通した地域ぐるみの教育を趣旨とする義務教育学校となっているのは，子どもの数の少なさとあいまって，行きつく答とも言えるだろう．

そして現在進行中なのが，全町帰還困難区域となった大熊町（2019年4月より段階的に帰還困難区域を除き避難指示解除）での，こども園・小・中学校を一体とした新教育施設計画（受託者：飯田善彦・鈴木弘人大熊町教育施設設計業務共同企業体）である．一部避難解除された山林を切り拓いて新しいまちづくりが始められた．新庁舎，商業・交流施設，医療・福祉施設と並ぶその拠点として位置付けられ，2023年開校予定となっている．

大きな違いは，これまでの学校復興では，統合されてなくなる学校はあっても，子どもたちはその土地，地域にある学校で学んだ時間を持ち，思い出す学校があり，その復活が目標にもなっていたのに対し，だれもこの土地の学校で学んだ経験がないということである．完成した学校への入学を問うアンケートでは，年々希望者は減り，学校をつくる必要があるのかという声や，元の町中心部が避難解除されればむしろそこに学校をという意見も聞かれる．放射能と時間が学校復興の原点を危うくしている．しかし学校がなければ人口増は見込めない．ジレンマを抱えながら計画が進んでいる．

町ははじめに，目指す子どもの姿として，「『おおくま』を学び，『おおくま』から学び，『おおくま』をつくり出す子ども」を掲げた．ここで必要とされるのが新たな学校観，学校像の構築と言えよう．思い出のある学校に戻りたいという要因がないことに対し，この学校だから学べる，だからこの学校で学びたい，この学校に通わせたいと思ってもらえる学校づくりだ．別の言葉で言えば，今までにない学校，「学校らしくない学校づくり」ということになる．個別最適化の学び，異年齢集団編成による多様な活動・交流，ICT教育等，中央教育審議会がこの1月に公表した「令和の日本型学校教育」*を先取りしたような教育を新しい建築空間として実現しようとしている．

その先の子どもたちの受け皿となるのが2015年に開校した県立ふたば未来学園高校であり，2019年には中高一貫教育校となった．原発のある双葉郡内にあった高等学校5校が閉校したことに対して，地域で学べる高校をという要望に応えるべく新構想の学校づくりがスタートした．地域の将来の担い手育てに止まらず，世界に飛び出し，未来を創造するリーダーの育成を目指す．そのために演劇・コミュニケーション，スポーツ，海外研修等，多様なカリキュラム，特色ある学科（アカデミック系列，トップアスリート系列，スペシャリスト系列）を持つ．注目のひとつは学校の中心に置かれた地域協働ルーム「双葉みらいラボ」である．生徒主役のフリースペースであると共に，地域の人びとを招き入れ，実習の場となるカフェや協働学習ルームを持ち，教育NPOの支援により親，教師とは違う立場で生徒の相談に乗る場でもある．新しい発想による小中学校の教育の受け皿は既に用意されている．

未来に繋がる復興学校づくり

以前の本誌の教育施設特集における拙文「東日本大震災の津波被災校の学校復興」（同1704）の最後に，日本大震災以降，学校建築はこう変わったと言える姿を残せるだろうかと書いた．

最新の取り組みを含めて一連の学校復興を振り返ると，小規模を生かした主体的な学習，地域を支える小規模校，社会総がかりの教育を目指す小中一貫教育あるいは義務教育学校，地域が参画する学校づくりプロセス等，教育や学校の新しい可能性，施設的課題に先進的にチャレンジしている様子が確認できる．これらが実現された背景として，津波や原子力災害からの復興を契機として，通常は得難い研究者，まちづくりの専門家やNPO，建築家，芸術家，市民等の支援や参画が大きな力になっていることは見逃せない．「状況」が，新しい教育，学校像を生み出している．

社会が大きく変化し，新しい時代の教育，学校，そして施設・空間のあり方にも大きな変革が求められている今，この復興学校群とそれを実現したプロセスは，日本の学校の未来の可能性を生み出す力にもなると言えるだろう．



福島県立双葉市立ふたば未来学園中学校・高等学校の地域協働スペース「双葉みらいラボ」．左手は生徒の学校生活支援をするスタッフのいる相談カウンター．

＊「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申），中央教育審議会，2021.1.26
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

旧富岡製糸場西置繭所保存整備事業（本文30頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　群馬県富岡市富岡1-1
主要用途　倉庫
建主　富岡市
事業主管部署　**富岡市世界遺産観光部**
専門委員会・部会
富岡製糸場保存修理委員会
斎藤英俊（委員長／京都女子大学）
今井幹夫（副委員長／富岡市世界遺産観光部）
長谷川直司（国土交通省国土技術政策総合研究所）
鈴木淳（東京大学大学院）
田中哲雄（日本城郭研究センター名誉館長）
松島榮治（群馬県文化財保護審議会，～2014年3月）
秋池武（下仁田町歴史館，2014年4月～）
村田敬一（群馬県文化財保護審議会）
富岡製糸場整備活用計画実行委員会
木村勉（委員長／前長岡造形大学）
鈴木淳（副委員長／東京大学大学院）
巌文成（前国土交通省）
富岡製糸場遺構調査検討部会
今井幹夫（部会長／富岡市世界遺産観光部）
鈴木淳（副部会長／東京大学大学院）
長谷川直司（国土交通省国土技術政策総合研究所）
村田敬一（群馬県文化財保護審議会）
津金澤吉茂（富岡市文化財保護審議会）
飯島義雄（田島弥平旧宅調査整備委員会）
大西雅広（群馬県埋蔵文化財調査事業団）

設計
建築　**文化財建造物保存技術協会**
保存修理担当／小林裕幸
木下純（工事主任）　佐藤明生
菓山香代　タン・チーシャン
鍛治野泰佑
整備活用担当／齋賀英二郎　土屋信一
肥後和男　石田まや子
構造　文化財建造物保存技術協会
担当／岩田昌之　星野真志
江尻建築構造設計事務所
担当／江尻憲泰　藤田実
設備　森村設計
担当／袖川政憲　山口真史
志津えりか　小林惟子
照明　飯塚千恵理照明設計事務所
担当／飯塚千恵理
音響　YAB建築・音響設計
担当／藪下満　藪下晶子
アントニオ・サンチェス・パレホ
ミュージアムコンサルタント　マエダオフィス
担当／前田尚武

施工
建築　竹中・タルヤ共同企業体
担当／中島哲也　山中実喜夫
小山貴義　松井爾　山岡晃
木内由美子　西岡孝将　斉藤敬宇
平井秀則
空調・衛生　三建設備工業
電気　関電工

規模
敷地面積　55,391.4m²（史跡指定面積）
建築面積　1,486.6m²
延床面積　2,973.2m²
1階　1,486.6m²／2階　1,486.6m²
階数　地上2階

寸法
最高高　14,520mm
軒高　東面：8,520mm　西面：9,430mm
階高　1階：3,474mm／2階：4,864 mm（梁下まで）
天井高　ホール（1階ガラス内部）：2,643mm
主なスパン　3,600×12,303mm

敷地条件
地域地区　準工業地域
道路幅員　東6.7m　西5.0m　北6.9m

構造
主体構造　木骨煉瓦造　一部，鉄骨造（補強部分）
杭・基礎　礎石建て　布石積み

設備
空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプパッケージエアコン（床吹出方式）
熱源　電気
衛生設備
給水　水道直結方式
給湯　局所方式
排水　汚水雑排水合流雨水分流方式（重力式）
電気設備
受電方式　6.6kV　高圧1回線受電方式
設備容量　250kVA
防災設備
消火　屋内消火栓設備
昇降機　乗用エレベータ（11人乗り）×1台（交流可変周波数制御水圧直接式）

工程
設計期間　保存修理1：2015年10月～12月
保存修理2：2016年12月～2017年2月
整備活用3：2015年2月～2016年3月
整備活用4：2016年6月～2018年3月
施工期間　2015年1月～2020年5月

工事費
総工費　3,441,514,400円

外部仕上げ
屋根　桟瓦葺き（全数取り外し調査の上，6割の瓦を再利用，残りは補足瓦葺き）
外壁　煉瓦積み　軸部：木造（塗装は塗り替え，ベランダは取り外し後，補修して組み立て）
開口部　木製外開き戸（亜鉛鉄板張り）　木製内開きガラス窓　木製欄間ガラス窓　木製引違いガラス窓
（建具全般は，取り外して調査の上，補修して取り付け）
外構　モルタル叩き　煉瓦敷き

内部仕上げ
1階既存部分
床　床板（スギ，クリ，マツ）取り外し後，補修・取り替えの上，取り付け
壁・天井　漆喰塗り（既存まま）
2階既存部分
床　床板（スギ，マツ）既存まま（EV，階段新設のため一部解体し，部材を保管）
壁　漆喰塗り（既存まま）
天井　小屋組現し（既存まま）
1階整備部分
床　オーク複合フローリング t=15mm オスモカラー塗装仕上げ（東京工営）
壁　ガラス t=FL8＋SG膜＋FL8mm MPG（AGC硝子建材）　ブナ練付合板 t=6mm
天井　ガラス t=PT12＋SG膜＋PT12mm DPG（AGC硝子建材）　PB t=9.5＋9.5mm EP塗装仕上げ
2階整備部分
床　フロアタイル t=3mm（田島ルーフィング：モルタライク）
壁　ブナ練付合板 t=6mm
天井　岩綿吸音板 t=12.5mm EP-Ⅱ塗装仕上げ

利用案内
開館時間　9:00～17:00（最終入場16:30）
休館日　年末
入場料（富岡製糸場）　大人1,000円　高校・大学生250円　小・中学生150円
問合せ　tel. 0274-67-0075

小林裕幸（こばやし・ひろゆき）

1962年東京都生まれ／1985年東洋大学工学部建築学科卒業／1987年同大学工学研究科建築学専攻博士前期課程修了後，文化財建造物保存技術協会／現在，事業部設計室長

木下純（きのした・じゅん）

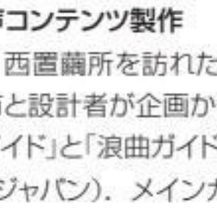
1965年神奈川県生まれ／1989年明治大学工学部建築学科卒業／1992年同大学工学研究科建築学専攻博士前期課程修了後，文化財建造物保存技術協会／現在，重要文化財諏訪大社上社本宮布橋ほか9棟設計監理事務所工事主任

佐藤明生（さとう・あきお）

1986年愛知県生まれ／2008年日本大学理工学部建築学科卒業／2010年東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復研究分野修士課程修了後，文化財建造物保存技術協会／現在，重要文化財太田家住宅朝宗亭主屋ほか2棟設計監理事務所技術職員

齋賀英二郎（さいが・えいじろう）

1983年東京都生まれ／2006年早稲田大学理工学部建築学科卒業／2008年同大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了／2010年～文化財建造物保存技術協会／現在，事業部保存管理計画担当技術主任

江尻憲泰（えじり・のりひろ）

1962年東京都生まれ／1996年～江尻建築構造設計事務所設立／2009～19年長岡造形大学特任教授／2010年～千葉大学非常勤講師／2020年～日本女子大学教授，長岡造形大学非常勤講師



2点撮影／加藤純平 JUNPEI KATO
2点：2020年10月3日に行われたグランドオープン記念イベントの様子．
西置繭所公式音声ガイド（浪曲版）のために新作を作った浪曲師の玉川太福氏が，ホールで西置繭所オリジナル浪曲を披露した．

浪曲による音声コンテンツ製作

音声ガイドは，西置繭所を訪れた人が建物を体験するツールとして富岡市と設計者が企画から制作まで携わってつくり上げ，「メインガイド」と「浪曲ガイド」を用意した（制作：アコースティガイド・ジャパン）．メインガイドでは，富岡製糸場および製糸業に関わる展示資料と共に建物を解説し，両方を同じ流れで鑑賞することを促している．また各浪曲は，壁の落書き，煉瓦の積み方，展示資料など，実物をきっかけにして始まり，「もしかすると，かつてここで働いていた人たちにこんな場面があったかもしれない」と思わせるような仕上がりとした．

文化財建造物の活用とは，新たな用途を見出すと同時に，建物の新たな側面に触れるきっかけをつくることでもある．

（齋賀英二郎／文化財建造物保存技術協会）

東京大学総合図書館 改修工事（本文44頁）

DATASHEET

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　東京都文京区本郷7-3-1
主要用途　学校
事業主体　国立大学法人東京大学

設計

設計監修　東京大学キャンパス計画室
担当／野城智也　川添善行
東京大学生産技術研究所　川添研究室
担当／辻昌志　卯月裕貴　宮崎俊行
神本豊秋*　松繁宏樹*　伊藤雄太*
伊藤友紀*　入江曜*　大川周平*
吉田周一郎*（*元所員）

実施設計　香山壽夫建築研究所
担当／香山壽夫　佐伯和俊　浜野次郎
三上エリカ　洪斗起　松本洋平
伊代田卓身*　蟻坂仲和*　角沢聡子
小松未依

構造　万建築設計事務所
担当／梅園雅一　名古屋亮次

設備　総合設備コンサルタント
担当／中島一義　高橋隆雄　原隆志
井口勉　山岸玲　浮田祐哉　神垣全芳

照明計画　LightingM
担当／森秀人　江越充*

積算　協和建築積算事務所
担当／小柳達郎　佐伯雅史　伊掛諭

記念室復元照明　EPK（制作）　ALG（制作協力）

設計監理補助　東京大学施設部 建設エンジニアリングオフィス
担当／沼田瑞樹　林朝彰　太田克彦
佐治昭　河谷史郎

監理　東京大学施設部

施工

建築　清水建設（Ⅱ期改修～Ⅳ期改修）
担当／尾形晃弘　柴田朗　榊原光一
大澤直也　森下直哉　畑中弘平
渡邊亮史　中川裕人　野村太郎
賈喻舒　寺島志保　白鳥ミチル
在田皓紀　大崎綾香　鎮目豊
青山香織　平井直樹

空調・衛生　柿本商会（Ⅱ期改修・Ⅲ-1期改修・Ⅲ-3期改修・Ⅳ期改修）
担当／山口浩二　福村隆行　三田浩
住吉政志　久留木廣志　福田真大
阿部憲道
正和工業（Ⅲ-2期改修）
担当／横田貢　高橋浩二

電気　藤井電機（Ⅱ期改修・Ⅲ-3期改修・Ⅳ期改修）
担当／井上靖　真下卓也　吉森繁尚
吉野幹雄　中村勇亮　泉山祐也
北林竣　吉田陸　志水洋二
吉野比呂志
八重洲電業社（Ⅲ-1期改修）
担当／譽田明　宮澤和成
工藤電機工業（Ⅲ-2期改修）
担当／竹本惣吉　荒牧信行

規模

敷地面積　403,516.09m²
建築面積　図書館全体：8,502.04m²
延床面積　創建エリア改修面積：18,586.41 m²
図書館全体：　41,767.36m²
地下1階　3,677.29m²
1階　3,891.13m² ／ 2階　3,801.66m²
3階　3,928.67m² ／ 4階　2425.41m²
5階　344.84m²
階数　創建エリア：地下1階　地上5階
図書館全体：地下1階　地上11階

寸法

最高高　創建エリア：28,634mm
階高　大閲覧室：8,484mm
天井高　大閲覧室：6,666mm ／ 3階ホール：7,550mm
主なスパン　5,454×4,545mm

敷地条件

地域地区　第一種中高層住居専用地域　準防火地域　第一種文京地区　第三種高度地区
道路幅員　東30m　西15m　南27m

構造

主体構造　鉄骨鉄筋コンクリート造　一部鉄筋コンクリート造，鉄骨造
杭・基礎　独立基礎

設備

空調設備

空調方式　パッケージユニット方式およびファンコイルユニット
大閲覧室：床放射冷暖房システム
熱源　空冷チラー

衛生設備

給水　加圧給水方式および高置タンク方式
給湯　局所式
排水　汚水・雑排水合流方式

電気設備

受電方式　1回線受電方式
設備容量　3,045kVA

防災設備

消火　屋内・屋外消火栓設備　連結送水管設備
昇降機　II期エリア：乗用エレベータ（6人乗り）×1台　III-2期エリア：乗用エレベータ（13人，9人）×各1台　III-3期エリア：乗用エレベータ（9人乗り）×1台
IV期エリア：乗用エレベータ（11人乗り）×1台

工程

設計期間　2013年3月～2019年11月
施工期間　Ⅱ期改修：2015年9月～2017年1月／Ⅲ-1期改修：2016年10月～2018年3月／Ⅲ-2期改修：2017年6月～2018年3月／Ⅲ-3期改修：2018年9月～2019年3月／Ⅳ期改修：2020年1月～2021年1月

外部仕上げ

屋根　改質アスファルト防水常温複合構法（イーテック：ハルeコート）
外壁　既存スクラッチタイル張り　補修構法：アンカーピンニング工法　タイルフィックス工法（東邦建材）
開口部　アルミサッシカバー構法（LIXILリニューアル）
柱ピナクル他　洗い出し左官仕上げ

内部仕上げ

1階記念室
床　既存寄木張り 研磨の上，ウレタンクリア塗装
壁　既存木格子（既存のまま）
天井　PB t=12.5＋9.5mm EP塗装
梁型　既存木製（既存のまま）

3階大閲覧室
床　OAフロアの上，タイルカーペット張り（サンゲツ）
壁　既存木摺下地に和紙2層張りの上，織物クロス張り（川嶋織物セルコン）
天井　PB t=12.5＋9.5mm EP塗装
石膏装飾　既存取り外しの上，GRG補強再設置

3階ホール
床　ナラ材フローリング t=15mm パーケット張り（中部フローリング）
壁　既存木摺下地に珪酸カルシウム板 t=6mmの上，吹付タイル（エスケー化研）
天井　PB t=12.5＋9.5mm 吹付タイル（エスケー化研）
石膏装飾　既存のままビス補強

4階アジア研究図書館
床　タイルカーペット張り（サンゲツ）
壁　PB t=12.5＋9.5mm EP塗装
天井　岩綿吸音板 t=9mm

主な使用機器

空冷チラー（東芝キャリア）　空冷パッケージ形空気調和機（日立グローバルライフソリューションズ）

野城智也（やしろ・ともなり）



1957年東京都生まれ／1980年東京大学工学部建築学科卒業／1985年同大学大学院修士課程修了（工学博士）／1985～91年建設省建築研究所研究員／1991年武蔵工業大学建築学科助教授／1998年東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻助教授／1999年同大学大学院生産技術研究所助教授／2001年～同教授

川添善行（かわぞえ・よしゆき）



1979年神奈川県生まれ／2001年東京大学工学部建築学科卒業／2002年デルフト工科大学（オランダ）留学／2004年東京大学工学系研究科修士課程建築学専攻修了／2008年工学博士（東京大学工学系研究科社会基盤学専攻）／2011～13年東京大学生産技術研究所講師／2014年～同大学准教授／2017年～空間構想主宰

辻昌志（つじ・まさし）



1982年兵庫県生まれ／2004年大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業／2005～13年川辺直哉建築設計事務所／2013年辻昌志建築設計事務所設立／2016年～東京大学生産技術研究所特任研究員

洪斗起（こう・とうき）



1969年神奈川県生まれ／1995年工学院大学大学院工学研究科建築学修士課程修了／1995～2000年八千代都市建築設計／2000年～香山壽夫建築研究所





左：地下1階書庫資料閲覧室．左の個室は短期滞在外国人研究者が使用すること等が想定されている．
右：更新エリアにあたり3階大会議室．天井は創建時の格縁化粧部材の割付を参照した光天井とした．



継承エリアにあたる2階セミナールーム．
天井・壁の格子の意匠は創建時のもの．

3点撮影／新建築社写真部

杉並区立中央図書館全面改修（本文56頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　東京都杉並区荻窪3-40-23
主要用途　図書館
建主　杉並区
設計
日総建
建築担当／櫻井成行（総括）　豊島裕樹
西川裕紀　加藤吉男*　飯島ひかる
菅野英一（*元所員）
構造担当／直井瑞樹*
電気設備担当／小林浩一
総合設備コンサルタント
担当／瀧ヶ崎達也　船柳 謙太
機械設備担当／中本博
総合設備コンサルタント
担当／吉田雅之
積算担当／額賀宏之
ランドスケープ　オンサイト計画設計事務所
担当／戸田知佐　田下祐多　鯨岡栞*
建築音響　永田音響設計　担当／箱崎文子
カフェカウンター・カフェピクトサイン　Puddle
担当／加藤匡毅　大滝雄二郎
監理　日総建
担当／櫻井成行　秋山一彦　小原正也
田邉雄太　依田道夫　難波勝司
大野智佳　田中真琴
オンサイト計画設計事務所
担当／戸田知佐　田下祐多
永田音響設計　担当／箱崎文子
施工
建築　興建社・矢島建設共同企業体
担当／西信夫　菅原克智　軽部寿朗
清水孝祐　佐々木将英
電気設備　栄新・東九建設共同企業体
担当／横瀬進
空気調和設備　吉田・田中建設共同企業体
担当／浦部二聖
給排水衛生設備　吉田設備工業
担当／柿沼修
昇降機設備日本エレベーター製造
担当／書間渉
規模
敷地面積　5,105.39m²
建築面積　1,886.69m²
延床面積　4,605.78m²
地下1階　1,319.88m²
1階　1,567.15m² ／ 2階　1,412.90m²
建蔽率　36.95%（許容：60%）
容積率　86.19%（許容：180%）
階数　地下1階　地上2階
寸法
最高高　10,230mm
軒高　9,400mm
階高　5,000mm，4,800mm，4,200mm
天井高　一般書：3,200～3,400mm／こどもの本・ラウンジ・調べもの：2,700mm／新聞・雑誌：2,500mm 3,000mm
主なスパン　7,000×7,500mm　6,000×7,500mm
敷地条件
地域地区　第一種中高層住居専用地域　第一種低層住居専用地域　準防火地域
道路幅員　東4.35～4.76m　南4.0m　北5.4m
構造
主体構造　鉄筋コンクリート造
杭・基礎　杭基礎
設備
環境配慮技術
熱線吸収ガラス（既存）　床輻射冷暖房　節水器具　LED照明
空調設備
空調方式　1階：直膨コイル型空気調和機（床輻射冷暖房システム：亀山鉄工所）　2階・地下1階：個別空調方式
熱源　電気
衛生設備
給水　増圧直結給水方式
給湯　局所給湯方式
排水　汚水・雑排水　屋内分流　屋外合流方式
電気設備
受電方式　高圧1回線受電
設備容量　750kVA
予備電源　非常用自家発電機設備 130kVA
防災設備
消火　消火器設備　屋内消火栓設備　連結散水設備　ハロン消火設備
排煙　機械排煙
自動制御設備　各室個別制御及び中央監視装置による集中管理　監視
昇降機　乗用エレベータ（11人乗り1台　6人乗り1台）
特殊設備　舞台音響設備　舞台照明設備
工程
設計期間　2018年5月～2019年3月
施工期間　2019年6月～2020年6月
外部仕上げ
外壁　開口部：既存再利用／既存アルミパネル　既存ガラスカーテンウォール 飛散防止フィルム貼り
外構　主に「本の広場」周り：ウッドデッキ／イベ材　再生木材（エア・ウォーター・エコロッカ）　透水性コンクリート　パーミアコン舗装（佐藤渡辺）　メッシュベンチ（小岩金網）　植栽（大場造園）　門扉／通用口側（ヒガノ）
内部仕上げ
1階（ロビー・一般書・展示コーナーほか）
床　OAフロアh=300mm（ナカ工業）　タイ

黄金湯（本文66頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　東京都墨田区太平4-14-6 金澤マンション 1・2階
主要用途　公衆浴場
建主　金沢浴場
設計
建築・監理　スキーマ建築計画
担当／長坂常　嶋田光太郎
構造　ハシゴタカ建築設計事務所
担当／髙見澤孝志
設備　上尾製作所
担当／上尾晃一
クリエイティブディレクション・グラフィックデザイン　高橋理子
音響　ホワイトライト
アドバイザー　アクアプランニング
施工
建築　TANK
担当／大島伸悟　水谷潤
空調　TANK　杉下電器商会
衛生　TANK　上尾製作所
電気　TANK
サウナ　テルマリウム
ロッカー　藤栄
規模
敷地面積　371.30m²
建築面積　259.90m²
延床面積　1,113.34m²
地下1階　69.69m²
1階　252.53m² ／ 2階　183.24m²
塔屋階　8.7m²
基準階　183.06m²
建蔽率　69.99%（許容：70%）
容積率　299.84%（許容：300%）
階数　地下1階　地上6階　塔屋1階
寸法
最高高　19,000mm
軒高　18,500mm
階高　1階：5,000mm ／ 2階：27,00mm
天井高　1階：4,880mm ／ 2階：2,580mm
主なスパン　3,600～9,000×3,600～3,850mm
敷地条件
地域地区　第三種高度地区　第二種特別工業地区
道路幅員　南7.85～7.95m　北4.00m
構造
主体構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
杭・基礎　現場造成杭
設備
空調設備
空調方式　個別分散方式
熱源　エアコン
衛生設備
給水　直結方式
給湯　中央給湯方式
排水　合流方式
電気設備
受電方式　地中引込み方式
防災設備
消火　消火器
排煙　自然排煙
昇降機　乗用エレベータ
工程
設計期間　2019年4月～2020年1月
施工期間　2020年2月～7月
外部仕上げ
外壁　躯体コンクリート現し＋防水塗料
開口部　ロシアシラカバ合板（テツヤ・ジャパン）＋ガラス t=4mm
外構　外気浴スペース　St-□=150mm SOP
内部仕上げ
番台バー
床　既存コンクリートスラブ研磨＋浸透系強化剤（コスモトレード：アッシュフォードフォーミュラ）
壁　既存コンクリート現し
天井　既存コンクリートスラブ現し
ロビー・脱衣場
床　ビニル床シート（アドヴァン：ボロン）
壁　耐水PB＋AEP
天井　既存コンクリートスラブ現し
浴場
床・壁　磁器質無釉タイル（長江陶業：無釉 25mm角）
天井　（フクビ：バスパネル準不燃）
サウナゾーン
床　洗い出し（日本玉石）
壁　既存コンクリート現し＋シリコンクリア
コンクリートブロック＋シリコンクリア
天井　既存コンクリートスラブ現し
利用案内
開館時間　平日・日曜・祝日　10:00～24:30　土曜　15:00～24:30
休館日　第2・第4月曜日
入館料　大人470円　中学生370円　小学生180円　幼児80円
問合せ　tel. 03-3622-5009

長坂常（ながさか・じょう）



1971年大阪府生まれ／1998年東京藝術大学美術学部建築学科卒業／1998年スキーマ建築計画を開設



写真提供：黄金湯

改修前の黄金湯.

なっつらぼ（本文74頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　千葉県八街市吉倉629-7
主要用途　小規模多機能型居宅介護施設　地域交流スペース
建主　社会福祉法人 生活クラブ風の村
設計
建築・監理　teco
担当／金野千恵　下岡未歩　門脇春佳
設計協力／アリソン理恵　小倉亮子
小坂森中建築
担当／小坂怜　森中康彰
構造　オーノJAPAN
担当／大野博史　藤田竜平
設備　MCC
担当／田中政弘　中野祐介
施工
建築　国井建設
担当／加藤達也
空調　エスケー空調サービス
担当／佐々木勝美
衛生　タイコウ
担当／吉田高康
電気　大友電設
担当／河連信之　岩立政樹
換気　小貫工業
担当／小貫武房
消防用設備　成田防災
担当／小林進
スプリンクラー　真弓興業
担当／山賀正吾
外構　前田道路　市原営業所
担当／田中裕也
鉄筋　坂戸工業
担当／坂戸朋彦
基礎型枠　大塚興業
担当／大塚六郎
プレカット　ひらい
担当／河合正道　江澤繁

ルカーペット　一部塩化ビニルタイル（ベルギーIVC社／代理店MCF-Japan）　展示コーナー：OAフロアh=300mm（ナカ工業）　塩化ビニルフローリング（ベルギーIVC社／代理店MCF-Japan）
壁　ビニルクロス　既存鉄部 再塗装
天井　岩綿吸音版　一部直貼り用600mm角

1階カフェ
床　塩化ビニルフローリング（ベルギーIVC社／代理店MCF-Japan）
壁　ビニルクロス　既存鉄部　再塗装
天井　岩綿吸音版　一部直貼り用600mm角

トイレ（各階共通）
床　1階／OAフロアh=300mm（ナカ工業）　塩化ビニルタイル（ベルギーIVC社／代理店MCF-Japan）　2，3階　塩化ビニルシート（ベルギーIVC社／代理店MCF-Japan）
壁　珪酸カルシウム板目透かし貼り　塩化ビニルシート貼り（住友3M）
トイレブース／塩ビシート貼り エッジレスタイプ（コマニー）
天井　岩綿吸音版（指定色）

2階（ロビー・こどもの本・事務室・ミーティングルームほか）
床　タイルカーペット（ベルギーIVC社／代理店MCF-Japan）
壁　ビニルクロス　既存鉄部 再塗装
天井　岩綿吸音版　直貼り用600mm角

地下階新聞・雑誌
床　タイルカーペット（ベルギーIVC社／代理店MCF-Japan）
壁　ビニルクロス　既存鉄部 再塗装
天井　岩綿吸音版　折り上げ部　岩綿吸音版（指定色）

地下階ホール
床　塩化ビニルフローリング（ベルギーIVC社／代理店MCF-Japan）
壁　天井　天然木練付板：不燃，長孔，フィンランドバーチ（コアド&マテリアルズ）
電動引き割り幕　バトン類（橋田舞台）
舞台照明（丸茂電気）
舞台音響（東和エンジニアリング）

主な使用機器
サイン（イープランニング）
受付・窓際カウンター（カンディハウス）
ホワイトバーチ（滝沢ベニヤ：エコシラ合板）
1階木見切：積層材 フィンランドバーチ（コアド&マテリアルズ）
開架書架・地下受付カウンター（キハラ）
免震書架（キハラ）
地下階新聞・雑誌 壁面雑誌架（オカムラ）
集密書架　電動リニューアル（文祥堂）
スチールパーテーション・スライディングウォール（イトーキ）
電動ブラインド（ニチベイ）
厨房機器（マルゼン）

利用案内
開館時間　平日（月～土）9:00～20:00
日曜日・祝日　9:00～17:00
12月29，30日　9:00～17:00
休館日　毎月第1・第3木曜日
問合せ　tel. 03-3391-5754


東側夕景．ガラス面に映り込む樹形と室内のライトシェードが同時に現れる．

櫻井成行（さくらい・しげゆき）

1968年大阪府生まれ／1992年日本大学理工学部建築学科卒業／1994年同大学大学院理工学研究科博士前期課程建築学専攻修了／1995年日総建入社／現在，同社設計本部副本部長

豊島裕樹（とよしま・ゆうき）

1980年新潟県生まれ／2003年日本大学理工学部建築学科卒業／2003年青山玲建築設計事務所／2007年日総建入社／現在，同社設計監理部主幹

屋根・板金・外壁　山武板金工業
担当／齊藤博樹
木製建具　建具屋義
担当／長野義信　丸茂健太郎
家具　松本家具製作所
担当／松本勝一　神宇哉
左官　島田左官工業
担当／島田順
鋼製建具・ガラス　千葉アルミ工業
担当／香取賢一
内装　飯田工業
担当／飯田和弘
塗装　ヤオキ
担当／天田一美
置床　孝和建商
担当／平野智也
畳　相原畳店
担当／相原進一

規模
敷地面積　1,263.51m²
建築面積　332.72m²
延床面積　290.41m²
1階　290.41m²
建蔽率　26.34%（許容：60%）
容積率　22.99%（許容：200%）
階数　地上1階

寸法
最高高　5,852mm
軒高　5,192mm
天井高　一般部：2,158mm／吹き抜け：4,532.5mm
主なスパン　2,730×3,185mm

敷地条件
地域地区　都市計画区域内　区域区分非設定
道路幅員　南8.6m
駐車台数　11台

構造
主体構造　木造
杭・基礎　ベタ基礎

設備

空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプ方式
熱源　電気
換気方式　第3種換気方式・第1種換気方式（熱交換型）

衛生設備
給水　井戸給水方式
給湯　ガス給湯方式
排水　浄化槽方式

電気設備
受電方式　低圧受電方式
予備電源　ポータブル式発電機

防災設備
消火　スプリンクラー設備　消火器
その他　自動火災報知設備　火災通報設備　誘導灯

工程
設計期間　2017年7月～2020年5月
施工期間　2020年6月～12月

外部仕上げ
屋根　ガルバリウム鋼板 竪ハゼ葺き
外壁　モルタルの上，砂壁風吹付け塗装
開口部　アルミサッシ　ルメウォール（タキロンシーアイ）
外構　砕石（雨落）　土間コンクリート　アスファルト　客土
縁側　人工木ウッドデッキ

内部仕上げ
居間・食堂
床　構造用合板 t=12mmの上，ビニル製琉球畳（山中産業：気分草快）
壁　PB t=12.5mmの上，AEP塗装
天井　PB t=12.5mmの上，シルバー塗装

土間広場・地域交流スペース
床　土間コンクリート＋表面強化材
壁　PB t=15mmの上，砂壁風吹付塗装
天井　PB t=12.5mmの上，シルバー塗装

相談室
床　土間コンクリート＋表面強化材
壁　PB t=12.5mmの上，ビニルクロス
天井　PB t=12.5mmの上，シルバー塗装

宿泊室・水回り・事務室・休憩室
床　長尺塩化ビニルシート
壁・天井　PB t=12.5，15mmの上，ビニルクロス

主な使用機器
衛生設備　TOTO　カクダイ　前澤化成工業
空調　ダイキン
照明　ODELIC　Panasonic
換気　三菱電機（エアースイングファン・ロスナイ）　Panasonic
オペレーターハンドル　オイレスECO

金野千恵（こんの・ちえ）

1981年神奈川県生まれ／2005年東京工業大学工学部建築学科卒業／2005～06年スイス連邦工科大学奨学生／2011年東京工業大学大学院博士課程修了，博士（工学）／2011～15年KONNO設立／2011～12年神戸芸術工科大学大学院助手／2013～16年日本工業大学生活環境デザイン学科助教／2015年～tｅｃｏ（アリソン理恵と共同で設立）／2018年～東京大学，東京藝術大学非常勤講師／2020年～東北大学非常勤講師

小坂怜（こさか・れい／左）

1984年青森県生まれ／2007年東京理科大学工学部建築学科卒業／2007～10年アーキテクトカフェ・田井幹夫建築設計事務所勤務／2014～17年乾久美子建築設計事務所勤務／2018年小坂森中建築設立

森中康彰（もりなか・やすあき／右）
1984年石川県生まれ／2008年東京工業大学工学部建築学科卒業／2008～09年スイス連邦工科大学派遣交換留学奨学生／2011年東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修了／2011～18年乾久美子建築設計事務所勤務／2018年小坂森中建築設立／2019年～ツバメアーキテクツ参画（アドバイザー）

IYO夢みらい館 伊予市文化交流センター（本文82頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　愛媛県伊予市米湊768-2
主要用途　図書館　文化ホール　地域交流館
建主　伊予市
設計・監理
山下設計
統括／安田俊也
建築担当／小原信哉　森本光亮
構造担当／丸山修
電気担当／谷真治
機械担当／大迫哲朗　小家典久
施工
合田工務店　担当／冨田彰史
規模
敷地面積　7,428.30m²
建築面積　5,560.22m²
延床面積　5,867.51m²
ピット階　108.65m²
1階　5,304.70m²／2階　1,953.63m²
3階　11.23m²
塔屋階　24.72m²
建蔽率　74.85%（許容：90%）
容積率　78.99%（許容：390%）
階数　地上3階　塔屋1階
寸法
最高高　22,400mm
軒高　21,800mm
階高　1階：4,500mm　2階：4,300mm
天井高　図書館：2,655～8,000mm
敷地条件
地域地区　商業地域　準防火地域
道路幅員　西4.5m　南6.5m　北9.0m
駐車台数　139台
構造
主体構造　鉄骨鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
杭・基礎　地盤改良　直接基礎（布＋独立）
設備
環境配慮技術
雨水利用（植栽散水）　高効率設備機器の採用　節水型衛生器具等の採用　LED照明
空調設備
空調方式　中央熱源＋個別熱源方式
熱源　空冷HPチラー　空冷ビル用マルチエアコン（EHP）
衛生設備
給水　受水槽＋加圧給水ポンプ方式（上水，雑用水）
給湯　局所給湯方式
排水　自然流下排水方式（公共下水道）
電気設備
受電方式　6.6kV 1回線受電
設備容量　単相三線 100kVA × 2　三相三線 500kVA × 1　音響用：単相三線 50kVA × 1　舞台照明用：三相四線 200kVA　保安動力用：三相三線 300kVA
契約電力　616kVA（想定）
防災設備
消火　屋内消火栓設備　窒素ガス消火設備　消火器
排煙　自然排煙（一部機械排煙）
その他　自家発電設備　非常用　三相三線 200V 110kVA
昇降機　人荷用エレベータ（22 人乗り）×1 台
工程
設計期間　2014年3月～2016年5月
施工期間　2017年2月～2020年2月
工事費
総工事費　3,974,400,000円（税込）
外部仕上げ
屋根　チタン亜鉛合金 t=0.5mm一文字葺き（ダイムワカイ：パーフェクトルーフ，チタニウムジンク）
外壁　コンクリート化粧打ち放し＋フッ素樹脂クリア塗装
軒天　アルミ樹脂複合板 t=4.0mm（三菱樹脂：アルポリック）
開口部　アルミサッシ（YKK AP：EXIMA31）
ガラス　ペアガラス（セントラル硝子）
外構　歩道：煉瓦（岡本レンガ：マンガン）インターロッキング（東洋工業：ハイ・ブリック6）
車道　アスファルト舗装
建物廻り　河原ゴロ太石（3～5寸）　単粒砕石
植栽帯　ツツジ
内部仕上げ
縁側モール
床　1階：コンクリート金ごて押え＋浸透性表面強化剤塗布＋磨き仕上げ（シーゲイト：C-21仕様，シールハード・プレミアム）　2階：タイルカーペット（東リ：GA400）
壁　PB EP2
天井　GB-R t=9.5mm＋岩綿吸音板 t=9.0mm（吉野石膏：ソーラトン　スターダスト柄）
図書館閲覧室
床　タイルカーペット（東リ：GA100Tブライトプレーン）
壁　PB EP2
天井　GB-R t=9.5mm＋岩綿吸音板 t=9.0mm（吉野石膏：ソーラトン　スターダスト柄）
文化ホール（客席）
床　タイルカーペット（東リ：GA400）
壁　練付合板 捻り煉瓦ルーバー（高山煉瓦）＋GB-R t=12.5mm＋EP2（＋化粧GW）
天井　GB-R t=12.5mm 2枚張り＋EP2
文化ホール（舞台）
床　木製床組＋ヒノキ t=24mm 着色ワックス仕上げ
壁　GW32K t=50mmガラスクロス包み（ブラック）　低層部：木毛セメント板 t=25mm＋EP2
天井　GW32K t=50mm ガラスクロス包み（ブラック）
多目的スペース
床　合板 t=15mm 二重張り構成床組 h=350mm（染野製作所：スーパーL形）＋弾性ビニル床シート（クリヤマ：タラフレックス t=6.2mm）
壁　シナ合板 t=12mm＋クリア塗装（有孔無孔張り分け）
天井　ロックウール板張り　複合耐火野地板＋EP2
アトリエ
床　ビニル床シート（東リ：マチュアNW）
壁　PB EP2
天井　GB-R t=9.5mm＋岩綿吸音板 t=9.0mm（吉野石膏：ソーラトン　スターダスト柄）

垂井町役場（本文90頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　岐阜県不破郡垂井町宮代2957-11
主要用途　庁舎
建主　垂井町
設計
建築　**梓設計**
統括／永廣正邦
建築担当／日比淳　森一広
簾藤麻木*（*元社員）
構造担当／清水一秋　松浦厚　盧徳偉
機械設備担当／松本純一　隅田泰章
電気設備担当／渡邉久
監理担当／柴田芳典　黒子一幸
近藤晃司
サイン計画　廣村デザイン事務所
担当／廣村正彰　中村一行
施工
建築　TSUCHIYA・内藤特定建設工事共同企業体
建築担当／恩田隆信　立川浩司*（*元社員）
設備担当／森田敬
空調・衛生協力　新菱冷熱工業
担当／野口高弘　田中智仁
電気協力　トーエネック
担当／佐藤伸治
ハシモト電気
担当／野津秋広
規模
敷地面積　9,476.80m²
建築面積　4,438.80m²
延床面積　7,434.66m²
1階　3,913.42m²／2階　3,521.24m²
建蔽率　46.84%（許容：70%）
容積率　77.09%（許容：100%）
階数　地上2階
寸法
最高高　13,660mm
軒高　10,540mm
階高　1階：4,800mm　2階：4,500mm
天井高　共用部：2,950mm　執務室：直天
主なスパン　9,000×9,000mm
敷地条件
地域地区　準工業地域　防火地域指定なし（法第22条区域）
道路幅員　南10.5m　西8m　北6m
駐車台数　106台
構造
主体構造　鉄筋コンクリート造（庁舎棟）　鉄骨造（ホール棟）
杭・基礎　杭基礎（既存部）　直接基礎・地盤改良（増設部）
設備
環境配慮技術
環境井戸を活用した自然換気・自然採光　雨水利用　床吹出空調　木材活用（岐阜県産材・町産材）　バルコニー緑化
CASBEE Sランク
空調設備
空調方式　個別分散空調方式
熱源　電気
衛生設備
給水　加圧ポンプ方式
給湯　局所給湯方式
排水　直接放流方式
電気設備
受電方式　6.6kV 2回線受電（本線予備電源）　屋内型キュービクル
設備容量　1,100kVA
予備電源　ディーゼルエンジン発電機：415kVA　屋内燃料タンク：7,000L
防災設備
消火　屋内消火栓設備
排煙　自然排煙
その他　議場設備　雨水再利用設備
昇降機　人荷用エレベータ（15人乗り）×1台
工程
設計期間　2016年10月～2018年3月
施工期間　2018年5月～2019年7月
工事費
総工費　2,220,000,000円
外部仕上げ
屋根　庁舎棟：既設アスファルト防水＋下地活性剤＋押出発泡ポリスチレンフォーム t=50mm＋アスファルト露出防水（田島ルーフィング）　ホール棟：アスファルト防水＋押出発泡ポリスチレンフォーム t=50mm＋押えコンクリート t=80mm（田島ルーフィング）　アウトフレーム部：ウレタン塗膜防水　歩廊・庇：カラーガルバリウム鋼鈑 t=0.4mm 嵌合式細桟瓦棒拭き（元旦ビューティー工業）
外壁　庁舎棟：躯体モルタル補修の上複層塗材E，ALC t=120mmの上複層塗材E　ホール棟：（南北面）ALC t=120mmの上複層塗材E，（南面）アルミ形材ルーバー）（東西面）工場下地塗装処理 ALC t=120mmの上2-ASE塗装（クリオン：セグエンテ）　アウトフレーム部：化粧型枠（一部スギ板型枠）コンクリート打放し＋ASC塗装・DP塗装
軒天　アウトフレーム部：珪酸カルシウム板 t=6mm＋防汚塗装　化粧型枠コンクリート打放し＋DP塗装　歩廊部：珪酸カルシウム板 t=6mm＋特殊塗装（エスケー化研：ファインFR工法）
開口部　アルミサッシ・アルミカーテンウォール（LIXIL）　ステンレスドア（三和タジマ）　アルミトップライト（アルミックイマイ）
外構　アスファルト舗装　インターロッキングブロック舗装（日本興業：エコロアクアAT）
内部仕上げ
エントランスホール　待合スペース
床　既存スラブ＋ポリスチレンフォーム t=20＋押えコンクリート t=100mm＋浸透性表面強化剤（ABC商会：セラミキュア）
天井　野縁ルーバー @250mm（桐井製作所）＋SOP塗装　一部岐阜県産スギ集成材 t=15mm W=300mm＋CL塗装
執務室
床　既存スラブ＋ポリスチレンフォーム t=20＋OAフロア t=100mm（共同カイテック）＋タイルカーペット（東リ：GA100T）
壁　PB＋EP塗装
天井　既存スラブの上EP塗装，一部GWボード t=25mm張り
コミュニティコーナー　子育てコーナー（環境井戸）

利用案内

開館時間　■図書館
9:00～19:00（日，月，水，木，土）
9:00～20:00（金）
■文化ホール・地域交流館・縁側モール等　9:00～22:00

休館日　■図書館
火曜日（火曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月29日～1月3日）
月末日（月末日が休館日の場合その前日）
特別整理期間（3月中に10日以内）
■文化ホール・地域交流館・縁側モール等
火曜日（火曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月29日から1月3日）

問合せ　tel. 089-909-3266

床　町産スギ圧密フローリング t=15mm塗装品　タイルカーペット（Interface：UR102・HN830）
壁　岐阜県産スギ無垢材 t=12mm縁甲板 W=70mm＋木材保護塗料（大阪ガスケミカル：キシラデコールUA）

議場

床　タイルカーペット（川島織物セルコン：サキソニー）
壁　無機質壁紙（サンゲツ：TH-8937）　県産スギ集成材ルーバー＋CL塗装
天井　既存スラブ・梁型＋EP塗装　PB＋無機質壁紙（サンゲツ：TH-9414）＋一部GWボード t=50mm張り

安田俊也（やすだ・としや）



1959年千葉県生まれ／1981年早稲田大学理工学部建築学科卒業後，山下設計入社／現在，同社常務執行役員，プリンシパルアーキテクト

小原信哉（こはら・のぶや）



1979年兵庫県生まれ／2003年立命館大学理工学部環境システム工学科卒業／2005年同大学大学院理工学研究科環境社会工学専攻修了後，山下設計入社／現在，同社チーフアーキテクト／2015年～立命館大学理工学部建築都市デザイン学科非常勤講師

永廣正邦（ながひろ・まさくに）



1960年熊本県生まれ／1984年法政大学工学部建築学科卒業／1989年梓設計入社／現在，同社常務執行役員，スポーツ・エンターテインメントドメインドメイン長

日比淳（ひび・あつし）



1980年愛知県生まれ／2002年名古屋工業大学工学部社会開発工学科卒業／2007年梓設計入社／現在，同社アーキテクト部門主幹

森一広（もり・かずひろ）



1981年愛知県生まれ／2006年信州大学大学院工学系研究科修了／2013年梓設計入社／現在，同社アーキテクト部門副主幹

栃木県総合運動公園東エリア（本文98頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　栃木県宇都宮市西川田4-1-1
主要用途　観覧場
建主　栃木県
事業主体　グリーナとちぎ

設計

建築　**梓設計**
統括／永廣正邦
建築担当／日比淳　森一広
構造担当／倉内信幸　栗栖寛弥
機械設備担当／押久保正則　吉川佳江
眞下茜　阪本裕城
電気設備担当／渡邉久

大成建設一級建築士事務所
統括／川野久雄
建築担当／伊藤真樹　飯田雄介
涌井匠　松岡弘樹
構造担当／島村高平　寺嶋知宏
松島成明　中島崇裕　杉山雄亮
調浩朗　森光哉　森田有貴
機械設備担当／久保田祥彰　伊藤肇
矢田達也
電気設備担当／西村英俊

安藤設計
担当／益子朋二　安藤崇之

サイン計画　KMD
担当／宮崎桂　富田英明　石毛綾

照明デザイン　LIGHTDESIGN INC.
担当／東海林弘靖　黒田茜

ランドスケープデザイン　ソラ・アソシエイツ
担当／藤田久数　塩井弘一

監理　梓設計
担当／杉山周一郎　樫野昇一　細井進
乾茂喜
安藤設計
担当／梅宮祐二　安藤崇之

施工

建築　大成・中村・渡辺特定建設工事共同企業体
大成建設関東支店
担当／寺田健一　松岡理　青木茂浩
安部智章　神山剛寿　坂本健　高橋淳
黒田敬　和田利之　栗山健一郎
山口将之　森嶌啓介　小林勇也
羽賀正和　吉田浩幸　森哲人　丸山徹
菅原雅熙　霜鳥將輝
中村土建
担当／手塚信男　倉持吉博
渡辺建設
担当／海老原洋行　池田和樹

空調・衛生　新菱冷熱工業・岩原産業特定建設工事共同企業体

電気　関電工・美工電気特定建設工事共同企業体

規模

敷地面積　66,151.85m²
建築面積　24,898.57m²
延床面積　38,524.27m²
地下1ピット階　2,214.17m²
1階　23,225.87m²／2階　7,610.61m²
3階　2,913.64m²／4階　2,559.98m²
建蔽率　39.18%（許容：70%）
容積率　58.77%（許容：200%）
階数　地上4階

寸法

最高高　23,003mm
軒高　22,478mm
階高　メインアリーナ：22,478mm
天井高　メインアリーナ：16,440mm
主なスパン　メインアリーナ：69,000×6,500mm　屋内水泳場：66,150×6,500mm

敷地条件

地域地区　第一種住居地域　防火地域指定なし（法第22条区域）
道路幅員　西・南11.75～18m　南東10m　北6m
駐車台数　490台

構造

主体構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
杭・基礎　直接基礎（地盤改良）

設備

環境配慮技術

公園自生の樹種植栽　屋上緑化　自然換気　昼光利用　木材活用　雨水利用　太陽光発電（50kW）等
CASBEE Aランク認証

空調設備

空調方式　アリーナ・サブアリーナ・屋内水泳場・観客席：空調機単一ダクト方式
その他居室：マルチパッケージエアコン
熱源　中央熱源：ガス焚吸収式冷温水機　空冷HPモジュールチラー
個別熱源：マルチパッケージエアコン（EHP，GHP）

衛生設備

給水　上水：受水槽＋加圧給水ポンプ方式
雑用水：受水槽（地下躯体）＋加圧給水ポンプ方式
給湯　中央方式：ガス焚真空式温水器（シャワー）　個別方式：電気温水器（トイレ・手洗い）
排水　屋内：汚水・雑排水合流方式　屋外：汚水・雨水分流方式

電気設備

受電方式　6.6kV1回線受電　屋外型キュービクル及び屋内型キュービクル
設備容量　3,900kVA
契約電力　1,200kW
予備電源　ディーゼルエンジン発電機：500kVA　燃料小出槽：1,950L

防災設備

消火　全館スプリンクラー設備
排煙　全館避難安全検証法による排煙免除（メインアリーナのみ自然排煙）
その他　プールろ過設備　雨水利用設備　雷保護設備　太陽光発電設備

昇降機　乗用エレベータ（13人乗り）×2台
人荷用エレベータ（20人乗り）×1台

特殊設備　アリーナ音響設備　大型映像設備　プール水平可動壁

工程

設計期間　2017年4月～2018年5月
施工期間　2018年6月～2021年1月

外部仕上げ

屋根　メインアリーナ・サブアリーナ・屋内水泳場：デッキPL H=75mm　亜鉛メッキ鋼鈑 t=1.0mm＋硬質ウレタンフォーム t=50mm＋シート防水（メイン・サブアリーナは三晃金属工業：ハイタフルーフ，屋内水泳場は本久：Zルーフハイブリット防水工法）　一般部：アスファルト外断熱防水の上，押えコンクリート t=80mm
外壁　PC板 t=180mm（モールドスタースギ板型枠）＋水性シリコン樹脂クリア塗装　化粧型枠コンクリート打ち放し＋フッ素樹脂塗装
開口部　アルミサッシ・アルミガラリ・アルミカーテンウォール（YKK AP，LIXIL）
ガラス：Low-E複層ガラス
軒天　ガラス繊維クロス入りセメント板 t=8.0mm＋アクリルシリコン塗装（菊水化学工業：キクスイSA-FG工法）

外構　大谷石混入透水性インターロッキングブロック（東洋工業）　マロニエテラス床：那珂川水系産砂利混入コンクリート平板ブロック　階段段鼻・マロニエテラスボーダー：芦野石

内部仕上げ

メインアリーナ

床　鋼製床下地＋カバ複合フローリング t=18mm（染野製作所）

壁　鋼製壁下地＋天然木（タモ）化粧合板塗装品（染野製作所）

天井　グラスウール t=50mm ガラスクロス貼り

サブアリーナ

床　鋼製床下地＋カバ複合フローリング t=18mm（染野製作所）

壁　鋼製壁下地 天然木(タモ)化粧合板塗装品（染野製作所）

天井　グラスウールt=50mm ガラスクロス貼り　下弦下日光スギ板張りOSCL

屋内水泳場

床　プール用セラミックタイル（Interbau by Steuler）

壁　1階：化粧型枠コンクリート打ち放しの上水性シリコン樹脂クリア塗装　上部：撥水グラスウール＋孔あきアルミ成形板（旭ビルド：ルクサロン300C＋アクリアボード48K t=15mm）

天井　屋根下地ルーフデッキ（塗装品）現し一部吸音膜天井（大嘉産業：FGT-250）

トレーニングルーム

床　鋼製床下地＋スポーツ床（ABC商会：レックスコート）

壁　軽量鋼製壁下地＋PBの上防汚塗装

天井　岩綿吸音板（黒色塗装品）

多目的スタジオ

床　鋼製床下地＋複合フローリング（ホワイトオーク）t=15mm

壁　軽量鋼製壁下地＋GW充填有孔珪酸カルシウム板 t=6mm

天井　岩綿吸音板（黒色塗装品）

メインコリドー

床　長尺塩化ビニルシート t=2mm（東リ：フロアリュームソイルドNW）

壁　化粧型枠コンクリート打ち放しの上撥水材塗布　一部ウォータージェット加工（OSHIROX）

天井　PBの上EP塗装

特記仕様

観客席　メインアリーナ：BLM-8020・8021　サブアリーナ：NP-8008　屋内水泳場：BLM-1508（すべてコトブキシーティング）

主な使用機器

照明器具　パナソニック　ヤマギワ　大光電機　山田照明

衛生器具　TOTO

空調機器　クボタ空調

昇降機　日立ビルシステム

利用案内

開館時間　9:00～21:00

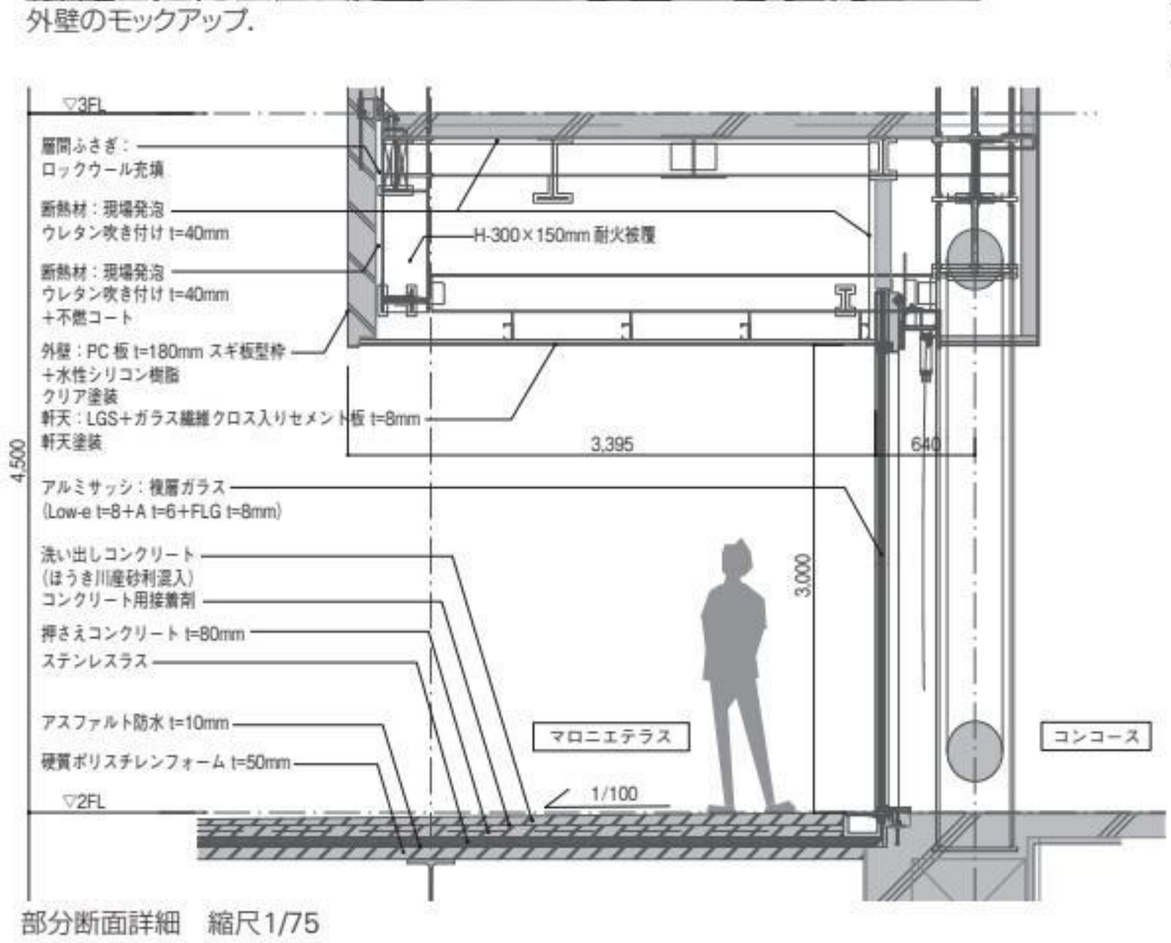
休館日　第1月曜日，年末年始

問合せ　tel. 028-658-5900



撮影：平野敬子

外壁のモックアップ．



部分断面詳細　縮尺1/75

永廣正邦（ながひろ・まさくに）
●詳細は177頁

日比淳（ひび・あつし）
●詳細は177頁

森一広（もり・かずひろ）
●詳細は177頁

川野久雄（かわの・ひさお）



1964年兵庫県生まれ／1991年神奈川大学工学部建築学科大学院卒業後，大成建設設計本部入社／現在，同社設計本部部長

伊藤真樹（いとう・まさき）



1967年広島県生まれ／1989年東京理科大学理工学部建築学科卒業後，大成建設設計本部入社／現在，同社設計本部設計室長（スポーツ・文化施設担当）

飯田雄介（いいだ・ゆうすけ）



1986年東京都生まれ／2009年東京大学工学部建築学科卒業／2011年同大学大学院修士課程修了後，大成建設設計本部入社／現在，同社設計本部プロジェクトアーキテクト

涌井匠（わくい・たくみ）
1991年千葉県生まれ／2013年日本大学理工学部海洋建築工学科卒業／2015年同大学大学院修士課程修了後，大成建設設計本部入社／現在，同社設計本部アーキテクト

松岡弘樹（まつおか・ひろき）
1993年静岡県生まれ／2015年名古屋工業大学工学部建築デザイン工学科卒業／2017年同大学大学院修士課程修了後，大成建設設計本部入社／現在，同社設計本部

益子朋二（ましこ・ともじ）
1974年栃木県生まれ／1995年東京工学院専門学校建築学科卒業／2000年安藤設計入社／現在，同社常務取締役

安藤崇之（あんどう・たかゆき）
1984年栃木県生まれ／2010年日本大学理工学部建築学科卒業／2013年安藤設計入社／現在，同社設計統括部長

大手町ビル・リノベーション

（本文106頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　東京都千代田区大手町1-6-1

主要用途　事務所　物販店舗　飲食店舗　駐車場

建主　三菱地所

設計

三菱地所設計

統括／飯沼安裕　須藤啓　杉本宏之
意匠担当／荒井拓州
構造担当／加藤周二　宮下正人
電気設備担当／内山竜太郎　山口泰規
機械設備担当／庵原弘樹　藤村和也
伊藤重人
積算担当／後藤俊章
監理担当／安陪泰司　菊池義之（協力事務所）
土木担当／田代英久

メック・デザイン・インターナショナル

共用部内装デザイン担当／三田高章
小田代美月　田彬農　中村美香
サインデザイン担当／福田宏

ライトアップデザイン協力　ソラ・アソシエイツ
担当／三井敦史　石井麻美

外装材色彩設計協力　CUORE
担当／小島真澄

施工

建築　大成建設　担当／桐生浩　本間啓一　横尾誠　薗口彰彦　田中正俊　小池由嗣　柴崎善史　織部明人　守屋智仁　栗村毅　藤井秀城　三輪信幸　矢野正一　山辺浩充　林公司　小川幸三　田中正彦　滝敬生　中澤詩佐子

電気　東光電気工事
担当／中村弘　磯川純一　木次谷輝彦　福田杏奈

空調　第一工業
担当／緒方智宏　宇都宮真　小原彰彦　多田篤史　小宮卓

衛生　斎久工業
担当／横路貴史　荒友行　秋田知広　大槻和也

規模

敷地面積　10,496.03m²
建築面積　10,082.64m²
延床面積　111,272.72m²
地下1階　10,299.10m²
1階　10,082.64m²
基準階　8,751.31m²
建蔽率　96.06%（許容：100%）
容積率　991.83%（許容：1,300%）
階数　地下3階　地上9階　塔屋2階

寸法

最高高　39,980mm
軒高　30,255mm
階高　基準階：3,290mm
天井高　事務室：2,600mm
主なスパン　6,150×6,150mm

敷地条件

地域地区　商業地域　防火地域　駐車場整備地区　大手町丸の内有楽町地区地区計画
道路幅員　東22m　西36m　南8m　北22m

構造

主体構造　鉄骨鉄筋コンクリート造
杭・基礎　場所打ちコンクリート杭

設備

環境配慮技術

アルミフレームによる日射遮蔽　Low-E複層ガラス　LEDライトアップ照明

空調設備

熱源方式　地域冷暖房方式
空調方式　事務所エリア：空調機＋水熱源ビル用マルチパッケージ併用方式　店舗エリア：外調機＋ファンコイルユニット併用方式

衛生設備

給水　高置水槽方式
給湯　中央式給湯＋局所式給湯併用方式
排水　汚水・雑排水分流方式

電気設備

受電方式　高圧6.6kV 本線予備線受電方式
予備電源　非常用発電機
防災設備　消火　屋内消火栓設備　スプリンクラー設備　泡消火設備　ガス消火設備
その他　自動火災報知設備　非常照明設備　非常放送設備　誘導灯設備　避雷設備

昇降機　乗用エレベータ（19人乗り）×16台　貨物用エレベータ（29人乗り）×2台

工程

設計期間　外装デザイン：2016年1月～2018年4月／内装デザイン：2018年5月～2019年7月
施工期間　2018年5月～2020年12月

外部仕上げ

外壁　アルミフレーム：押出型材（LIXILリニューアル，YKK AP）　フッ素樹脂焼付塗装 MC-3028，3075（日本電気化学工業所）　GRCパネル：煉瓦タイル調（東側隅角部），石垣調（西側隅角部）（共に，ニチアスセムクリート）　アルミパネル：アートテックリン酸柄 ASN001 濃色・淡色（大日本印刷）
開口部　アルミサッシ片引き2連：（LIXILリニューアル，YKK AP）　フッ素樹脂焼付塗装 MC-3028（日本電気化学工業所）　Low-E複層ガラス（旭硝子：トリプルクール）　アルミカーテンウォール：（LIXILリニューアル）　フッ素樹脂焼付塗装 スーパープラチナメタリック（日本電気化学工業所）　光輝アルミ合金板MF仕上（板材／UACJ　電解研磨／日本電気化学工業所）　高透過フロート複層ガラス（日本板硝子：オプティホワイト）

7階テラス

床　PFパネル素地（日新工業）
柱・軒天井　アルミパネル（LIXIL）＋ダイノックシート貼り（住友3M：FW-7011EX）　ガラス手摺り：強化合わせガラス　シリコンライト（エイテックス）　1階柱まわり：カッター入れ刻印バーコード文様（矢橋大理石）

東ピロティ・エントランス

床　中国産稲田石（矢橋大理石）
壁　既存のまま（稲田石）　中国産稲田石（矢橋大理石）
柱　煉瓦タイル貼り（クレアタイル）　アルミフレーム（LIXIL）　アートテックパネル（大日本印刷：リン酸柄）
天井　珪酸カルシウム板ノンクラック工法（19-90A 3分艶）
ベンチフェンス　SUS製作品

北エントランス

床　アルゼンチン斑岩（ミック）
柱・壁　黒御影石（矢橋大理石／スターゲート）
風除室　ガラススクリーンDPG工法（LIXILリニューアル，日本板硝子D&Gシステム）

南エントランス

床　アルゼンチン斑岩
門型フレーム　押出型材（LIXILリニューアル）＋ダイノックシート貼り（住友3M／FW-7011EX）
柱　黒御影石（矢橋大理石／スターゲート）　ライティング（エイテックス／テープライトディフューザー）

西エントランス

床　花崗石（矢橋大理石）
壁　既存のまま（稲田石）
天井　PB t=9.5＋9.5mm AEP塗装（19-90A 3分艶）

内部仕上げ

1階南北貫通通路

床　アルゼンチン斑岩 t=40mm（ミック／レッド・グレー）　花崗岩 t=30mm JP仕上げ
壁　煉瓦タイル t=20mm 貼り（クレアタイル）中国産花崗石 t=30mm JB仕上げ（矢橋大理石：アンゴラブラック，ゲリジオコットーネ，パシフィックブルー）　アートグリーンウォール（ランドスケープハウス）
柱　カラーガラス t=5mm（AGC：クラシックブラック）
天井　アルミカットパネル t=3mm　アルポリック t=4mm（三菱ケミカル／M-9170-G30）　アルミカットパネル t=3mm＋ダイノックシート貼り（住友3M／AM-1720，ベルビアン／FM-11）
折上天井　PB t=9.5mmの上，特殊塗装（アイズ／スワヒリ シルバー）

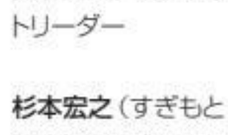
1階東西通路

床　テラゾ（既存のまま）
壁　トラバーチン（既存のまま）　L型造作物：鋼板 t=1.6mm＋特殊塗装（ノミック／鉄錆2）
天井　GB-R t=12.5＋9.5mm EP塗装（19-30A 3分艶）
折上天井　PB t=9.5mm 特殊塗装（アイズ／スワヒリ シルバー）
EVHL天井　GB-R t=12.5＋9.5mm EP塗装（22-30B 艶無し）

基準階廊下

床　テラゾ（既存のまま）
壁　既存壁再塗装（DIC552，DIC555，DIC523，25-92B 3分艶）
EVHL壁　磁器質タイル t=9mm貼り（アベルコ／MAMJ-280／R4-KZ）　不燃木板パネル t=6mm（ニッシンイクス／ナララスティックウレタン塗装3分艶）　PB t=9.5mm 特殊塗装（アイズ／アニマムンディ）　石貼 t=15mm（ライムストーン）
天井　GB-R t=12.5＋9.5mm EP塗装（25-92B，DIC552 艶無し）
EVHL天井　GB-R t=12.5＋9.5mm EP塗装（25-92B艶無し）　スケルトン天井 EP塗装（DIC552 艶無し）Dボード工法（住友3M／FW-1285）

飯沼安裕（いいぬま・やすひろ）



1966年大分県生まれ／1991年東京工業大学電子物理工学科卒業／1994年同大学建築学科卒業／1994～98年山田守建築事務所／2007年～三菱地所設計／現在，リノベーション設計部チーフアーキテクト

荒井拓州（あらい・たくしゅう）



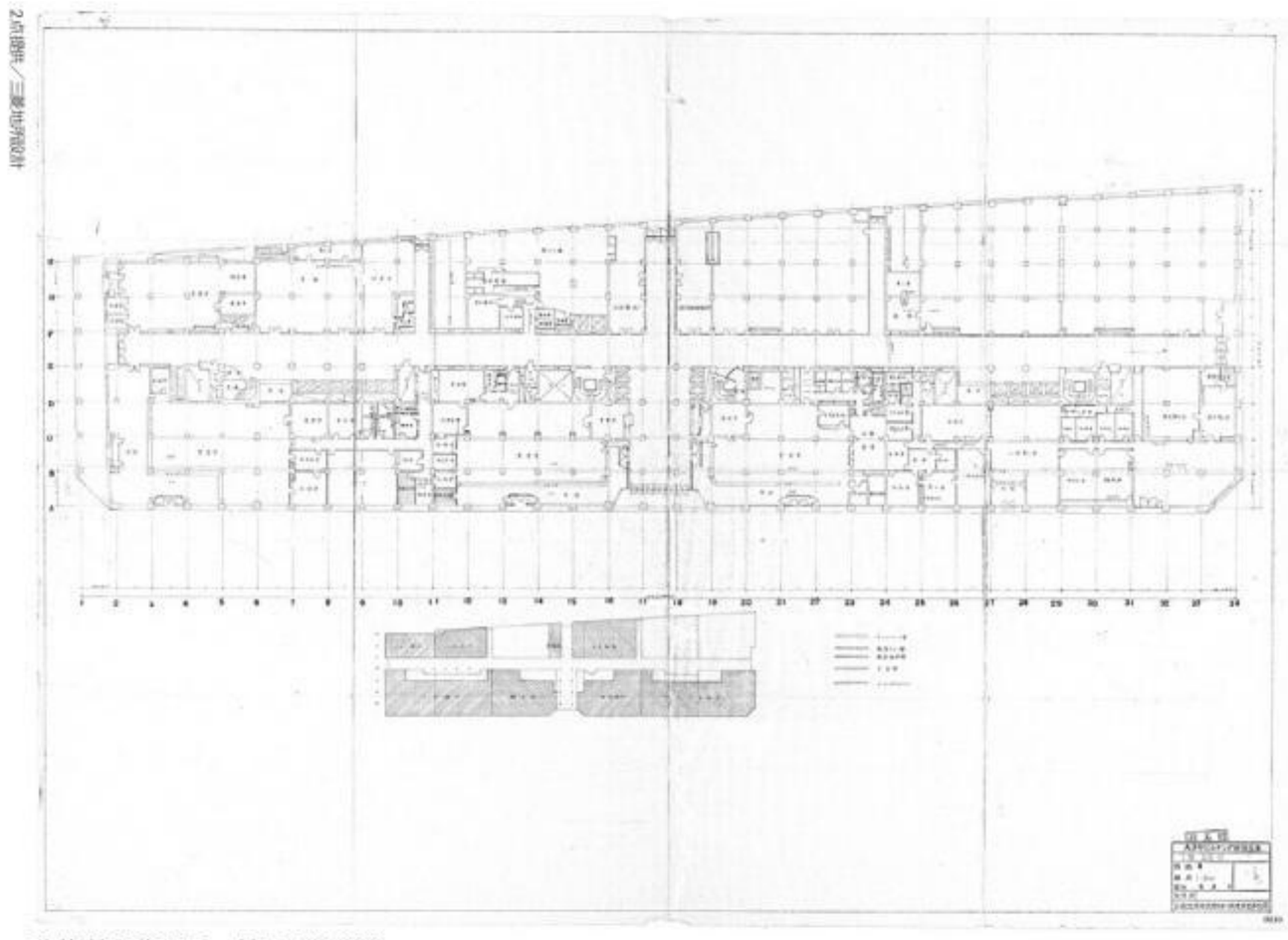
1975年神奈川県生まれ／1999年東京工業大学工学部建築学科卒業／2002年同大学大学院修士課程修了後，三菱地所設計／現在，リノベーション設計部チーフデザイナー

須藤啓（すどう・ひろむ）

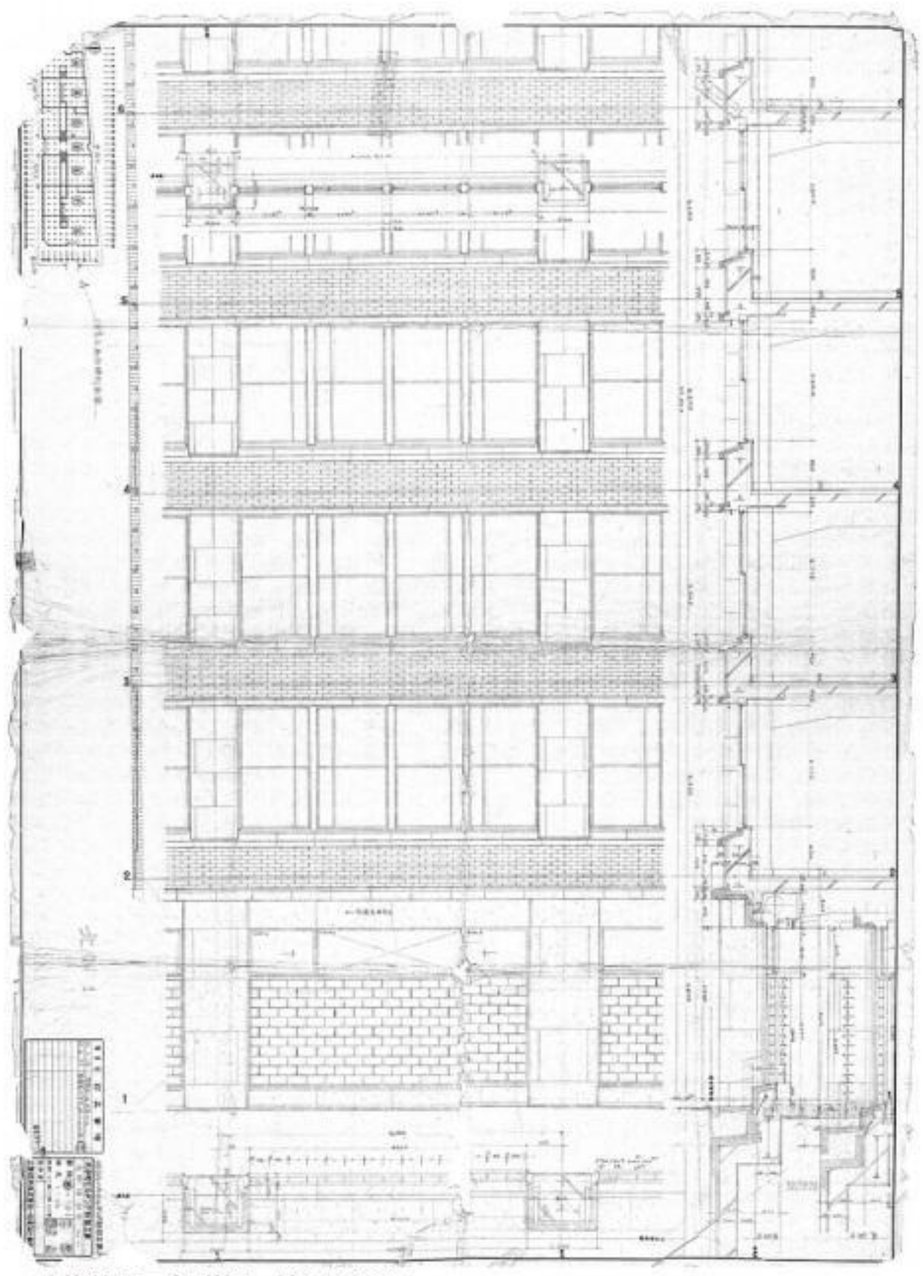
1964年東京都生まれ／1988年日本大学理工学部建築学科卒業／1990年同大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了／1990～2001年三菱地所／2001年～三菱地所設計／現在，北海道支店副支店長・ユニットリーダー

杉本宏之（すぎもと・ひろゆき）

1966年神奈川県生まれ／1989年東京藝術大学美術学部建築科卒業／1991年同大学大学院修士課程修了／1991～2001年三菱地所／2001年～三菱地所設計／現在，建築設計三部ユニットリーダー



改修前1階平面　縮尺1/2,000



改修前開口部詳細　縮尺1/200

AGC横浜テクニカルセンター SE1 （本文114頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　神奈川県横浜市鶴見区末広町1-1
主要用途　研究施設
建主　AGC
設計
基本計画・基本設計・実施設計監修　類設計室
プロジェクト統括／岩井裕介　新川啓一
構想・計画担当／清水昌広　安藤太地
建築担当／佐藤賢志　渡邉卓郎
澤根和治　米澤星矢　大川泰毅
内堀克哉
構造担当（実施設計まで）／沼田竜一
浅見昌良　朝日大和　金川和弘
設備担当／岸良造　山名宏明
西村秀彦　花塚優人
監理担当／今井勝行　中村英起
越見源　山田隆之
実施設計　フジタ
建築担当／塩田高義　田中愛
設備担当／小林直樹　中谷雪世
古谷宥人
ワンルームオフィス計画協力
リーフデザインパーク
担当／上野卓史　本田恵三郎
ワンルームオフィスデザイン協力・家具
イトーキ
担当／有賀基之　北出由紀
サインデザイン　図考館
担当／杉谷進　新井明日香
施工
建築　フジタ
担当／浜田剛　山本栄顕　黒澤恵一
竹浪正則　荒木尭　山口理人
空調・衛生　ダイダン
担当／久保田聖也　佐藤真一
計良紘充　荒井豊
電気　トーエネック
担当／磯田勝己　諸星拓也　向井翔一
伊藤光司
規模
敷地面積　186,302.21m²
建築面積　12,899.92m²
延床面積　44,883.21m²
地下1階　717.00m²
1階　12,620.75m²／2階　11,272.39m²
3階　10,676.05m²／4階　9,379.76m²
塔屋階　217.26m²
建蔽率　53.11%
容積率　110.99%
階数　地下1階　地上4階
寸法
最高高　31,350mm
軒高　28,150mm
階高　5,500mm
天井高　3,500mm
主なスパン　12,000×13,000mm
敷地条件
地域地区　工業専用地域　横浜港臨港地区
道路幅員　西18m
構造
主体構造　鉄骨造
杭・基礎　既成コンクリート杭　基礎免振構造
設備
環境配慮技術　地熱利用（免震ピットより給気）LED照明　人感センサー　Low-Eガラス
空調設備
空調方式　外気処理：各階4管式外調機　クリーンルーム：クリーンルーム用コンパクトエアハン　実験室・一般系統：電気式パッケージエアコン（EHP）　デシカント空調機
熱源　ガス焚吸収冷凍機　空冷ヒートポンプチラー
衛生設備
給水　受水槽方式　上水加圧給水ポンプ
給湯　厨房用ガス給湯器　個別電気式給湯器
排水　汚水・雑排水（屋内合流方式）
電気設備
受電方式　構内特高変電所より3.3kV高圧電力1回線受電
設備容量　1φ3W：900kVA 3φ3W：4500kVA＋1φ3W：900kVA 3φ3W：3750kVA
予備電源　非常用発電機（250kVA）　ディーゼル式発電機
防災設備
消火　屋内消火栓　消火水槽　連結送水管　連結散水設備　屋外消火栓　消火器
排煙　機械排煙
昇降機　乗用エレベータ（20人乗り）×7台　大型エレベータ（4,000kg）×1台
特殊設備　圧縮空気製造設備　排水処理設備
工程
設計期間　2017年1月～2018年6月
施工期間　2018年6月～2020年12月
外部仕上げ
屋根　アスファルト防水保護 コンクリート仕上げ 一部露出アスファルト防水　シート防水（田島ルーフィング）
外壁　ALCの上，複層塗材E（トップコート：AGCボンフロン）
開口部　ディンプラス（AGC）　カーテンウォール（YKK AP）　アルミサッシ（LIXIL）　Low-Eガラス（AGC）
外構　アスファルト舗装
内部仕上げ
AO Gallery
床　コンクリート研磨仕上げ（第一カッター：プラコンフロア）
壁　GB-R t=12.5mm＋EP-G　柱・梁：錆風塗装（エスケー化研：ファインFR）
天井　デッキ現し
会議室
床　タイルカーペット（サンゲツ）
壁　GB-R t=12.5mm＋EP-G　クロス（サンゲツ）　カラーガラス（AGC：ラコベル）
天井　岩綿吸音板
AO café
床　ビニル床シート（TAJIMA）
壁　GB-R t=12.5mm＋EP-G
天井　デッキ現し
オフィス
床　タイルカーペット（東リ）
壁　GB-R t=12.5mm＋EP-G　ビニルクロス（サンゲツ）
天井　グラスウールガラスクロス押え（MAG）
Lab.
床　耐薬品塗床（住友ゴム）
壁　GB-R t=12.5mm＋EP-G
天井　デッキ現し

岩井裕介（いわい・ゆうすけ）



1971年山口県生まれ／1996年東京大学大学院工学系研究科修了後，類設計室入社／現在，同社東京設計室長

新川啓一（しんかわ・けいいち）



1959年東京都生まれ／1983年東京理科大学工学部建築学科卒業後，類設計室入社／現在，同社ディレクター

佐藤賢志（さとう・けんじ）



1963年山形県生まれ／1986年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業／1987年類設計室入社／現在，同社計画房統括キャップ

安藤太地（あんどう・たいち）



1979年埼玉県生まれ／2005年北海道大学大学院建築都市空間デザイン専攻修了後，類設計室入社／同社社会事業部を経て，現在，企画室統括キャップ

TODA Innovate Lab
（本文124頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　東京都江東区7-10-14
主要用途　研修施設　ホテル
建主　戸田建設戦略事業推進室投資開発事業部
運営・管理　大和ライフネクスト
設計
戸田建設一級建築士事務所
統括／柳沢宗彦
プロジェクトマネージャー／鈴木宏昌
意匠担当／國又要　渡辺拓
奥田美香子　小林寛司　寺田磨由子
構造担当／寺本博史　前田朋宏
牛島祐樹
機械設備・スマートソリューション担当／永井裕之　市川勇太
電気設備担当／杉平善宣　毛利広宇
家具デザイン　ACTUS
施工
建築　戸田建設東京支店
担当／中島弘勝　松本大介　鍋倉拓也
宍戸元　森越一雄　矢後亮　瀬尾僚介
髙橋啓二　栗栖賢　石井遥菜　砥石亮
空調・衛生　きんでん
担当／井上靖
電気　雄電社
担当／溝口尚利
規模
敷地面積　5,705.56m²
建築面積　2,232.93m²
延床面積　9,632.04m²
1階　2,206.21m²／2階　2,184.83m²
基準階　1048.20m²
建蔽率　40%（許容：60%）
容積率　164%（許容：300%）

リバーホールディングス本社
（本文132頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　東京都墨田区緑1-4-19
主要用途　事務所
建主　リバー
設計
建築　竹中工務店
建築担当／花岡郁哉　千賀順
Pennisi Fiammeta
構造担当／岩間和博　伊藤利明
川村聡　鴨下直登
設備担当／田中宏治　増田直記
矢野諭　海野玄陽　柴田章吾　輕部達也
防災計画担当／竹市尚広　伯耆原智世
ワークプレイスプロデュース担当／平山朋史　小菅健　髙根一晃
青野敏紀
監理担当／池田次寿　森永由美
伊藤武司　土田昌典
コンピュテーショナルデザイン協力　ぽ
施工
竹中工務店
建築担当／永井一嘉　砂川亮馬
清水あす香
設備担当／岡本恒義　袴田洸平
空調・衛生　関電工
担当／樽下耕輔　中山将太

階数　地上7階

寸法

最高高　26,930mm
軒高　24,650mm
階高　研修室：4,400mm／宿泊階：3,050mm
天井高　研修室：3,000mm
主なスパン　9,000×13,000mm

敷地条件

地域地区　準工業地域　準防火地域　第3種高度地区
道路幅員　西7.27m
駐車台数　33台

構造

主体構造　鉄骨造
杭・基礎　場所打ちコンクリート杭

設備

環境配慮技術

VPP事業　BELS★5取得

空調設備

空調方式　空冷ヒートポンプパッケージ方式
熱源　電気

衛生設備

給水　水道直結方式（1～2階系統）　受水槽＋加圧ポンプ方式（3～7階系統）
給湯　中央方式
排水　汚水雑排水合流方式

電気設備

受電方式　高圧受電方式
設備容量　1,800kVA
予備電源　非常用発電機　ディーゼル　250KVA

防災設備

消火　スプリンクラー　補助散水栓　連結送水管
排煙　自然排煙（2階研修室機械排煙設備）
その他　環境・感情センシングシステム

昇降機　エレベータ（乗用・人荷用）×3台
特殊設備　VPP設備

工程

設計期間　2018年4月～2019年4月
施工期間　2019年4月～2020年10月

外部仕上げ

屋根　改質アスファルト防水外断熱工法
外壁　ECP t=60mmの上，薄塗仕上塗材（アイカ工業：ジョリパット）
開口部　アルミサッシ電解二次着色
外構　御影石 JP仕上げ　インターロッキングブロック舗装　ウッドデッキ

内部仕上げ

エントランスホール

床　モルタル t=50mmの上，御影石 JP仕上げ
壁　PB t=12.5mmの上，EP塗装 サビ石ビシャン仕上げ　鉄骨下地＋珪酸カルシウム板 t=8mmの上，薄塗仕上げ塗材（アイカ工業：ジョリパット）
天井　PB t=9.5mmの上，EP塗装

レストラン

床　モルタル t=50mmの上，御影石 JP仕上げ
壁　PB t=12.5mmの上，EP塗装＋ビニルクロス貼り（サンゲツ）
天井　アルミルーバー＋岩綿吸音板 t=9mm

研修室

床　OAフロア H=100mm タイルカーペット貼り
壁　PB t=12.5mmの上，ビニルクロス貼り
天井　岩綿吸音板 t=9mm

客室

床　コンクリート金ゴテ仕上げの上，タイルカーペット貼り
壁　PB t=12.5mmの上，ビニルクロス貼り
天井　PB t=9.5mmの上，ビニルクロス貼り

主な使用機器

照明器具　パナソニック
衛生機器　LIXIL



吹き抜け部に設置したタイル壁画は，旧戸田ビルより移設したもの．



南側外壁．

2点撮影：新建築社写真部

鈴木宏昌（すずき・ひろまさ）



1968年千葉県生まれ／1991年多摩美術大学美術学部建築科卒業後，戸田建設入社／現在，同社建築設計統轄部建築設計第1部上席主管

國又要（くにまた・かなめ）



1987年東京都生まれ／2012年東京都市大学大学院工学研究課修士課程修了後，戸田建設入社／現在，同社建築設計統轄部建築設計第1部主任

市川勇太（いちかわ・ゆうた）



1991年東京都生まれ／2015年工学院大学大学院工学研究科修士課程修了後，戸田建設入社／現在，同社建築設計統轄部スマートソリューション設計部

牛島祐樹（うしじま・ゆうき）



1990年長崎県生まれ／2015年熊本大学大学院自然科学研究科建築学専攻博士前期課程修了後，2015年戸田建設入社／現在，同社建築設計統轄部建築設計第3部

電気　西山電機
担当／鈴木崇史　箕輪哲也

規模

敷地面積　861.45m²
建築面積　607.49m²
延床面積　2,138.42m²
1階　528.09m²／2階　560.67m²
3階　563.57m²／4階　486.09m²
建蔽率　70.51%（許容：100%）
容積率　217.10%（許容：400%）
階数　地上4階

寸法

最高高　19,000mm
軒高　15,100mm
階高　事務室：3,700mm
天井高　事務室：2,750mm（直天井スラブ下3,270mm）

敷地条件

地域地区　商業地域
道路幅員　西11.070m　南11.020m　北11.000m
駐車台数　7台

構造

主体構造　鉄筋コンクリート造
杭・基礎　杭基礎

設備

環境配慮技術

雨水雑用水利用　クールピット　自然換気制御　ロールスクリーン自動制御　タスクアンビエント照明・空調　太陽光発電　温湿度マッピング表示
CASBEE　Sランク，　BELS★5取得
PAL値　0.72

空調設備

空調方式　空気熱源ヒートポンプパッケージ空調方式
熱源　空気熱源ヒートポンプ

衛生設備

給水　直結増圧方式
給湯　局所式電気温水器
排水　合流方式

電気設備

受電方式　1回線高圧引込
設備容量　450kVA
契約電力　200kW
予備電源　非常用発電機90KVA

防災設備

消火　消火器
排煙　自然排煙

昇降機　非常用エレベータ（17人乗り，1,150kg）×1台

工程

設計期間　2017年8月～2018年10月
施工期間　2018年11月～2020年2月

外部仕上げ

屋根　アスファルト防水断熱工法
外壁　打ち放しコンクリート補修の上，塗装
開口部　アルミサッシ焼付塗装（LIXIL）
外構　植栽：高木（シラカシ，アラカシ，ヤマボウシ，ソヨゴ，ヒメシャラ），低木（ヒサカキ，ハマヒサカキ）　舗床：花崗岩 t=30mm J&P仕上げ

内部仕上げ

1階エントランスホール

床　花崗岩 t=40mm J&P仕上げ（乾式浮き床仕上げ工法）
壁　PB t=12.5＋12.5mmの上，塗装
天井　化粧コンクリート打ち放し補修の上，塗装

2・3階事務室

床　タイルカーペット t=6mm（OAフロア h=235mm）
壁　PB t=12.5＋12.5mmの上，塗装
天井　化粧コンクリート打ち放し補修の上，塗装

4階会議室

床　タイルカーペット t=6mm（OAフロア h=485mm）
壁　PB t=12.5＋12.5mmの上，塗装
天井　PB t=12.5mmの上岩綿吸音板 t=9mm　一部化粧コンクリート打ち放し補修の上，塗装（梁下面）

主な使用機器

特注照明器具　アイリスオーヤマ

花岡郁哉（はなおか・いくや）



1975年東京都生まれ／1999年東京大学工学部建築学科卒業／2001年同大学大学院修士課程修了後，竹中工務店入社／現在，同社東京本店設計部設計第2部門設計4（アドバンスト デザイン）グループ長

千賀順（ちが・すなお）



1981年東京都生まれ／2004年東京都立大学工学部建築学科卒業／2006年同大学大学院修士課程修了後，竹中工務店入社／現在，同社北海道支店設計部設計2グループ課長

Pennisi Fiammetta
（ペンニーシー・フィアメッタ）



1989年チューリッヒ・スイス生まれ／2014年チューリッヒ工科大学（ETH Zurich）建築学部卒業／2016年東京大学大学院修士課程修了後，竹中工務店入社／現在，同社東京本店設計部設計第2部門設計4（アドバンスト デザイン）グループ

気仙沼内湾 ムカエル・ウマレル（PIER7） （本文140頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

■スローシティ観光商業施設「迎（ムカエル）」
所在地　宮城県気仙沼市南町海岸1-14
主要用途　飲食店　物販店舗　事務所
建主　気仙沼地域開発

設計
復興まちづくり　早稲田大学都市・地域研究所
LLC SMDW（住まい・まちづくりデザインワークス）
担当／阿部俊彦　岡田昭人
プロデュース・地域マネジメント　LLC SMDW（住まい・まちづくりデザインワークス）
担当／阿部俊彦　津久井誠人　岡田昭人
建築設計・監理　LLC SMDW（住まい・まちづくりデザインワークス）
担当／津久井誠人　阿部俊彦
構造　遠山建築構造研究所
担当／遠山元教
外構　オンサイト計画設計事務所
担当／長谷川浩己　須貝敏如　張立
照明　ぼんぼり光環境計画
担当／角舘政英　竹内俊雄
機械　前田設備設計事務所
担当／前田康太
電気　イーエル・ワークショップ
担当／清水孝　荒木進一
サイン　飯守恪太郎　染野浩一郎

施工
建築　みちのく建設工業
担当／齋藤功　武村崇　昆野圭悟
電気　石川電気商会
担当／石川雅治
衛生　澤井製作所
担当／澤井克行
空調　アサヒ冷熱
担当／千葉健

規模
敷地面積　1,176.05m²
建築面積　765.73m²
延床面積　1,169.28m²
1階　743.52m² ／ 2階　362.92m²
3階　62.84m²
建蔽率　65.11%（許容：80%）
容積率　77.37%（許容：400%）
階数　地上3階

寸法
最高高　12,120mm
軒高　11,770mm
階高　1階：3,500mm ／ 2階：5,050mm
主なスパン　2,700×7,200mm

敷地条件
地域地区　商業地域　準防火地域
道路幅員　西16m
駐車台数　6台

構造
主体構造　鉄骨造
杭・基礎　鋼管杭（G-ECSパイル工法）

設備
空調設備
空調方式　個別ルームエアコン方式
熱源　空冷ヒートポンプ
衛生設備
給水　直結給水方式
給湯　個別ガス給湯方式
排水　公共下水道
電気設備
受電方式　借室電気室方式（テナント区画ごとに電気契約）
防災設備
消火　自動火災報知器設備　消火器
排煙　自然排煙
昇降機　乗用エレベータ（11人乗り，45m/min）×1台

工程
構想・まちづくり・設計期間　2011年12月～
施工期間　2017年8月～2018年5月（躯体および一部店舗の完成（仮使用））
2017年8月～2018年10月（全店舗の完成）

外部仕上げ
屋根　塩化ビニルシート防水　断熱材　専用垂木（元旦ビューティ工業）
外壁　海側：ラムダ t=20mm（神島化学工業）の上，鋼製下地 気仙沼産木材乱張り キシラデコール　一般部：アスロックナチュリアルプラス t=60mm W=900（ノザワ）　左官壁：デラクリートセメントボード（吉野石膏）の上，ジョリパットネオ（アイカ工業）　3階：アルミパネル竪ハゼ葺き
開口部　アルミサッシ
外構　再生木材デッキ：リリコウッド（KIT）

■気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ（PIER7）「創（ウマレル）」
所在地　宮城県気仙沼市南町海岸314-1外
主要用途　観光案内所　交流スペース　FMスタジオ　軽運動場　研修室　音楽室
建主　気仙沼市

設計
建築・監理　アール・アイ・エー
統括／村山寛
建築担当／増見収太　今井圭
有木陽一
構造担当／白根澤英幸　岩佐憲一
設備担当／木下潔
外構　オンサイト計画設計事務所
担当／長谷川浩己　須貝敏如
照明　ぼんぼり光環境計画
担当／角館政英　竹内俊雄

施工
建築　東鉄工業
担当／三浦敏光　寺崎正巳　熱海広樹　藤浪陵平　大森佑太郎
空調・衛生　澤井製作所
担当／瀬川伸嘉
電気　白石電気工事
担当／菅原武　伊藤広太　阿部翔也

規模
敷地面積　2,025.76m²
建築面積　1,291.53m²
延床面積　2,403.42m²
1階　1,073.87m² ／ 2階　837.88m²
3階　491.67m²
建蔽率　63.75%（許容：90%）
容積率　93.20%（許容：400%）
階数　地上3階

寸法
最高高　14,200mm
軒高　13,500mm

敷地条件
地域地区　準防火地域　商業地域
道路幅員　西16m　南19m
駐車台数　29台

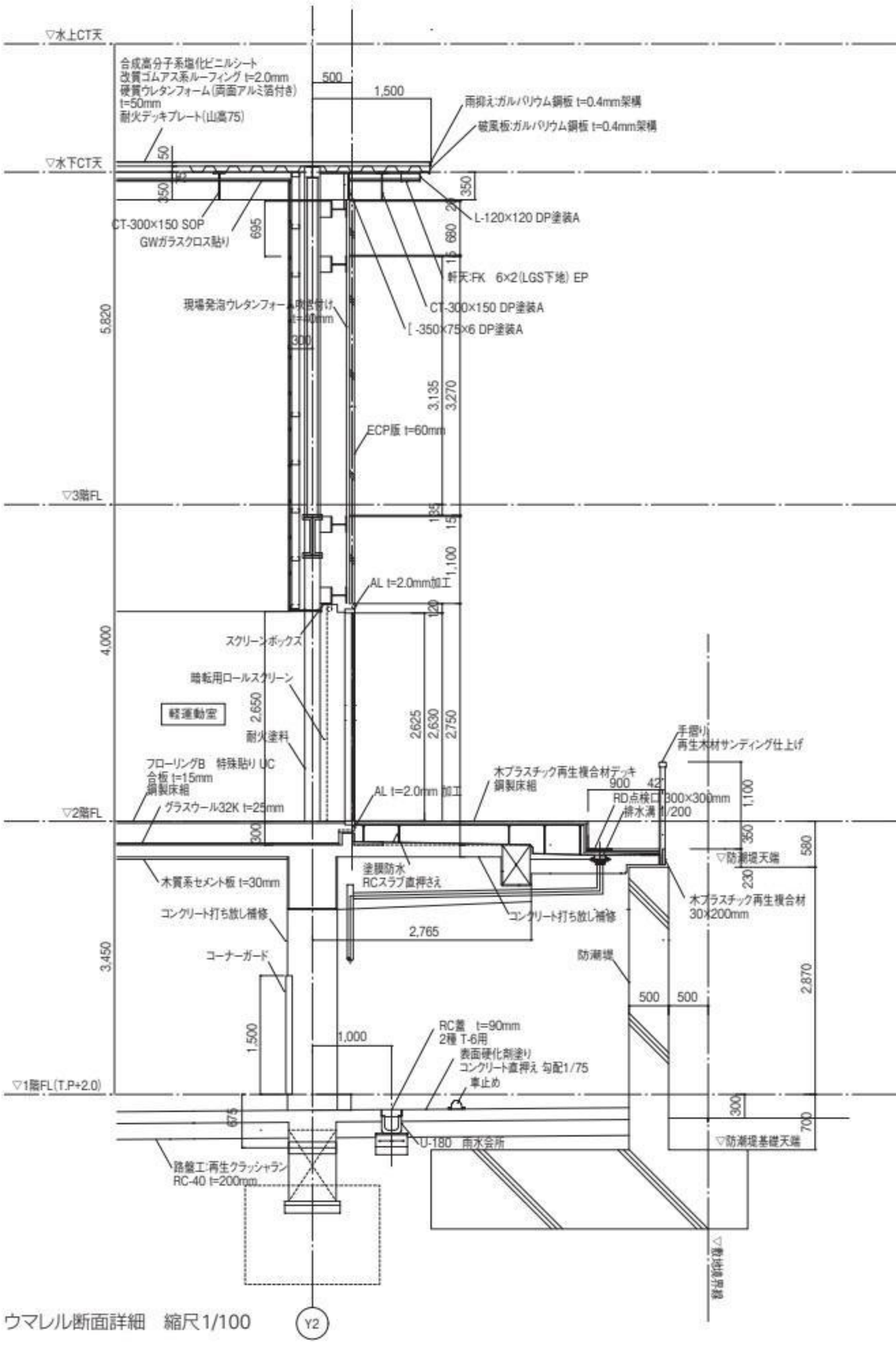
構造
主体構造　鉄骨造　一部鉄筋コンクリート造
杭・基礎　場所打ちコンクリート杭

設備
空調設備
空調方式　空冷パッケージ方式
熱源　ガス＋電気
衛生設備
給水　直結給水方式
給湯　局所方式（電気温水器）
排水　合流方式
電気設備
受電方式　1回線受電方式
設備容量　200kVA
契約電力　135kVA
防災設備
消火　移動式粉末消火設備（駐車場）
排煙　自然排煙
その他　自動火災報知設備
昇降機　乗用エレベータ（13人乗り）×1台

工程
設計期間　2015年5月～2017年8月
施工期間　2017年9月～2019年3月

外部仕上げ
屋根　塩化ビニルシート防水　断熱材（元旦ビューティ工業）
外壁　押出成形セメント板（フラット・リブ付き）＋DP　ALC t=100mmの上，鋼製下地 県産木材乱張り
開口部　木・アルミ複合カーテンウォール（方立：県産スギ材）（ニュースト：アルタスウッドスクリーン）
外構　インターロッキング舗装　コンクリート舗装　アスファルト　砂利敷き　再生木材デッキ：リリコウッド（KIT）

内部仕上げ
観光案内所
床　鋼製床組＋合板 t=15mmの上，フローリング
壁　GB-R t=12.5mm×2＋EP　押出成形セメント板（リブ付き）t=60mm＋DP
天井　ロックウール化粧吸音板 t=9mm
コワーキングスペース
床　鋼製床組＋合板t=15mmの上，フローリング
壁・天井　GB-R t=12.5mm×2＋EP
FMスタジオ
床　防振浮床＋合板 t=15mmの上，タイルカーペット
壁　GB-F t=21 ＋ 9.5mm ＋ GW t=50mm ＋珪酸カルシウム板（有孔）＋EP
天井　GWガラスクロス貼り
内湾ラウンジ
床　鋼製床組＋合板 t=15mmの上，フローリング



ウマレル断面詳細　縮尺1/100

壁　GB-R t=12.5mm×2＋EP
天井　スケルトン天井（黒塗装）＋レースウェイ@1,350mmグリッド

軽運動室

床　鋼製床組＋合板 t=15mmの上，フローリング
壁　合板＋県産スギ材ランダム張り
天井　GWガラスクロス張り

音楽スタジオ

床　防振浮き床＋タイルカーペット
壁　吸音パネル t=30mm（ABC商会：ファソラパネル）
天井　GWガラスクロス張り

研修室

床　鋼製床組＋合板 t=15mmの上，ビニル床シート
壁　GB-R t=12.5mm×2＋EP
天井　ロックウール化粧吸音板t=9mm＋EP

利用案内

問合せ　tel. 0226-25-8591
https://www.pier7.info

阿部俊彦（あべ・としひこ）



1977年東京都生まれ／2000年早稲田大学理工学部建築学科卒業／2002年同大学大学院修士課程修了／2002～06年現代計画研究所・大阪／2006～08年ダン計画研究所／2008年LLC SMDW設立／2008年～早稲田大学都市・地域研究所客員研究員，非常勤講師／現在，立命館大学理工学部建築都市デザイン学科准教授

津久井誠人（つくい・まさと）



1980年群馬県生まれ／2004年早稲田大学理工学部建築学科卒業／2006年同大学大学院修士課程修了／2006～13年中村勉総合計画事務所／2013年～LLC SMDW参加（代表社員）

村山寛（むらやま・ひろし）



1967年東京都生まれ／1991年明治大学工学部建築学科卒業後，アール・アイ・エー入社／現在，同社取締役東京支社副支社長



2点撮影：鳳藤治（エスエス）

ウマレル3階．海の見えるラウンジ．音楽スタジオの活動が見える．



2棟を繋ぐデッキより，FMスタジオを見る．

南相馬市小高区川房公会堂（本文150頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　福島県南相馬市小高区川房字東畑101-2
主要用途　公会堂
建主　川房行政区

設計

建築・設備・監理　内藤廣建築設計事務所
担当／内藤廣　庄野航平
構造・監理　KAP
担当／岡村仁　池谷聡史

施工

建築　中里工務店
担当／長嶋孝仁　神山和弘
空調・衛生　伊藤冷機工業
担当／小関泰以
電気　ハンサキ電設
担当／飯崎益夫　村上寿久

規模

敷地面積　262.56m²
建築面積　100.64m²
延床面積　75.07m²
建蔽率　38.33%（許容：60%）
容積率　28.59%（許容：200%）
階数　地上1階

寸法

最高高　4,800mm
軒高　3,330mm
天井高　キッチン：2,250mm
主なスパン　9,100×5,460mm

敷地条件

地域地区　都市計画地域内　無指定地域
道路幅員　南8.3m
駐車台数　4台

構造

主体構造　組積造　一部，鉄骨，木造
基礎　鉄筋コンクリート造

設備

空調設備

空調方式　マルチパッケージ型空調方式

衛生設備

給水　井水利用
給湯　局所方式
排水　合流方式

電気設備

受電方式　低圧受電方式
消火　消火器設備
排煙　自然排煙

工程

設計期間　2018年12月～2019年7月
施工期間　2019年8月～12月

工事費

総工費　2,400万円

外部仕上げ

外壁　金属サイディング（アイジー工業：ガルブライト）
屋根　浅瓦葺き　鉄板屋根（高橋工業）
開口部　アルミ製建具（LIXIL）
外構　コンクリート平板　アスファルト

内部仕上げ

公会堂・キッチン

床　複合フローリング t=15mm
壁　GB-Rの上，ジョリパッド（アイカ工業）
天井　岩綿吸音板 t=9mm

窪田亜矢（くぼた・あや）



1968年東京都生まれ／1991年東京大学工学部都市工学科卒業／1993年同大学大学院修士課程修了／1993～95年アルテップ勤務／1998年コロンビア大学大学院修士課程修了／2000年東京大学大学院博士課程修了（博士（工学））／2000～02年同大学都市デザイン研究室助手／2002～07年工学院大学建築都市デザイン学科講師，助教授，准教授／2007～14年東京大学准教授／2014年～同大学特任教授

内藤廣（ないとう・ひろし）



1950年神奈川県生まれ／1974年早稲田大学理工学部建築学科卒業／1976年同大学大学院（吉阪隆正研究室）修士課程修了／1976～78年フェルナンド・イゲーラス建築設計事務所／1979～81年菊竹清訓建築設計事務所／1981年内藤廣建築設計事務所設立／2001～02年東京大学大学院工学系研究科社会基盤学助教授／2003～11年同大学大学院教授／2011年同大学名誉教授

南三陸町震災復興祈念公園（本文154頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　宮城県本吉郡南三陸町志津川塩入
主要用途　都市公園（復興祈念公園，防災公園）
事業主体　南三陸町
事業受託　独立行政法人都市再生機構 宮城震災復興支援本部

設計
ランドスケープ　設計組織 プレイスメディア
担当／宮城俊作　吉田新　小林祐太
土木　玉野総合コンサルタント
担当／永田一義　藤島康雄　古市博之　渡辺哲広
統括　UR都市機構　飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント南三陸町震災復興事業共同企業体
サインデザイン協力　ジオ
担当／山本綾子

施工
飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント南三陸町震災復興事業共同企業体

規模
敷地面積　62,900m²
遺構面積　1,120m²

敷地条件
駐車台数　106台

工程
設計期間　2015年2月～2018年3月
施工期間　2018年4月～2020年9月

工事費
総工費　12.3億円

外部仕上げ
名簿安置Box（サンテック）
備蓄機能付きベンチ（サンテック）
パーゴラ（中村製作所）
サイン（コトブキ：アルブランク）
手摺り（風景セコロ：ユニバーサル手摺り（憩木 ））　照　明（SD lighting：POLE Luminaire，LOW POLE Luminaire）
トイレ（H.O.C：パークトイレ）　浄化槽（アルコ：ソフィール）
植栽　高木：クロガネモチ・タブノキ・モチノキ・ヤブツバキ・イタヤカエデ・エドヒガンザクラ・オオシマザクラ・ケヤキ・コブシ・サトザクラ・サラサモクレン・サルスベリ・ヤマモミジ　低木・地被類：イヌツゲ・シャリンバイ・ジンチョウゲ・リュウキュウツツジ・改良コウライシバ（ピクトール）・三種混合種子吹付け

利用案内
問合せ　tel. 0226-46-1382（南三陸町建設課市街地整備係）

宮城俊作（みやぎ・しゅんさく）



1957年京都府生まれ／1982年京都大学大学院修士課程修了／1986年ハーバード大学デザイン学部大学院修了／1991年設計組織PLACEMEDIA共同主宰／1993年京都大学農学博士，千葉大学緑地・環境学科助教授／2001年奈良女子大学大学院住環境学専攻教授／現在，東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授，設計組織PLACEMEDIAパートナー



祈りの丘頂上にある名簿安置の碑.



震災遺構を見る.

2点提供：設計組織 プレイスメディア

南三陸さんさん商店街（本文160頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町，十日町，南町，本浜町地内
主要用途　店舗　飲食店
建主　南三陸まちづくり未来

設計
建築　隈研吾建築都市設計事務所
担当／隈研吾　名城俊樹　田中浩介　今井博康
構造　オーク構造設計
担当／新谷眞人　藤本貴之*（*元所員）
設備　森村設計
担当／村山秀樹*　千葉広之*

施工
建築　ナイス・志津川・山庄特定建設共同企業体
ナイス　担当／長川昌実
志津川建設　担当／中野優
山庄建設　担当／後藤好人
空調・衛生　旭洋設備工業
担当／西城正美
電気　ユアテック
担当／中川正勝

規模
敷地面積　12,687.28m²
建築面積　3,990.02m²
延床面積　3,085.70m²
1階　3,085.70m²
建蔽率　31.45%（許容：90%）
容積率　24.32%（許容：200%）
階数　地上1階

寸法
最高高　5,420mm
軒高　3,430mm
天井高　2,700～4,500mm
主なスパン　3,640×3,640mm

敷地条件
地域地区　近隣商業地域　法第22条地域　土地区画整理事業地区　災害危険区域（津波）
道路幅員　東16m
駐車台数　120台

構造
主体構造　木造
杭・基礎　ベタ基礎

設備

空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプパッケージ方式
熱源　電気

衛生設備
給水　水道直結方式
給湯　電気給湯方式
排水　雨水汚水分流方式

電気設備
受電方式　低圧受電方式

工程
設計期間　2015年6月～2016年6月
施工期間　2016年7月～2017年1月

外部仕上げ
屋根　カラーSGL鋼板 t=0.4mm 縦ハゼ葺き
外壁　スギ板 t=12mm 縦羽目板張り（ランダム巾）
開口部　アルミサッシ
外構　アスファルト舗装 ブラスト仕上げ
床　モルタル金ゴテ仕上げ
壁・天井　PBの上，素地仕上げ

隈研吾（くま・けんご）



1954年神奈川県生まれ／1979年東京大学大学院建築学専攻修了／1985～86年コロンビア大学客員研究員を経て，1990年隈研吾建築都市設計事務所設立／2001～09年慶応義塾大学教授／2009～20年東京大学教授／現在，東京大学特別教授・名誉教授

中橋（本文162頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町地内
主要用途　橋梁
建主　南三陸町

設計
建築・構造・設備　パシフィックコンサルタンツ・隈研吾建築都市設計事務所設計共同体
パシフィックコンサルタンツ
担当／齋藤展生　齋藤奈穂
隈研吾建築都市設計事務所
担当／隈研吾　名城俊樹　田中浩介　今井博康
高欄構造　オーク構造設計
担当／新谷眞人　藤本貴之*（*元所員）

施工
上部工　矢田工業
担当／関根圭佑　島津章　深尾仁志　芳賀誠司
下部工　右岸：升川建設
左岸：飛島・大豊・三井共同建設コンサルタント南三陸町震災復興事業共同企業体

寸法
主なスパン　79,100mm

敷地条件
地域地区　無指定　法22条地域　災害危険区域（津波）

構造
主体構造　鉄骨造
杭・基礎　杭基礎

設備

電気設備
受電方式　低圧受電方式

工程
設計期間　2014年7月～2015年6月
施工期間　上部工 2018年6月～2020年9月
下部工 左岸：2015年9月～2016年8月　右岸：2016年6月～2019年2月

外部仕上げ
鉄骨フレーム　厚膜形フッ素樹脂塗装
床版　スギ板 t=40mm AZN加圧注入処理
高欄　押出型鋼 溶融亜鉛めっき リン酸処理

南三陸ハマーレ歌津（本文163頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2103_map

所在地　宮城県本吉郡南三陸町歌津字伊里前
主要用途　店舗　飲食店
建主　南三陸まちづくり未来
設計
建築　**隈研吾建築都市設計事務所**
担当／隈研吾　名城俊樹　田中浩介　今井博康
構造　オーク構造設計
担当／新谷眞人　藤本貴之*（*元所員）
設備　森村設計
担当／村山秀樹*　千葉広之*
施工
建築　ナイス・志津川・山庄特定建設共同企業体
ナイス　担当／平林治
志津川建設　担当／中野優
山庄建設　担当／後藤好人
空調・衛生　旭洋設備工業
担当／西城正美
電気　ナカノ電気商会
担当／高橋勝男
規模
敷地面積　2,149.55m²
建築面積　875.21m²
延床面積　672.79m²
1階　672.79m²
建蔽率　34.77%（許容：無指定）
容積率　26.73%（許容：無指定）
階数　地上1階
寸法
最高高　4,920mm
軒高　3,380mm
天井高　2,830～3,660mm
主なスパン　3,640×3,640mm
敷地条件
地域地区　無指定　法22条地域　災害危険区域（津波）
道路幅員　南9m
駐車台数　70台
構造
主体構造　木造
杭・基礎　ベタ基礎
設備
空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプパッケージ方式
熱源　電気
衛生設備
給水　水道直結方式
給湯　電気給湯方式
排水　雨水汚水分流方式
電気設備
受電方式　低圧受電方式
工程
設計期間　2015年6月～2016年6月
施工期間　2016年10月～2017年3月
外部仕上げ
屋根　カラーSGL鋼板 t=0.4mm 竪ハゼ葺き
外壁　スギ板 t=12mm 縦羽目板張り（ランダム巾）
開口部　アルミサッシ
外構　アスファルト舗装 ブラスト仕上げ
内部仕上げ
床　モルタル金ゴテ仕上げ
壁・天井　PBの上，素地仕上げ

PROFILE

高増佳子（たかます・よしこ）

1968年大阪府生まれ／1991年京都府立大学生活科学部住居学科卒業／1993年同大学大学院住環境科学専攻修了／1993～96年乃村工藝社／1996年～米子工業高等専門学校建築学科助手／現在，同校建築学科教授

Seng Kuan（セン・クアン）

1976年生まれ／1998年ハーバード大学学部卒業／2004年同大学デザイン大学院修士課程修了／2011年同大学デザイン大学院博士課程修了／2011～16年セントルイス・ワシントン大学助教授／2017年～ハーバード大学デザイン大学院講師／2018～20年東京大学工学部研究科助教／2020年～同大学国際建築教育拠点総括寄付講座特任准教授

姥浦道生（うばうら・みちお）

1973年富山県生まれ／1996年東京大学法学部卒業／2003年同大学大学院博士課程満期退学／2003～05年豊橋技術科学大学COE研究員／2005～08年大阪市立大学助手／2008～20年東北大学准教授／現在，同大学教授

平野勝也（ひらの・かつや）

1968年大阪府生まれ（愛知県育ち）／1991年東京大学工学部土木工学科卒業／1993年同大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程修了／1993～95年北海道開発庁北海道開発局（当時）／1995年～東北大学工学部土木工学科助手／2000年博士（工学）取得／2001年～東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻講師／2008年～同大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻准教授／2012年～同大学災害科学国際研究所准教授

佃悠（つくだ・はるか）

1981年福岡県生まれ／2004年東京大学工学部建築学科卒業／2006年同大学大学院修士課程修了／2012年同大学大学院博士課程修了，博士（工学）取得／2012～19年東北大学助教／現在，同大学准教授

長澤悟（ながさわ・さとる）

1948年神奈川県生まれ／1973年東京大学工学部建築学科卒業／1975年同大学大学院修士課程修了／1978年同大学大学院博士課程満期退学，同大学工学部助手／1987年日本大学工学部専任講師．教育環境研究所所長／1989年日本大学工学部助教授／1999年同大学工学部教授／2009年東洋大学理工学部教授／2014年同大学名誉教授／現在，東洋大学名誉教授，教育環境研究所理事長兼所長

平田晃久（ひらた・あきひさ）
1971年大阪府生まれ／1994年京都大学工学部建築学科卒業／1997年同大学大学院工学研究科修士課程修了／1997～2005年伊東豊雄建築設計事務所／2005年平田晃久建築設計事務所設立／現在，京都大学教授

馬場正尊（ばば・まさたか）

1968年佐賀県生まれ／1994年早稲田大学大学院建築学科修了後，博報堂入社／1998年早稲田大学博士課程，雑誌『A』編集長／2003年Open A設立／同時期に「東京R不動産」を開始／2008年～東北芸術工科大学准教／2016年～同大学教授

髙橋一平（たかはし・いっぺい）
1977年東京都生まれ／2000年東北大学卒業／2002年横浜国立大学大学院修了／2002～09年西沢立衛建築設計事務所／2010年髙橋一平建築事務所設立／2011～20年横浜国立大学大学院助教／2018年～法政大学非常勤講師／2020年～横浜国立大学非常勤講師

松川昌平（まつかわ・しょうへい）
1974年石川県生まれ／1998年東京理科大学工学部建築学科卒業／2017年同大学工学研究科建築学専攻後期博士課程修了／2009～11年ハーバード大学GSD客員研究員および文化庁在外派遣員／2013～14年慶応義塾大学SFC環境情報学部専任講師／現在，同大学SFC環境情報学部准教授，博士（工学）

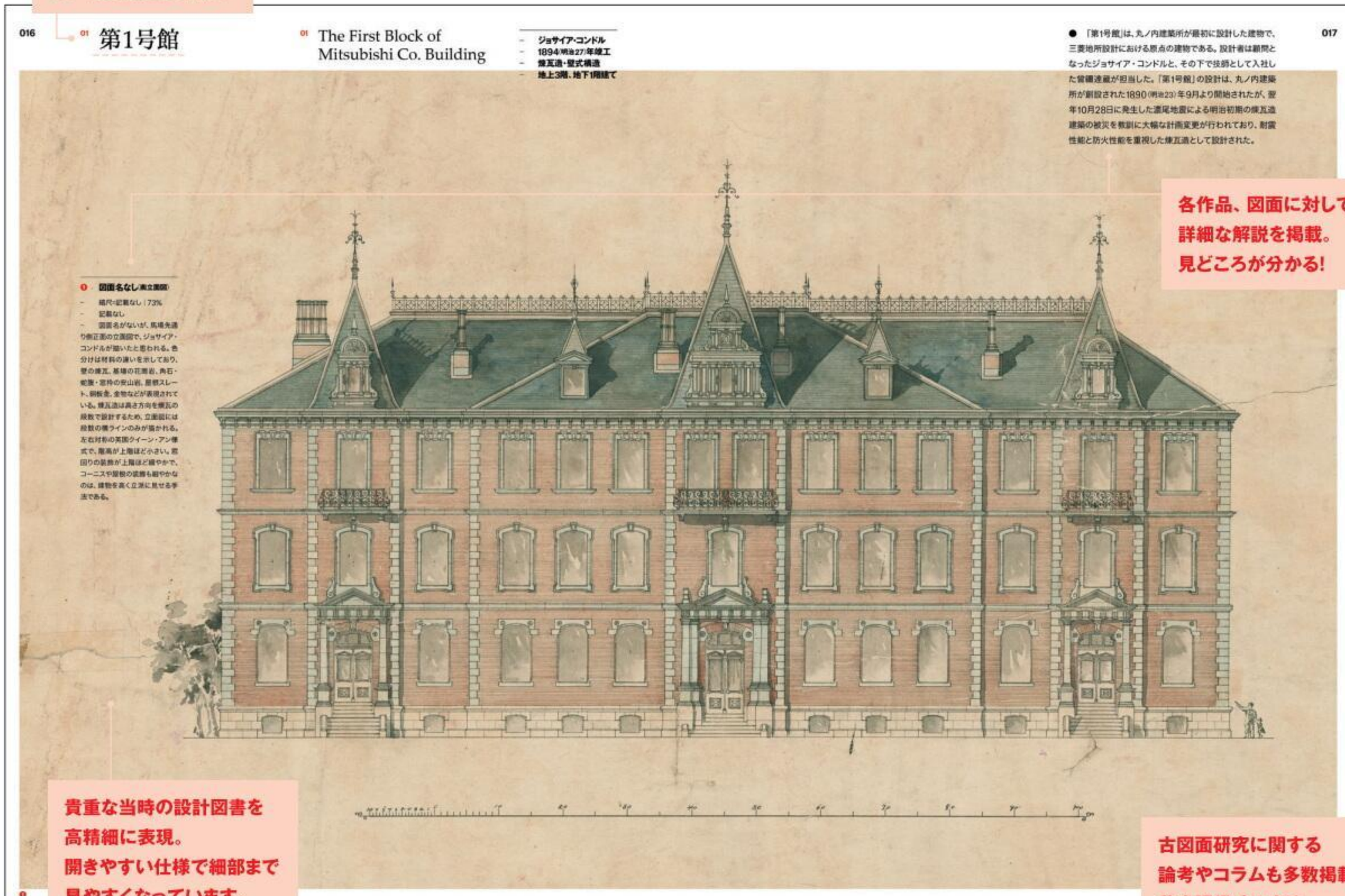
吉川圭司（よしかわ・けいし）
1989年大阪府生まれ／2011年法政大学デザイン工学部建築学科卒業／2013年同大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻修士課程修了後，NTT都市開発入社／現在，同社都市建築デザイン部建築・エンジニアリング担当/デザイン戦略室所属

案内図がwebに移行しました．

新建築のDATA SHEETの案内図はウェブページでご覧頂けるようになりました．新建築Onlineの各作品ページからはその場所へ直接リンクしています．専用案内図アドレスhttp://bit.ly/sk2103map（3月号）からもご覧頂け，その月に掲載された作品の場所を一覧できます．

明治中期～昭和の丸の内オフィス街の貴重な設計図面から、都市建築の近代化の変遷が分かる!!

「第1号館」から
「三菱ビルヂング」まで、
53の設計図面を掲載。



三菱地所設計創業130周年記念

『丸の内建築図集　1890-1973』

Architectural drawings of Marunouchi Tokyo 1890–1973

A4変型判/160頁/日本語
定価: 2,970円[本体価格: 2,700円]

三菱地所設計は、1890年に東京・丸の内を初めてのオフィス街とするために三菱社に設けられた丸ノ内建築所をルーツとします。創業130周年を迎える2020年9月に、その特集号を2冊同時発行致しました。本書は「第1号館」(ジョサイア・コンドルを顧問建築家として迎え設計、1896年竣工)から丸ノ内総合改造計画(1959年)までの丸の内に建てられた建築の図面と、その調査分析した研究についてまとめました。三菱地所設計の長い歴史と、その価値を受け継ぎ未来の価値創造へと繋いでいく姿勢からは、これから縮小・成熟へと移行していく現代において、都市や建築への向き合い方の示唆を与えてくれるでしょう。



新建築オンライン、amazon、全国の書店でお取り寄せいただけます。
新建築オンラインでのご購入は右のQRコードから!

好評発売中!

発行　株式会社新建築社　東京都千代田区霞が関3丁目2番5号　霞が関ビルディング17階　〒100-6017
TEL:03-6205-4380　FAX:03-6205-4386

ヴィクター・カラスコ氏がデザイン 巻き寿司に着想を得た「MAKI」ベンチ

バイインテリアズは，「MAKI（巻き）」ベンチを発売した．さまざまな国際的な企業のクリエイティブディレクター，プロダクトデザイナーを務めるヴィクター・カラスコ氏が，日本の巻き寿司に着想を得てデザインを手がけたベンチ．継ぎがない1枚の張地で包み込み，どんな空間にも馴染む一切の装飾を削ぎ落としたシンプルなデザインが特徴．

バイインテリアズ
tel:03-6712-5830
https://www.interiors-inc.jp/brands/by_interiors/



サイズ：w1,380×d530×h435mm，w2,400×d530×h435mm．価格：182,000円～（税別）．

シンプルなジョイントで天板を自在に連結 モジュラーテーブル「Versa」

Wilkhahnは，モジュラーテーブル「Versa（ヴァルサ）」を発売した．長方形，バレル型，台形など，さまざまな形状や大きさの天板を連結することができる．天板ジョイントの機構はシンプルで，レッグに天板を載せ，レバーを動かして固定するだけ．大型テーブルでも，少ない人数で簡単に解体，移動，組み立てができるため，オフィス移動やレイアウト変更にも柔軟に対応できる．

Wilkhahn
tel:03-5414-8088
https://www.wilkhahn.co.jp



独立型テーブル（バレル型天板）．価格：695,000円～（税別）．

アシンメトリーなフォルムが会話を生み出す「RF1903 サイドウェイ・ソファ」 ペーパーコード張りバージョン「MG501 キューバチェア」

カール・ハンセン＆サンは，「RF1903 サイドウェイ・ソファ」と，「MG501 キューバチェア」のペーパーコード張りの新バージョンを発売した．

「RF1903 サイドウェイ・ソファ」は，デンマークのデザイナー リッケ・フロスト氏が手がけたソファ．曲げ木加工の背板とアシンメトリーなフォルムが特徴で，斜め向かいに人が座ることで自然と会話が始まる．人を招き入れるように低めに設定された背は，無垢の木材とペーパーコードで構成されており，軽やかに見せている．背と座には，ファブリックの張地が施されており，快適な座り心地を実現した．

また，デンマークのデザイナー モーテン・グットラー氏が手がけ，1997年に発売された折りたたみ椅子「MG501 キューバチェア」に，ペーパーコード張りの新バージョンを追加した．背と座に軽やかなペーパーコードを施すことにより，低めで開放的につくられた座面と印象的なクロスフレームで構成されたシンプルなデザインを，さらに引き立たせている．

カール・ハンセン＆サン フラッグシップ・ストア 東京
tel:03-5413-5421
https://www.carlhansen.com



RF1903 サイドウェイ・ソファ．価格：677,000円～（税別）．



MG501 キューバチェア．価格：121,000円（税別）．

TOPICS

新製品情報

YAMAGIWA東京ギャラリー・ショールーム移転オープン

(株)YAMAGIWAは，港区青山にあった東京ギャラリー・ショールームを閉館し，港区芝に移転オープンした．オリジナルの照明や海外ブランドの照明を実際に体験することができる．また，専門スタッフから商品選びのアドバイスや，住まいや施設への導入提案を受けることができる．



所在地：東京都港区芝3-16-13 MARUWAビル3階．営業時間：11:00～18:00．定休日：水曜日，日曜日，祝日．

(株) YAMAGIWA
tel:03-6741-5800
https://www.yamagiwa.co.jp

好みに合わせて自在にカスタマイズできる「機能門柱FS」発売

(株)LIXILは，「機能門柱FS」を発売した．フレームとセンターブロックの木目や色，ポストの色，オプションのトレーやガラスパネルなどを自在に組み合わせて，さまざまな住宅スタイルに調和したデザインをつくることができる．また，後付けで，IoTを活用し留守中も荷物が受け取れるようにしたスマート宅配ポストを設置することができる．



施工イメージ．価格：219,000円(製品のみ，税別)．

(株) LIXIL
0120-126-001
https://www.lixil.co.jp

コストダウンを図りながら印象的な外観を実現 内外装用パネル「パンチングウェーブ」

菊川工業(株)は，無数のパンチングを施したステンレス板に波のような曲げを加えた内外装用パネル「パンチングウェーブ」を発売した．パンチングピッチとパネル形状の標準パターンを設定し，施工性を高めているため，コストダウンを図りながら印象的な外観をつくることができる．窓ガラスの外側に被せることでルーバーの役割も果たす環境に配慮した建材．



製品イメージ．



施工イメージ．

菊川工業(株)
tel:047-492-2014
https://www.kikukawa.com

金属製外装材アイジーサイディング トレンドカラー追加

アイジー工業(株)は，金属製外装材アイジーサイディングに新色を追加した．「SF-ガルステージシャインJ」は5色を追加し全11色，「NF-シャドーライン」は2色を追加し全8色，「NF-ファブリックライン」は1色を追加し，全5色のラインナップになった．豊富なラインナップになったことで，幅広い住宅スタイルやデザインに合わせて選べるようになった．



「SF-ガルステージシャインJ」追加カラー．

アイジー工業(株)
tel:0237-43-1810
https://www.igkogyo.co.jp

物流施設に適した建築用鋼製壁下地材「High SICS」発売

三洋工業（株）は，物流施設に適した建築用鋼製壁下地材「High SICS（ハイシックス）」を発売した．倉庫業法における倉庫の軸組みに関する強度基準値2,500N/m^{2}以上を満たすことを静的載荷試験で確認するだけでなく，実台加振試験によって高い耐震性を実証している．最大7.7mの壁下地が構成できる．

三洋工業（株）
tel:03-5611-6310
https://www.sanyo-industries.co.jp


実台加振台による耐震性試験の様子．

新製品を多数ラインナップ バスルーム製品の総合カタログ発刊

フォンテトレーディング（株）は，バスルーム製品の総合カタログ「Bagni BATHROOM COLLECTION 2021-2022」を発刊した．マットブラックの水栓，シャワー，アクセサリーなど新製品が多数ラインナップされている．また，施工事例写真が多く掲載されており，コーディネートの参考とすることができる．

フォンテトレーディング（株）
tel:03-6417-3557
https://www.fonte-trading.com/


9カテゴリーに分けてバスルーム製品を紹介している。

約5,000点のタイル関連製品を掲載「2021-2022年版総合カタログ」発刊

名古屋モザイク工業（株）は，「2021-2022版総合カタログ」を発行した．国内外から集められたタイル関連製品を掲載．商品数は，43の新製品を含む，397シリーズ，約5,000アイテム．また，デザインアワードの優秀作品や海外施工事例が多数紹介されており，さまざまな建築空間をつくるためのアイデアが詰まった1冊となっている．

名古屋モザイク工業（株）
tel:0572-44-3060
https://www.nagoya-mosaic.co.jp



A4判．948ページ．

機能性製品を新たにカテゴライズ「ニッタイ　タイル・建材カタログ2021」発刊

ニッタイ工業（株）は，「ニッタイ　タイル・建材カタログ2021」を発刊した．土ものの内外装壁タイルをはじめ，世界各国の壁床タイルを紹介．抗菌，抗ウイルス等の機能を付加した「ウイルテリア」をはじめ機能性製品を新たにカテゴライズした．また，シリーズの異なる製品を組み合わせた事例を多数掲載している．

ニッタイ工業（株）
tel:03-5319-9521
https://www.nittai-kogyo.co.jp/



A4判．640ページ．

「DESIGNERS FOUNTAIN」にモダンデザインのエクステリア照明を追加

キャン'エンタープライゼズ（株）は，アメリカ輸入照明「DESIGNERS FOUNTAIN（デザイナーズファウンテン）」にモダンデザインのエクステリア照明を新たにラインナップ．これまでの伝統的なクラシックデザインと合わせ，さまざまなスタイルに対応できるようになった．カフェやレストランの店頭，住宅の庭や玄関周りのアクセントとして使用できる．

キャン'エンタープライゼズ（株）
tel:044-433-5001
https://www.can-net.co.jp


左：23121-WI．価格：25,000円．右上：31311-BZ．価格：19,800円．右下：33121-WP．価格：15,000円（すべて税別）．

2021年の新コレクション「FURNITURE FOR HUMAN」

Time & Styleは，心地よい触感の家具をデザインテーマとした2021年の新コレクション「FURNITURE FOR HUMAN」を4月1日（木）より発売予定．「Straight back（ストレート・バック）」は，すべての構成要素を繋いだ一体感のある椅子．「Concerto sonata（コンチェルト・ソナタ）」は，稀少なロストワックス鋳造を採用したソファ．

Time & Style Midtown
tel:03-5413-3501
https://www.timeandstyle.com


上：Straight back．
下：Concerto sonata．

大型電動ローマンシェードをモデルチェンジ ロールスクリーンと同時に使う場合の納まりが向上

（株）ニチベイは，大型電動ローマンシェードをモデルチェンジした．テクノタイプとテクノサイレントタイプの主要部材を大型電動ロールスクリーンと共通化し，性能と意匠を統一することで，ロールスクリーンとローマンシェードを同時に使う場合の納まりが向上した．また，巻き取りパイプが分割できるようになり，搬入出が容易になった．

（株）ニチベイ
https://www.nichi-bei.co.jp


施工イメージ．

システムキッチン「CENTRO」と「STEDIA」にハンズフリー水栓を追加

クリナップ（株）は，システムキッチン「CENTRO（セントロ）」，「STEDIA（ステディア）」にハンズフリー水栓（浄水器兼用タイプ）を追加した．吐水口に内蔵されたセンサーが手や食器，食材を感知して自動で吐水・止水を行うため手をかざす動作が必要ない．また，浄水専用センサーによって浄水の吐水もタッチレスで可能になった．

クリナップ（株）
0120-126-174
https://cleanup.jp/


製品イメージ．

新建築 バックナンバー



9 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝ MIYASHITA PARK

●作品16題
横浜市役所｜**竹中工務店　槇総合計画事務所**
こども本の森 中之島｜**安藤忠雄建築研究所**
ウポポイ（民族共生象徴空間）国立アイヌ民族博物館｜**安東直＋海老原靖子＋松谷悟詞＋國眼一成／久米設計**
ウポポイ（民族共生象徴空間）国立民族共生公園 体験交流ホール｜**アトリエブンク＋総合設備計画**
東日本大震災・原子力災害伝承館｜**渡部和生／惟建築計画＋日本大学工学部空間デザイン研究室**
新風館｜**NTTファシリティーズ　隈研吾建築都市設計事務所**（デザイン監修）
THE HIRAMATSU京都｜**日建設計**（基本設計・実施設計監修）**大林組**（実施設計）　**中村外二工務店**（内装デザイン監修）
ザ・ホテル青龍 京都清水（元 京都市立清水小学校）｜**東急設計コンサルタント**（基本設計）　**大林組**（実施設計）　**A.N.D.**（クリエイティブディレクション）
MIYASHITA PARK｜**竹中工務店　日建設計**（プロジェクトアーキテクト）
新宿住友ビルRE-INNOVATION PROJECT｜**住友不動産**（基本構想，総合監修）　**日建設計／芦田智之＋恩田聡＋村上博昭**（基本設計，実施設計）　**大成建設一級建築士事務所**（実施設計）
SOMPO美術館｜**大成建設一級建築士事務所**
Takanawa Gateway Fest しらなみ｜**ジェイアール東日本企画　永山祐子建築設計**（デザインアーキテクト）
NISSAN PAVILION｜**日産自動車グローバルデザイン本部　TBWA＼HAKUHODO　アーキセプトシティ　シービーアールイー　太陽工業　乃村工藝社　博展**
福島ロボットテストフィールド 研究棟｜**山本堀・URリンケージ設計共同体**
オービック御堂筋ビル｜**KAJIMA DESIGN**
戸田建設筑波技術研究所 環境技術実証棟　構造・施工実験棟　音響実験棟｜**戸田建設一級建築士事務所**
●建築論壇｜グラデーショナルな教育へ　オンライン授業を経験して｜**倉方俊輔**（大阪市立大学准教授）　**杉田宗**（広島工業大学准教授）　**平瀬有人**（佐賀大学准教授）　**平野利樹**（東京大学特任講師）　**松川昌平**（慶應義塾大学准教授）
●記事｜横浜市役所とそのアーバニズム｜**槇文彦**
●NEWS｜長野県「松本平広域公園陸上競技場整備事業基本設計業務」公募型プロポーザルで青木淳・昭和設計共同体が最適候補者／長野県「御嶽山ビジターセンター（仮称）整備事業」公募型プロポーザルでyHa architectsが最適候補者／くまもとアートポリスプロジェクト「立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ 公開設計競技2020」で曽根拓也＋坂本達典＋内村梓＋前原竹二が最優秀賞／「橿原市新本庁舎建設基本・実施設計業務」公募型プロポーザルで東畑・NASCA設計共同体が契約候補者／「明治記念大磯邸園邸宅（20）設計業務」公募型プロポーザルで隈研吾建築都市設計事務所・建文設計共同体を特定／第15回日本構造デザイン賞発表―「ちぐさこども園」，「東急池上線旗の台駅」が受賞／第11回大林賞をオラファー・エリアソンが受賞　他
●EXHIBITION｜都市は自然｜**槇文彦　坪井みどり**／FUTURE MEMORY／開校100年 きたれ，バウハウス―造形教育の基礎―／MANGA都市TOKYO　ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮2020
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　林千晶　門脇耕三**
●第9回大東建託賃貸住宅コンペ応募要項



10 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝軽井沢風越学園

●作品19題
Otemachi One｜**日建設計**（都市計画・基本設計・実施設計）
KAJIMA DESIGN（実施設計）　**スキッドモア・オーウィングズ・アンド・メリル（SOM）／小林・槇デザインワークショップ**（外装・オフィス共用部デザイン）
TOKYO MIDORI LABO.｜**湯浅友絵＋萬玉直子＋オンデザイン　DAISHIZEN**（企画）
浜町LAB.｜**大西麻貴＋百田有希／ o＋h**
T-HOUSE New Balance｜**大西康隆＋オンデザイン　スキーマ建築計画**（建築意匠監修／内装設計）
東京ミズマチ　すみだリバーウォーク｜**オー・エヌ・オー大野設計**（東京ミズマチ）　**東武鉄道・ユナイテッドデザイン・鹿島建設・東日本総合計画・ジェイアール総研エンジニアリング**（すみだリバーウォーク）
JR横浜タワー・JR横浜鶴屋町ビル｜**東日本旅客鉄道・JR東日本建築設計**
守口市立図書館｜**SALHAUS**
軽井沢風越学園｜**環境デザイン研究所**
こどもえんつくしダイニングホール棟　forestaカランころ｜**前田圭介／ UID**
広野町こども園｜**関・空間設計＋生物建築舎設計共同体**
桃沢野外活動センター｜**光嶋裕介建築設計事務所**
石山公園の屋根｜**萬代基介建築設計事務所**
大井町駅前公衆便所｜**あかるい建築計画**
THE TOKYO TOILET｜**坂茂建築設計　片山正通／ワンダーウォール　田村奈穂　槇総合計画事務所　坂倉建築研究所　安藤忠雄建築研究所　大和ハウス工業**（実施設計）
千駄ヶ谷のトイレ｜**SUPPOSE DESIGN OFFICE**
MUNI KYOTO｜**安田アトリエ**
WORK x ation Site 軽井沢（ワーケーションサイト軽井沢）｜**田邉雄之建築設計事務所**
富士山・白糸ノ滝テラス SHIRAITO GENERAL STORE｜**水谷智充／千代田コンサルタント＋落合正行／日本大学**（富士山・白糸ノ滝テラス）　**杉本将平／ PEA.../落合建築設計事務所**（SHIRAITO GENERAL STORE）
mother's＋｜**竹中工務店**
●建築論壇｜時がつくる環境　アクロス福岡の25年とこれから｜**村松映一**（村松映一建築計画室主宰，元竹中工務店代表取締役副社長）×**浅石優**（元日本設計プリンシパルデザイナー）×**田瀬理夫**（プランタゴ代表）×**福田卓司**（日本設計取締役副社長）
●記事｜自然に建築を織り込む｜**エミリオ・アンバーツ**
●記事｜子どもたちの主体的な学びの空間｜**仙田満**（環境デザイン研究所）×**本城慎之介**（軽井沢風越学園理事長）
●NEWS｜三菱地所が「TOKYO TORCH（東京駅前常盤橋プロジェクト）」の計画概要を発表　他
●EXHIBITION｜記憶を結び，共生の未来をイメージする．没後20年 毛綱毅曠の建築脳｜**藤塚光政**／都市の未来を（コロナ禍を通して）考える／建築家 前田圭介の現場展｜**藤本寿徳**／杉並建築展2020 これからの価値―Values of the future―
●連載｜快適をデザインする照明技術　by コイズミ照明　第4回：「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」に見る，照明制御システム「DALI」と築く新たな空間の可能性
●FOCUS-IN｜場非住宅木造建築物の普及に向けて，大型木造プレカットネットワークを提供　「木構造デザイン」による設計から加工までのワンストップ・サポート
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　秋元雄史　門脇耕三**



11 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝宮島口旅客ターミナル

●作品19題
宮島口旅客ターミナル｜**乾久美子建築設計事務所**
那須塩原市図書館 みるる＋駅前広場｜**UAo**
東京ポートシティ竹芝｜**鹿島・久米設計工事監理業務共同企業体　KOHN PEDERSEN FOX ASSOCIATES　ホシノアーキテクツ　長谷工コーポレーション**
WATERS takeshiba｜**JR東日本建築設計**（タワー棟構造設計協力：清水建設一級建築士事務所）
●特集：木造特集
小郡幼稚園｜**竹原義二／無有建築工房**
Metsä Pavilion｜**Helin & Co**
カヤックガーデンオフィス＋Camp Pod｜**VUILD**
工学院大学附属中学校・高等学校屋内練習場｜**樫原徹建築設計事務所**
飯能商工会議所｜**野沢正光建築工房**
日刊木材新聞社新社屋｜**IKDS**
のだのこども園｜**水上哲也建築設計事務所**
大成建設技術センター 風のラボ｜**大成建設一級建築士事務所**
流通経済大学龍ケ崎キャンパス 佐伯記念武道館｜**清水建設**
高知学園大学｜**艸建築工房**
やはた幼稚園 保育ルーム｜**西澤高男＋山代悟＋ビルディングランドスケープ**
湖の駅　さめうらカヌーテラス｜**伊原慶＋和久田幸佑／ TA＋A＋和久田幸佑建築設計事務所＋三愛設計 設計共同体**
ROBRA｜**三菱地所ホーム ORDER GRAN設計室＋スタジオ・クハラ・ヤギ＋KAP**
テクノ キューブ｜**ボラテック**
●建築論壇｜切断線から考える　磯崎新の1970年代 実務と理論｜**青木淳**（建築家）×**西沢大良**（建築家）　インタビュアー：**寺松康裕**（編集者）
●特集記事｜木造の多様な価値観を育てる｜**稲山正弘**（ホルツストラ代表）×**腰原幹雄**（team Timberize理事長）×**秋吉浩気**（VUILD CEO）
●NEWS｜三井不動産と竹中工務店が日本橋で地上17階建ての木造賃貸オフィスビル計画検討に着手／福島県大熊町「大熊町教育施設整備事業基本設計・実施設計業務委託」公募型プロポーザルに飯田善彦・鈴木弘人設計業務共同企業体が優先交渉権者／富山県「高岡テクノドーム別館（仮称）新築工事基本設計業務」で内藤廣建築設計事務所が最優秀者／茨城県行方市「霞ヶ浦ふれあいランド再生整備事業」公募型プロポーザルでMOFF・高橋一平建築事務所・岡部工務店・常南グリーンシステムのコンソーシアムが優先交渉権者／鳥取県琴浦町「生涯学習センター改修工事基本設計業務」公募型プロポーザルで畝森・teco設計共同体が最優先交渉権者／日建設計新社長に大松敦氏／アジール・フロッタンを日本建築設計学会が修復と復元へ／福井県おおい町「スポーツ・文化体験交流合宿施設設計」公募型プロポーザルでジオ-グラフィック・デザイン・ラボが最優秀／大林組，新型コロナウイルス感染症対応のための仮設緊急病棟を開発　他
●EXHIBITION｜分離派建築会100年展 建築は芸術か？／建築と時間と妹島和世／特別展「工藝2020―自然と美のかたち―」／ソノアイダ@有楽町／日建連建築セミナー「ふたつの予測不可能性」と「未体験な社会」
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　林千晶　門脇耕三**
●第14回 長谷工 住まいのデザイン コンペティション 追加告知

バックナンバーのお取り寄せは最寄りの書店へお申し込みください.
また，下記ウェブサイト，新建築.netからもご注文いただけます.
https://japan-architect.co.jp
株式会社 新建築社　〒100-6017 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング17階
tel. 03-6205-4380（大代表） fax. 03-6250-4386

新建築オンラインでの
ご購入はこちらから



12 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝ところざわサクラタウン

●作品24題
小林古径記念美術館｜**宮本忠長建築設計事務所**
小林古径邸復原事業｜**吉田五十八**（元設計） **中川武／早稲田大学建築史研究室**（解体調査） **宮本忠長建築設計事務所**（復原設計）
ところざわサクラタウン｜**隈研吾建築都市設計事務所**（デザイン監修） **KAJIMA DESIGN**
KADOKAWA 所沢キャンパス｜**FLOOAT　オカムラ　SUPPOSE DESIGN OFFICE　ゲンスラー・アンド・アソシエイツ　ディー・サイン**
NIPPON・CHA! CHA! CHA! ／ Bridge Sprout ／ Fire Foodies Club ／ Lakeside Dancers Club｜**アトリエ・ワン**
銀座駅リニューアル｜**日建設計／向井一郎＋大場啓史＋須賀博之**
京橋エドグラン｜**日建設計／木村雅一＋三上愼司＋伊東宏和**
東京虎ノ門グローバルスクエア｜**日本設計／山﨑彰夫＋井上信次郎＋畑江未央＋高増拓実**（建築・構造） **三菱地所設計**（設備・土木）
日比谷OKUROJI｜**交建設計**（基本調査設計） **東鉄工業／AE**（実施設計） **SUPERBALL ／吉田裕一建築設計事務所**（環境デザイン／内装監理）
東京国際空港（羽田空港） 第2ターミナルビル本館南側国際線施設　国際線旅客ターミナルビル再拡張工事 II工区｜**梓・安井・PCPJ・東京国際空港第2ターミナル国際線施設設計監理共同企業体**
日亜化学工業 横浜研究所｜**妹島和世建築設計事務所**（北面ガラスファサード，1階エントランス，ランドスケープ） **竹中工務店**（本体建物）
LIXIL WINGビル HOSHI｜**三菱地所設計／小西隆文＋住谷覚＋李一純**
CIC Tokyo｜**CIC＋小堀哲夫建築設計事務所**
市川市役所 第1庁舎｜**山下設計　プレイスメディア**（ランドスケープ）
近畿産業信用組合本店｜**大成建設関西支店一級建築士事務所**
愛知学院大学 名城公園キャンパス｜**大建設計**
ヒューリック両国リバーセンター｜**佐藤総合計画**
むさしのエコreゾート｜**武蔵野市**（基本計画） **水谷俊博建築設計事務所**（設計デザイン監修） **相和技術研究所**（実施設計）
兜町平和第5ビル／旧第一銀行本店附属新館再生｜**SPEAC／宮部浩幸＋吉村淳**（耐震補強・外装工事デザイン監修） **三菱地所設計**（耐震補強・外装工事設計） **Claesson Koivisto Rune**（内装デザイン監修） **ADX**（内装設計）
東京第8データセンター｜**NTTファシリティーズ　Arup**
●特集記事｜新型コロナウイルス感染症の影響と対応　これからの都市と郊外に向けて｜**饗庭伸**（首都大学東京教授）
●記事｜都市の資源へのアクセスとふるまい｜**塚本由晴　中島諒人**（鳥の劇場）
●NEWS｜滋賀県「伊勢遺跡整備に係る実施設計業務」公募型プロポーザルで平田晃久建築設計事務所が優秀者　他
●EXHIBITION｜M meets M　村野藤吾展 槇文彦展｜**小泉雅生**／藤森照信―自然と建築／生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪＋Under 35 Architects exhibition 2020　35歳以下の若手建築家による建築の展覧会｜**倉方俊輔**／CEATEC 2020
●連載｜快適をデザインする照明技術　by コイズミ照明　第5回：輝度をコントロールして魅力的な夜景を演出するボラード照明　「andon」「Ground Washer」
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　秋元雄史　門脇耕三**



1 2021

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝神奈川工科大学KAIT広場

●作品15題
谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館｜**谷口吉生／谷口建築設計研究所**
神奈川工科大学KAIT広場｜**石上純也建築設計事務所**
白井屋ホテル｜**藤本壮介建築設計事務所**
YUBUNE（1階）｜**西沢立衛建築設計事務所**
三栄建設 鉄構事業本部新事務所｜**竹中工務店**
HANEDA INNOVATION CITY I期｜**KAJIMA DESIGN**（全体計画・鹿島工区） **大和ハウス工業**（大和工区）
クアパーク長湯｜**坂茂建築設計**
日貫一日｜**dot architects＋アトリエ縁**（安田邸） **加藤正基**（一揖） **UMA / design farm**（ディレクション）
蒲郡園芸サポート施設｜**architecture WORKSHOP ／北山恒＋工藤徹＋江島史華**
WAKKA｜**倉林貴彦建築設計事務所**
Yanagase PARK LINE 2020｜**柳ヶ瀬を楽しいまちにする**（総合プロデュース） **ミユキデザイン＋伊藤維建築設計事務所**（会場構成）
Hisaya-odori Park　久屋大通公園整備運営事業｜**大成建設一級建築士事務所**（公募対象公園施設） **日建設計・大成建設一級建築士事務所**（特定公園施設）
名古屋テレビ塔｜**日建設計／若林亮＋石森秀一＋木村征也**
CO・MO・RE YOTSUYA（コモレ四谷）｜**日本設計・三菱地所設計共同企業体**（基本設計・デザインディレクション） **大成建設一級建築士事務所**（実施設計）
みずほ丸の内タワー・銀行会館・丸の内テラス｜**三菱地所設計**（全体共用部・丸の内テラス専有部） **日本設計**（みずほ丸の内タワー専有部） **久米設計**（銀行会館専有部）
●建築論壇｜そとをたてる｜**石上純也**／人びとのための場所　都市と建築とランドスケープが融け合う先の社会像｜**藤本壮介**
●NEWS｜「仙台市役所本庁舎建替基本設計業務委託に係る受注候補者選定」で石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体が受注候補者／「邑南町立石見中学校改築工事基本設計業務選定」でシーラカンスアンドアソシエイツが受託候補者／「藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理事業化検討」で三菱地所レジデンスら／「第6回茶山台団地リノベーションコンペ」でナノメートルアーキテクチャーが選定／森ビル，世界の都市総合力ランキング2020発表／第30回AACA賞，芦原義信賞発表――AACA賞に京都市美術館（通称・京都市京セラ美術館），芦原義信賞にCHRONOS DWELL ／ 2020年度JIA環境建築賞発表――JIA環境大賞は「一宮のノコギリ屋根」　他
●EXHIBITION｜生誕100年 石元泰博写真展 伝統と近代／日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵　工匠と近代化―大工技術の継承と展開―／シン・マサキキネンカン／住総研シンポジウム　それでも人は他者と空間をシェアする／装飾をひもとく―日本橋の建築・再発見―
●FOCUS-IN｜機能とデザインを融合させた建築と照明――「早稲田大学本庄高等学院体育館」を通して｜**ルイスポールセン**
●月評｜**平田晃久＋藤原徹平　髙橋一平　松川昌平　青柳創（小野江綾＋佐藤達保＋吉川圭司）**
●第56回セントラル硝子国際建築設計競技応募要項
●第55回セントラル硝子国際建築設計競技入賞発表
●第47回日新工業建築設計競技結果発表
●新建築住宅設計競技2020結果発表



2 2021

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝ terrace H

●作品18題
HOTEL THE MITSUI KYOTO｜**清水建設一級建築士事務所　栗生総合計画事務所**（マスターデザインアドバイザー） **設計組織プレイスメディア**（ランドスケープ） **ANDRÉ FU STUDIO ／ STRICKLAND**（インテリアデザイン） **WORKTECHT**（照明デザイン）
●特集：集合住宅特集
hotel Siro｜**原田真宏＋原田麻魚／ MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO**
terrace H｜**賓神尚史＋太田温子／日吉坂事務所**
大阪ガス実験集合住宅NEXT21 改修2020｜**大阪ガス**（計画） **NEXT21コンセプト検討WG**（建築計画） **NEXT21住環境WG**（温熱環境計画） **集工舎建築都市デザイン研究所　設計組織ADH**（302・303住戸） **Ms建築設計事務所**（503住戸）
洋光台北団地エリアリニューアル｜**NAAW**（集会所デザイン監修） **市浦ハウジング&プランニング**（集会所設計） **総合設備コンサルタント**（集会所電気設備設計） **SAMURAI**（屋外広場・住棟ファサードデザイン監修，総合監修） **窓建コンサルタント・プレイスメディア設計共同体**（屋外広場・住棟ファサード設計） **隈研吾建築都市設計事務所**（総合監修） **UR都市機構**（企画・統括）
武蔵新城のエリアリノベーション｜**ピークスタジオ　星野千絵＋原﨑寛明／ CHA　長谷川ゆい＋一色淳之介＋西津尚紀／ MUSA-BUILD プロジェクト**
リノア北赤羽｜**ツバメアーキテクツ**（共用部） **UG都市建築**（リノベーション全体統括） **アラキ＋ササキアーキテクツ**（専有部デザイナーズプラン） **リビタ**（企画・プロデュース）
押上のビル PLAT295｜**ツバメアーキテクツ＋バルーン＋パナソニック ホームズ**
moto.8｜**みかんぐみ**
ROPPONGI TERRACE｜**赤松佳珠子＋大村真也／ CAt**
UNITÉ KICHIJOJI｜**千葉学建築計画事務所**
新潟の集合住宅III｜**細海拓也一級建築士事務所**
Apartmentふじ｜**泉幸甫建築研究所**
ヴァロータ氷川台｜**青木茂建築工房**
宮益坂ビルディング｜**日建ハウジングシステム／渋谷篤＋鈴木啓之**
北青山三丁目地区まちづくりプロジェクト　ののあおやま民活棟｜**KAJIMA DESIGN　隈研吾建築都市設計事務所**（デザイン監修） **ランドスケープ・プラス**（ランドスケープデザイン監修）
北青山三丁目地区まちづくりプロジェクト　北青山三丁目アパート・港区立青山保育園・港区立赤坂子ども中高生プラザ青山館｜**日本設計**
次世代の集合住宅｜**日建ハウジングシステム／鈴木啓之＋井手駿**
●特集記事｜インフォーマルな場のつくり方｜**祐成保志**（東京大学） **×山道拓人×千葉元生×西川日満里**（ツバメアーキテクツ）／ LIMがもたらす集合住宅の未来｜**長谷工コーポレーション**
●記事｜建築を線で捉える｜**賓神尚史**（日吉坂事務所）
●NEWS｜「awa 臨港プロジェクト」設計コンペでジオ-グラフィック・デザイン・ラボらが最優秀作品　他
●EXHIBITION｜金沢のチカラ―重層する建築文化―｜**竹内申一**（金沢工業大学教授）／視ることの楽しみ―画材と素材の引き出し博物館／謳う建築／東京大学 建築構造デザインスタジオ　ディンプル構造2020：花筏／トランスレーションズ展―「わかりあえなさ」をわかりあおう
●月評｜**平田晃久＋藤本壮介　髙橋一平　中島直人　佐藤達保（青柳創＋小野江綾＋吉川圭司）**

新建築 住宅特集 バックナンバー

バックナンバーのお取り寄せは最寄りの書店へ
お申し込みください。
また，下記ウェブサイトからもご注文いただけます。
https://japan-architect.co.jp

株式会社 新建築社
〒100-6017 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 17 階
tel. 03-6205-4380（大代表） fax. 03-6205-4386

新建築オンラインでの
ご購入はこちらから

2020 10月号

定価＝本体 2,200 円+税



［特集］別荘――自然を愉しむ持続可能な暮らし
［特集作品13題］瀬戸内の別荘／**千葉学**　森の離れ／**武井誠**＋**鍋島千恵**　特集論考1：**武井誠**　屏風絵の家／**早草睦恵**　軽井沢の住宅／**伊藤暁**　特集論考2：**伊藤暁**　泉涌寺道の町家／**森田一弥**＋**吉川青**　西橋詰町の長屋／**魚谷繁礼**＋**魚谷みわ子**　SETOYAMA／**森屋隆洋**　M-WALTZ／**船曳桜子**＋**大友和樹**　CLIFF HOUSE／**石原祥行**　森の小屋／**佐藤文**＋**鹿嶌信哉**　陽明館／**大島芳彦**　MAYA 鎌倉／**早坂直貴**　東峰村古民家ヴィラ あんたげ／**納谷学**＋**納谷新**＋**岡田祐介**
［小特集：移動可能な住宅のこれから］特集論考3：**吉村靖孝**
半動産建築年表／**吉村靖孝**
［作品・プロジェクト6題］動築1号器/2号器／**藤野高志**　1HrSBシステム／**坂茂**　アーキペラゴ豊中／**寺田雅史**＋**中山陽州**　GPT TAISHO＋XMH＋GTH／**吉村靖孝**
［MONTHLY REVIEW］座談月評　**塚本由晴**×**平田晃久**×**増田信吾**

2020 11月号

定価＝本体 2,200 円+税



［特集］スケールとディテール――住宅を環境に開く思考と挑戦
尾根の屋根／**長谷川豪**　オプティカルグラスのリヤド／**中村拓志**　美杉の舞台／**大室佑介**　森の図書館／**三井嶺**　大原の家／**森田一弥**＋**小寺磨理子**　ODYSSEY／**椎名英三**＋**椎名祐子**　月明と数寄／**川口通正**　魚沼の家／**伊礼智**　船頭小屋／**城戸崎博孝**　タープ／**加藤渓一**　西浦の家／**小泉誠**　House IT　三方吹抜けと密度／**神谷勇机**＋**石川翔一**
［第36回吉岡賞　結果発表］審査員：**篠原聡子**　**藤本壮介**
［MONTHLY REVIEW］座談月評　**塚本由晴**×**平田晃久**×**増田信吾**
［NEWS UP］照明の光に反応する光触媒で抗菌・消臭・分解する無垢材フローリング　光触媒フローリング・壁板「エアー・ウォッシュ・フローリング(ひのき・すぎ)」
［記事］住み継がれる住宅の行方 ブルーボックスハウス　文　**椎名英三**
［連載］建築家自邸からの家学び　第22回 T2 Bldg.
企画・監修　**真壁智治**　協力　**石田敏明**　**石田章人**　**石田和久**　調査　**杉浦久子**　**昭和女子大学杉浦久子研究室**

2020 12月号

定価＝本体 2,200 円+税



［特集］風と光のデザイン――自然を暮らしに息づかせる家具の家／**手塚貴晴**＋**手塚由比**　特集論考1：**手塚貴晴**＋**手塚由比**　House T／**谷尻誠**＋**濱谷明博**　特集論考2：**谷尻誠**　サクラと住宅／**神田篤宏**＋**佐野もも**　トンネルと台形／**五十嵐淳**　出窓の塔居／**藤貴彰**＋**藤悠子**　湯島の住宅／**武井良祐**＋**太田翔**　武蔵小山の住居／**島田陽**　箱の家164／**難波和彦**　特集対談：**難波和彦**×**川島範久**　高台の大窓／**根岸陽**　御影の家／**畑友洋**　富里の家／**五十嵐敏恭**　松橋の家／**中野晋治**　上井草の住宅／**川辺直哉**　Concrete Shell House／**井川充司**　吹上の家／**手嶋保**　でくさんち／**米田雅樹**
［MONTHLY REVIEW］座談月評　**塚本由晴**×**平田晃久**×**増田信吾**
［NEWS］gallery IHA住宅建築賞2020発表／グッドデザイン特別賞発表／旧武基雄自邸を景観重要建築物等に指定／テイクアウトやテラス営業などのための道路占用許可基準の緩和措置を延長／ル・コルビュジエが改修した船「アジール・フロッタン」の復活プロジェクトを推進／新・国際芸術祭(仮称)の芸術監督が決定

2021 1月号

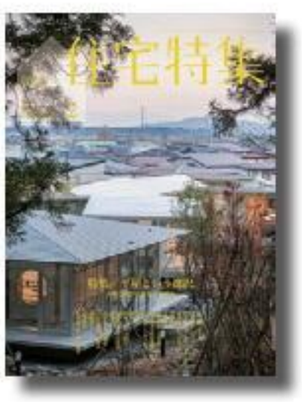
定価＝本体 2,200 円+税



［巻頭対談］建築の想像力　**青木淳**×**西沢立衛**　司会：**百田有希**
［特集企画　最新住宅プロジェクト］**増田信吾**＋**大坪克亘**　**西沢立衛**　**妹島和世**　**秋吉浩気**　**平田晃久**　**村山徹**＋**加藤亜矢子**　**大西麻貴**＋**百田有希**　**萬代基介**　**長坂常**　**武田清明**　**西澤俊理**＋**Jovan Minic**　**渡辺菊眞**　**佐藤研吾**
［特集作品］Construction Site SHOCHIKUCHO HOUSE／**西沢立衛**　F／**青木淳**　24mm合板の家／**竹口健太郎**＋**山本麻子**　特集論考1：**竹口健太郎**　**山本麻子**　京都のアトリエ / 住居／**島田陽**　品川の家／**大石雅之**　谷中の公園のとなり／**宮崎晃吉**　特集論考2：**宮崎晃吉**　桜尾の座席／**彌田徹**＋**辻琢磨**＋**橋本健史**　アマカスハウス／**藤原徹平**　特集論考3：**藤原徹平**　博多の家／**横内敏人**　ARCHITEKTON／**スガショウタロウ**　Chocolate Cornet／**服部信康**　福神の森／**吉村理**
［MONTHLY REVIEW］座談月評　**塚本由晴**×**平田晃久**×**増田信吾**

2021 2月号

定価＝本体 2,200 円+税



［特集］平屋という選択――大地と繋がる暮らしの魅力
［特集作品］楢山の別邸／**工藤浩平**　House O／**佐々木君吉**＋**バンバタカユキ**　ハウス・モンクビート／**高木俊**＋**村上幸成**　特集論考：**高木俊**　Rural House／**葛島隆之**　アファン・ホースロッジ／**古谷誠章**　House OS　3つ屋根の下／**神谷勇机**＋**石川翔一**　飯塚の平屋／**藤木俊大**＋**佐屋香織**＋**佐治卓**　森の中の家／**フロリアン・ブッシュ**　奥池の家／**畑友洋**　海の見える書庫の家／**細木淳**　霧島の家／**森田一弥**＋**吉川青**　常滑の家／**浅井裕雄**＋**吉田澄代**　キンナゴアジロ／**能作淳平**　中郷の家／**山田優**＋**小阿瀬直**＋**大嶋励**　**横尾真**　1＋House／**斉藤智士**　庭の家／**岸本貴信**　三室の家 / 対の器／**大村聡一朗**＋**中村園香**
［特別記事］住宅をエレメントから考える　蘇える身体　風呂と入浴のこれからを思考する(前編)　**須崎文代**
［MONTHLY REVIEW］座談月評　**乾久美子**×**石上純也**×**長谷川豪**

2021 3月号

定価＝本体 2,200 円+税



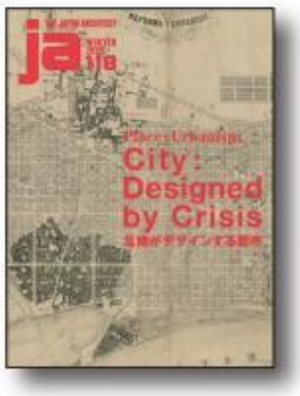
［特集］閾(しきい)――環境と暮らしを繋げる土間
［特集作品］SHOCHIKUCHO HOUSE／**西沢立衛**　寺部の家／**西口賢**＋**岩間昭憲**　朝霞の住宅／**吉田昌平**＋**田中裕一**＋**中本剛志**　下青島の家／**水野芳康**　北野田の住宅／**魚谷繁礼**＋**魚谷みわ子**　龍泉寺のカフェと住まい／**川本敦史**＋**川本まゆみ**　宮若のはなれ／**岡田佳子**　中城の家／**五十嵐敏恭**　イノキイエ／**吉永規夫**　余白の家／**湯川晃平**　ZOGA-H／**可児公一**＋**植美雪**　上牧谷の家／**神家昭雄**　向洋の家／**藤本寿徳**　Park in House／**魚谷剛紀**　花水木ノ庭 広場路の長屋／**沼俊之**＋**上野宏岳**＋**増山武**　砺波の家／**西和人**
［NEWS UP］ウルトラファインバブルとシャワー技術で清潔さを追求する洗面用水栓　洗面用水栓「キレイスト」
［MONTHLY REVIEW］座談月評　**乾久美子**×**石上純也**×**長谷川豪**
［NEWS］第52回中部建築賞発表／長谷川祐子氏が金沢21世紀美術館新館長に／保坂健二朗氏が滋賀県立近代美術館新館長に　リニューアルオープンは6 月27日に決定　他

THE JAPAN ARCHITECT ja バックナンバー

A4変型判／和英併記

新建築オンラインでの
ご購入はこちらから

バックナンバーのお取り寄せは最寄りの書店へお申し込みください.
下記ウェブサイトからもご注文いただけます.
https://japan-architect.co.jp
株式会社 新建築社　東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル17階　〒100-6017
tel. 03-6205-4380　fax. 03-6205-4386



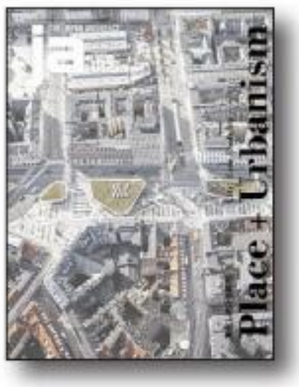
118号　2020 冬号
危機がデザインする都市

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
『Place+Urbanism』シリーズの第2弾.世界の都市はこれまでも多くの危機を都市計画によって乗り越え,現在も魅力的であり続けています.都市がこれまで経験してきた危機を振り返り,これからの都市を考える手がかりとなることを意図しています.



117号　2020 春号
Kunio Maekawa

本文 184頁　定価:本体¥3,000+税
日本のモダニズム建築を牽引した建築家・前川國男の特集です.ベルギー人建築家ヘラ・ファン・サンデ氏をゲストエディターに迎え,彼女の4本のエッセイや松隈洋氏との対談,22の建築と共に紹介します.



116号　2020 冬号
変化し続ける都市
Place + Urbanism

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
都市に着目した特集.『Place+Urbanism』シリーズの第1号.『変化し続ける都市』の特集です.世界の都市の21事例を通して産業構造の変化や環境問題などへ対応する21世紀の都市への「取り組み」を紹介します.



115号　2019 秋号
Manabu Chiba

本文 160頁　定価:本体¥2,381+税
建築家・千葉学の特集です.2001年の事務所設立から現在までの代表作,進行中のプロジェクトやプロボーザル案まで24作品を収録.
千葉学の建築を3つの手法――「平面図」「スタディ」「写真」に分け、3章構成で紹介します.



114号　2019 夏号
Hiroshi Nakamura & NAP

本文 160頁　定価:本体¥2,381+税
建築家・中村拓志の特集です.17年間にわたる作品を時系列で見通し,未発表作も含む31作品を収録.地域の風土や産業,敷地の地形や自然を読み解き,人びとの振る舞いや気持ちに寄り添い設計した建築を紹介します.



113号　2019 春号
再録　EXPO'70

本文 176頁　定価:本体¥2,381+税
JA113は,1970年に開催されたEXPO'70 OSAKAを詳細に伝えた『新建築』1970年5月号と英文版『JA』1970年5月,6月号から再録.2025大阪・関西万博に向けた可能性を探るひとつの手がかりとなることを意図しています.



112号　2019 冬号
YEARBOOK 2018
建築年鑑

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
JA112は,2018年に『新建築』『新建築住宅特集』誌上で発表された建築とその動向を読み解く特集です.建築を取り巻く社会や環境が年々複雑になっていくなかでの模索や挑戦,そうしてできたかたちを示すことを本誌のねらいとしています.



＊品切れ

111号　2018 秋号
集合住宅の先へ
Living Together

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
JA111は,集合住宅のこれからを考える特集です.機能用途の分け隔てなく,暮らすことに関わる建築を俯瞰してみることで,集合住宅のこれからをめぐる本質的な問いを浮かび上がらせようという試みです.



110号　2018 夏号
現場から見えること
Insights from Building Sites

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
JA110は,現場の特集です.現場とは建築が立ち上がる場所であり,建築の理念がかたちとなって現れるところです.17の近作と合わせて1950～80年代の建築の現場写真と言説を掲載し,建築家が生み出すモノと思考の関係を探ります.

76号　建築年鑑
新建築住宅設計競技結果発表
2010-冬号　＊品切れ

77号　Contextual Algorithms
建築と都市のアルゴリズム
2010-春号　128頁　定価:本体¥2,381+税

78号　Redefining Collectivity
集合のつくり出すかたち
2010-夏号　＊品切れ

79号　石上純也
2010-秋号　＊品切れ

80号　建築年鑑
2011-冬号　144頁　定価:本体¥2,381+税

81号　三分一博志
2011-春号　208頁　特別定価：本体¥2,667+税

82号　日本の都市空間2011
2011-夏号　120頁　定価:本体¥2,381+税

83号　Emergent Spatial Frames
やわらかな骨格へ
新しい空間を実現する構造のアイデア
2011-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

84号　建築年鑑
特集：3.11震災と建築家
2012-冬号　＊品切れ

85号　住宅の系譜
アトリエ・ワンの全42住宅
2012-春号　128頁　＊品切れ

86号　新世代建築家からの提起
2012-夏号　＊品切れ

87号　乾久美子
2012-秋号　＊品切れ

88号　建築年鑑
2013-冬号　128頁　定価:本体¥2,381+税

89号　木の建築
2013-春号　＊品切れ

90号　堀部安嗣
2013-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

91号　模型という建築
2013-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

92号　建築年鑑
2014-冬号　128頁　定価:本体¥2,381+税

93号　篠原一男
2014-春号　144頁　定価:本体¥2,381+税

94号　住宅地から学ぶこと
2014-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

95号　若手構造家の思考
2014-秋号　＊品切れ

96号　建築年鑑
2015-冬号　128頁　定価:本体¥2,381+税

97号　曲線と曲面
2015-春号　128頁　定価:本体¥2,381+税

98号　ランドスケープ2015
2015-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

99号　家　妹島和世
2015-秋号　160頁　定価:本体¥2,381+税

100号　JA60年艦
2016-冬号　224頁　特別定価：本体¥2,593+税

101号　建築一時代一言説
2016-春号　128頁　定価:本体¥2,381+税

102号　若手建築家がつくる
家,そして彼らの仕事
2016-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

103号　まちのはじまり
2016-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

104号　パブリックスペース
2017-冬号　128頁　定価:本体¥2,381+税

105号　MAKOTO TAKEI＋CHIE NABESHIMA／TNA 2004-2016
2017-春号　160頁　定価:本体¥2,381+税

106号　都市へ向かう住宅
2017-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

107号　ディテールの思考と挑戦
SPACE IN DETAIL
2017-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

108号　平田晃久 2017→2003
Akihisa HIRATA
2018-冬号　160頁　定価:本体¥2,381+税

109号　Kengo Kuma:
a LAB for materials
2018-春号　220頁　定価:本体¥2,381+税

新建築3月号
広告目次

広告掲載企業

え

エヌ・シー・エヌ……表4

か

元旦ビューティ工業……10

き

共同カイテック……201

け

ケイミュー……1

こ

越井木材工業……14

さ

サンワカンパニー（コンペ結果発表）……24,25

し

シェルター……2

す

スガツネ工業……5

そ

総合資格……表2

た

大日技研工業……6

に

日新工業……12

日鉄鋼板……3

の

ノザワ……202

ひ

ピーエス……202

ふ

藤森鉄平石……201

も

森村金属……7

ゆ

ユニオンシステム……7

よ

吉野石膏……8

わ

YKK AP……表3

『新建築』資料請求方法について

個人情報保護法に基づき、読者の皆様の個人情報保護を図るため、『新建築』では新建築社ホームページ上に広告掲載企業を閲覧できるようにし、各企業のホームページをリンクいたしました。資料請求をされる際は、各広告掲載企業へ直接資料請求を行ってください。

新建築社ホームページ　https://japan-architect.co.jp

定期購読のご案内

新建築社では、毎号読者の皆様へ直接お届けする、便利な年間定期購読のお申し込みを受け付けております。
日本全国どこでも、送料無料にてお届けします。

定期購読料



新建築
毎月1日発売

12冊（1年間）
消費税込
送料無料

29,040円



新建築
住宅特集
毎月19日発売

12冊（1年間）
消費税込
送料無料

29,040円

■お申し込み方法

〈インターネットでのご注文〉
新建築オンラインショップからお申し込みができます。
詳細については、下記ホームページをご覧ください。
https://japan-architect.co.jp

〈FAXでのご注文〉
ホームページからダウンロードした申込書（PDF）で受け付けております。
ご記入の上、弊社年間定期購読係までお送りください。
詳細はホームページをご覧いただくか、年間定期購読係にお問い合わせください。

＊送料は無料です。
＊特別定価の際の差額分は弊社で負担いたします。
＊臨時増刊、別冊は年間定期購読には含みません。

〈書店でのご注文〉
最寄りの書店にてお申し込みください。
＊お申し込み方法は書店によって異なります。書店に直接お尋ねください。
＊定期購読の取り扱いを行っていない書店もありますのでご注意ください。

■お願い

□お申し込みの際は、ご希望の購読開始の月号を明記してください。
□複数年でのお申し込みは受け付けておりません。購読のご継続については、弊社より別途ご案内いたします。
□お届け日は、地域によって書店での発売日より遅れることがあります。あらかじめご了承ください。

■個人情報利用目的について

年間定期購読のお申し込みに際し弊社が取得したお客様の個人情報は、定期購読に関する必要な業務（発送、継続のご案内等）の他、新刊や各種イベント（建築セミナー、展示会等）のご案内、また、お客様個人を識別できない統計資料の作成等に使用する場合があります。なお、弊社が取得したお客様の個人情報は、弊社の内部資料として厳重に保存、管理し、第三者に提供することはありません。

●お問い合わせ
〒 100-6017
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号　霞が関ビルディング17階
株式会社 新建築社
年間定期購読係（平日 9:30～17:30）
TEL：03-6205-4380　FAX：03-6205-4386

月評



ゲスト：**馬場正尊**

平田晃久

平田　僕は近年，集合住宅というビルディングタイプが単体として意味があるのか分からず，「集合住宅特集」に戸惑いがあります．むしろ集合住宅，建築，まちというものにあまり明確な差がないところこそ面白い．あらゆる建築をつくる場面で背後にある主体性に地殻変動が起きていて，それが集合住宅も含めたさまざまなビルディングタイプの境界を壊している状況がある．そのことに可能性を感じています．馬場さんが，リノベーションや不動産仲介，建材の流通などを通じて，住まいに対して提案されてきたことは，建築の使い手とつくり手のあり方を問い直すという点で，今の地殻変動と深く関係していると思います．そこで今回は馬場さんと，2月号を通して，建築家がどのような役割を果たし得るのか，僕たちにできることは何か，お話したいと思いました．

馬場　2月号は集合住宅特集という形式がポジティブな意味で崩壊していますね．後半になってようやく王道な集合住宅が出てくる．形式が崩壊したものから先に掲載する編集意図に興味を持ちました．

平田　10年ほど前に集合住宅を設計した頃は，他の機能が複合することはほぼなかったのですが，今進めているプロジェクトではその枠組みが溶けて，エリアで考えるものが増えています．生活を成り立たせるさまざまな場所がどのように集合しひとつのまとまりをつくるのかということを抜きに，ひとつの住居を論じてもあまり意味がないということかもしれません．そのような点で，**武蔵新城のエリアリノベーション**は，まちで起きていることとしてはとても面白く，集合住宅の枠組みに対する破壊力を感じます．

馬場　武蔵新城のダイアグラム（91頁）は，建築家の介入をはるかに超え，まちの現象をメタに捉えていますね．今までの一般的な建築家は，都市に対してマクロな視点を持って，いろいろな土地で建築をつくってきましたが，若い世代には，絶えず変化する街にダイブし，暮らしを共にしながら新しいつくり方を見出そうとする姿勢が見られます．それは，建築家の都市に対する「当事者化」と言えるかもしれません．近現代は「計画して」「つくって」「使う」ことで，ものごとが組み上げられ，建築家は「計画する」立場にいましたが，不確実性が高まる現代においては，「計画する」ことにリアリティがなくなっています．だからまずは余剰ストックなどを使って，つくり始め，後からメタ的に計画を見直す．つまり，「使う」「つくる」「計画する」順番の逆転が起きている．建築家も当事者としてその場にいないと都市の変化にビビッドに反応しにくいという本能が働き，武蔵新城のような動きが起きているのではないでしょうか．他の作品からも，現代の不安定な状況における，建築家の当事者としての関わり方の多様性が見えてきます．このような局地戦のプロットが，いずれ大きな都市や建築の生成に影響を与えるのかもしれません．平田さんの建築は，「からまりしろ」を用意し，他者の介入を意図するものですね．武蔵新城のエリアリノベーションが，もはや「現象」であるのに対して，平田さんは「建築」そのものが，他者（自然や現象含め）の当事者的な介入を誘っていることに，僕は惹かれています．

平田　ありがとうございます．まさに他者の介入のための余地＝しろが重要だということを「からまりしろ」という言葉で言おうとしたんです．ただ，「からまりしろ」を考えながらつくっていて，さまざまな場面で気付かされたことは，形ある建築が人びとのからまりしろになるだけでなく，建築をつくること自体が形のないからまりしろだということです．建築をつくるプロセスを部分的ではあるにせよ他者に開くことで，思ってもいなかったものが加わり続け，最初に想定した総体をはるかに超えた豊かなからまり合いが生まれる．そのメカニズムは生命的で，今起きている当事者化の状況にも関係している．でも一方でからまりしろというのは，からまるものは他者であるべきなんですよね．自身もコミュニティにからめ取られてしまうと，設計が不自由になる側面もあるでしょう．つまり建築家は総合的な状況に対してどのような意味合いで当事者となるのか．その上で設計の自由を得るためには，先ほど馬場さんが言われたマクロ的な視点を持つことと，状況にダイブすることの双方をどうブレンドするかが大事ではないでしょうか．

馬場　terrace Hは建築家自らが事業者としても投資するというマイクロデベロッパーのような姿勢に，新たな建築家像を感じます．事業的なリスクをすべて自分で引き受ける不自由はありますが，自らがクライアントとなることで設計の冒険ができる．ただ，門型フレームという明快な形式に多様な素材感を加えてノイズを与えていますが，どこか自作自演的になってしまうところが気になります．

平田　寳神さんたちの実践は，当事者であることの自由と不自由の問題を引き受けようとしている．特に西荻窪（KITAYON，本誌1706）に続いて代々木上原でも自分たちで不動産経営に身を投じる勇気に敬意を感じます．ただ，なぜ場所を変えて街に関わろうとしたのか分からず，もやもやする感じもあります．また僕は，ひとつのプロジェクトに異なる立場の人がある程度自由に関わって生まれる総体が豊かなものになると思います．事業性を考えたら到底できないような設計者の主張も，事業収支からどこか自由だからこそ（あまり奔放にふるまうと単にクビになるだけですが）可能になる．からまるもの同士の間にあるギャップにこそ自由は宿り，豊かな総体を生む．

馬場　**押上のビル PLAT295**は，1970年代にパナソニックが店舗付き住宅の供給で生まれた工法の現代性が再度浮かび上がっていて面白いですね．

平田　プロジェクトそのものよりも座談会での山道さんの「メーカーのブラックボックス化したシステムをハッキングしていくような作業」というコメントは面白かったです．産業が蓄積してきたプラットフォームを使いできることを加速させたら，何か画期的なことができるのかもしれません．

馬場　でもまだまだハック度合いが弱く，近代日本の産業構造の強固さを改めて突きつけられます．僕は，住宅流通のブラックボックスを解体し，エンドユーザーである住まい手が自ら編集できるためのフローとして，2010年に「toolbox」というサービスを立ち上げました．その点で，**特集記事**：**インフォーマルな場のつくり方**で述べられている，「産業化された巨大な経済のシステムに取り込まれた住宅から暮らしをどのように解放していくか」という問題意識に共感します．現代の不確実な状況下で仕事をしていると，建築家の職能でしかできないと感じることがある．それは社会，都市，まちの構造をマクロに観察して発見し，次なる建築や住処をつくるフレームを提案することです．その時に参考になるのは，洗練されたルールやシステムを持つ先進国ではなく，人びとの営みが自然発生的に，時にイリーガルに行われる南米などの不確実性を持つ国々かもしれない，という特集記事の指摘は面白いですね．

平田　そうですね．ただ，リーガルとイリーガルの境界には曖昧ゆえの面白さがあるのですが，イリーガルなものを，もう一度合法的に再現することばかり考えていると，制度側に飼いならされたものになる気もします．逆に，先進国のシステムは洗練されているかもしれませんが，もはや現実とそぐわなくなってきているわけで，そこにこそ本質的な不確実性が存在している．『新建築』の編集システムも同じかもしれません．集合住宅特集そのものを内側から崩していくような編集をしてみせる2月号には，ポジティブな不確実さへの応答がある．「集合住宅」という安定した枠組みは消失し，なんとも不確実な状況だけがある今，2004年に始まった『新建築』の集合住宅特集もそろそろ終焉し，違うかたちへと変容するのかもしれませんね．

月評



髙橋一平

集合住宅は，建築と言えるのだろうか．そのような疑念が頭をかすめた．ここでの集合住宅とは，客家土楼のような民族的大家族の家とは異なる，日本では1960年代以降に量産された，見ず知らずの世帯住戸が一度に寄せ集められた形態のものである．そうした建築は生成起源がそもそも人間的ではない．人口急増に伴い仕方なく社会政策に従い与えられた室内に居住を強いられるものや，そこへ便乗し今も継続する民間投資と不動産業に個人の意思を誘導され消費し居住に至るものばかりだ．したがって，その埋め合わせとして，初顔の住民に交流を促し大家族化を図るべく共用空間を充実させコミュニティの重要性を説く手法は，社会的正当性として認められるに至ったのも事実だが，事の発端となる1960年代的思想は，根本的に何も揺らいでいない．むしろ人間は，共用空間において交流の奴隷となった．また，一部の建築家がそうした政治や経済の原理に批評を唱えつつ，建築としての価値を力ずくで捻り出したことで名作が多く登場したことも事実だが，見方を変えればそれらは双方の論理を切り開き助長してしまったとも言える．高層化に斜面開発，様式化した内装などはその最たるものだ．そうした結果，日本人は住宅消費の奴隷にもなった．この悪循環を覆し，人間的な生活を取り戻すための根本的な手立てを考えるにあたって，建築に携わる者としてはまず計画の起源と必要から考えることが確かな姿勢だと言えると思う．そして，現代生活の変容ぶりを見れば，僕らの手によって，建築的な方法により社会へ提案する機会に溢れている．そこに希望を見出したい．

2月号では，本誌が敢えて集合住宅をビルディングタイプ別特集に位置付け続けることで，こうした1960年代的思想の退廃と，それに取って変わる概念の黎明を同時に浮かび上がらすことを狙っているが，前者においてその思想はいまだ覆されることなく，後者においてはまだ建築的な体現が難しく企画に留まるように見えるものが多いため，批評が難しい．そして巻頭作品は遂に集合住宅ではなくなった．

HOTEL THE MITSUI KYOTOの誌面は，ニュース記事と特集の前に挟まれ，広告と見紛うほど商業性を孕んだ建築だ．主要構造体は角形鋼管による鉄骨フレームを鉄筋コンクリートの板で囲った箱型の汎用構法で，そこに和風の装飾が表層的に取り繕われたに過ぎない事実を，建築専門誌の使命として矩計図と平面詳細図が残酷に現している．現代法規への適合と事業性を加味したコスト抑制の必要が，歴史地区での改築に大きな制約を与えたと見受けたが，だからこそ，この土地に明治期に存在した邸宅を守れなかった代償は大きい．建築家の起用方法としても，監修ではなく全体構築に関わってほしかった．

京都に限らずさまざまな場所で，こうした希薄な新築の幻想が日本の歴史風景を加速的に蝕んでいる顛末は，集合住宅にも当て嵌まることに改めて気付く．特集の巻頭作品**hotel Siro**は，ホテルが必要とするセキュリティとプライバシーを大きく緩め住宅側へ移行させた点で，時代変容の兆しを示した．だが，集合住宅，SOHO，一時滞在，ホテルのような空間所有形態のグラデーショナルな変化，ビルディングタイプ溶融への予感は，建築計画学では数十年前から指摘されており，誰にでも想像しすいことで，社会や経済の遅れのためようやく登場したとも言える．この建築が放つ概念が一部フロアと外部階段でのみ試行的に実現されていることからも，社会への浸透にはまだ何かが足りないのかもしれない．しかし，試しに行うのならばもう少し建築の側から振り切れたたとえば，旅先の環境をホテルにいながら楽しむ過ごし方を提案できるならば，ホテル＝寝室＋書斎という定形の設えや水回りが占める割合を調整し，日中の居住空間に近付ける方法も採れたのではないか．hotel Siroでの外部階段の他，共用空間に建築の価値を賭け，交流の媒体として社会的正当性と抱き合わせる主張は今号でも見られた．しかし共用空間は交流を裏付けるものではなく実態を伴わないのも現状だ．いまや姿形のないSNS空間の方が盛んである．

UNITÉ KICHIJOJIでは，同様の主張を携えた1階の共用空間よりも，むしろこの建築が醸し出す品格と，それに伴う居住者の誇りの方が，この集合住宅の大家族住宅化における媒体となる気がした．また，集合住宅が建築になりづらい要因のひとつは，界壁（住戸ユニット）の存在が建築の形式性へ大きな影響を及ぼし，設計の根本的自由が拘束されることである．世帯数が増すほど困難をきわめる．界壁は耐火性と遮音性の両立を担保し，ある世帯が起こした出来事を他の世帯へ影響させない目的のもと，見ず知らずの世帯同士の関係性をそのまま保つことを，建築自ら表明してしまうことになる厄介な主要構造部である．ここでも界壁の存在は強いが，住戸内にちりばめられた耐震壁の存在によって緩和が図られたと言える．

新潟の集合住宅Ⅲでも界壁の緩和は試みられ，1940～50年代に見られる柱主体の強固な構造体を想起させたが，それに対し界壁が外壁と共に強く現れ，結果として分かりづらい．また，地方都市の都市化を加速させること（作品名から察するに既に3棟建つ）は時代遅れで，事業の必要性に対する批評が希薄だ．一方，リノベーションのプロジェクトは，そうした1960年代の価値観を直截に破壊できる機会だ．しかし，**洋光台北団地エリアリニューアル**のように表層をいくら綺麗に化粧しても，さらには1階共用空間を充実させても，古い思想のイメージ回復の操作に見えた．何だか2度目の東京五輪への虚しい期待と重なった．もとの団地が形成した関係性（住棟と残余としての外部空間）も一切変わっていないが，たとえば一部分でも，抜本的な改変を施した住戸，住棟，外部空間を次世代モデルとして提起した方が，老朽化した建築が持つ魅力を引き出せたかもしれない．**リノア北赤羽**でも同様に，共用空間におけるイベントは一時の住民の息抜きに過ぎず，関係性の問題に手を入れ，日常的な生活の変化を見出せなければ建築の貢献とは言い難い気がした．**武蔵新城のエリアリノベーション**のように，街を建築と見立てるアプローチは社会にとってはきっと新鮮であるが，大学の建築学科ではだいぶ前から煮詰められた手法であるがゆえ，現実化の難しさを余計に感じた．最小限の費用でなされることが多いためか，もしくは，設計の問題として表層的な操作が多く，既成の様式が積極的に選択されるためか，変容というよりも底上げ的な街づくりに留まった．より挑戦的で大胆な改修を期待したい．**押上のビル PLAT295**は，メーカー構法への批評行為として建築家が参加している点で，新築とはいえリノベーション的である．が，ここでも表層的な操作が目立ち商業性の強い空間に映った．

大阪ガス実験集合住宅NEXT21改修2020では，建設当初からサステナブルな全体価値が提唱されている．一方で，スケルトンとインフィルの分離方式により内装を自由にし，各住戸が多彩な趣味の宝庫（503住戸はその一例）となることによって，中身はバラバラで，建築物としての総体的な価値が分かりづらいことが改修行為によって次第に想像できるようになった．分離方式が迎える最大の不幸かもしれない．この不安に応えるように，302・303住戸では住戸間を貫通する土間というサブ的な構造原理を生じさせ，自由を許容するインフィルの方針を批評しつつ，この建築が持つ概念への参加意識が積極的に現れている．

terrace H，**moto.8**，**ROPPONGI TERRACE**，**Apartmentふじ**，前述のUNITÉ KICHIJOJIのように住戸数の少ない計画では，各住戸をより個性化させられる余地があるが，設計が細部まで行き届くほか，集合住宅としての形式性や既視感を緩和し，大家族住宅のように現れることで，建築の一体性も現れやすく，まだまだ建築的な可能性があると感じた．

月評



松川昌平

特集記事：インフォーマルな場のつくり方の中で，カール・ポランニーの「交換」「再分配」「互酬」「家政」という4つの経済原理が出てきた時に，私はただちに，柄谷行人の4つの交換様式を連想した．

柄谷は『世界史の構造』（岩波現代文庫，2015年）の中で，交換様式という観点から社会構成体の歴史を再考している．柄谷によれば交換様式には4つのタイプがあるという（図1）．交換様式Aは贈与と返礼というような「互酬」，交換様式Bは被支配者が支配者に服従することによって保護を得るというような「略奪と再分配」，交換様式Cは現在のわれわれに馴染みある貨幣による「商品交換」である．そして，未知の変数「X」で表される交換様式Dは，「互酬原理によって成り立つ社会（交換様式A）が国家の支配（交換様式B）や貨幣経済の浸透（交換様式C）によって解体された時，そこにあった互酬的＝相互扶助的な関係を高次元で回復するもの」*と定義される．柄谷もポランニーの経済原理との類似点や差異について触れているが，ポスト資本主義社会を見据えた新しい交換様式Dが明記されている点が大きな特徴だと言えるだろう．

B：　略奪と再分配 （支配と保護）	A：　互酬 （贈与と返礼）
C：　商品交換 （貨幣と商品）	D：　X

図1：4つのタイプの交換様式

本号に掲載されている多様な集住体を俯瞰するためには，ポランニーの4つの経済原理よりも，柄谷の4つの交換様式の方がふさわしいように私には思えた．なぜなら，「インフォーマルな場のつくり方」とは，まさに未知なる交換様式Dの探求であり，集合住宅17作品はその実践例のように思えたからである．そのような意図を明らかにするためにも，まずは簡単ではあるが，日本における集住体の歴史的な変遷と交換様式を対応付けてみたい．

近代化以前，日本には町家という集住体が数多く存在した．近隣の共有領域として機能していた路地には雑多な活動が溢れていた．縁側や土間といった中間領域は，外／内，公／私といった境界を曖昧にし，住宅を町に開くものであった．伝統工法による木造軸組はフレキシブルな間取りを実現し，寝食だけではない職住混在型の多様な活動を包含した．そのような暮らしを支えたのは，互酬的＝相互扶助的なコミュニティが支配的であったからだろう．このような集住体は交換様式Aに符号する．

戦後，労働者の住宅難を解消すべく，1950年代初めに住宅金融公庫，公営住宅，日本住宅公団など公の住宅支援機構が発足し，画一的な集住体が大量に供給された．働くための職場と休息のための住宅という職住分離が加速したのはこの時代である．1975年頃には住宅総数が世帯総数を上回り，住宅難は解消された．このような集住体は交換様式Bに符号する．高度経済成長期からバブル期にかけて中間層が増大し，戸建ての持ち家志向が高まる一方で，かつて町家が担っていた複合的な機能は，都市の中へと機能分化していった．市場経済原理が支配的となった社会は，2000年代以後グローバル化して現在も続いている．このような集住体は交換様式Cに符号する．

このように，日本における集住体の歴史的な変遷に交換様式を対応付けてみると，**次世代の集合住宅**で簡潔にまとめられている3つの集合住宅の課題（多様性・コミュニティ・持続可能性）とは，まさに先述した「互酬原理によって成り立つ社会（交換様式A）が国家の支配（交換様式B）や貨幣経済の浸透（交換様式C）によって解体された」ものと言えるだろう．

本特集全体を通して，路地，縁側，土間，町家といったデザインボキャブラリーが頻出しているのは偶然ではない．建築家だけではなく，事業主，管理運営，利用者などが一体となって，かつて「そこにあった互酬的＝相互扶助的な関係を高次元で回復する」ためにはどうすればよいのか，つまり，交換様式Dの探求と実践を同時多発的に試行していると見るべきだろう．

たとえば「路地」．現在の道路は，かつての路地のように多様な活動を許容しない．それならば，路地を建築の側に引き込んでしまえば，インフォーマルな活動をフォーマルに行うことができる．**hotel Siro**は，非常階段や中廊下を路地化し，町家の形式を現代的に翻訳した上で，コンパクトに積層させた明快な構成が秀逸である．ユニークな非常階段は思わず私も上ってみたくなる楽しさがある．また，**UNITÉ KICHIJOJI**は，12の住戸が立体状に絡み合い，それらの玄関口が，1階から屋上まで貫通する路地によって繋がっているという，コーポラティブならではの思い切りのよい構成である．さらには，**moto.8**や**Apartmentふじ**のような中庭型も，路地をぐるりと引き込んだ構成だと考えられる．示し合わせたわけではないのに，ひとつの号の中に路地を建築へと引き込む手法が複数重なり，かつ，その建築的な解法が多様であるという点に，Aに回帰するのではなく，Aを高次元で回復したDを模索しなければならないという時代の要請を見るのである．

本号のほとんどの集合住宅では，多様性と合理性のバランスから多かれ少なかれスケルトン・インフィル方式を採用している．その中で私が着目したいのは，一口にスケルトンといっても，周辺環境の読み取り方次第でスケルトンのあり方がグラデーショナルに変容し得るという点である．たとえば，**新潟の集合住宅Ⅲ**のスケルトンは最も明快な純ラーメンであるが，UNITÉ KICHIJOJIは三方接道に呼応して5分割の壁式構造となっているのには納得感があるし，**terrace H**では，門型フレームが内外の環境の機微に応じて変形されている．その繊細で丁寧な設計に好感を持った．そして，**ROPPONGI TERRACE**では，東西の環境とレベルの違いに応答して，斜めスラブに逆梁のスケルトンとすることで，気持ちのよいスキップフロアのワンルームを実現している．このようなスケルトンのあり方は，伝統工法による木造軸組と比較して，フレキシブルな間取りにより多様性を担保するという点は共通するが，人工的な洞窟のように長い間残り続ける鉄筋コンクリート造のスケルトンにも，「長い時間軸を持って価値が発露されるような建築の多義性」（寶神尚史）を持たせようとしている点が，Aを高次元で回復したDを模索しているように感じるのである．

武蔵新城のエリアリノベーションは，最初は点に過ぎないマイクロ開発が，やがて線に，そして面になって町全体がボトムアップに変わっていく高揚感がある．かつて2003年問題（大規模開発ビルの相次ぐ竣工により，オフィスや店舗の大量供給が始まる一方，既存のテナントの借り手が少なく需要が伸び悩む問題）を背景に始まった「Rプロジェクト」や「セントラルイースト東京（CET）」などを思い出す．このような熱意のある特定の人たちによるインフォーマルな活動が，より広い空間に，より長い時間に，持続可能性を持つためには，フォーマルな互酬的コミュニティとして社会制度設計する必要があるだろう．その時，Aを高次元で回復したDとなっていくのだろう．

このような実環境のアーキテクト，社会環境のソーシャル・アーキテクトの試行と共に，**特集記事：LIMがもたらす集合住宅の未来**にあるような情報環境のITアーキテクチャがプラットフォーム化すれば，より交換様式Dの探求も深まっていくだろう．今後の展開に期待したい．

＊柄谷 行人『帝国の構造』，青土社，2014

月評



青柳創
小野江綾
佐藤達保
吉川圭司

年始から開始している，企業に所属するU-40世代の月評リレーですが，今月は，NTT都市開発都市建築デザイン部の吉川が担当します．どうぞよろしくお願いします．不動産デベロッパーの立場として，“建築と都市との関係”・“建築と生活者意識との関係”・“建築と事業との関係”に着目しつつ執筆を始めていきます．

「大家といえば親も同然，店子といえば子も同然」江戸落語の決まり台詞です．江戸時代の“大家”は，物件管理だけでなく，店子の保証人や，冠婚葬祭の差配，街の治安維持活動等，住人の生活と密接に繋がりながら街を維持していたそうです．まさに親の代わりでもあり，今で言うエリアマネジメントも行う存在であったのでしょう．唐突に落語の話から始めましたが，2月号では“大家”の存在と街の関係について考えさせられました．時代を江戸から令和に移します．大都市周辺のベッドタウンのうち特に交通の便が悪い場所では，建物の老朽化と人口減少をトリガーに，空き室を抱える大家が苦慮しています．さらに，昨今では在宅勤務やテレワークが一般化され住居に対する価値観も急激にシフトしてきており，生活者の意識変化に順応した物件が求められています．また，「自分の家の近くに生活を充実させる場所がほしい」といった声が増えはじめ，街としても都市間競争に生き残るための“街の個性”を見出すことが求められているのでしょう．このような背景を踏まえると，令和の“大家”は，生活者意識の変化に対応していくことに加え，街自体を魅力的にする必要があるのかもしれません．では，どうすれば大家は街をよりよくすることができるのでしょうか．そして，今求められる住まいや街とは．そのヒントが2月号ではいくつか垣間見えました．

特集記事：インフォーマルな場のつくり方では，祐成保志教授とツバメアーキテクツによる，理論と実践の複眼的観点からこれからの住まいと街について語られています．イヴァン・イリイチの「コンヴィヴィアリティ」という概念を用いて自立共生的な街のあり方を模索する思考方法や，そのような街の実現には人びとの主体性を取り込むためのインフォーマルな領域（形式的ではなく，個々人が楽しめるファジーな領域）が必要であるという論考は，次世代の実践者の価値観と人文社会学的アプローチによる考察の交点に位置する，街づくりのあるべき未来像が示されています．

BONUS TRACK（本誌2005）において植栽メンテナンスを地域の園芸サークルに無償でお願いしているという例は，自立自存の活動を取り込むインフォーマルなマネジメントの実例として興味深く，終盤に祐成氏が語った「アセット」の3つの意味のうち，“物的意味”に続く“社会的意味”と“心理的意味”の必要性は，アセットを生み出し運用していくデベロッパーとして心に留めるべき考え方でした．

2月号の表紙でもあるterrace Hは，アトリエ・ゲストルーム・住戸のマイクロコンプレックスです．日吉坂事務所が設計者兼事業主兼運営者の1人3役となり，経済性をコントロールしながら公共性と居住性の両立が図られた建築が設計されています．長い年月の先において，仮にこの建築が計画者の手を離れたとしても，街の中の居場所としてどのように機能が維持・発展していくのか，興味があります．

その意味において，**武蔵新城のエリアリノベーション**では，持続的に街の居場所が創発されているように感じられました．この街づくりの出発点とターニングポイントに着目します．出発点は，エリアの大家である石井秀和氏の存在です．「物件の価値を最大化する」ことを目標に「街の魅力を保つため」の物件のあり方を考えるという，長期目線での価値判断と実践力にこそ，この街づくりの起源があると考えます．また，これまでの経過の中で着目すべきは本エリアの多くの物件の設計者であり，自ら移転して事務所を構えたピークスタジオの存在です．彼らがこの街で働き始めたことをターニングポイントにして，ワーキングエリアとしての場が醸成されつつ，そこに在宅ワークの時代変化も伴って，昼のコミュニティ形成がされたのではないかと考察します．設計される建築やインテリアも今の人びとに受け入れられやすいテイストであり，このようなデザインスキルの高いプレイヤーが実際にエリアに居を構えながら物件を手掛けることで，街のブランド力が向上していると思います．併せて，設計者のCHAや施工者，イベンター等が入居する石井ビルのような，地域で活動するプレイヤーの拠点があることも特筆すべき点です．一方，建築作品として捉えた場合，昨今よく見られるリノベーションテイストの延長にある空間である印象は拭えず，街の記憶として受け継がれるような骨太な空間が少しほしくなりました．

moto.8においても大家であるサエキけんぞう氏の地元本八幡への想いや，既存の木造母屋への愛情が計画の出発点でした．生み出された空間からは，昨今の“テクノロジー”にはない“ノスタルジー”を感じるとともに，近年の住宅作品にて試行錯誤される「いかに住宅を街に開くか」という問いを，人びとを外から内へ引き込む奥性や，自然と建築が一体となった庭屋一如の空間で見事に回答しています．元来の日本建築が持つ空間の豊かさに改めて気付かされました．

北青山三丁目地区まちづくりプロジェクトについては，プロジェクト規模や期間の長さ，官民・周辺住民等の関係者の多さを捉えると，計画の推進には相当な調整や苦労があったのだろうと推測され，その中で都市のレジリエンス向上を着実に実現していると思います．一方，都営団地を高層化し，創出したスペースに大規模な緑地とタワーマンションを計画するという手法は，開発コンセプトのひとつである「自然との共生を志す」の回答として正しいのかどうかについては検証が必要だと思います．本エリアといえば同潤会アパートを想起せざるを得ません．一定の隣棟間隔を保ちながら中低層の建物を自然の中に建てる形式は，まさに自然との共生を体現していたと思われます．本プロジェクトで創出された緑地は確かに街にとって魅力的な場になっている一方で，緑地と建物の関係はやや希薄であり，建築側の設えの工夫としてより緑地との連続性を感じるような，緑地と建築の中間領域的な設えがもっと必要だったのではないかと考えます．関係者が多く長期にわたる大規模開発において，インフォーマルな場をつくり出すには，事業構造や意思決定プロセス自体から設計する必要があると感じます（自省の念も込めて）．

一方で，**リノア北赤羽**においてツバメアーキテクツがデザインする大きなパーゴラは，ヒューマンスケール（近景）とアーバンスケール（遠景）の間に位置するミドルスケール（中景）をデザインすることで，“街と建物”や“内と外”の中間領域を生み出しており，セキュリティの考え方含めインフォーマルな場を醸成しているように感じます．また，管理室や倉庫であったスペースを街と繋がるコモンスペースに大胆にシフトチェンジするという計画からは，本物件の事業主であるリビタの優れた企画力が伺えます．

掲載作品を見ていく中で幾度か“大家”が登場しましたが，ご存知の通り不動産デベロッパーは大家業とも言われます．ただ以前までの，建物をつくり単純に床を売る・貸す時代ではなくなりました．街の人びとの積極的な街への関与を促すようなインフォーマルな場を取り込む仕組みづくりや，長期目線で資産価値を捉え街の魅力向上に寄与する場づくり等，“人中心の公共性”を意識しながら街づくりをする必要を感じます．それは，単なる床貸しではない江戸時代の“大家”のように，人びとの生活と緩やかに繋がりながら街を育てていく意識なのかもしれません．

編集後記

当初の計画から状況が変わった時に，どう実践していくか．そこに現代の建築を考えるきっかけがあるかもしれません．旧富岡製糸場西置繭所（30頁）は，国宝（2014年指定）の木造建築にガラスのボックスを挿入することで，現代の機能と保存を両立させる選択をしました．スキーマ建築計画による黄金湯（66頁）は，建築の継承により新しい場がつくられることで，まちの活動へと広がり得ることを示してくれています．建築を継承するには，積極的に他者を受け入れることも重要だと示してくれているように思います．
3月11日で東日本大震災から10年となります．その間，防災，復興とさまざまな試みがされてきましたが，近年は震災の被害に加え，人口減少や新型コロナ禍など大きな変化がもたらされています．そんな中，気仙沼内湾 ムカエル・ウマレル（140頁）は，県により計画された防潮堤に市民が要望し，いかに日常に取り込むかという実践がされています．福島県小高区の例も同じく，計画を実践がどう調停していくかの連続です．他にご執筆いただいた4つの論考（164頁）も含め，この10年の計画と実践，可能性と課題が見えてきます．
青木淳さんに審査員をお願いし，新建築論考コンペティション（28頁）を始めることとしました．これが思考を重ねるきっかけとなればと思います．ぜひご応募ください．（ss）

小高復興デザインセンターの取り組み（150頁）を通して，福島県南相馬市小高区で起きていることを知りました．避難指示解除後の住民帰還状況や高齢化のデータを見ると，この地域やここでの暮らしが，明るいことだけでは語れない状況にあることが重くのしかかります．しかし小高で起きていることは，自分が住む場所を知り，変わっていく風景の中にいかに新しい価値を見つけ，場所を再構築していくかということです．その動きが小高復興デザインセンターの取り組みや住民の方々など個人の行動を伴い生まれていることや，集まるための場所が必要とされていることに勇気付けられました．この実践からどのような風景が生まれてくるのか，そこに建築がどのように関わり得るのか，引き続き考えていきたいと思いました．（n）

近年，「垂井町役場」（90頁）のように商業施設を公共施設など別の用途へコンバージョンするプロジェクトが散見されるようになってきました．たとえば「テラス沼田」（本誌2003）では5階建ての百貨店が庁舎を含む複合施設に，「丘のまち交流館 "bi. yell"」（同1603）はスーパーマーケットが育児支援機能やギャラリーが入る市民コミュニティ施設にコンバージョンされています．アメリカでは世界中で人気のオンラインゲーム「フォートナイト」を販売・配信するEpic Gamesがショッピングモールを買収してオフィスとして利用することを発表しています．地方都市において商業的な戦略から中心市街地に建設される商業施設は，結果として他の用途でも利便性が高いことからコンバージョンとして使い続けるという選択肢が生まれるのでしょうか．今後もこうしたプロジェクトが増えてくるかもしれません．（fkd）

東日本大震災の発生当時，九州で学生だった私に直接の被害はなく，どこか他人事のように感じていました．ですがその後，2016年の熊本地震で身近な人が被災したことや，仮設住宅プロジェクトで活動したことで，やっと地震災害を自分事として考えられるようになりました．夏に訪れた気仙沼内湾 ムカエル・ウマレル（140頁）は，マスクをしたお客さんが海沿いの公園まで溢れていました．もし高さ4.4mの防潮堤が実現していたら，この風景は生まれなかったでしょう．段階的なワークショップと複雑な関係者間調整の結果，海との関係はそのままに新しい居場所をつくり出していました．引き続き，東北のプロジェクトはできるだけ自分の目で確かめようと思っています．（ls）

作品・批評募集

［作品］
作品は，建物をはじめとして，まちづくりの計画から古建築の改修まで，「建築」にかかわるすべてを対象とします．氏名・年齢・所属・連絡先を明記の上，下記の資料をe-mailでお送りください（ファイルサイズは3MBまで）．

●写真
建物の外観・内観・ディテールなど，建物の概要が分かるスナップ写真をお送りください．
●図面
配置・平面・立面・断面，および主要ディテール等，建物が理解できる内容のものをお送りください．
●建築データ
建物の所在地・主要用途・竣工年・規模・構造・主要外装仕上げ・主要内装仕上げなど．
●設計主旨
建物についての簡単な説明．敷地条件，建主からの要望，その他与えられた諸条件などを含め，建築的にどのような解決策を考え，それを実現したかについてお書きください．

投稿作品の掲載については，掲載を決定した場合のみ，こちらからご連絡します．採否のお問合せには応じかねます．
また，お送りいただきました応募資料はご返却いたしませんのでご了承ください．

［宛先］新建築社 『新建築』編集部
tel. 03-6205-4381　fax. 03-6205-4387
e-mail　shinkenchiku@japan-architect.co.jp

Recommend

Competition・Symposium
コンテスト・設計競技・講演会

現在募集中のコンペ

第56回セントラル硝子国際建築設計競技
課題　交感する空間
主催　セントラル硝子株式会社
審査員　内藤廣　隈研吾　亀井忠夫　青木淳　賀持剛一　塚本由晴　巻幡良忠
応募締切　2021年8月31日（火）
日本国内からの送付は当日消印有効．
持込み，バイク便は不可．
http://www.cgco.co.jp/kyougi/
詳細は本誌2101 22-23頁参照．

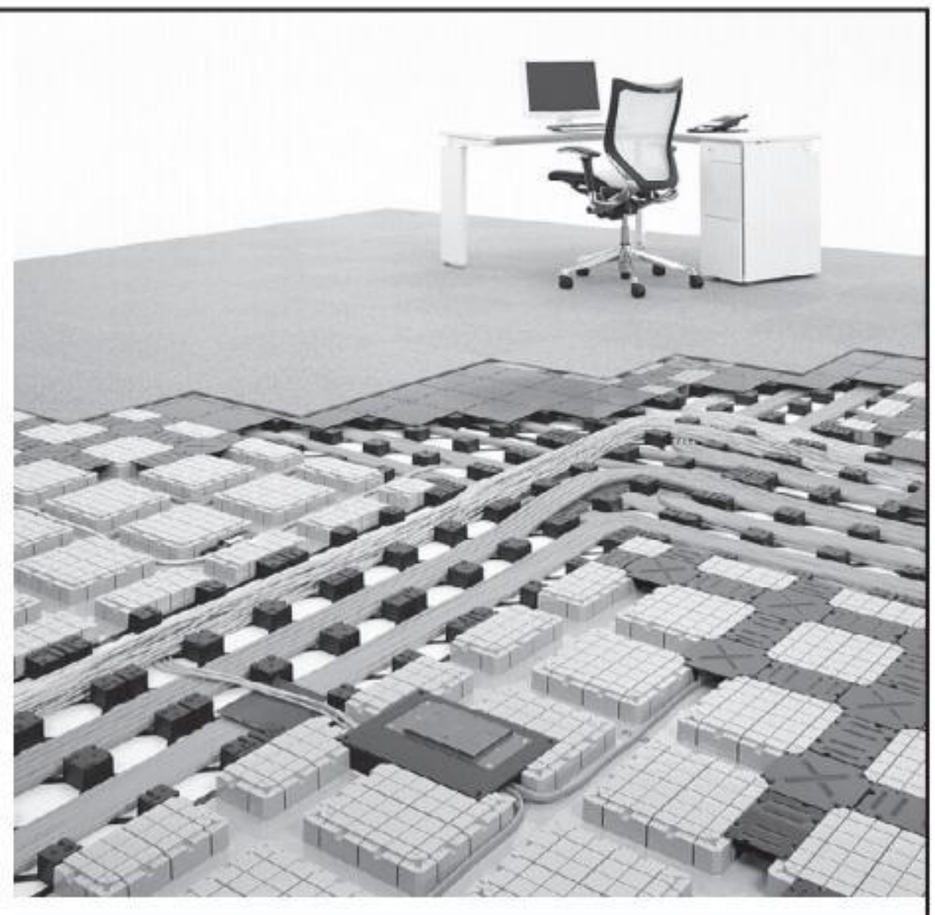
新たなワークスタイルを提案する

ネットワークフロア

超高強度軽量コンクリート製OAフロアシステム



環境配慮 メンテナンスフリー 高強度・長寿命



○製 品 高 さ：H=29mm·H=40mm
○耐荷重性能：3000N·5000N

多様化する時代に合わせ‘ネットワークフロア’は、進化しつづけるオフィス·教育施設を
足元から支える高機能で高品質なOAフロアシステムです。

共同カイテック株式会社　フロアシステム事業部　https://www.ky-tec.co.jp/
〒150-0022　東京都渋谷区恵比寿南1-15-1　A-PLACE恵比寿南　TEL.(03)6825-7040

○製品詳細はこちらから

広告の掲載についてのお問い合わせは下記まで

株式会社 新建築社　広告部
tel. 03-6205-4382
e-mail　ad@japan-architect.co.jp

新建築 住宅特集 ja THE JAPAN ARCHITECT



自然からの贈りもの····

鉄平石 販売·施工

創業明治38年 吉

藤森鉄平石株式会社
〒392-0004 長野県諏訪市諏訪1丁目13-8
TEL 0266(52)0255(代) FAX 0266(52)5579
URL http://www.teppei.co.jp

新建築 書籍案内

詳細はWEBをご覧ください。https://japan-architect.co.jp



ホスピタルアーキテクチャー

クリスティン·ニィクル·ウェーラー
ハンス·ニィクル 著

定価：本体7,500円＋税
424頁／295mm×225mm

2012年に出版された同名書籍（スイス、BRAUN Publishing AG発行）の完全日本語版です。
設計要件の厳しい病院建築ですが、世界各国ではさまざまなチャレンジがなされており、それらを100を超える豊富な最新事例として集め、美しいビジュアルで紹介しています。
これからの病院建築を考える上での必須の1冊です。



カリフォルニア·デザイン 1930-1965
—モダン·リヴィングの起源—

定価：本体3,333円＋税
384頁／305mm×241mm

カリフォルニア·デザイン研究の決定版！
本書は、ミッド·センチュリーと呼ばれる時代にカリフォルニアで展開したモダン·デザインをテーマとした大規模な展覧会として、2013年国立新美術館で開催された「カリフォルニア·デザイン　1930-1965　—モダン·リヴィングの起源—」のカタログです。著名なデザイン史研究者により執筆された11本の論文と、350点の写真および資料図版を掲載した本書は、カリフォルニア·デザインに関する研究書の決定版。

株式会社新建築社　〒100-6017 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング17階　tel.03-6205-4380（代表）　fax.03-6205-4386



ピーエス株式会社　https://ps-group.co.jp　info@psk.co.jp　tel:03-3485-8189

1970年、ノザワが世界ではじめて量産化に成功した

ASLOC

押出成形セメント板

不燃建材のリーダー
株式会社ノザワ

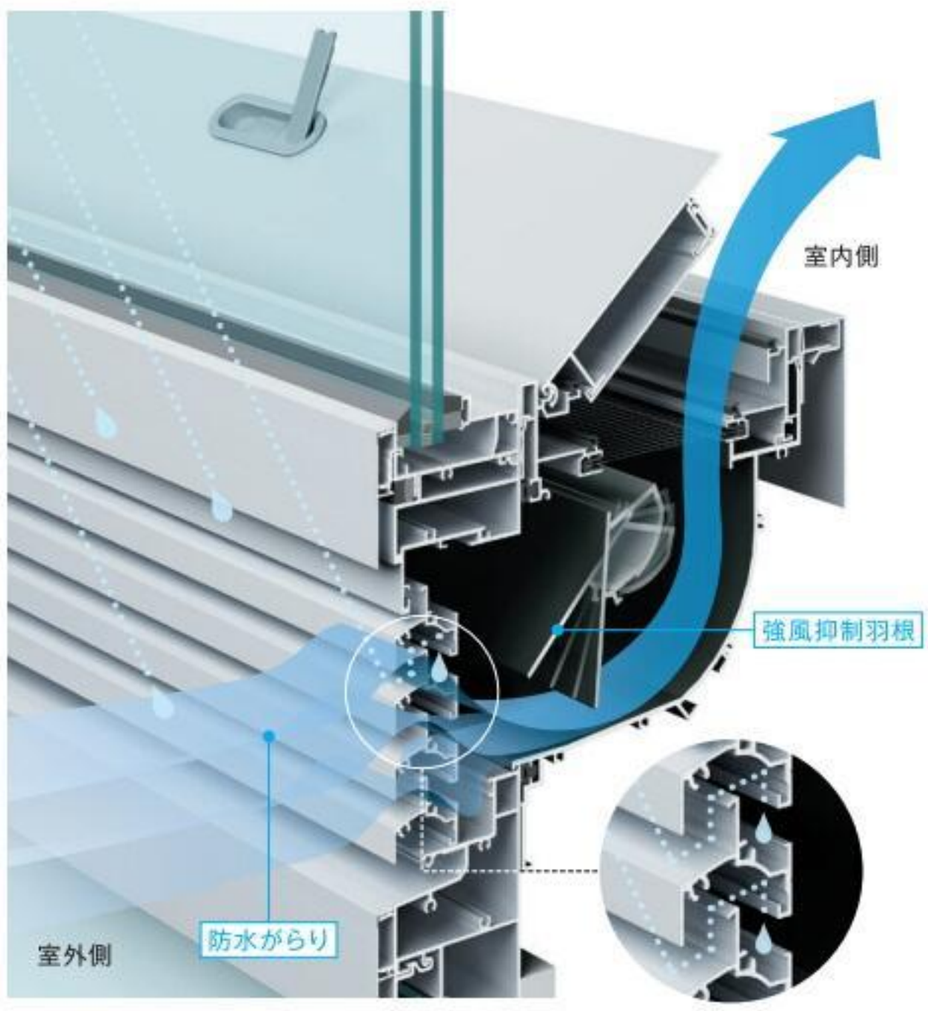
株式会社ノザワ
http://www.nozawa-kobe.co.jp

〒650-0035 神戸市中央区浪花町15番地
TEL(078)333-4111　FAX(078)393-7019

雨が降ろうが。風が吹こうが。

心地良い換気を実現します。

「EXIMA91c アンダーパス」は、室内へ風を取り込むことができる横型自然換気装置です。強風を抑制する「羽根」や雨水の浸入を抑制する「がらり」により、風雨の影響をしっかりと抑え、快適な換気を実現します。また、アンダーパスの換気パネルは、室内側に開き、取り込んだ風を効率的に室内に届けることができます。これにより中間期の自然通風利用で、空調負荷を軽減させ建物の省エネルギー化に貢献します。



WRV仕様［自然換気＋雨水浸入抑制＋強風抑制］
※当社独自基準の実風散水実験にてパネル解放状態で、雨水浸入抑制性能を確認

自然換気装置／EXIMA 91c

アンダーパス

商品ページへ

YKK AP株式会社　https://www.ykkap.co.jp/search-b/

新建築
第九十六巻三号　二〇二一年三月一日発行　毎月一回一日発行

www.ncn-se.co.jp/large

大規模
木造建築
ＳＥ構法

株式会社 エヌ・シー・エヌ
03-6872-5641

定価……二四二〇円
本体二二〇〇円

発行：株式会社新建築社……東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング17階 〒100-6017……電話：(03)6205-4380／代表
© SHINKENCHIKU-SHA 2021
Printed in Japan

4910049050316
02200

ISSN 1342-5447